
第2章 調査結果

第2章 調査結果

2. 地域別の基本属性と地域間の移動状況 調査結果まとめ

◆本調査におけるサンプル分布状況

1 本調査の回答者では、男女ともに「地方出身・地方居住層」が6割を占め、次に「都会出身・都会居住層」が26%、「地方出身・都会居住層」が1割強。

女性

男性

都会出身・
都会居住層

・30-39歳46%。既婚32%、子供がいる24%。
・「未婚/親と同居」48%、居住年数10年以上72%。
・正規雇用32%、学生16%。

・30-39歳46%。既婚23%、子供がいる17%。
・「未婚/親と同居」44%、「単独世帯」32%。
・正規雇用55%、学生12%。

地方出身・
都会居住層

・30-39歳51%。既婚46%、子供がいる30%。
・「単独世帯」45%、「夫婦と子供世帯」27%。
・正規雇用41%。学生11%。
・最終学歴「大学・短大等」は81%と女性で最も高い。

・30-39歳53%。既婚30%、子供がいる17.5%。
・「単独世帯」63%。
・正規雇用66%。学生7%。
・最終学歴「大学・短大等」86%。

地方出身・
地方居住層

・30-39歳49%。既婚41%、子供がいる31%。
・「未婚/親と同居」42%、居住年数10年以上62%。
・正規雇用30%、学生15%。
・最終学歴「大学・短大等」。

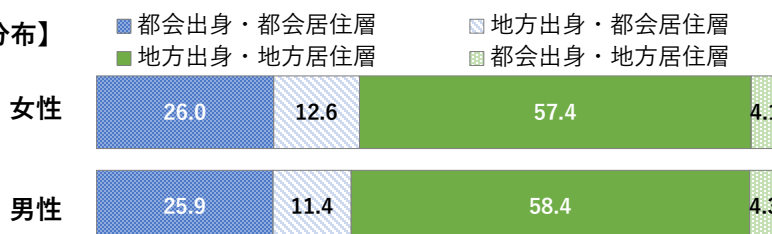
・30-39歳48.5%。既婚25%、子供がいる19%。
・「未婚/親と同居」46.4%、居住年数10年以上67%。
・正規雇用53%・企業規模1,000名以上の正規雇用18%は男性で最も低い。学生11%。
・「大学・短大等」が男性で最も低い。

都会出身・
地方居住層

・30-39歳59%。既婚60%、子供がいる40%。
・「夫婦と子供世帯」37%。
・正規雇用30%、学生9%。

・30-39歳53%。既婚49%、子供がいる37%。
・「単独世帯」43%、「夫婦と子供世帯」32%。
・正規雇用73%、学生6%。

【出身地域・現住地域の分布】



【基本属性一覧】

※薄黄色色掛けセルは特徴的に高い項目、薄グレー色掛けセルは特徴的に低い項目

※「企業規模1,000名以上の正規雇用者労働者」は、雇用されている人（非正規雇用労働者を含む）、もしくは会社役員に占める割合

		女性				男性			
		都会出身・都会居住層	地方出身・都会居住層	地方出身・地方居住層	都会出身・地方居住層	都会出身・都会居住層	地方出身・都会居住層	地方出身・地方居住層	都会出身・地方居住層
1	30-39歳	45.5%	51.2%	48.8%	59.0%	45.7%	52.8%	48.5%	53.0%
2	既婚 (離別・死別を含む)	32.3%	46.0%	41.1%	59.5%	23.4%	29.5%	24.9%	48.9%
3	子供がいる	24.4%	29.7%	31.0%	39.5%	17.0%	17.5%	19.0%	36.5%
4	居住年数 10年以上	71.7%	17.6%	62.4%	19.0%	69.8%	22.6%	67.3%	19.2%
5	①最も多い世帯類型 ②次に多い世帯類型	①未婚/親と同居 ②夫婦と子供	①単独世帯 ②夫婦と子供	①未婚/親と同居 ②夫婦と子供	①夫婦と子供 ②単独世帯	①未婚/親と同居 ②単独世帯	①単独世帯 ②夫婦と子供	①未婚/親と同居 ②単独世帯	①単独世帯 ②夫婦と子供
6	最終学歴 大学・短大・専門学校等	69.5%	81.4%	58.9%	73.5%	75.8%	85.9%	62.7%	79.9%
7	正規雇用労働者	32.1%	40.9%	30.2%	30.0%	55.4%	65.5%	53.1%	73.1%
8	学生	15.9%	10.8%	15.3%	9.0%	12.2%	7.2%	11.0%	6.4%
9	企業規模1,000名以上の 正規雇用者労働者※	13.6%	15.9%	8.8%	15.7%	21.7%	28.2%	17.5%	27.7%

3. 都会と地方の現状と魅力 調査結果まとめ

◆現住地域に住むようになったきっかけ

1 女性の地方出身・都会居住層は「進学」が24%、次いで「結婚」「就職」。
男性の地方出身・都会居住層は「就職」が27%、次いで「進学」「自分の転職」。

2 女性の都会出身・地方居住層は「結婚」が28%、次いで「進学」「親の都合」。
男性の都会出身・地方居住層は「就職」が21%、次いで「結婚」「自分の転職」。

【現住地域に住むようになったきっかけ】

→報告書中39ページ掲載

	女性		男性	
	地方出身・都会居住層	都会出身・地方居住層	地方出身・都会居住層	都会出身・地方居住層
1位	自分の進学：23.8%	自分の結婚：27.5%	自分の就職：26.6%	自分の就職：20.5%
2位	自分の結婚：19.4%	自分の進学：13.5%	自分の進学：19.6%	自分の結婚：16.0%
3位	自分の就職：17.1%	親の都合：12.0%	自分の転職：9.9%	自分の転職：14.2%

◆現住地域や現在の仕事に満足しているか

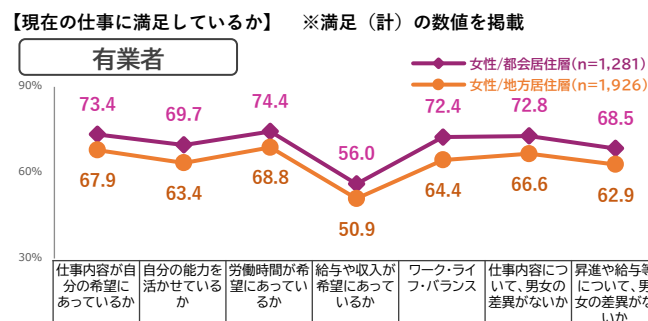
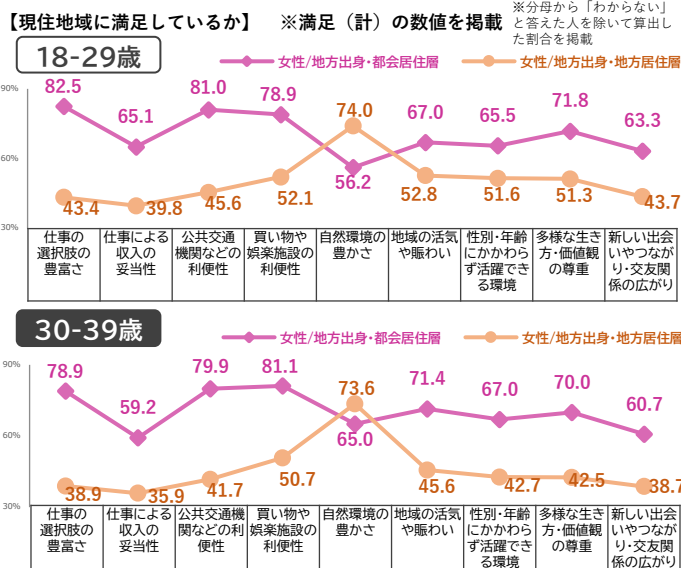
1 全体的に都会居住層の女性で満足(計)が高く、総合満足度も8割。特に「仕事の選択肢の豊富さ」は、都会居住層の女性と地方居住層の女性で満足している人の割合の差が大きい。

2 地方出身・都会居住層の女性と地方出身・地方居住層の女性で満足している人の割合の差が大きい項目は、下記の3項目。①仕事・仕事の選択肢の豊富さ、収入の妥当性 ②利便性・公共交通機関、買い物や娯楽施設 ③多様な価値観等の尊重・性別・年齢にかかわらず活躍できる環境、多様な生き方・価値観の尊重。特に多様な価値観等の尊重の差は、30-39歳で大きい。

3 仕事については、女性有業者では、地方居住層に比べて都会居住層で満足している人の割合が高い項目が多く、特に「ワーク・ライフ・バランス」の差が大きい。

→報告書中42～43、46～47、56ページ掲載

- 現住地域別にみると、全体的に女性/都会居住層で満足(計)の割合が高い傾向にあり、総合満足度も8割と高い。
- 「公共交通機関などの利便性」「仕事の選択肢の豊富さ」は、都会居住層の男女では7～8割、地方居住層の男女では4割と特に差がある。
- 地方出身層の女性で比較すると、「自然環境の豊かさ」以外の全ての項目で、地方出身・都会居住層の方が高い。特に差が大きい項目は、「仕事の選択肢の豊富さ」「公共交通機関などの利便性」「買い物や娯楽施設の利便性」「仕事による収入の妥当性」「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」「多様な生き方・価値観の尊重」。
- 地方出身・都会居住層と地方出身・地方居住層の女性で比較すると、18-29歳の結果と比べ、30-39歳で差が大きい項目は、「多様な生き方・価値観の尊重」、「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」、「地域の活気や賑わい」。
- 「現在の仕事に満足しているか」について、女性有業者で比較すると、ほとんどの項目で地方居住層よりも都会居住層の方が満足(計)の割合が高く、特に「ワーク・ライフ・バランス」では8.0%ポイントの差がある。



4. 若年層の転居の背景や希望する生き方 調査結果まとめ

◆自分の都合による出身地域からの転居経験の有無

1 「自分の都合での転居」の経験がある人の割合は、男女ともに**都会出身者よりも、地方出身者の方が高い**。地方出身者の転居先をみると、「**都会へ転居**」が、男女とも**2割程度**。

2 都会出身者の転居先も、「**都会へ転居**」が**14%程度**。
いずれの区分でも**転居先は「都会」>「地方」**。

→報告書中61ページ掲載

- 自分の都合による転居経験の有無をみると、都会出身層、地方出身層のいずれも「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」割合が最も高い。
- 男女ともに、地方出身層よりも、都会出身層の方が「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」割合が高い。

【自分の都合での転居経験】

※選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

	女性		男性	
	都会出身層	地方出身層	都会出身層	地方出身層
「自分の都合での転居」経験あり	29.5%	37.3%	30.5%	37.8%
都会へ転居	13.8%	20.2%	13.5%	18.4%
地方へ転居	7.8%	9.2%	9.6%	10.9%

◆自分の都合で出身地域を離れた理由

1 **全ての区分で「希望する進学先が少ない」が最も高く、特に自分の都合で「都会へ転居」した女性で高い**。他に「**やりたい仕事や就職先が少ない**」も高く、**希望する進学先・就職先の不足が二大理由**。

2 女性は「都会へ転居」「地方へ転居」とともに「**地元から離れたかったから**」が上位3位に入っている。

→報告書中63ページ掲載

【自分の都合で出身地域を離れた理由】

	女性		男性	
	都会へ転居	地方へ転居	都会へ転居	地方へ転居
1位	希望する進学先が少なかったから：35.0%	希望する進学先が少なかったから：23.8%	希望する進学先が少なかったから：29.2%	希望する進学先が少なかったから：24.6%
2位	やりたい仕事や就職先が少なかったから：22.6%	地元から離れたかったから：15.7%	やりたい仕事や就職先が少なかったから：21.9%	学校や職場に通いづらかったから：16.8%
3位	地元から離れたかったから：20.7%	学校や職場に通いづらかったから：14.3%	学校や職場に通いづらかったから：16.1%	やりたい仕事や就職先が少なかったから：14.0%

◆大学等への進学検討時の希望地域

1 都会出身層では、男女ともに**4割が「当時住んでいた地域(都会)の学校」**を挙げる。地方出身層では、男女ともに「**当時住んでいた地域(地方)の学校**」は**2割程度と低い**。

2 地方出身層では、男女ともに「**当時住んでいた地域以外の都会の学校**」が最も高い。また「**進学する地域にこだわりはなかった**」は、出身地域に限らず、男性よりも**女性の方が低い**。

→報告書中66ページ掲載

- 出身地域別にみると、男女ともに都会出身層では、「当時住んでいた地域(都会)の学校」が36%程度と高い。地方出身層では、男女ともに「当時住んでいた地域以外の都会の学校」が高く、女性で30.4%、男性で24.6%。
- 都会出身層の方が、「当時住んでいた地域(都会)の学校」を挙げる割合が高く、地方出身層の方が、「当時住んでいた地域(地方)の学校」を挙げる割合が高い。

【進学検討時の希望地域】

	女性		男性	
	都会出身層	地方出身層	都会出身層	地方出身層
当時住んでいた地域(都会)の学校	35.6%	11.9%	36.9%	13.9%
当時住んでいた地域(地方)の学校	12.9%	20.6%	10.4%	17.6%
当時住んでいた地域以外の都会の学校	19.8%	30.4%	14.2%	24.6%
当時住んでいた地域以外の地方の学校	7.0%	13.2%	5.5%	12.2%
進学する地域にこだわりはなかった	32.1%	32.0%	39.9%	40.2%

4. 若年層の転居の背景や希望する生き方 調査結果まとめ

◆仕事に就くに当たって重視したこと(就業経験のある人)

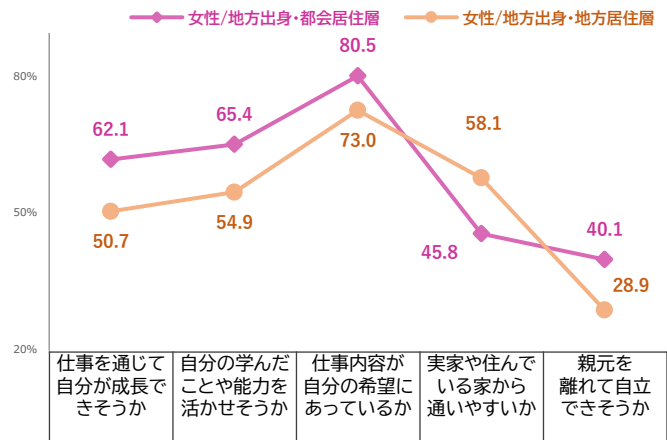
1 多くの項目で「重視した(計)」の割合は女性の方が高く、
地方出身層よりも都会出身層の方が高い傾向。

2 地方出身・都会居住層と地方出身・地方居住層の女性で、「重視した(計)」の差が大きい項目は、
地方出身・都会居住層の方が高い・「仕事を通じて自分が成長できそうか」
「自分の学んだことや能力を活かせそうか」「仕事内容が自分の希望にあっているか」
「親元を離れて自立できそうか」等。
地方出身・地方居住層の方が高い・「実家や住んでいる家から通いやすいか」等。

→報告書中74ページ掲載

- 「重視した(計)」の割合は、多くの項目で、男性よりも女性の方が高く、地方出身層よりも都会出身層の方が高い傾向がみられた。
- 地方出身・都会居住層の女性と地方出身・地方居住層の女性を比較すると、「仕事を通じて自分が成長できそうか」「自分の学んだことや能力を活かせそうか」等は地方出身・都会居住層の方が高い。一方、「実家や住んでいる家から通いやすいか」等は地方出身・地方居住層の方が高い。

【仕事に就く当たって重視したこと】(就業経験のある人)
※重視した(計)の数値を掲載



◆今後、結婚したいか(独身者)

1 「結婚したい(計)」は、男女ともに地方出身・都会居住層、都会出身・地方居住層で高い傾向にあり、
女性で6割、男性で4割。

2 結婚後は、男女ともに地方出身・都会居住層で、「自分の地元に住みたい」が低く、「自分や配偶者の
親や地元に関係なく考えたい」が高い⇨地元に住みたくないう傾向がうかがえる。

→報告書中76,79ページ掲載

【今後、結婚したいか/結婚したらどのように住みたいか】

- 結婚意向をみると、女性では都会出身・地方居住層、地方出身・都会居住層で「結婚したい(計)」が6割と高い。一方、地方出身・地方居住層では45.6%と最も低い。男性でも同様の傾向がみられた。
- 結婚したらどのように住みたいかについて、地方出身・都会居住層の女性では、「自分の地元に住みたい」「自分の親の近くに住みたい」が他の区分に比べて低く、「自分や配偶者の親が住んでいる場所や地元に関係なく考えたい」が高い。男性でも同様に、地方出身・都会居住層では、「自分の地元に住みたい」が低く、「自分や配偶者の親が住んでいる場所や地元に関係なく考えたい」が高い。

		対象:独身者		対象:結婚意向がある人		
		結婚したい(計)	結婚したいとは思わない(計)	自分の地元に住みたい	自分の親の近くに住みたい	自分や配偶者の親が住んでいる場所や地元に関係なく考えたい
女性	都会出身・都会居住層	49.5%	26.4%	33.7%	31.9%	16.5%
	地方出身・都会居住層	57.4%	21.3%	22.2%	20.6%	25.8%
	地方出身・地方居住層	45.6%	26.5%	31.2%	26.8%	15.2%
	都会出身・地方居住層	58.5%	23.2%	35.4%	29.2%	20.8%
男性	都会出身・都会居住層	36.5%	27.5%	36.3%	16.4%	16.7%
	地方出身・都会居住層	41.9%	25.1%	21.9%	15.4%	23.1%
	地方出身・地方居住層	36.4%	27.7%	36.6%	17.7%	15.2%
	都会出身・地方居住層	43.2%	20.7%	29.2%	16.7%	18.8%

5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差 調査結果まとめ

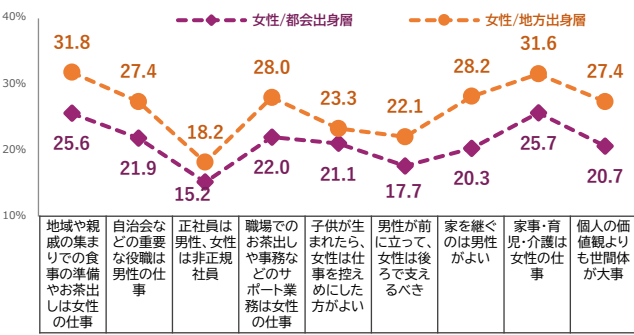
◆出身地域における固定的な性別役割分担意識等の有無

- 1 固定的な性別役割分担意識等の有無を出身地域別にみると、「あった」と感じている割合は、全ての項目で**地方出身層の女性が最も高く**、最も目の当たりにしていたと言える。
- 2 女性についてみると、「家を継ぐのは男性がよい」「個人の価値観よりも世間体が大事」「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」「家事・育児・介護は女性の仕事」で、特に地方出身層の方が高い。
- 3 地方出身層では、全ての項目で「女性＞男性」で、その差が大きい＝男性はそれらの言動を目にしても気づかなかった(気にしていなかった)・意識していなかったとも考えられる。特に男女差は、30-39歳で顕著で、18-29歳ではやや小さい。

→報告書中85～86ページ掲載

【女性・出身地域別比較】

※あった（計）の数値を掲載



【地方出身層・男女年代別比較】

※あった（計）の数値を掲載

30-39歳女性	37.4%	30.6%	21.8%	33.9%	26.9%	26.0%	33.2%	37.3%	31.8%
30-39歳男性	25.8%	22.4%	16.0%	21.5%	18.9%	18.1%	23.1%	22.9%	21.7%
18-29歳女性	26.4%	24.3%	14.8%	22.3%	19.8%	18.2%	23.3%	26.1%	23.1%
18-29歳男性	18.6%	19.5%	13.0%	15.8%	16.4%	14.4%	17.5%	17.0%	16.9%
	地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事	自治会などの重要な役職は男性の仕事	正社員は男性、女性は非正規社員	職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事	子供が生まれたら、女性は仕事を控えた方がよい	男性が前に立って、女性は後ろで支えるべき	家を継ぐのは男性がよい	家事・育児・介護は女性の仕事	個人の価値観よりも世間体が大事

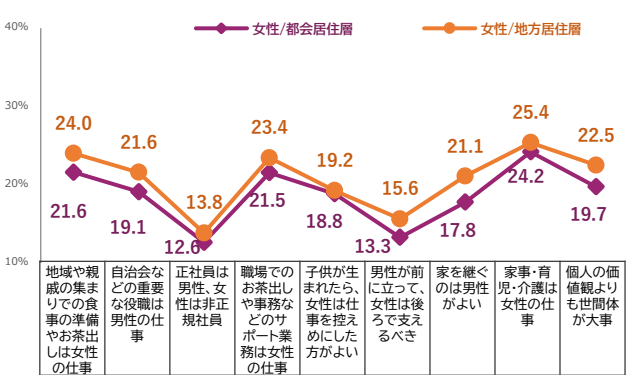
◆現住地域や勤務先における固定的な性別役割分担意識等の有無

- 1 固定的な性別役割分担意識等の有無を現住地域別にみると、「ある」と感じている割合は、全ての項目で**地方居住層の女性が**高いが、地域差は「出身地域」よりは小さい。
- 2 地方居住層では、全ての項目で「女性＞男性」で、現住地域でも差は大きい。特に30-39歳では、「家事・育児・介護は女性の仕事」「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」で差が大きい。30代の男性は現在も気づいていない可能性が示唆される。
- 3 地方居住層の女性についてみると、ほとんどの項目で「30-39歳」＞「18-29歳」。「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」で最も差がある。

→報告書中89～90ページ掲載

【女性・現住地域別比較】

※ある（計）の数値を掲載



【地方出身層・男女年代別比較】

※ある（計）の数値を掲載

30-39歳女性	25.8%	23.7%	14.6%	26.1%	20.6%	15.6%	21.8%	26.8%	23.0%
30-39歳男性	17.0%	19.4%	11.6%	16.7%	14.3%	10.6%	17.5%	14.9%	17.7%
18-29歳女性	22.2%	19.5%	13.1%	20.8%	17.9%	15.7%	20.4%	24.0%	22.0%
18-29歳男性	15.3%	16.5%	10.4%	14.1%	13.1%	11.7%	15.0%	13.9%	16.2%
	地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事	自治会などの重要な役職は男性の仕事	正社員は男性、女性は非正規社員	職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事	子供が生まれたら、女性は仕事を控えた方がよい	男性が前に立って、女性は後ろで支えるべき	家を継ぐのは男性がよい	家事・育児・介護は女性の仕事	個人の価値観よりも世間体が大事

5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差 調査結果まとめ

◆大学等への進路の検討に関する自分の意見(出身地域別)

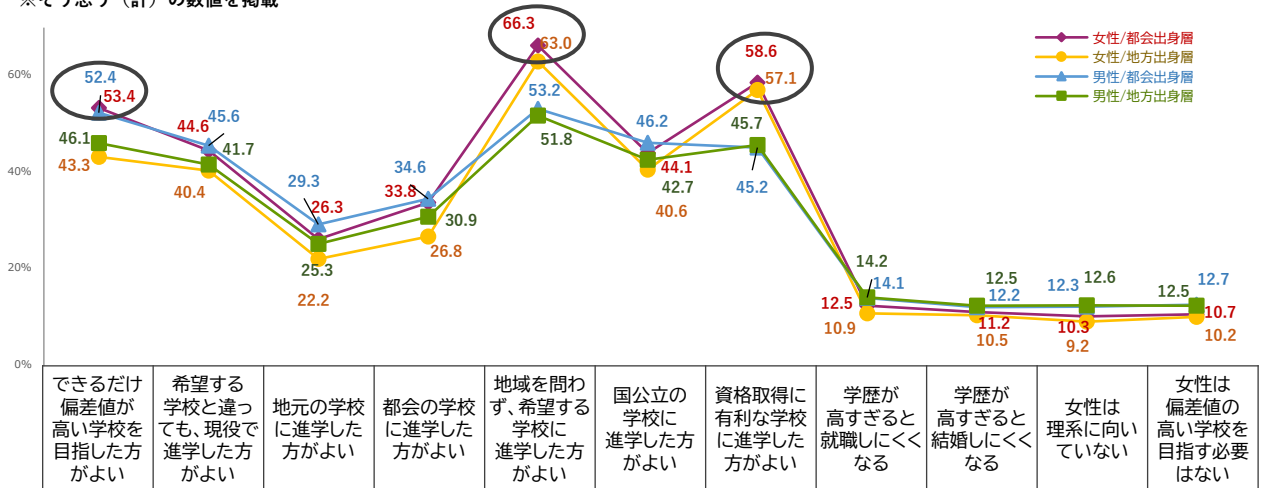
1 「地域を問わず、希望する学校に進学した方がよい」「資格取得に有利な学校に進学した方がよい」は、出身地域にかかわらず女性の方が高い。

2 「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」は、男女ともに都会出身層の方が高い。

→報告書中99ページ掲載

【大学等への進路検討に関する自分の意見】

※そう思う（計）の数値を掲載



◆大学等への進路の検討に関する自分の意見(進学希望地域別)

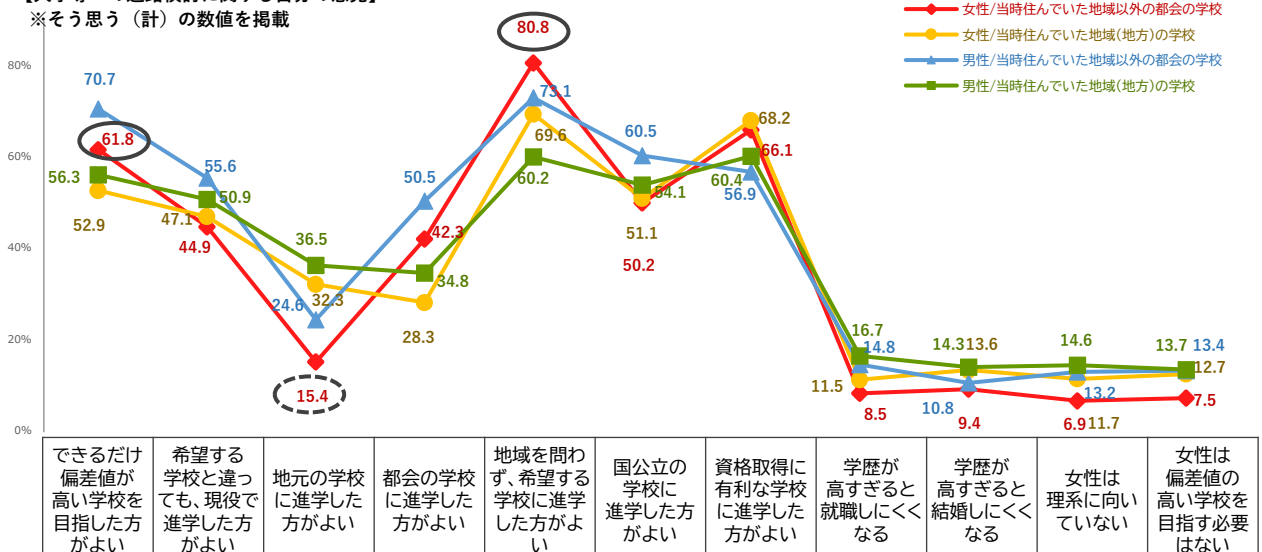
1 当時住んでいた地域以外の都会の学校を希望していた女性は、「地域を問わず、希望する学校に進学した方がよい」「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」が高く、「地元の学校に進学した方がよい」が低い。
⇒地域に縛られず、高いレベルの進学先をより意識していたことがうかがえる。

2 「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」「都会の学校に進学した方がよい」「地域を問わず、希望する学校に進学した方がよい」は、男女ともに当時住んでいた地域以外の都会の学校を希望していた人の方が高い。

→報告書中100ページ掲載

【大学等への進路検討に関する自分の意見】

※そう思う（計）の数値を掲載



5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差 調査結果まとめ

◆仕事の検討時の自分の意見(出身地域別)

1

自分の意見について、「安定した仕事に就いた方がよい」「資格を活かせる仕事に就いた方がよい」等は、出身地域にかかわらず女性の方が高い。

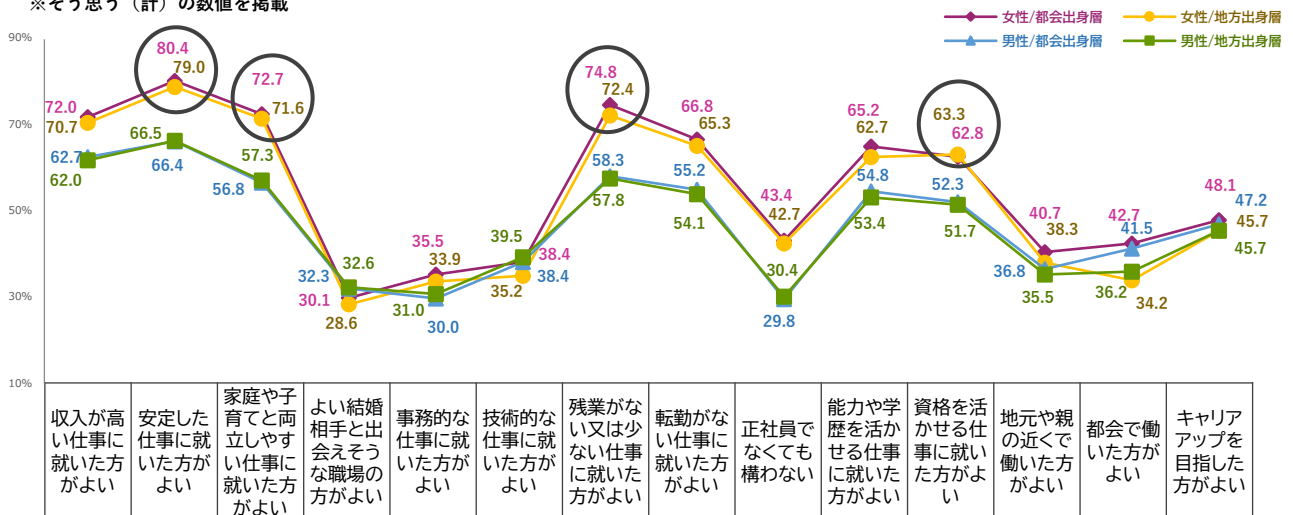
2

「家庭や子育てと両立しやすい仕事に就いた方がよい」「残業がない又は少ない仕事に就いた方がよい」等は、女性では出身地域にかかわらず7割を超え高く、男性との差が大きい。

→報告書中105ページ掲載

【仕事の検討に関する自分の意見】

※そう思う（計）の数値を掲載



◆仕事や就職先の検討時に関する自分の意見(地方出身層)

1

地方出身・都会居住層の女性では、「収入が高い仕事」「安定した仕事」「家庭や子育てと両立しやすい仕事」「残業がない・少ない仕事」が8割を超えて高い。
自分の能力を活かした仕事や高い収入を得ること、キャリアアップ、仕事と家庭との両立をより意識していることがうかがえる。

2

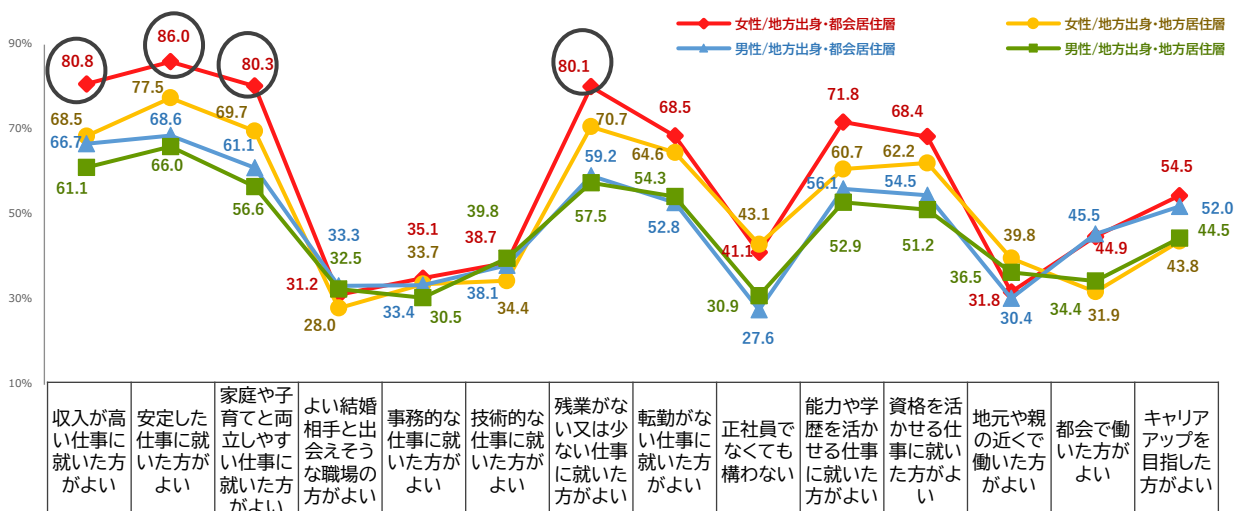
「能力や学歴を活かせる仕事に就いた方がよい」「キャリアアップを目指した方がよい」「都会で働いた方がよい」「残業がない又は少ない仕事に就いた方がよい」等は、地方出身・都会居住層の方が高い。

→報告書中106ページ掲載

【仕事の検討に関する自分の意見】

地方出身層

※そう思う（計）の数値を掲載



6. 若年層の今後の居住地域への希望 調査結果まとめ

◆将来、住みたい地域

- 1 「現在住んでいる地域に住み続けたい」は、男女ともに、都会出身・都会居住層で6割程度と高い。都会出身・地方居住層は「現在住んでいる地域に住み続けたい」が他の区分と比べて低い。
- 2 地方出身・都会居住層では、男女ともに現在住んでいる地域以外に住みたい(計)がやや高い。また、「中学校卒業時点で住んでいた地域に住みたい」は1割程度と、「都会に出たが、出身地域に戻りたい」人も一定数いる。

→報告書中108ページ掲載

【将来、住みたい地域】

	女性				男性			
	都会出身・都会居住層	地方出身・都会居住層	地方出身・地方居住層	都会出身・地方居住層	都会出身・都会居住層	地方出身・都会居住層	地方出身・地方居住層	都会出身・地方居住層
※選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。								
現住地域に住み続けたい	55.8%	43.6%	47.2%	33.0%	55.6%	41.9%	49.2%	40.6%
現在住んでいる地域以外に住みたい(計)	16.1%	23.8%	19.1%	34.0%	11.6%	21.4%	16.2%	27.9%
中学校卒業時点で住んでいた地域に住みたい	3.9%	10.8%	4.6%	14.5%	2.7%	7.0%	3.0%	15.1%
過去に住んだことのない地域(国内/都会)	7.1%	5.4%	7.9%	7.5%	4.2%	7.2%	7.2%	5.0%
過去に住んだことのない地域(国内/地方)	1.9%	1.8%	3.0%	1.5%	1.7%	1.4%	2.6%	3.2%

◆将来、出身地域に住みたい理由と、住むに当たって不安に思うこと

- 1 将来、出身地域に住みたい理由は、女性では出身地域にかかわらず、「親や兄弟姉妹の居住地と近いから」が最も高い。地方出身層では男女ともに「ゆとりのある暮らしができそう」「自然環境が豊か」も高い。
- 2 出身地域に住む(帰る)に当たり不安に思うことについて、女性は「収入や生活費などの経済面での不安」、男性は「希望する内容の仕事に就けるか・続けられるか」が最も高い。
- 3 地方出身層では、男女ともに「買い物や公共交通機関などの利便性への不安」も高い。

→報告書中112,114ページ掲載

【将来、出身地域に住みたい理由】

	女性		男性	
	都会出身層	地方出身層	都会出身層	地方出身層
1位	親や兄弟姉妹の居住地と近いから：46.8%	親や兄弟姉妹の居住地と近いから：46.9%	親や兄弟姉妹の居住地と近いから：30.9%、	ゆとりのある暮らしができそうだから：28.2%
2位	公共交通機関などの利便性が高いから：36.7%	ゆとりのある暮らしができそうだから：33.7%	公共交通機関などの利便性が高いから：30.9%	親や兄弟姉妹の居住地と近いから：24.4%
3位	買い物や娯楽施設の利便性が高いから：32.9%	自然環境が豊かだから：26.5%	ゆとりのある暮らしができそうだから：29.4%	自然環境が豊かだから：21.4%

【出身地域に住むに当たって不安に思うこと】

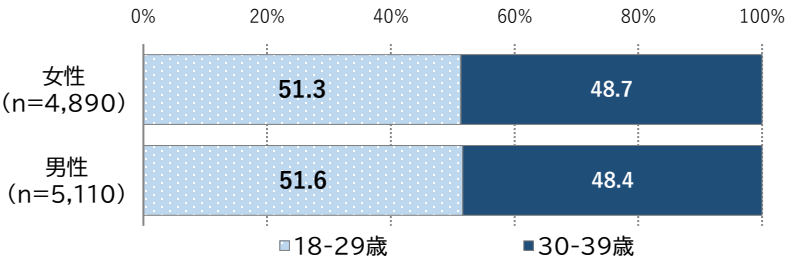
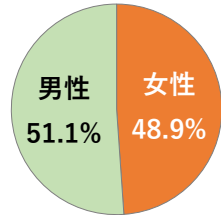
	女性		男性	
	都会出身層	地方出身層	都会出身層	地方出身層
1位	収入や生活費などの経済面での不安：36.7%	収入や生活費などの経済面での不安：37.8%	希望する内容の仕事に就けるか・続けられるか：41.2%	希望する内容の仕事に就けるか・続けられるか：35.1%
2位	希望する内容の仕事に就けるか・続けられるか：25.3%	希望する内容の仕事に就けるか・続けられるか：30.6%	働き方の柔軟性がある仕事に就けるか・続けられるか：27.9%、	収入や生活費などの経済面での不安：26.0%
3位	仕事と子育てを両立できるか：22.8%、	買物や公共交通機関などの利便性への不安：27.6%	収入や生活費などの経済面での不安：27.9%	働き方の柔軟性がある仕事に就けるか・続けられるか：22.1%
4位	買い物や公共交通機関などの利便性への不安：22.8%	仕事と子育てを両立できるか：22.4%	仕事と子育てを両立できるか：20.6%	買物や公共交通機関などの利便性への不安：18.3%

1. 基本属性

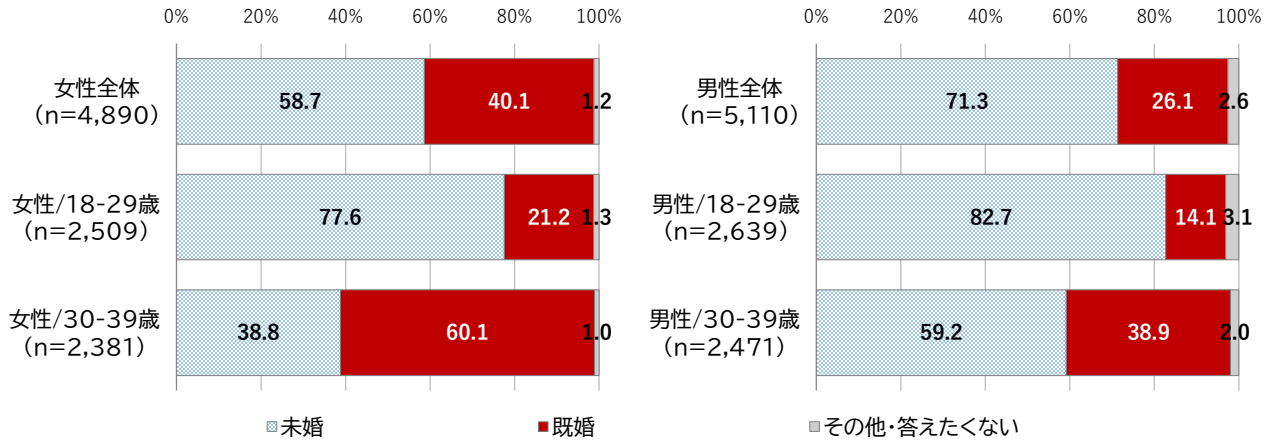
・本調査における回答者の基本属性を以下にまとめる。

(1) 性別・年代(F1)

(n=10,000)



(2) 未既婚(Q6)

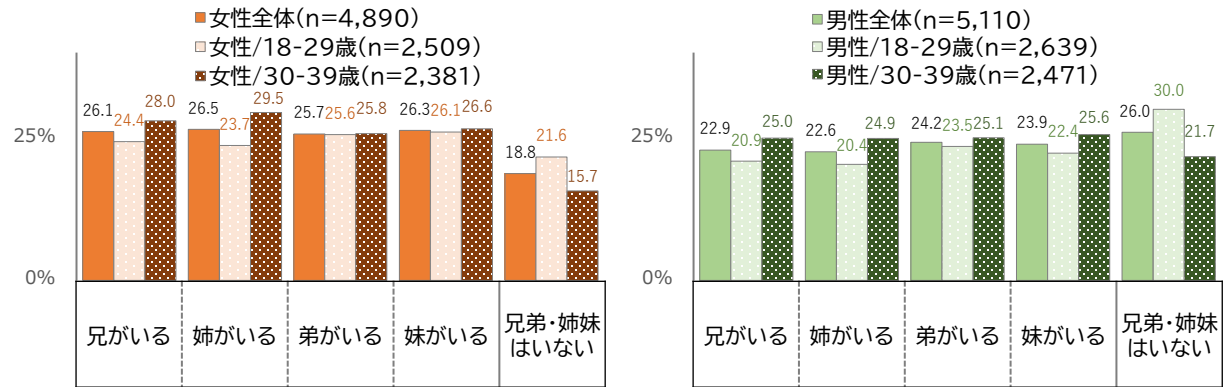


(3) 未既婚×離別・死別経験(Q6)

(%)

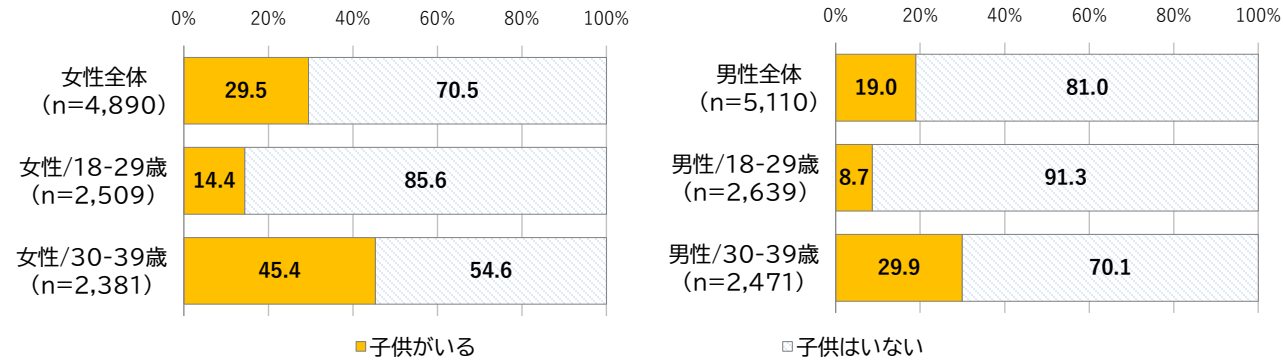
	これまで一度も結婚したことはない(未婚)	現在配偶者があり、離婚・死別の経験はない	現在配偶者がいるが、過去に離婚・死別の経験もある	現在は独身で、過去に離婚・死別の経験がある	その他・答えたくない
女性(n=4,890)	58.7	35.4	1.7	3.0	1.2
男性(n=5,110)	71.3	23.3	1.0	1.8	2.6

(4) 兄弟・姉妹の有無(Q12)



1. 基本属性

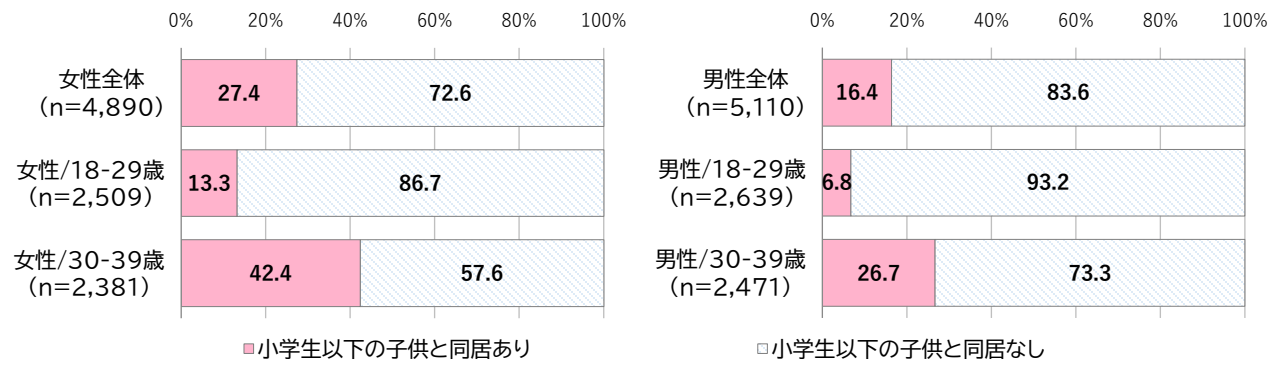
(5) 子供の有無(Q7)



(6) 同居している人(Q8)

	配偶者	恋人	子供	子供の 配偶者・恋人	あなたの親 (父・母)	配偶者の親 (父・母)	あなた・ 配偶者の 祖父母	孫	その他の親族 (兄弟姉妹、叔 母、叔父など)	その他	一緒に 住んでいる人 はいない
女性(n=4,890)	36.2	3.5	28.3	0.1	39.7	1.3	4.2	-	20.0	0.7	18.8
男性(n=5,110)	23.4	2.1	16.9	0.0	40.4	0.3	4.3	0.0	17.4	0.5	33.9

(7) 小学生以下の子供との同居の有無(Q9)



(8) 同居している子供の年齢(Q9)

	～3歳未満	3歳以上から 6歳以下 (小学入学前)	小学生	中学生から 18歳以下	19歳以上	同居している 子供はいない
女性(n=4,890)	14.7	12.3	9.9	2.4	0.1	71.7
男性(n=5,110)	7.4	8.0	6.5	1.4	0.2	83.1

(9) 自分の親、配偶者の親の居住状況(Q10)

【自分の親】	(%)					
	同居・二世帯 住宅・同じ敷 地内に住ん でいる	同居等はし ていないが、 同じ市町村 に住んでい る	同じ市町村 ではないが、 同じ都道府 県に住んで いる	別の都道府 県・海外に 住んでいる	親は死去 している	わからない ・答えたく ない
女性 (n=4,890)	38.6	15.2	17.4	22.0	2.0	6.4
男性 (n=5,110)	40.1	13.0	14.3	19.3	2.8	12.1

【配偶者の親】(既婚者(離別・死別を含む))	(%)					
	同居・二世帯 住宅・同じ敷 地内に住ん でいる	同居等はし ていないが、 同じ市町村 に住んでい る	同じ市町村 ではないが、 同じ都道府 県に住んで いる	別の都道府 県・海外に 住んでいる	親は死去 している	わからない ・答えたく ない
女性 (n=1,963)	5.5	24.8	28.3	30.2	3.3	9.3
男性 (n=1,333)	4.8	26.3	28.2	27.5	3.5	10.2

1. 基本属性

(10) 現住地域(F2)

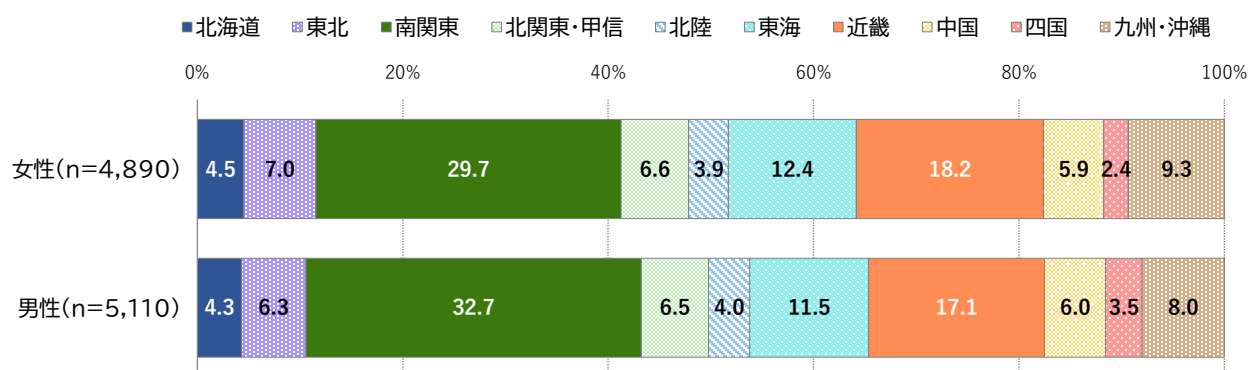
(人)

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山
女性	221	52	59	98	38	39	57	93	57	66	298	220	577	359	90	43
男性	220	51	35	80	27	57	70	111	61	59	317	265	680	407	85	33

	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根
女性	43	13	23	83	71	122	343	72	52	125	386	236	53	40	20	17
男性	56	32	18	85	74	102	336	78	82	110	362	227	61	34	28	35

	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
女性	85	122	43	21	35	44	17	198	24	46	43	29	28	42	47
男性	79	106	57	36	44	71	29	164	20	29	45	36	23	42	51

(11) 現住地域・地域ブロック別(F2)



(12) 現住地域・政令指定都市(F2、Q1)

(人)

	札幌市	仙台市	さいたま市	千葉市	東京23区内	東京23区以外の地域	横浜市	川崎市	相模原市	新潟市	静岡市
女性	115	59	61	40	392	185	151	62	37	36	30
男性	111	41	63	53	472	208	166	76	32	35	19

	浜松市	名古屋市	京都市	大阪市	堺市	神戸市	岡山市	広島市	北九州市	福岡市	熊本市	左記以外
女性	33	129	79	151	37	71	41	49	27	83	22	3,000
男性	30	131	68	130	30	56	24	49	28	64	28	3,196

1. 基本属性

(13) 出身地域(Q3)

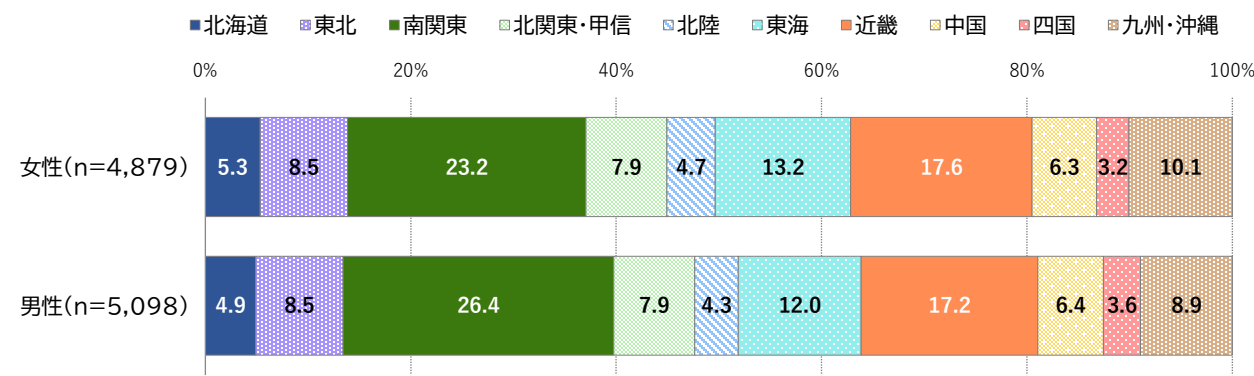
(人)

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山
女性	260	66	71	99	47	50	83	107	75	77	264	181	399	288	107	49
男性	250	57	53	115	51	69	89	137	75	77	295	226	493	330	88	40

	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根
女性	52	22	24	102	93	148	315	87	50	117	353	244	58	39	24	21
男性	58	31	22	90	87	121	321	81	78	108	319	258	67	46	28	34

	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	海外
女性	85	121	56	30	42	58	24	172	36	56	53	42	35	47	50	11
男性	88	113	63	37	43	72	32	150	29	43	51	35	30	64	54	12

(14) 出身地域・地域ブロック別(Q3) ※「海外」を除いて集計



(15) 出身地域・政令指定都市(Q3、Q4)

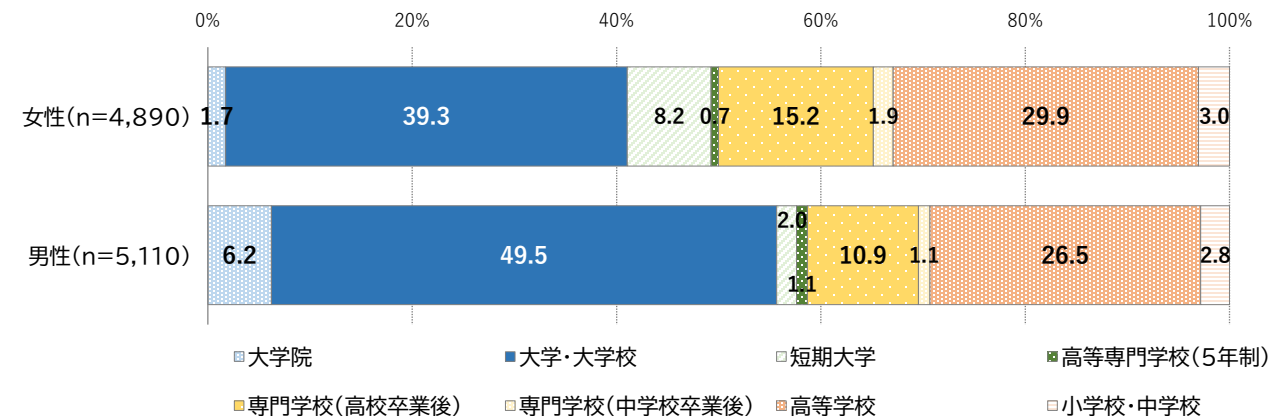
(人)

	札幌市	仙台市	さいたま市	千葉市	東京23区内	東京23区以外の地域	横浜市	川崎市	相模原市	新潟市	静岡市
女性	108	49	52	27	262	137	115	39	31	35	38
男性	103	48	46	44	335	158	140	40	23	36	21

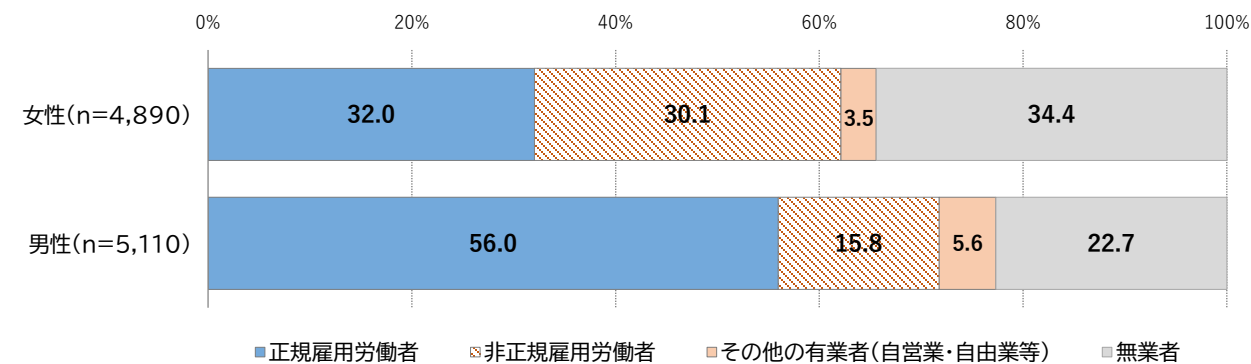
	浜松市	名古屋市	京都市	大阪市	堺市	神戸市	岡山市	広島市	北九州市	福岡市	熊本市	左記以外
女性	27	93	69	108	38	57	35	52	31	42	22	3,423
男性	27	97	59	101	26	69	23	46	33	39	25	3,571

1. 基本属性

(16) 最終学歴(Q13)



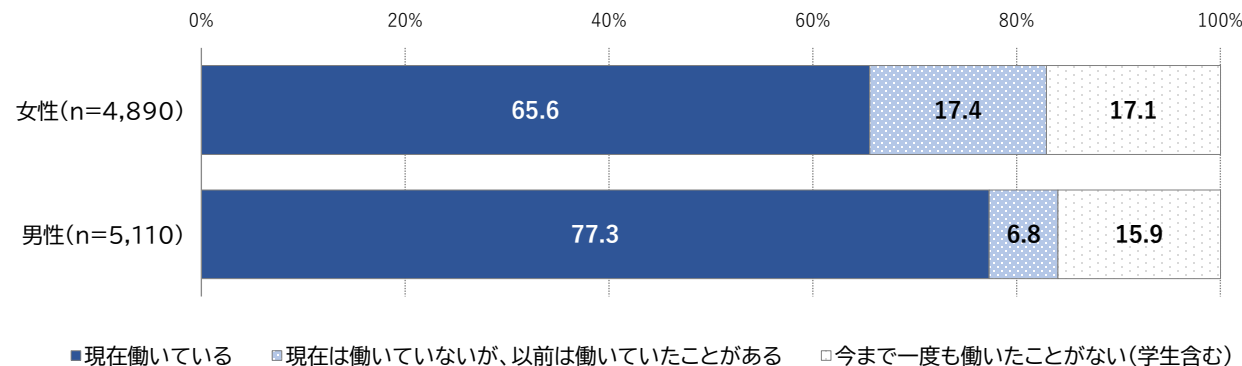
(17) 就業状況・雇用形態(Q14)



(%)

	正規雇用労働者		非正規雇用労働者						その他の有業者(自営業・自由業等)				無業者		
	正規の会社員・職員・従業員	会社などの役員	パート・アルバイト	労働派遣事業所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他の形で雇用されている	自営業・自由業(従業員がいる)	自営業・自由業(従業員がいない)	自家営業の手伝い(家族従業員)	家庭内の賃仕事(内職)	その他	主婦・主夫(働いていない)	学生	その他(働いていない)
女性(n=4,890)	31.5	0.6	23.9	3.0	2.5	0.3	0.3	0.3	1.7	0.5	0.3	0.7	12.4	14.6	7.5
男性(n=5,110)	55.1	0.9	11.1	1.7	2.2	0.3	0.5	0.7	3.0	0.6	0.2	1.1	0.8	10.7	11.2

(18) 就業経験の有無(Q15)



1. 基本属性

(19) 勤務先の業種(働いている人)(Q16)

(%)

	農業、林業、 漁業	鉱業、採石業、 砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・ 熱供給・ 水道業	情報通信業	運輸業、 郵便業	卸売業、 小売業	金融業、 保険業	不動産業、 物品賃貸業
女性(n=3,207)	0.6	0.1	2.9	10.1	0.6	4.6	2.4	12.3	3.3	1.2
男性(n=3,951)	1.9	0.2	4.9	18.3	2.1	8.8	6.2	8.3	1.9	1.6

	学術研究、 専門・技術 サービス業	宿泊業、 飲食 サービス業	生活関連 サービス業、 娯楽業	教育、 学習支援業	医療、福祉	複合サービス 事業	その他の サービス業	国家公務員、 地方公務員	その他
女性(n=3,207)	0.7	7.7	3.6	3.9	20.0	0.8	3.5	2.6	19.1
男性(n=3,951)	1.4	3.7	2.2	3.2	7.5	0.8	5.7	5.8	15.3

(20) 勤務先の企業規模(雇用されている人または会社役員)(Q17)

(%)

	1名から 4名	5名から 29名	30名から 99名	100名から 299名	300名から 499名	500名から 999名	1,000名か ら4,999名	5,000名 以上	官公庁	民間企業・官 公庁以外に 勤めている	わからない
女性(n=3,038)	3.0	16.8	16.0	12.1	4.6	5.0	7.5	8.8	1.6	0.4	24.3
男性(n=3,667)	2.8	12.6	15.5	15.3	6.6	7.5	11.2	12.3	4.0	0.5	11.7

(21) 配偶者の就業状況・雇用形態(有配偶者)(Q18)

(%)

	正規雇用 労働者		非正規雇用 労働者					その他の有業者 (自営業・自由業等)					無業者			把握して いない
	正規の 会社員・ 職員・ 従業員	会社な どの 役員	パート・ アルバ イト	労働派 遣事業 所の派 遣社員	契約 社員	嘱託	その他 の形で 雇用さ れている	自営業・ 自由業 (従業員 がいる)	自営業・ 自由業 (従業員 がない)	自家営 業の手 伝い (家族従 業者)	家庭内 の賃仕 事(内職)	その他	主婦・ 主夫 (働いて いない)	学生	その他 (働いて いない)	
女性 (n=1,815)	78.5	2.4	7.9	0.8	1.3	0.2	0.2	1.6	3.0	0.3	-	0.3	2.0	0.2	0.5	0.8
男性 (n=1,243)	51.7	1.0	21.1	1.4	1.7	0.2	0.2	0.6	2.0	0.4	0.2	0.4	16.5	0.2	0.9	1.4

(22) 個人年収(Q19①)

(%)

	収入は ない	1円から 50万円 未満	50万円 から 99万円 台	100万円 から 149万円 台	150万円 から 199万円 台	200万 円台	300万 円台	400万 円台	500万 円台	600万 円台	700万 円台	800万 円台	900万 円台	1,000 万円から 1,499 万円	1,500 万円以上	わから ない・答 えたく ない
女性 (n=4,890)	9.2	16.7	10.1	7.8	4.5	10.4	10.9	5.4	2.0	0.8	0.5	0.2	0.1	0.1	0.1	21.2
男性 (n=5,110)	3.9	10.6	5.7	4.1	3.9	8.1	13.5	13.8	9.6	4.2	2.3	1.4	0.8	1.1	0.5	16.5

(23) 世帯年収(Q19②)

(%)

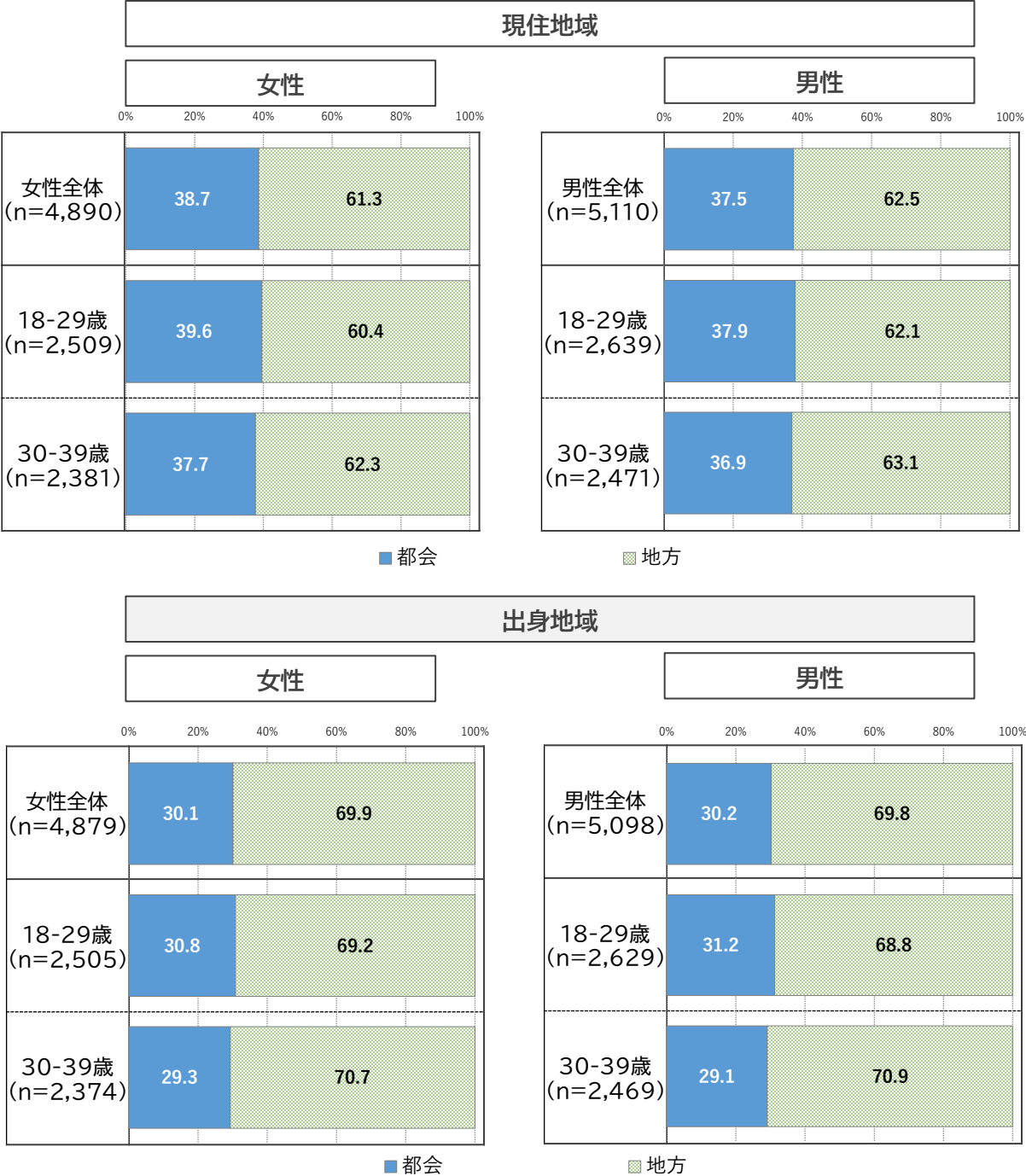
	収入は ない	1円から 50万円 未満	50万円 から 99万円 台	100万円 から 149万円 台	150万円 から 199万円 台	200万 円台	300万 円台	400万 円台	500万 円台	600万 円台	700万 円台	800万 円台	900万 円台	1,000 万円から 1,499 万円	1,500 万円以上	わから ない・答 えたく ない
女性 (n=4,890)	0.5	1.8	1.5	1.7	2.1	5.6	8.9	8.4	6.9	6.6	5.5	4.2	3.2	4.7	1.6	37.0
男性 (n=5,110)	0.5	2.7	1.8	2.1	2.6	5.6	9.5	10.6	9.7	7.0	5.7	4.1	3.3	6.0	2.4	26.4

2. 地域別の基本属性と地域間の移動状況

(1) 現住地域／出身地域(単数回答・F2、Q1、Q3、Q4)

【対象】全員(出身地域は海外を除く) 【分析軸】年代別

- ・現住地域について、男女、年代別にみると、いずれの区分でも都会が4割、地方が6割。
- ・出身地域(中学校卒業時点での居住地。以下同じ。)について、男女、年代別にみると、いずれの区分でも都会が3割、地方が7割。
- ・出身地域・現住地域を比べると、いずれの区分でも、現住地域の方が都会の割合が1割程度高い。



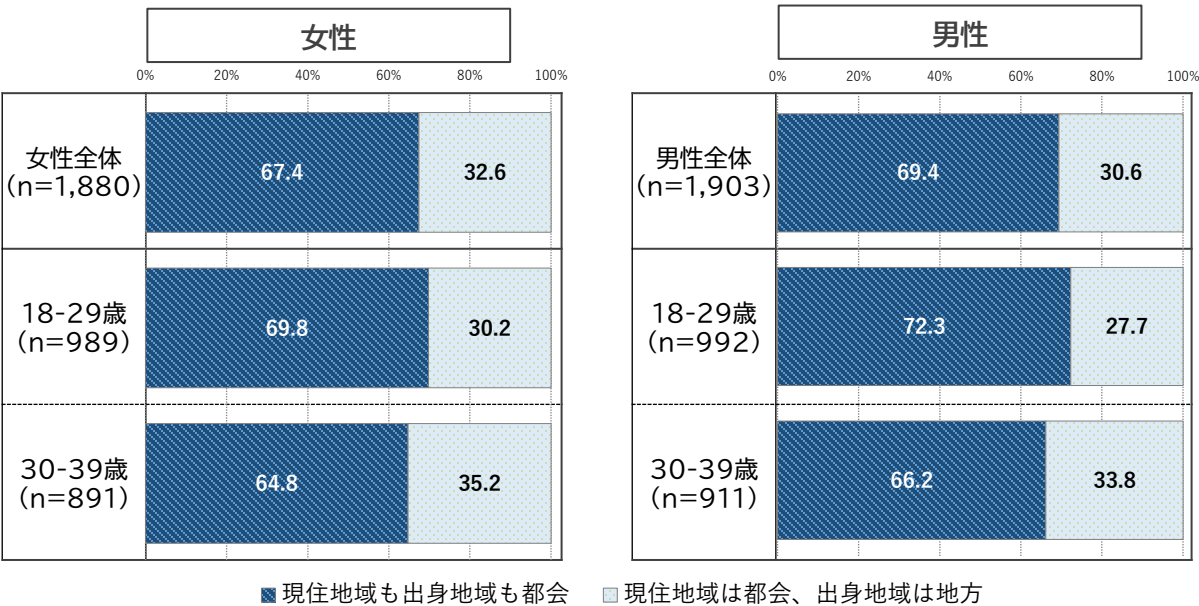
2. 地域別の基本属性と地域間の移動状況

(2) 出身地域と現住地域の関係(単数回答・F2、Q1、Q3、Q4)

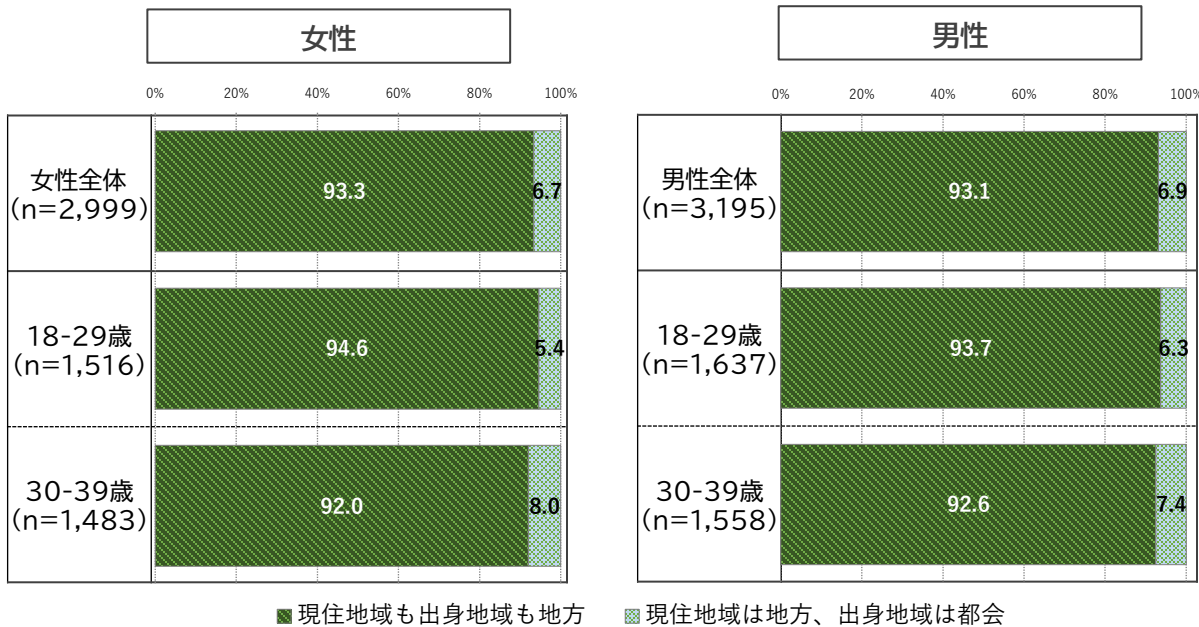
【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】年代別

- ・現住地域が都会の人について、出身地域をみると、女性全体、男女全体では、「現住地域も出身地域も都会」が7割、「現住地域は都会、出身地域は地方」が3割。年代別にみると、男女いずれも「30-39歳」の方が、「現住地域は都会、出身地域は地方」の割合が高い。
- ・現住地域が地方の人について、出身地域をみると、全ての区分で、「現住地域も出身地域も地方」が90%以上。

現住地域が都会の人



現住地域が地方の人

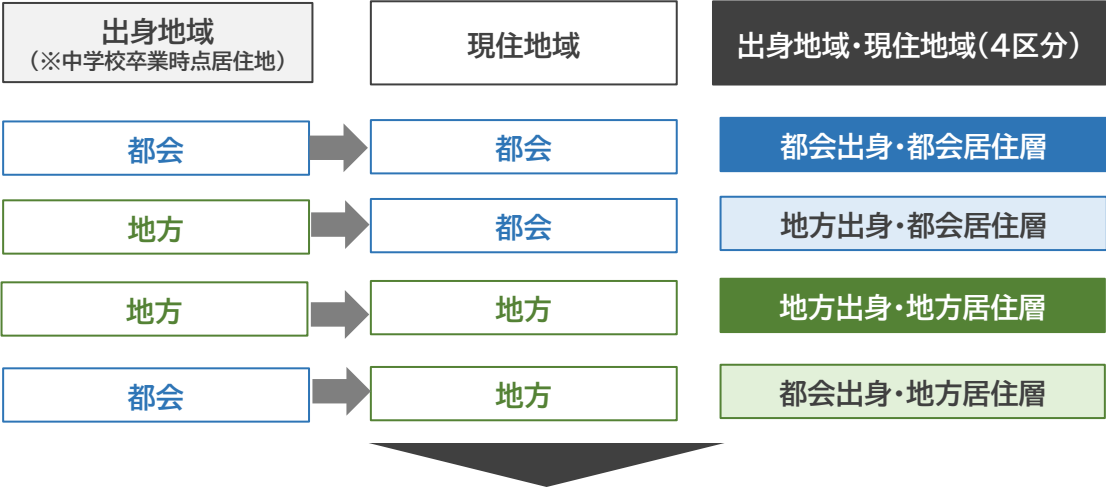


2. 地域別の基本属性と地域間の移動状況

(2) 出身地域と現住地域の関係(単数回答・F2、Q1、Q3、Q4)

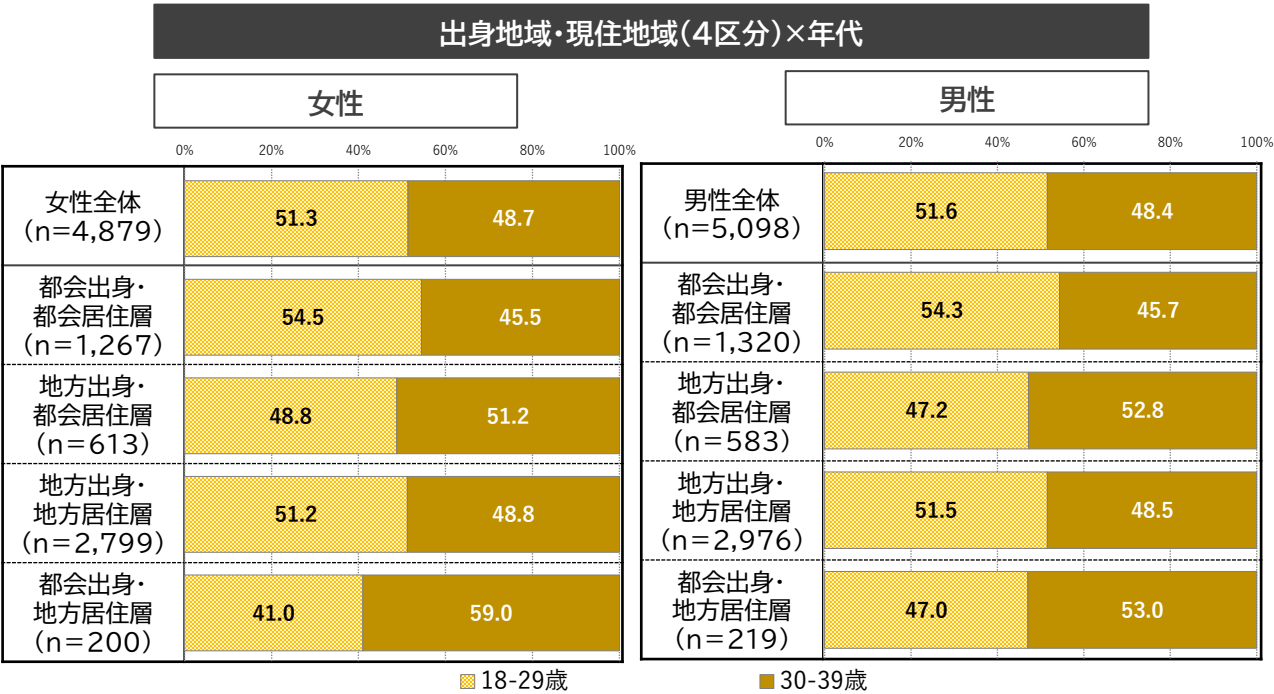
【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域・現住地域別

- 今回の調査では、出身地域と現住地域の関係をもとに、対象者を都会出身・都会居住層、地方出身・都会居住層、地方出身・地方居住層、都会出身・地方居住層の4区分に分けて分析する。
- 女性についてみると、都会出身・都会居住層では「18-29歳」の割合が4区分で最も高く、54.5%。都会出身・地方居住層では、「30-39歳」の割合が4区分で最も高く、59.0%。地方出身・都会居住層、地方出身・地方居住層では、どちらの年代も5割程度。
- 男性についてみると、都会出身・地方居住層の「30-39歳」の割合は53.0%。他の3区分については女性と同様の傾向。



本調査では、出身地域・現住地域の関係を上記のように4区分に分けて分析。

※出身地域・現住地域別の集計では、出身地域が海外の人（23名）を除外している。



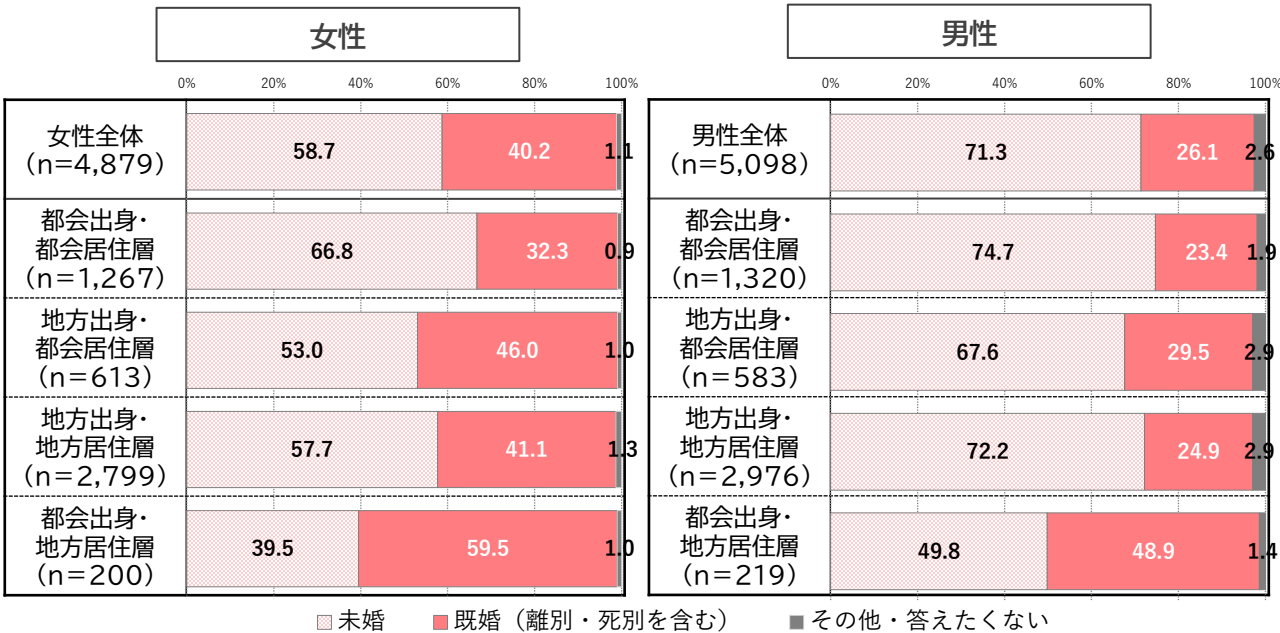
2. 地域別の基本属性と地域間の移動状況

(3) 出身地域・現住地域別の特徴(単数回答・Q6、Q7)

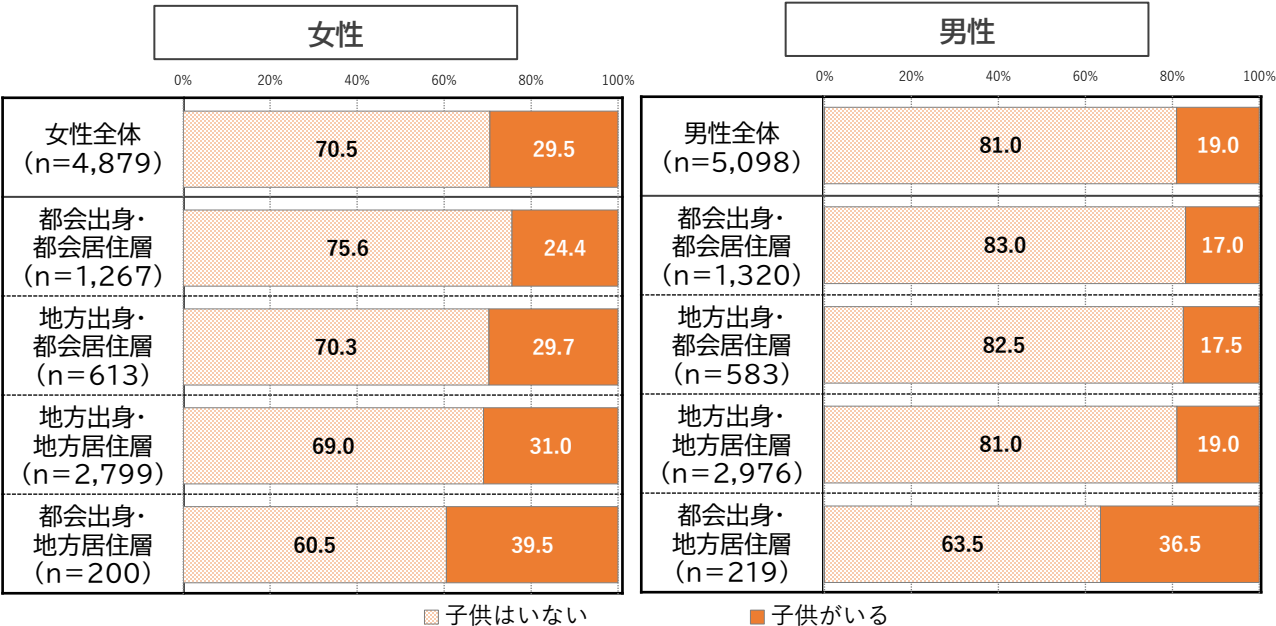
【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域・現住地域別

- 女性についてみると、都会出身・都会居住層では「未婚」の割合が4区分で最も高く、66.8%。
地方出身・都会居住層では「未婚」53.0%、「既婚」46.0%。地方出身・地方居住層では、「未婚」が6割。
都会出身・地方居住層では、「既婚」が6割。
また、都会出身・地方居住層では「子供がいる」が4割、他の3区分では2～3割。
- 男性についてみると、未婚既婚、子供の有無ともに、都会出身・地方居住層で他の区分と異なる傾向がみられ、「既婚」が5割、「子供がいる」が4割。他の区分については、「未婚」が7割程度、「子供はいない」が8割。

出身地域・現住地域(4区分)×未婚既婚



出身地域・現住地域(4区分)×子供の有無

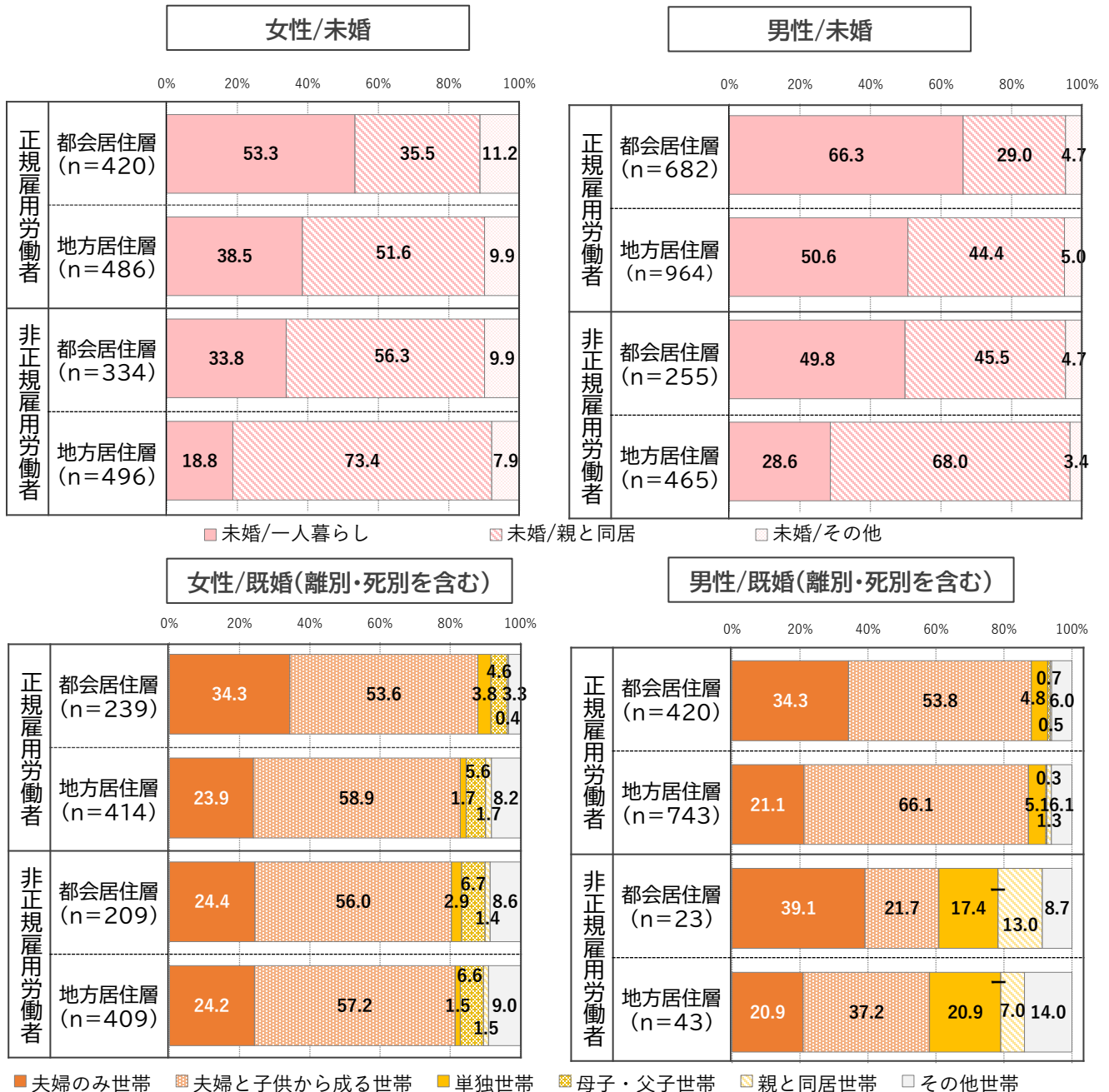


2. 地域別の基本属性と地域間の移動状況

(3) 出身地域・現住地域別の特徴(単数回答・Q6、Q8)

【対象】正規雇用労働者・非正規雇用労働者 【分析軸】未婚・雇用形態・現住地域別

- ・未婚者についてみると、正規雇用労働者では、男女ともに、都会居住層と比べて、地方居住層の方が「親と同居」の割合が高く、都会居住層の方が「一人暮らし」の割合が高い。
- ・正規雇用労働者についてみると、地方居住層では、男性と比べて、女性の方が「親と同居」の割合が高く、51.6%。
- ・非正規雇用労働者についてみると、都会居住層の男性では「一人暮らし」が49.8%と、他層と比べて高い。
- ・既婚者についてみると、正規雇用労働者では、男女ともに、地方居住層と比べて、都会居住層の方が「夫婦のみ世帯」の割合が高い。



※既婚者には離別・死別を含む。未婚「その他・答えたくない」は除いて割合を算出。

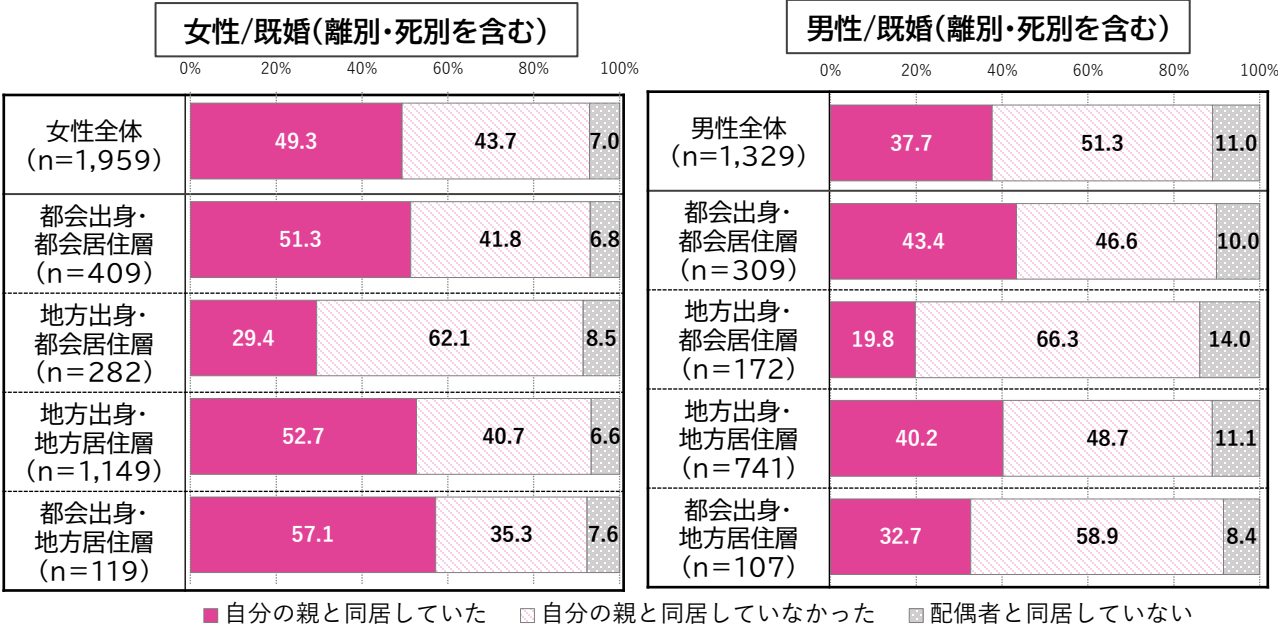
2. 地域別の基本属性と地域間の移動状況

(3) 出身地域・現住地域別の特徴(単数回答・Q11/数字入力・Q2)

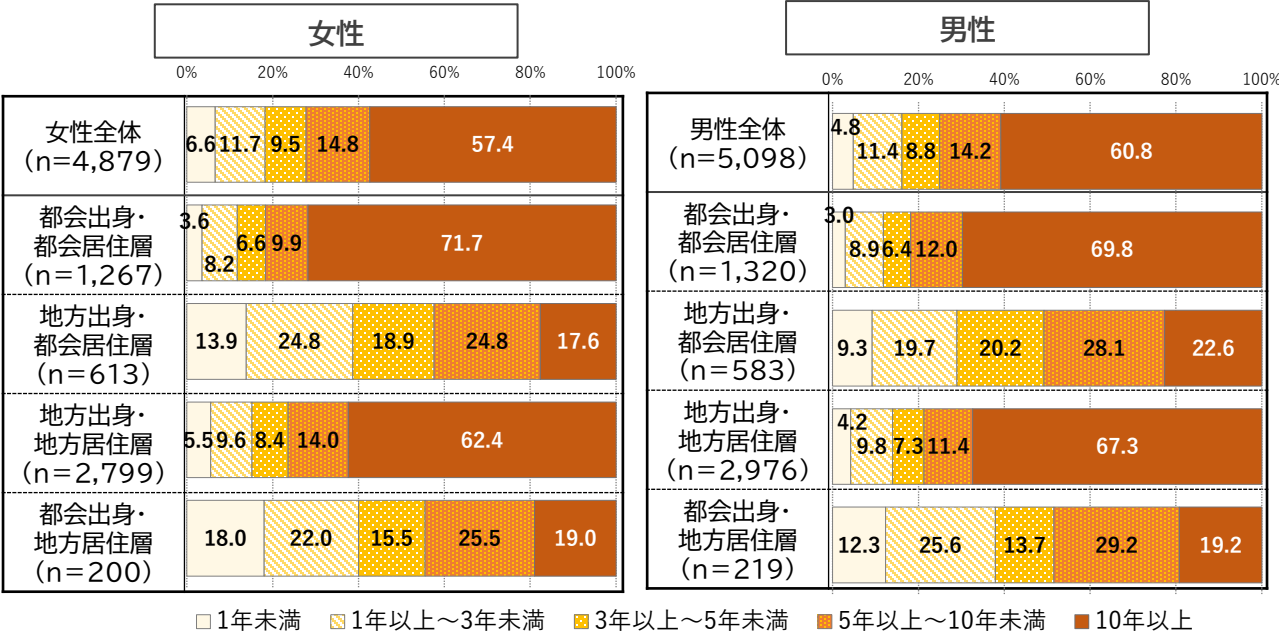
【対象】既婚者(離別・死別を含む)/全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域・現住地域別

- 既婚者について、結婚する直前の自分の親との同居の有無をみると、女性では、都会出身・都会居住層、地方出身・地方居住層では、「自分の親と同居していた」が5割。一方、地方出身・都会居住層では、「自分の親と同居していた」が3割と、他の区分に比べて低い。男性でも同様の傾向がみられた。
- 現住地域の居住年数をみると、男女ともに、都会出身・都会居住層、地方出身・地方居住層では、「10年以上」が6割以上。一方、地方出身・都会居住層、都会出身・地方居住層では、5年未満が5～6割程度。

出身地域・現住地域(4区分)×結婚する直前の自分の親との同居の有無(既婚者)



出身地域・現住地域(4区分)×現住地域の居住年数



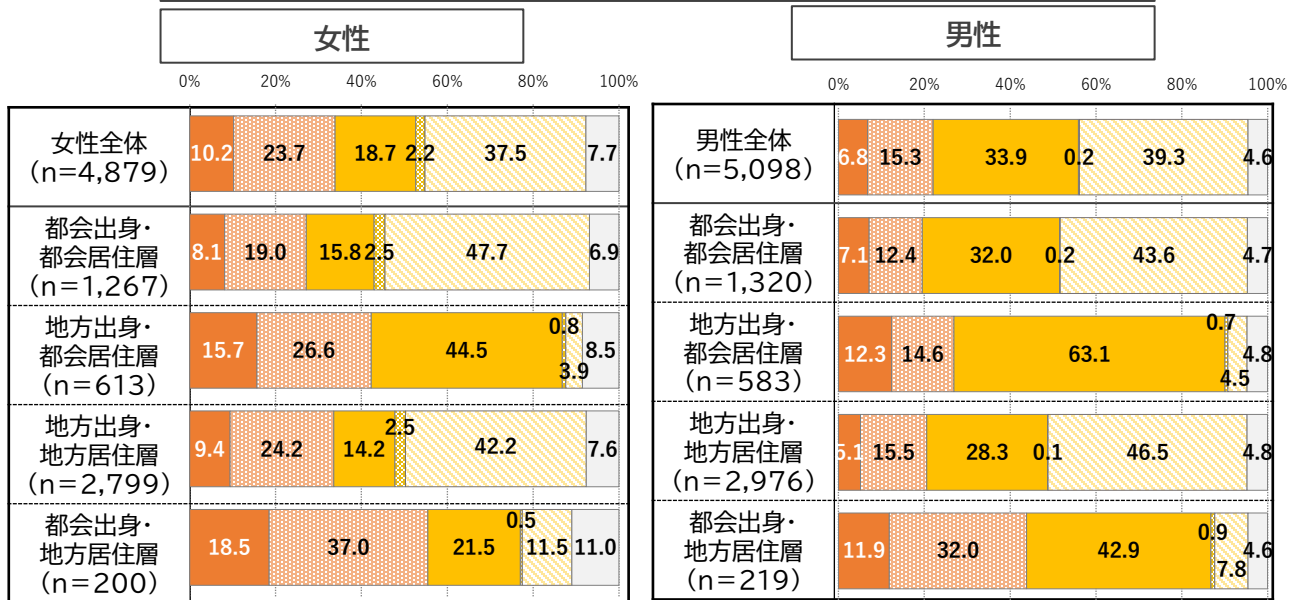
2. 地域別の基本属性と地域間の移動状況

(3) 出身地域・現住地域別の特徴(単数回答・Q6、Q8)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域・現住地域別

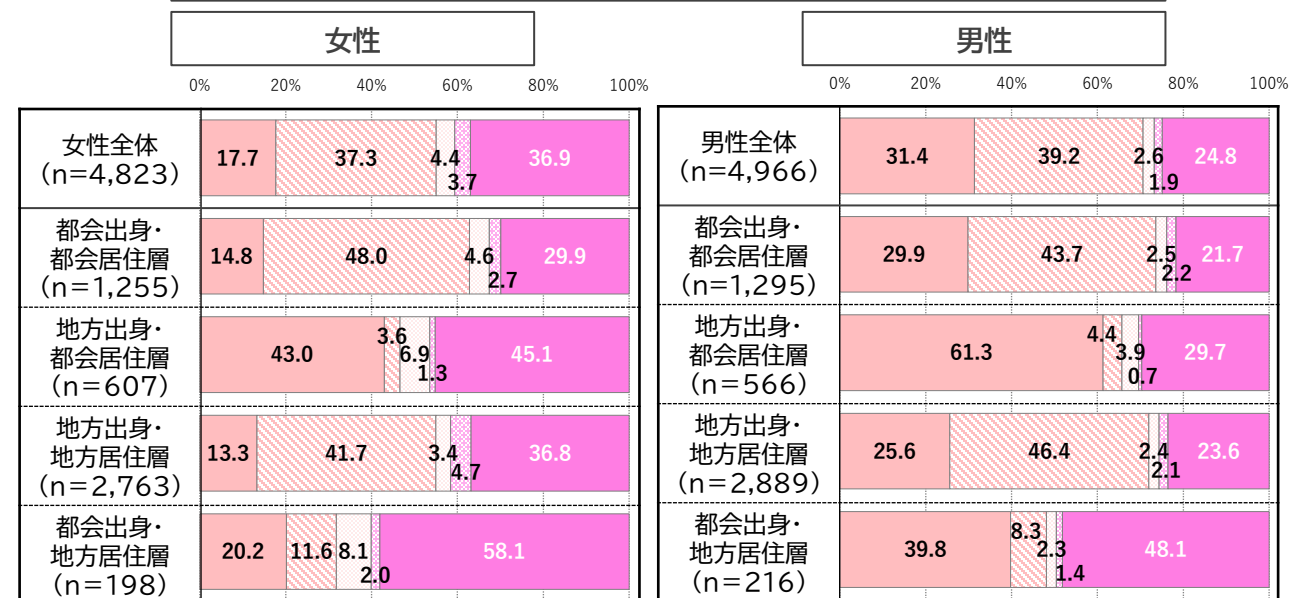
- 世帯類型についてみると、男女ともに、都会出身・都会居住層、地方出身・地方居住層では、「親と同居世帯」が4～5割を占める。
- 地方出身・都会居住層の女性では、「単独世帯」(44.5%)が最も高く、次いで、「夫婦と子供から成る世帯」26.6%、「夫婦のみ世帯」15.7%。男性/地方出身・都会居住層では、「単独世帯」が6割と、女性の同区分に比べて高い。
- 未婚・親との同居の有無についてみると、男女ともに、都会出身・都会居住層、地方出身・地方居住層では、「未婚/親と同居」が4～5割。地方出身・都会居住層の女性では、「既婚/親と同居なし」「未婚/一人暮らし」がいずれも4～5割。地方出身・都会居住層の男性では、「未婚/一人暮らし」が6割と、女性の同区分に比べて高い。
- 「既婚/自分の親か配偶者の親と同居」は、地方出身・地方居住層の女性で最も高く、4.7%。

出身地域・現住地域(4区分)×世帯類型



■ 夫婦のみ世帯 ■ 夫婦と子供から成る世帯 ■ 単独世帯 ■ 母子・父子世帯 ■ 親と同居世帯 ■ その他世帯

出身地域・現住地域(4区分)×未婚・親との同居の有無



■ 未婚/一人暮らし ■ 未婚/親と同居 ■ 未婚/その他 ■ 既婚/自分の親か配偶者の親と同居 ■ 既婚/親と同居なし

※既婚者には離別・死別を含む。未婚「その他・答えたくない」は除いて割合を算出。

2. 地域別の基本属性と地域間の移動状況

(3) 出身地域・現住地域別の特徴(複数回答・Q10)

【対象】未婚者(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域・現住地域別

- 未婚者についてみると、都会出身・都会居住層、地方出身・地方居住層では、男女ともに「同居・二世帯住宅・同じ敷地内に住んでいる」が50%を超え、最も高い。
- 地方出身・都会居住層、都会出身・地方居住層では、男女ともに「別の都道府県・海外に住んでいる」が最も高い。

出身地域・現住地域(4区分)×自分の親の居住状況(未婚者)

※最も高い項目に黄色色掛け、
2番目に高い項目に薄黄色色掛け

		同居・二世帯住宅・同じ敷地内に住んでいる	同居等はないが、同じ市町村に住んでいる	同じ市町村ではないが、同じ都道府県に住んでいる	別の都道府県・海外に住んでいる	親は死去している	わからない・答えたくない
未婚女性全体(n=2,864)		60.0%	7.5%	8.8%	16.7%	1.7%	7.2%
未婚男性全体(n=3,637)		51.7%	8.1%	10.0%	17.3%	2.6%	12.0%
女性	都会出身・都会居住層(n=846)	69.7%	9.5%	6.0%	9.3%	2.1%	4.7%
	地方出身・都会居住層(n=325)	6.5%	2.5%	16.3%	68.6%	2.2%	5.2%
	地方出身・地方居住層(n=1,614)	67.2%	7.4%	8.2%	9.1%	1.4%	8.9%
	都会出身・地方居住層(n=79)	29.1%	10.1%	17.7%	38.0%	1.3%	7.6%
男性	都会出身・都会居住層(n=986)	55.5%	11.7%	8.0%	9.9%	3.0%	13.3%
	地方出身・都会居住層(n=394)	6.1%	3.6%	16.2%	61.9%	2.5%	11.2%
	地方出身・地方居住層(n=2,148)	59.8%	7.7%	9.5%	10.7%	2.4%	11.7%
	都会出身・地方居住層(n=109)	21.1%	1.8%	13.8%	54.1%	2.8%	7.3%

2. 地域別の基本属性と地域間の移動状況

(3) 出身地域・現住地域別の特徴(複数回答・Q10)

【対象】既婚者(離別・死別を含む)(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域・現住地域別

- 既婚者についてみると、自分の親の居住状況について、都会出身・都会居住層では、男女ともに「同居等はしていないが、同じ市区町村に住んでいる」が4割程度と最も高い。地方出身・地方居住層では、女性では「同じ市町村ではないが、同じ都道府県に住んでいる」、男性では「同居等はしていないが、同じ市区町村に住んでいる」が3割程度で最も高い。
- 配偶者の親の居住状況についてみると、多くの区分で「別の都道府県・海外に住んでいる」が最も高い。男女ともに地方出身・地方居住層では、「同じ市町村ではないが、同じ都道府県に住んでいる」が最も高い。

出身地域・現住地域(4区分)×自分の親の居住状況(既婚者)

※最も高い項目に黄色色掛け、
2番目に高い項目に薄黄色色掛け

		同居・二世帯住宅・同じ敷地内に住んでいる	同居等はないが、同じ市町村に住んでいる	同じ市町村ではないが、同じ都道府県に住んでいる	別の都道府県・海外に住んでいる	親は死去している	わからない・答えたくない
既婚女性全体(n=1,959)		7.9%	26.7%	30.3%	30.0%	2.5%	3.6%
既婚男性全体(n=1,329)		11.0%	27.3%	26.9%	25.7%	3.4%	6.6%
女性	都会出身・都会居住層(n=409)	9.8%	41.8%	23.2%	19.3%	2.7%	3.9%
	地方出身・都会居住層(n=282)	2.5%	4.6%	28.7%	62.1%	2.5%	0.7%
	地方出身・地方居住層(n=1,149)	9.1%	29.2%	32.1%	23.9%	2.4%	4.3%
	都会出身・地方居住層(n=119)	3.4%	3.4%	40.3%	48.7%	1.7%	2.5%
男性	都会出身・都会居住層(n=309)	13.6%	37.9%	22.0%	16.2%	4.9%	5.8%
	地方出身・都会居住層(n=172)	5.8%	8.1%	26.7%	52.9%	4.1%	3.5%
	地方出身・地方居住層(n=741)	12.1%	29.8%	28.5%	20.9%	2.4%	7.3%
	都会出身・地方居住層(n=107)	3.7%	10.3%	29.9%	42.1%	4.7%	9.3%

出身地域・現住地域(4区分)×配偶者の親の居住状況(既婚者)

既婚女性全体(n=1,959)		5.5%	24.7%	28.3%	30.1%	3.3%	9.3%
既婚男性全体(n=1,329)		4.8%	26.4%	28.2%	27.4%	3.5%	10.2%
女性	都会出身・都会居住層(n=409)	2.7%	27.1%	24.4%	33.5%	5.1%	9.3%
	地方出身・都会居住層(n=282)	3.5%	18.4%	27.7%	45.0%	1.8%	3.9%
	地方出身・地方居住層(n=1,149)	7.4%	26.1%	29.7%	23.9%	2.9%	11.1%
	都会出身・地方居住層(n=119)	1.7%	17.6%	30.3%	42.9%	4.2%	5.0%
男性	都会出身・都会居住層(n=309)	2.9%	28.5%	23.0%	32.0%	5.2%	9.1%
	地方出身・都会居住層(n=172)	2.9%	20.3%	20.3%	45.9%	4.7%	7.0%
	地方出身・地方居住層(n=741)	5.5%	27.8%	32.4%	20.9%	2.3%	11.3%
	都会出身・地方居住層(n=107)	8.4%	20.6%	27.1%	29.0%	4.7%	10.3%

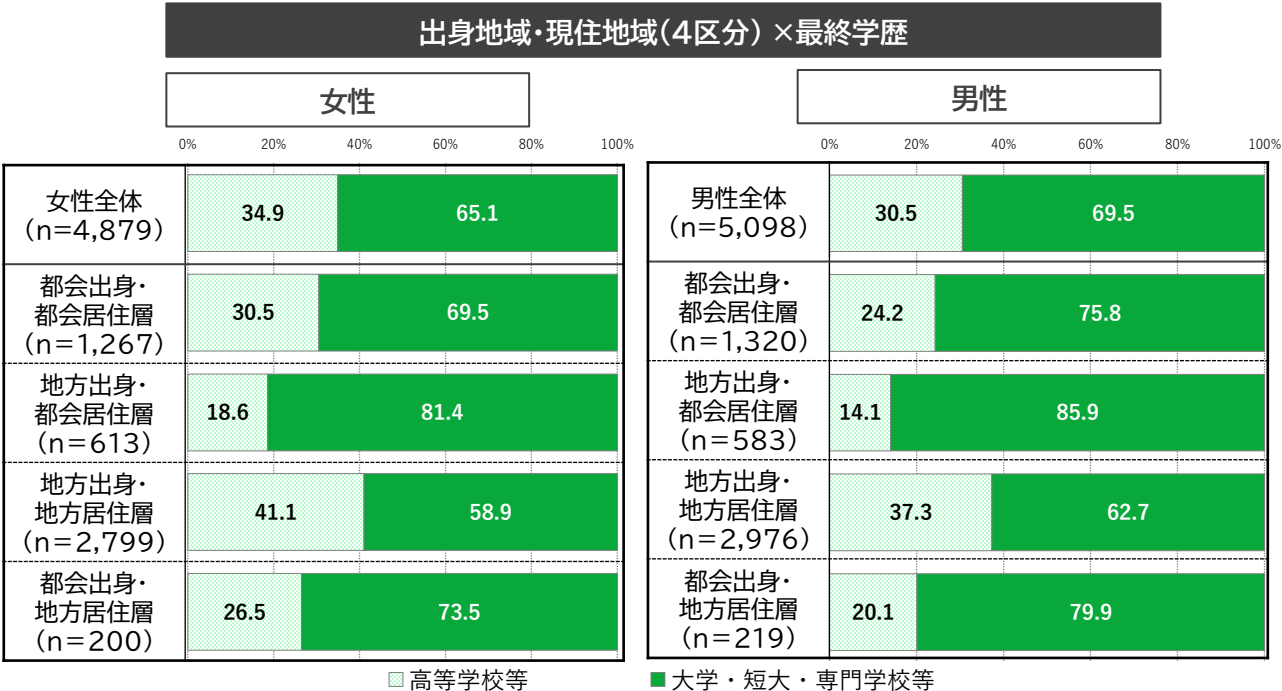
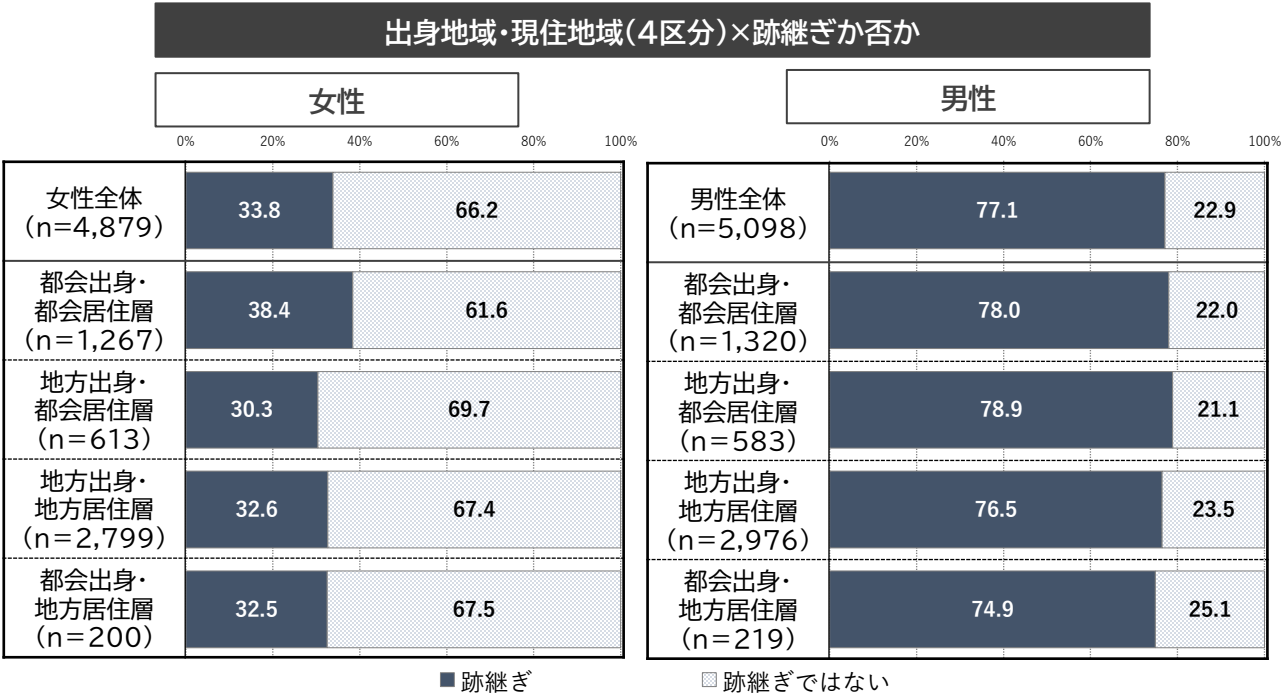
2. 地域別の基本属性と地域間の移動状況

(3) 出身地域・現住地域別の特徴(単数回答・Q12、Q13)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域・現住地域別

- ・伝統的価値観において、いわゆる“跡継ぎ”とされる人についてみると、女性では、都会出身・都会居住層で38.4%と最も高い。男性でみると、いずれの区分でも「跡継ぎ」が70%台。
- ・最終学歴について、女性でみると、「大学・短大・専門学校等」は地方出身・都会居住層で8割と最も高く、地方出身・地方居住層は6割で最も低い。男性でも同様の傾向。

※ここでは、伝統的価値観において、いわゆる“跡継ぎ”とされる人
(一人っ子又は男性の場合は長男、女性の場合は兄弟のいない長女)を「跡継ぎ」と区分している。



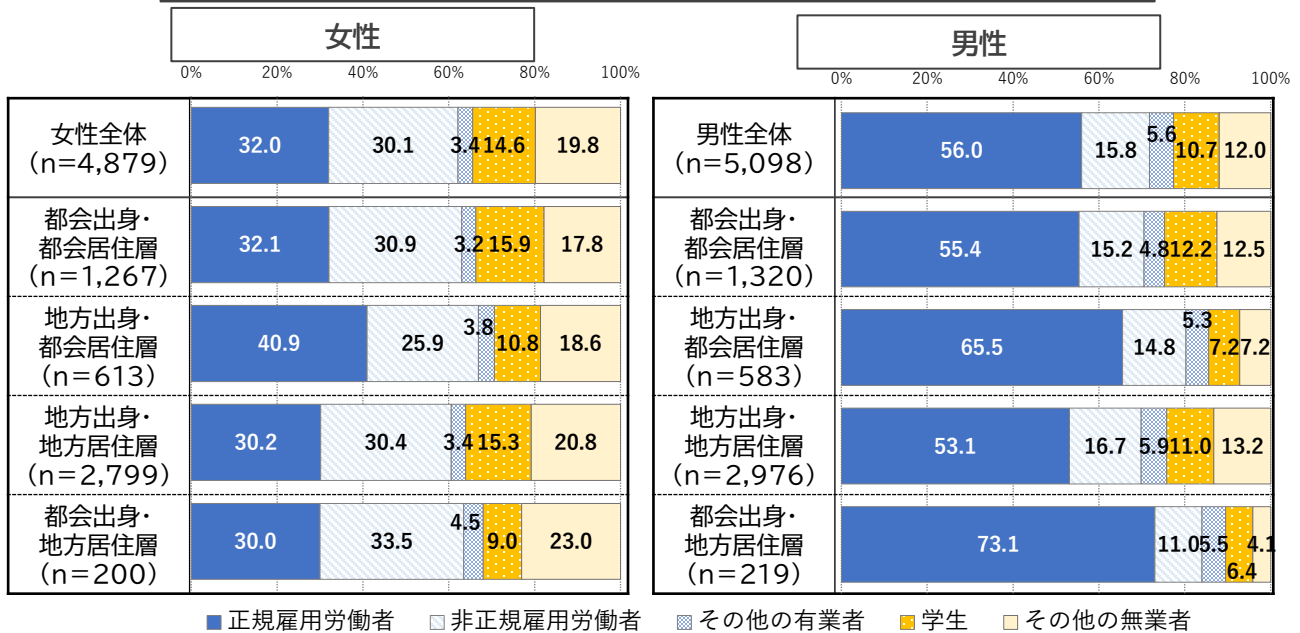
2. 地域別の基本属性と地域間の移動状況

(3) 出身地域・現住地域別の特徴(単数回答・Q14、Q17)

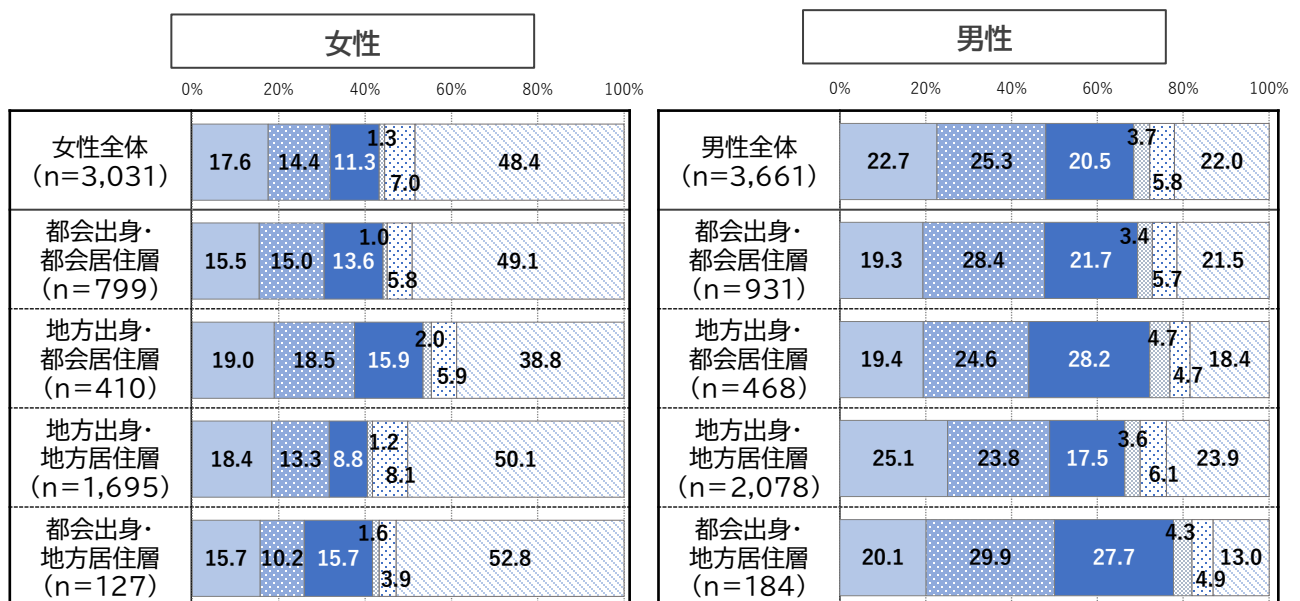
【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域・現住地域別

- ・就業状況・雇用形態についてみると、女性では、地方出身・都会居住層で「正規雇用労働者」が4割と最も高く、他の区分では3割。都会出身・都会居住層、地方出身・地方居住層では、「学生」が15%程度。男性では、「正規雇用労働者」の割合は、都会出身・地方居住層で73.1%、地方出身・都会居住層で65.5%。
- ・企業規模について、「正規雇用労働者/1,000名以上」の割合をみると、女性では、地方出身・都会居住層、都会出身・地方居住層で16%程度、地方出身・地方居住層では8.8%。男性では、地方出身・都会居住層、都会出身・地方居住層で28%程度、地方出身・地方居住層では17.5%。

出身地域・現住地域(4区分)×就業状況・雇用形態



出身地域・現住地域(4区分)×企業規模(雇用されている人、もしくは会社役員が対象)



- 正規雇用労働者/1名から99名 ■ 正規雇用労働者/1,000名以上 ■ 正規雇用労働者/100名から999名 ■ 正規雇用労働者/官公庁 ■ 正規雇用労働者/民間企業・官公庁以外に勤めている/わからない ■ 非正規雇用労働者

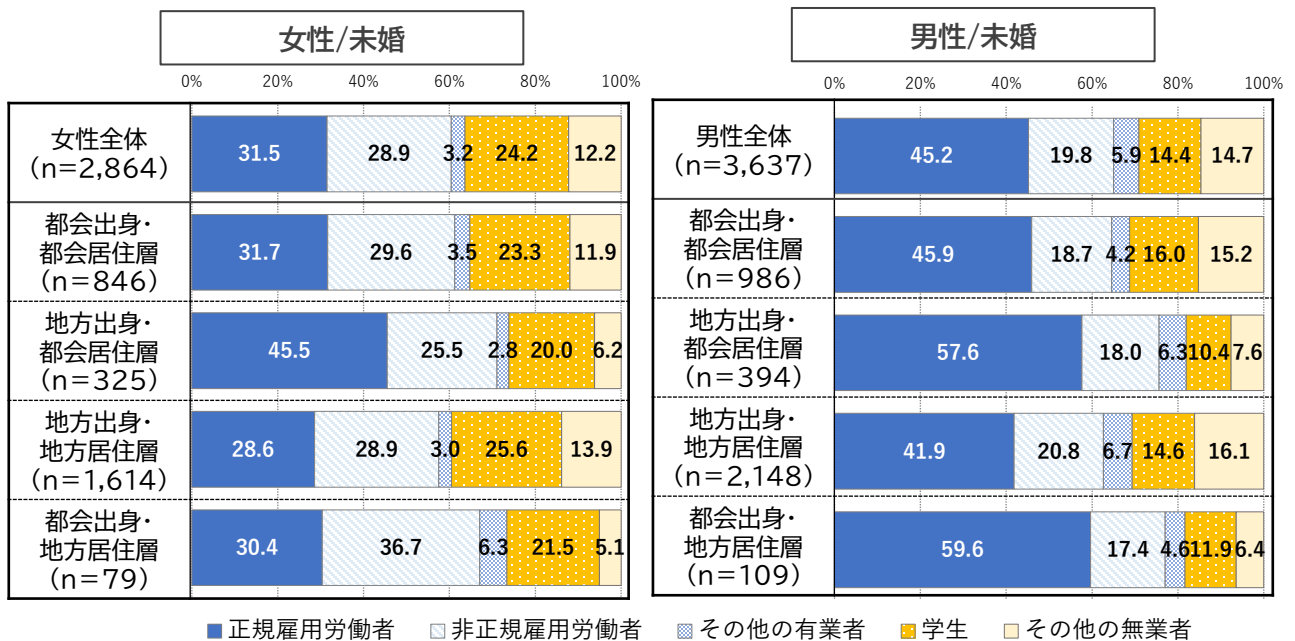
2. 地域別の基本属性と地域間の移動状況

(3) 出身地域・現住地域別の特徴(単数回答・Q14)

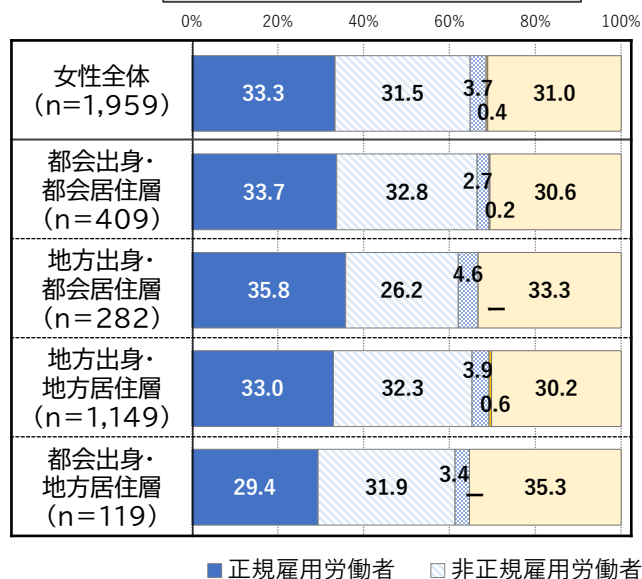
【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】未既婚、出身地域・現住地域別

- 未婚者についてみると、女性では、地方出身・都会居住層で「正規雇用労働者」が45.5%と、他の区分に比べて高い。男性では、地方出身・都会居住層、都会出身・地方居住層で「正規雇用労働者」が6割と高い。
- 既婚者についてみると、女性では、いずれの区分でも「正規雇用労働者」が3～4割。地方出身・都会居住層では「正規雇用労働者」35.8%、「非正規雇用労働者」が26.2%と、正規雇用労働者の割合が高い。男性では、いずれの区分でも「正規雇用労働者」が9割。

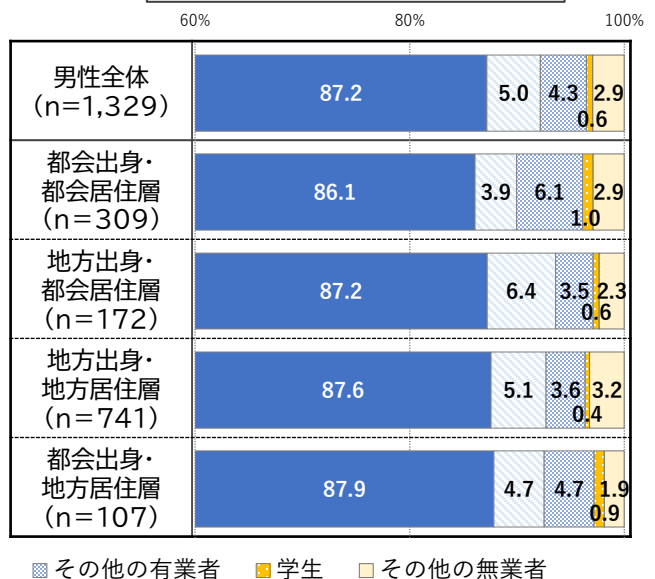
出身地域・現住地域(4区分)×未既婚×就業状況・雇用形態



女性/既婚(離別・死別を含む)



男性/既婚(離別・死別を含む)

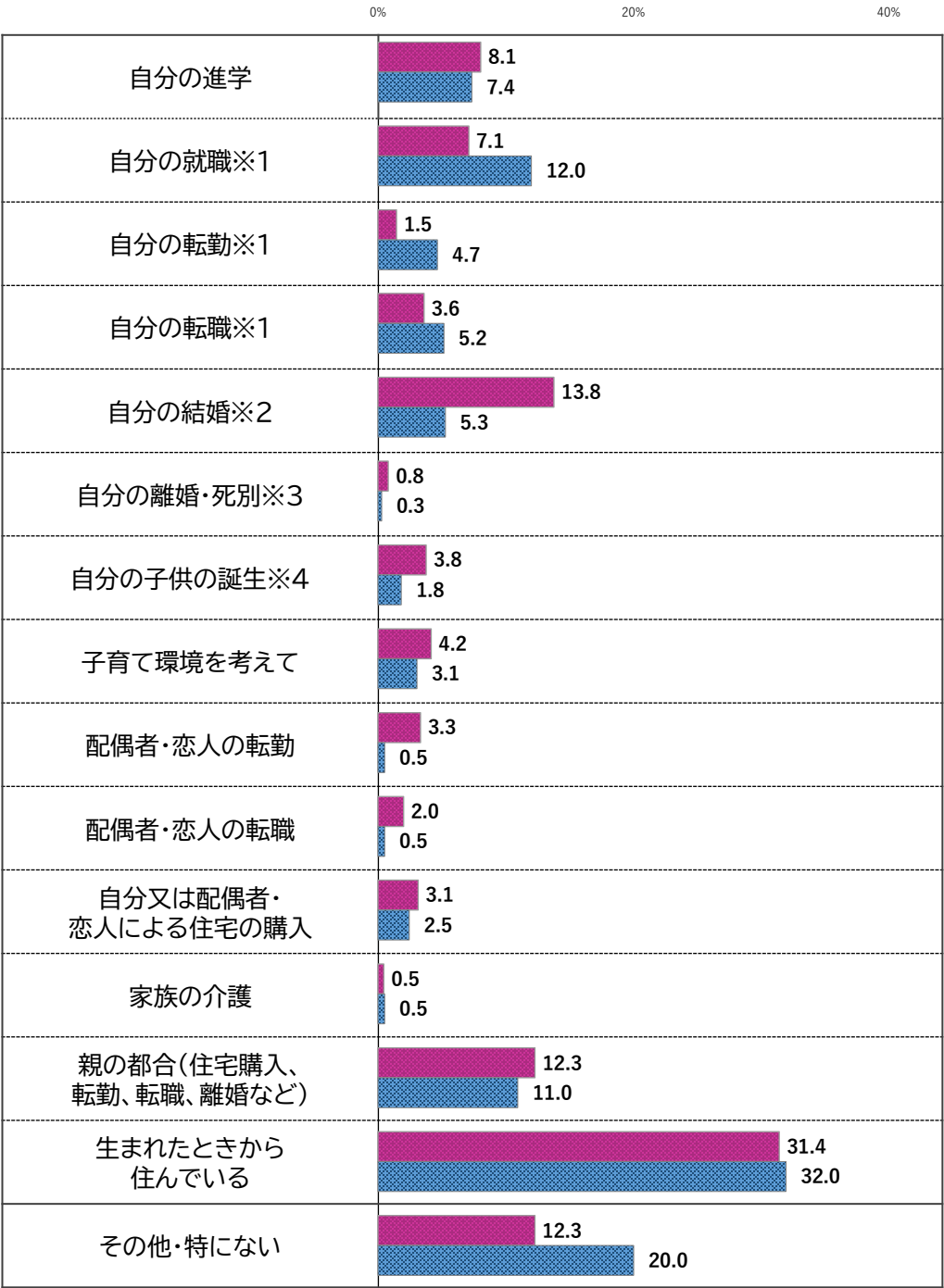


3. 都会と地方の現状と魅力

(1) 現住地域に住むようになったきっかけ(複数回答・Q22)

【対象】全員

- 男女ともに「生まれたときから住んでいる」が3割で最も高い。
- 女性は、男性に比べて「自分の結婚」が高く、最も男女差が大きい。「配偶者・恋人の転勤」「自分の子供の誕生」「配偶者・恋人の転職」も女性で高い。
- 男性は、女性に比べて、「自分の就職」「自分の転勤」「自分の転職」等が高い。



※1:働いたことがある人のみ提示
※2:結婚の経験がある人のみ提示
※3:離婚・死別の経験がある人のみ提示
※4:子供がいる人のみ提示

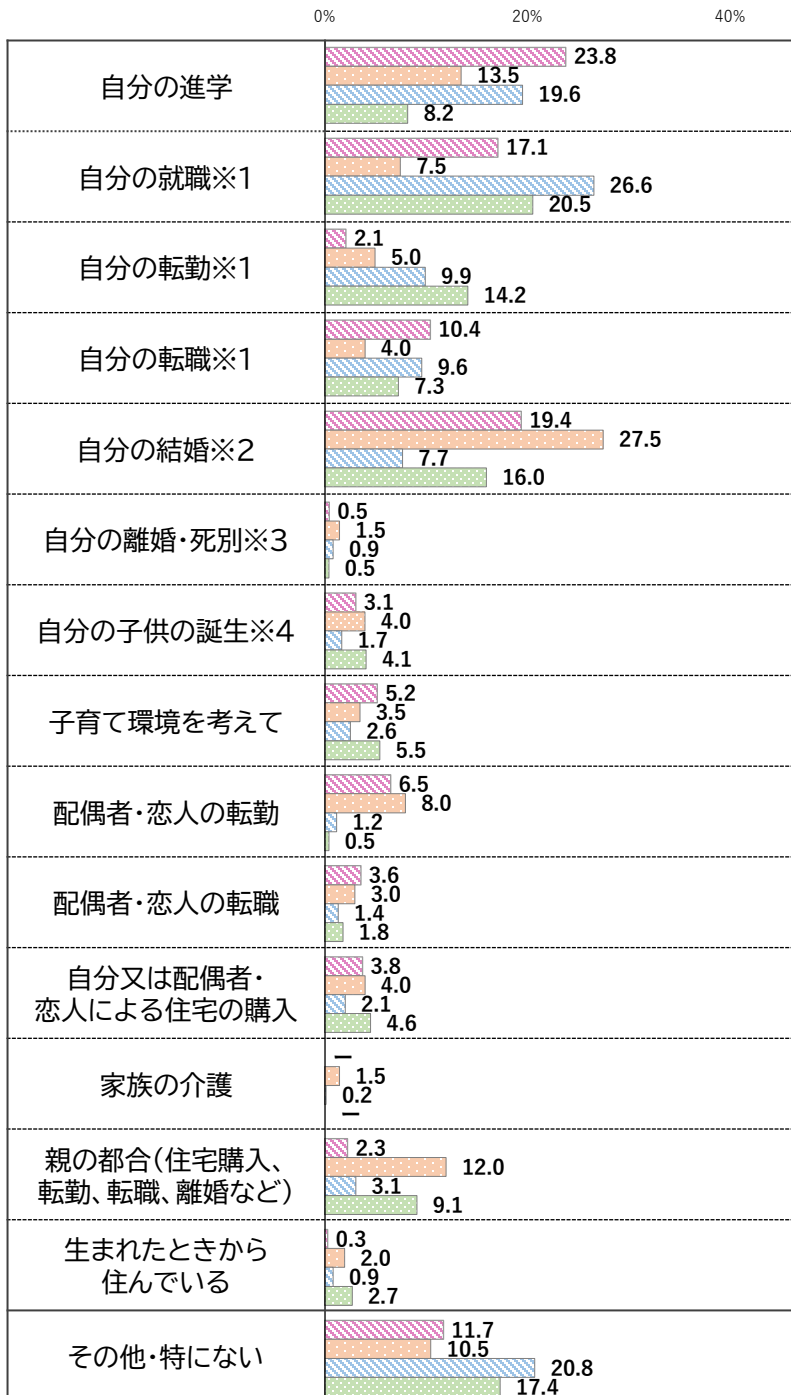
■ 女性全体(n=4,890) ■ 男性全体(n=5,110)

3. 都会と地方の現状と魅力

(1) 現住地域に住むようになったきっかけ(複数回答・Q22)

【対象】出身地域・現住地域が異なる人 【分析軸】出身地域・現住地域別

- 出身地域と現住地域が異なる人についてみると、地方出身・都会居住層の女性では、「自分の進学」23.8%が最も高く、次いで、「自分の結婚」19.4%、「自分の就職」17.1%。都会出身・地方居住層の女性では、「自分の結婚」27.5%が最も高い。
- 地方出身・都会居住層の男性では、「自分の就職」26.6%が最も高く、次いで、「自分の進学」19.6%。都会出身・地方居住層の男性では、「自分の就職」20.5%が最も高く、次いで、「自分の結婚」16.0%、「自分の転勤」14.2%。



※1:働いたことがある人のみ提示

※2:結婚の経験がある人のみ提示

※3:離婚・死別の経験がある人のみ提示

※4:子供がいる人のみ提示

女性/地方出身・都会居住層(n=613)

女性/都会出身・地方居住層(n=200)

男性/地方出身・都会居住層(n=583)

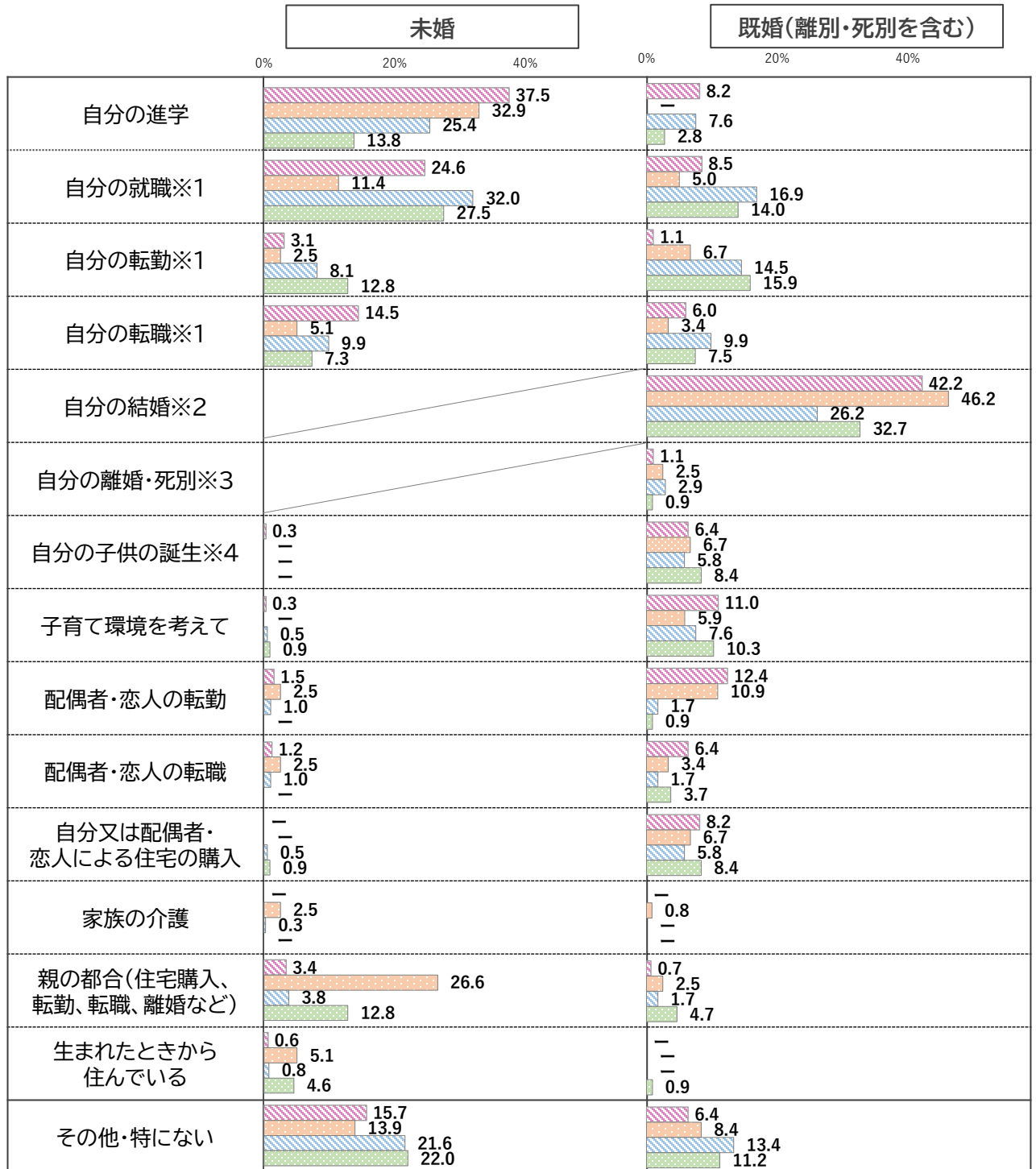
男性/都会出身・地方居住層(n=219)

3. 都会と地方の現状と魅力

(1) 現住地域に住むようになったきっかけ(複数回答・Q22)

【対象】出身地域・現住地域が異なる人 【分析軸】未婚婚、出身地域・現住地域別

- ・出身地域・現住地域が異なる人を未婚婚別でみると、地方出身・都会居住層の未婚の女性では、「自分の進学」37.5%が最も高く、次いで、「自分の就職」24.6%、「自分の転職」14.5%。地方出身・都会居住層の未婚の男性では、「自分の就職」32.0%が最も高く、次いで、「自分の進学」25.4%。
- ・都会出身・地方居住層、地方出身・都会居住層の既婚の女性では、「自分の結婚」が4割と高い。男性も3割と高い。



※1:働いたことがある人のみ提示

※2:結婚の経験がある人のみ提示

※3:離婚・死別の経験がある人のみ提示

※4:子供がいる人のみ提示

女性/地方出身・都会居住層(n=325)

女性/都会出身・地方居住層(n=79)

男性/地方出身・都会居住層(n=394)

男性/都会出身・地方居住層(n=109)

女性/地方出身・都会居住層(n=282)

女性/都会出身・地方居住層(n=119)

男性/地方出身・都会居住層(n=172)

男性/都会出身・地方居住層(n=107)

3. 都会と地方の現状と魅力

(2) 現住地域に満足しているか(単数回答・Q23)

【対象】全員

- ・総合満足度の満足(計)は、女性では58.9%、男性では50.7%。
- ・項目別に満足(計)が高い(50%を上回る)項目をみると、女性では、「自然環境の豊かさ」「買い物や娯楽施設の利便性」「公共交通機関などの利便性」。男性では「自然環境の豊かさ」。

※50%を超えるセルに薄黄色色掛け

※「満足(計)」は「満足」+「どちらかといえば満足」の計



※「わからない」と答えた人を含む結果。

3. 都会と地方の現状と魅力

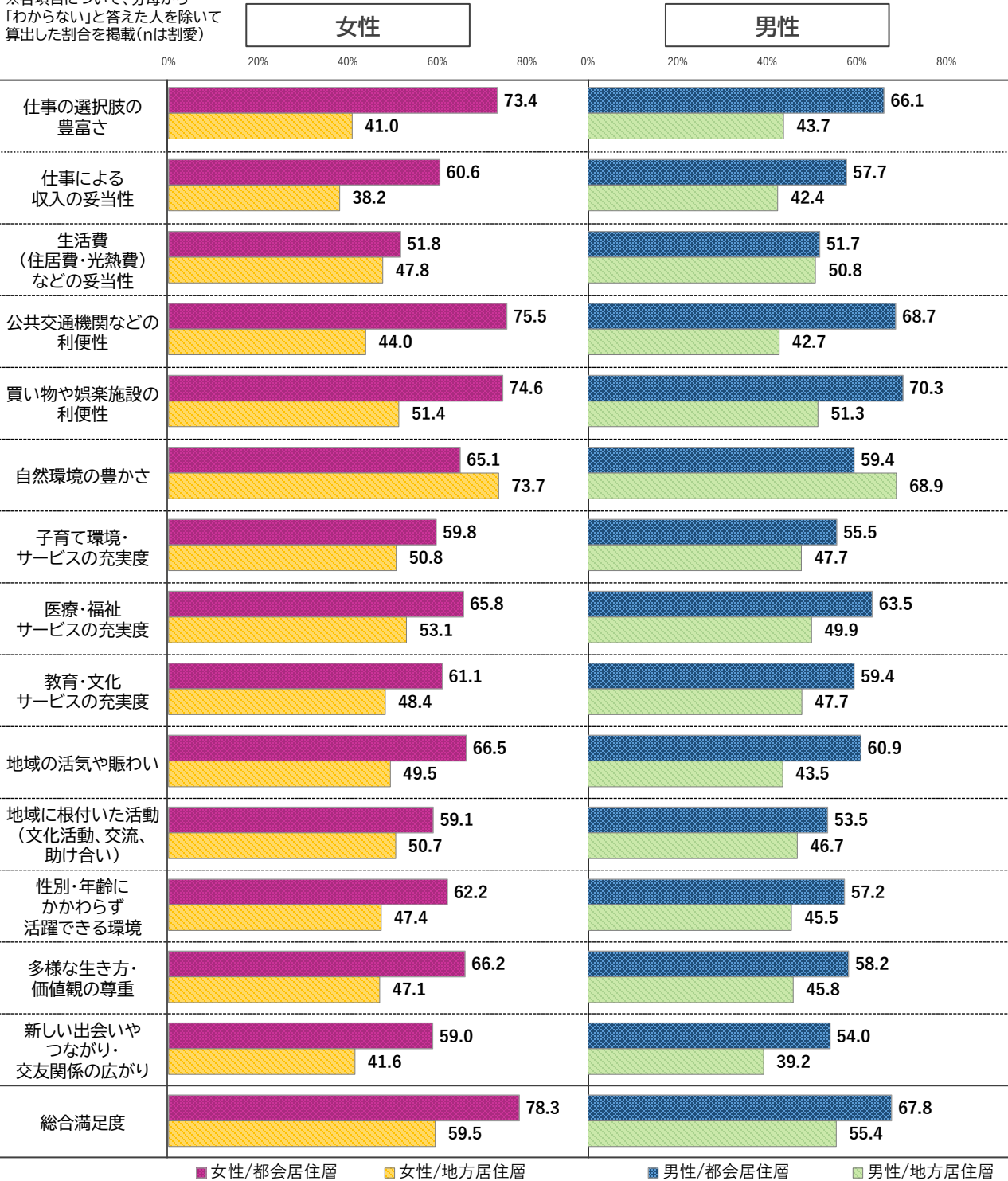
(2) 現住地域に満足しているか(単数回答・Q23)

【対象】全員 【分析軸】現住地域別

- ・満足(計)の割合を現住地域別にみると、総合満足度は、都会居住層の女性で8割と最も高く、次いで、都会居住層の男性。
- ・項目別にみると、「公共交通機関などの利便性」「仕事の選択肢の豊富さ」は、都会居住層の男女では7〜8割、地方居住層の男女では4〜5割と特に差がある。女性についてみると、「買い物や娯楽施設の利便性」「仕事による収入の妥当性」「多様な生き方・価値観の尊重」「新しい出会いやつながり・交友関係の広がり」「地域の活気や賑わい」等は、都会居住層の方が高い。他方、地方居住層の方が高い項目は、「自然環境の豊かさ」のみ。
- ・同区分の男女での違いをみると、地方居住層の方が男女差が小さい傾向。

※「満足(計)」の数値を掲載(「満足」+「どちらかといえば満足」の計)

※各項目について、分母から「わからない」と答えた人を除いて算出した割合を掲載(nは割愛)



3. 都会と地方の現状と魅力

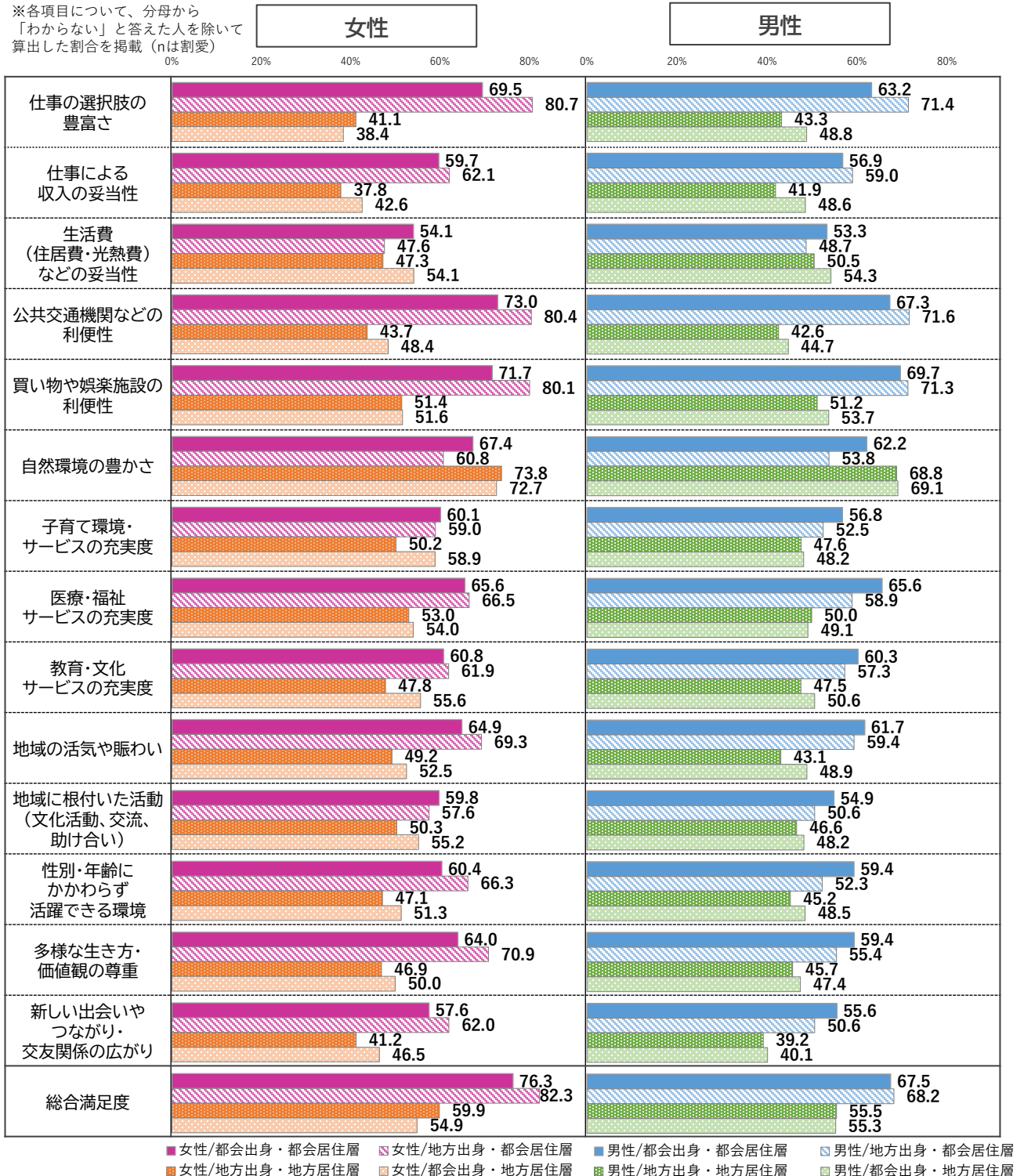
(2) 現住地域に満足しているか(単数回答・Q23)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域・現住地域別

- ・満足(計)の割合を出身地域・現住地域別にみると、総合満足度は地方出身・都会居住層の女性で8割を超え、最も高い。
- ・地方出身・地方居住層と地方出身・都会居住層の女性で比較すると、「自然環境の豊かさ」以外の全ての項目で、地方出身・都会居住層の方が高い。「仕事の選択肢の豊富さ」「公共交通機関などの利便性」「買い物や娯楽施設の利便性」「仕事による収入の妥当性」「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」「多様な生き方・価値観の尊重」は特に差が大きい。
- ・地方出身・都会居住層の男女差をみると、「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」「多様な生き方・価値観の尊重」等は、女性の方が高い。

※「満足(計)」の数値を掲載(「満足」+「どちらかといえば満足」の計)

※各項目について、分母から「わからない」と答えた人を除いて算出した割合を掲載(nは割愛)



3. 都会と地方の現状と魅力

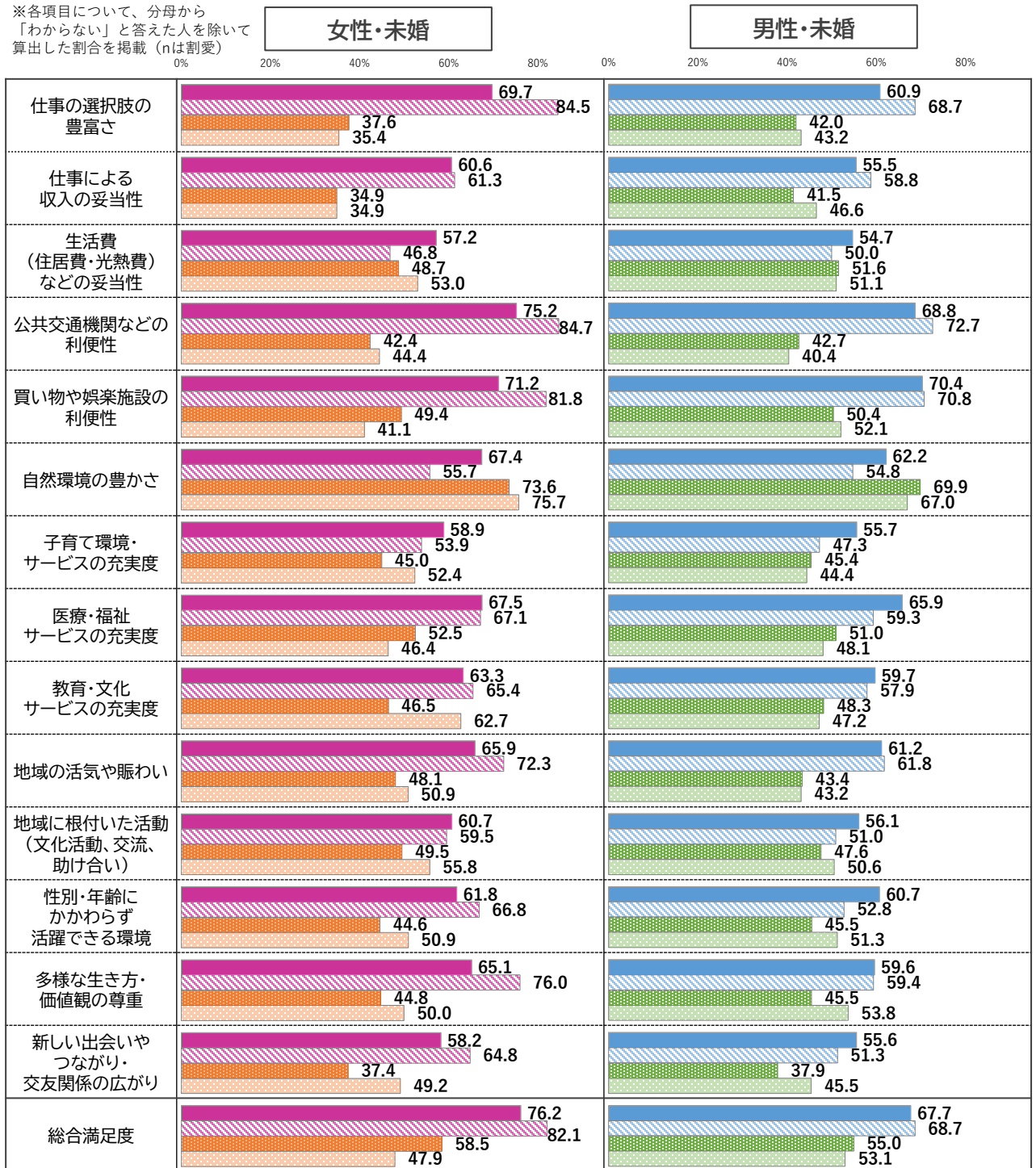
(2) 現住地域に満足しているか(単数回答・Q23)

【対象】未婚者(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】未婚、出身地域・現住地域別

- ・地方出身層の女性未婚者について満足(計)の割合をみると、地方出身・都会居住層の方が特に高い項目は、「多様な生き方・価値観の尊重」(31.2%ポイント差)、「新しい出会いやつながり・交友関係の広がり」(27.4%ポイント差)。
- ・地方出身・都会居住層の男女で比べると、総合満足度に加えて、「仕事の選択肢の豊富さ」「公共交通機関などの利便性」「買い物や娯楽施設の利便性」「地域の活気や賑わい」「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」「多様な生き方・価値観の尊重」「新しい出会いやつながり・交友関係の広がり」等は、女性の方が高い。

※「満足(計)」の数値を掲載(「満足」+「どちらかといえば満足」の計)

※各項目について、分母から「わからない」と答えた人を除いて算出した割合を掲載(nは割愛)



■ 女性/都会出身・都会居住層 ■ 女性/地方出身・都会居住層 ■ 男性/都会出身・都会居住層 ■ 男性/地方出身・都会居住層
■ 女性/地方出身・地方居住層 ■ 女性/都会出身・地方居住層 ■ 男性/地方出身・地方居住層 ■ 男性/都会出身・地方居住層

3. 都会と地方の現状と魅力

(2) 現住地域に満足しているか(単数回答・Q23)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】子供の有無、出身地域・現住地域別

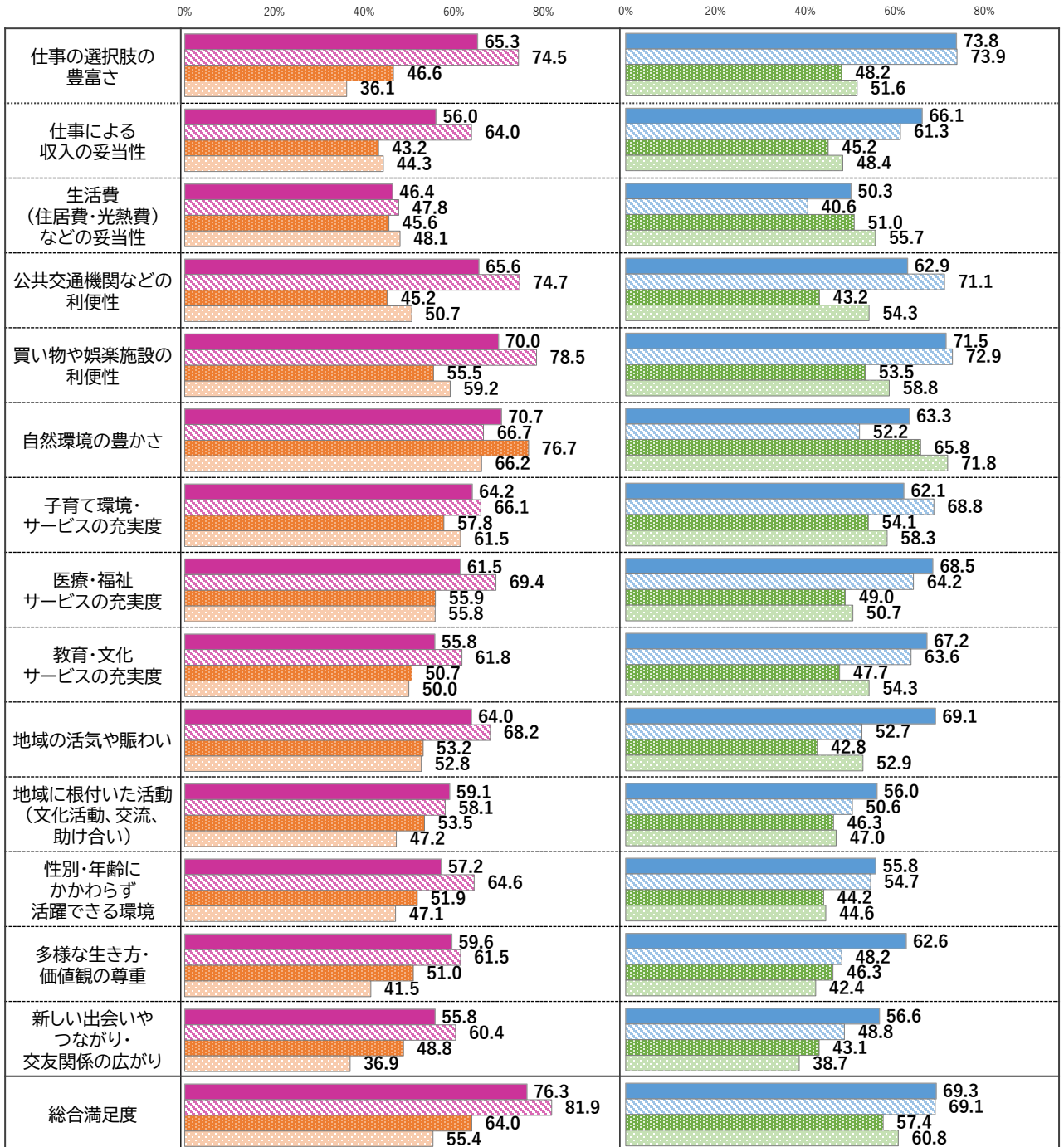
- ・子供がいる地方出身層の女性について満足(計)の割合をみると、「子育て環境・サービスの充実度」は、地方出身・都会居住女性の方が、8.3%ポイント高い。「教育・文化サービスの充実度」も、地方出身・都会居住女性の方が、11.1%ポイント高い。
- ・子供がいる地方出身層の男性についてみると、女性と同様に、「子育て環境・サービスの充実度」は、地方出身・都会居住男性の方が、14.7%ポイント高い。「教育・文化サービスの充実度」についても、地方出身・都会居住男性の方が、15.9%ポイント高い。

※「満足(計)」の数値を掲載(「満足」+「どちらかといえば満足」の計)

※各項目について、分母から「わからない」と答えた人を除いて算出した割合を掲載(nは割愛)

女性・子供がいる

男性・子供がいる



■ 女性/都会出身・都会居住層 ■ 女性/地方出身・都会居住層 ■ 男性/都会出身・都会居住層 ■ 男性/地方出身・都会居住層
 ■ 女性/地方出身・地方居住層 ■ 女性/都会出身・地方居住層 ■ 男性/地方出身・地方居住層 ■ 男性/都会出身・地方居住層

3. 都会と地方の現状と魅力

(2) 現住地域に満足しているか(単数回答・Q23)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】年代、出身地域・現住地域別

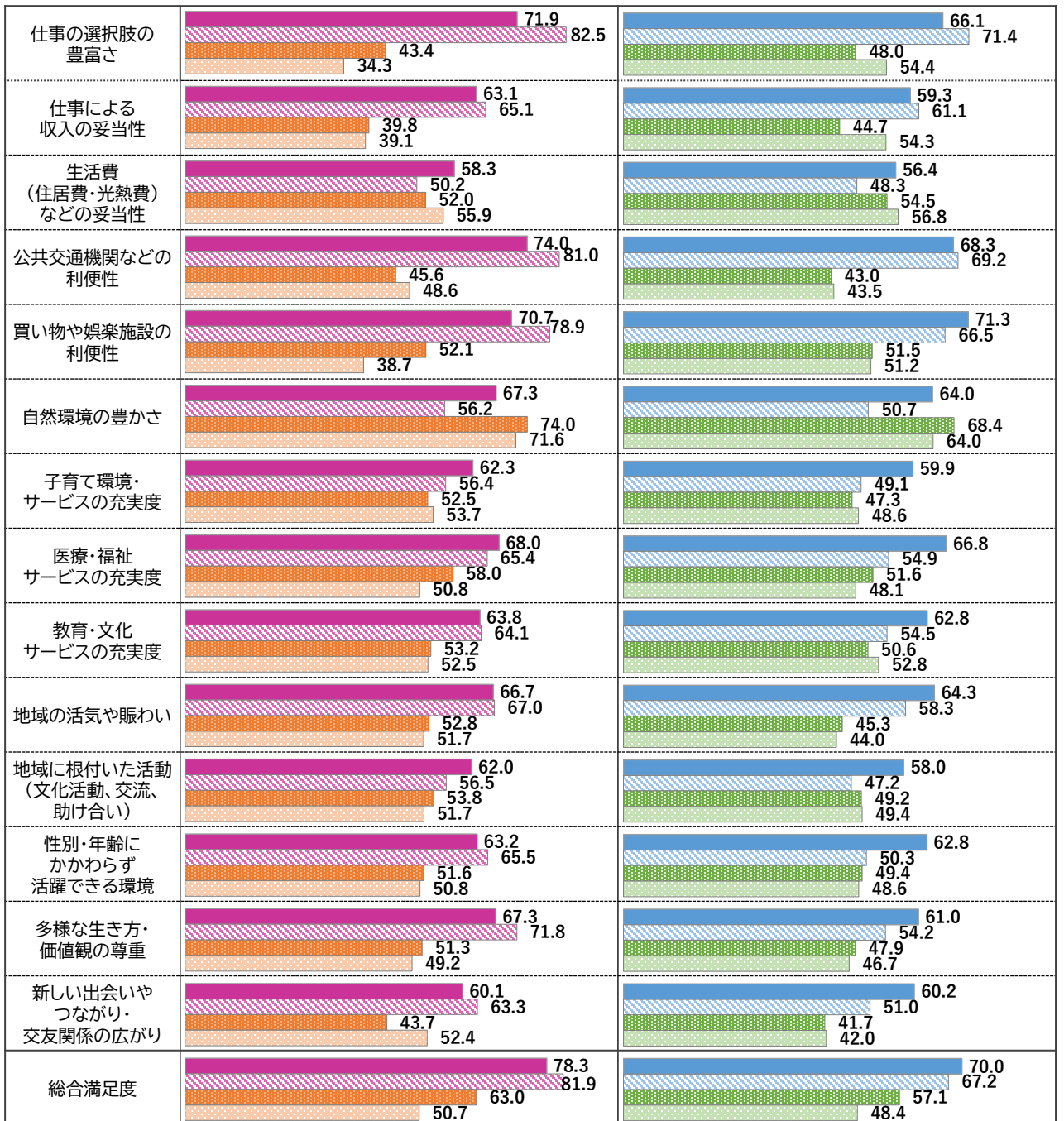
- ・18-29歳の女性について満足(計)の割合を地方出身・都会居住層と地方出身・地方居住層で比較すると、「自然環境の豊かさ」については、地方出身・地方居住層の方が17.8%ポイント高い。
- ・地方出身・都会居住層の男女で比べると、総合満足度に加えて、「多様な生き方・価値観の尊重」「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」「買い物や娯楽施設の利便性」「新しい出会いやつながり・交友関係の広がり」「公共交通機関などの利便性」「仕事の選択肢の豊富さ」「医療・福祉サービスの充実度」等は、女性の方が高い。

※「満足(計)」の数値を掲載(「満足」+「どちらかといえば満足」の計)

※各項目について、分母から「わからない」と答えた人を除いて算出した割合を掲載(nは割愛)

女性・18-29歳

男性・18-29歳



■ 女性/都会出身・都会居住層 ■ 女性/地方出身・都会居住層 ■ 女性/地方出身・地方居住層 ■ 女性/都会出身・地方居住層 ■ 男性/都会出身・都会居住層 ■ 男性/地方出身・都会居住層 ■ 男性/地方出身・地方居住層 ■ 男性/都会出身・地方居住層

3. 都会と地方の現状と魅力

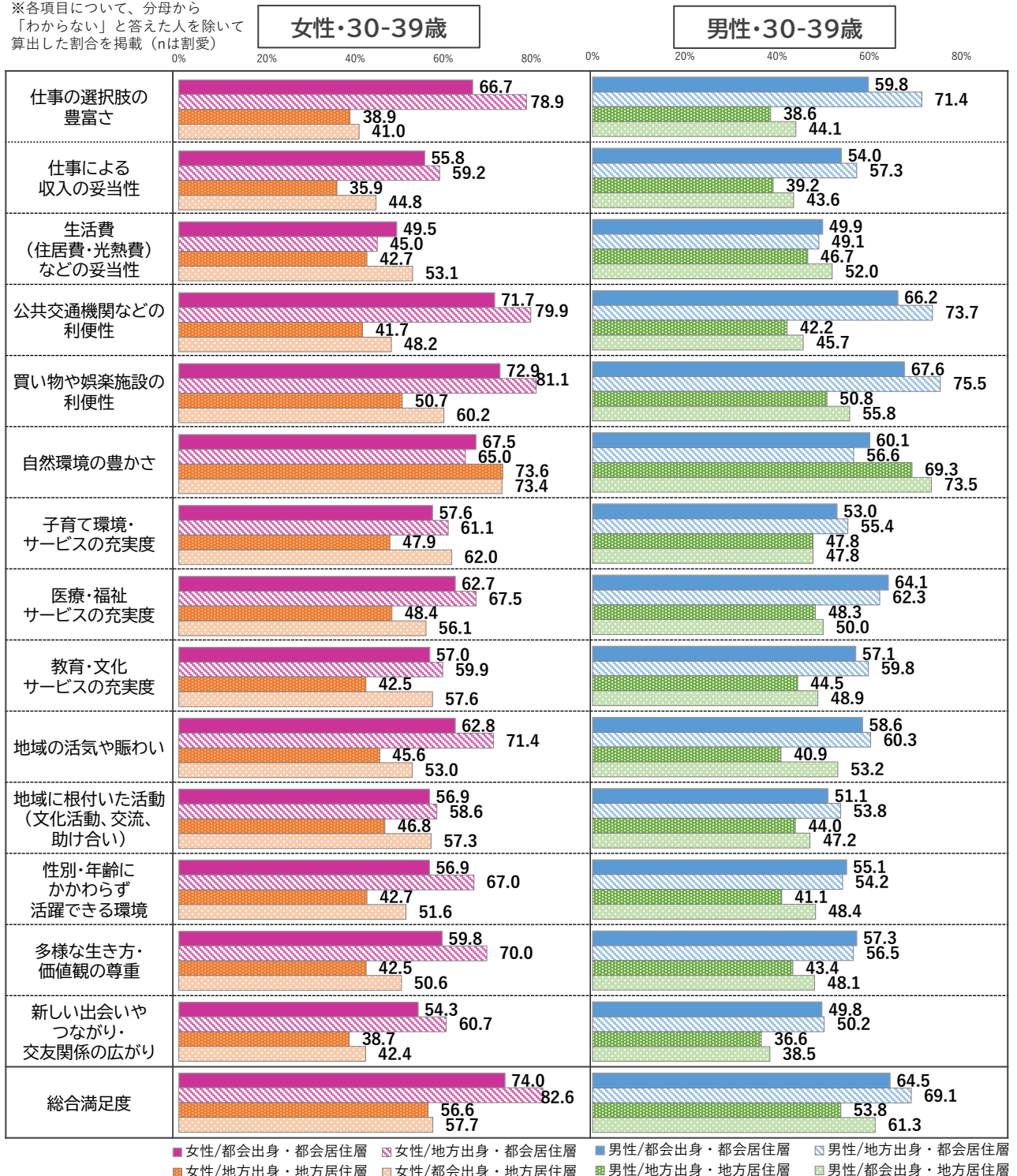
(2) 現住地域に満足しているか(単数回答・Q23)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】年代、出身地域・現住地域別

- ・30-39歳の女性について満足(計)の割合を地方出身・都会居住層と地方出身・地方居住層で比較すると、「多様な生き方・価値観の尊重」(27.5%ポイント)、「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」(24.3%ポイント)、「新しい出会いやつながり・交友関係の広がり」(22.0%ポイント)等は、地方出身・都会居住層の方が高い。
- ・地方出身・都会居住層の男女で比べると、総合満足度に加えて、「多様な生き方・価値観の尊重」「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」「地域の活気や賑わい」「新しい出会いやつながり・交友関係の広がり」等は、女性の方が高い。

※「満足(計)」の数値を掲載(「満足」+「どちらかといえば満足」の計)

※各項目について、分母から「わからない」と答えた人を除いて算出した割合を掲載(nは割愛)



3. 都会と地方の現状と魅力

(2) 現住地域に満足しているか(単数回答・Q23)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】就業状況・雇用形態、出身地域・現住地域別

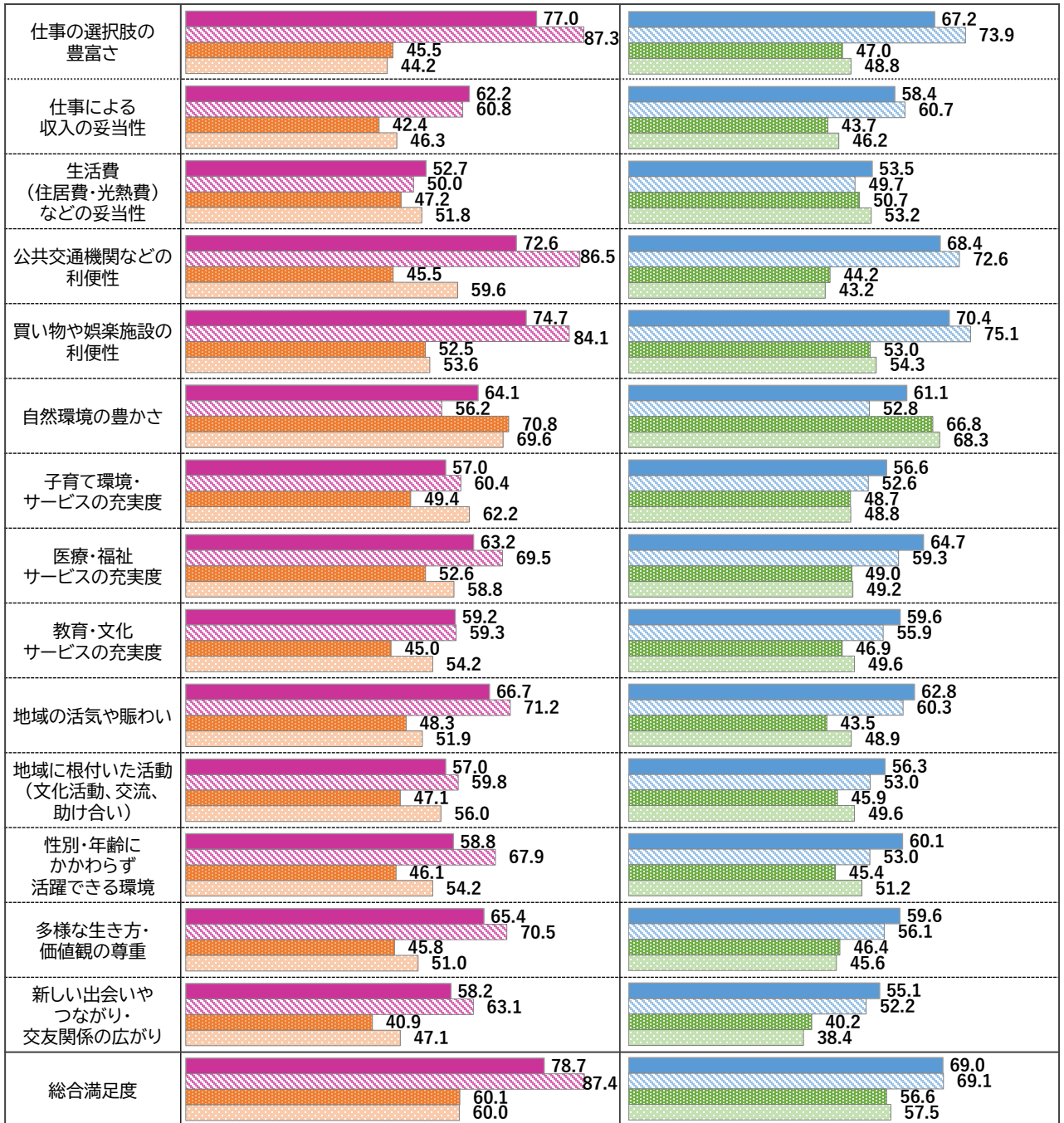
- ・正規雇用労働者について、仕事に関する項目の満足(計)の割合をみると、地方出身層の女性では、「仕事の選択肢の豊富さ」は41.8%ポイント、「仕事による収入の妥当性」についても18.4%ポイント、地方出身・都会居住層の方が高い。男性も同様の傾向。

※「満足(計)」の数値を掲載(「満足」+「どちらかといえば満足」の計)

※各項目について、分母から「わからない」と答えた人を除いて算出した割合を掲載(nは割愛)

女性・正規雇用労働者

男性・正規雇用労働者



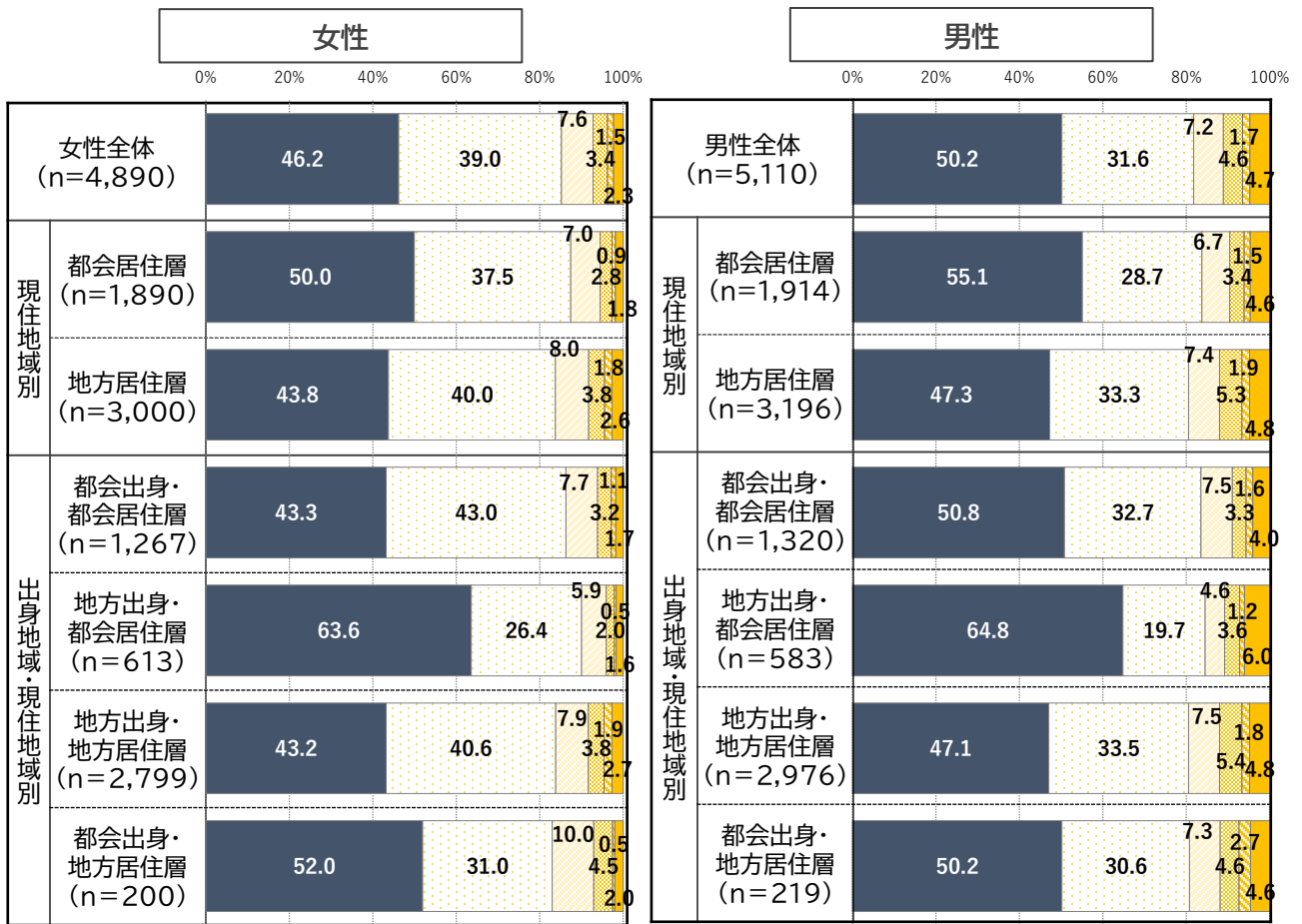
■ 女性/都会出身・都会居住層 ■ 女性/地方出身・都会居住層 ■ 男性/都会出身・都会居住層 ■ 男性/地方出身・都会居住層
■ 女性/地方出身・地方居住層 ■ 女性/都会出身・地方居住層 ■ 男性/地方出身・地方居住層 ■ 男性/都会出身・地方居住層

3. 都会と地方の現状と魅力

(3) 現住地域における地域の人たちとの交流の程度(単数回答・Q24)

【対象】全員 【分析軸】現住地域別、出身地域・現住地域別(出身地域が海外の人を除く)

- 男女別にみると、男女ともに「地域や近所での付き合いはしていない」が、5割と最も高い。
- 現住地域別にみると、全ての区分で「地域や近所での付き合いはしていない」が最も高い。男女ともに、地方居住層に比べて都会居住層の方が高い。
- 出身地域・現住地域別にみると、男女ともに地方出身・都会居住層で「地域や近所での付き合いはしていない」が6割と最も高い。「挨拶をする程度の付き合いをしている」は、都会出身・都会居住層の女性、地方出身・地方居住層の女性で4割と、他の区分に比べて高い。世間話以上の付き合いをしている割合は、全ての区分で2割以下。



- 地域や近所での付き合いはしていない
- 挨拶をする程度の付き合いをしている
- 世間話をする程度の付き合いをしている
- 地域の行事や会合に参加する程度の付き合いをしている
- 地域の行事や会合に参加したり、困ったときに助け合ったりしている
- 地域の行事や会合の役員をしている

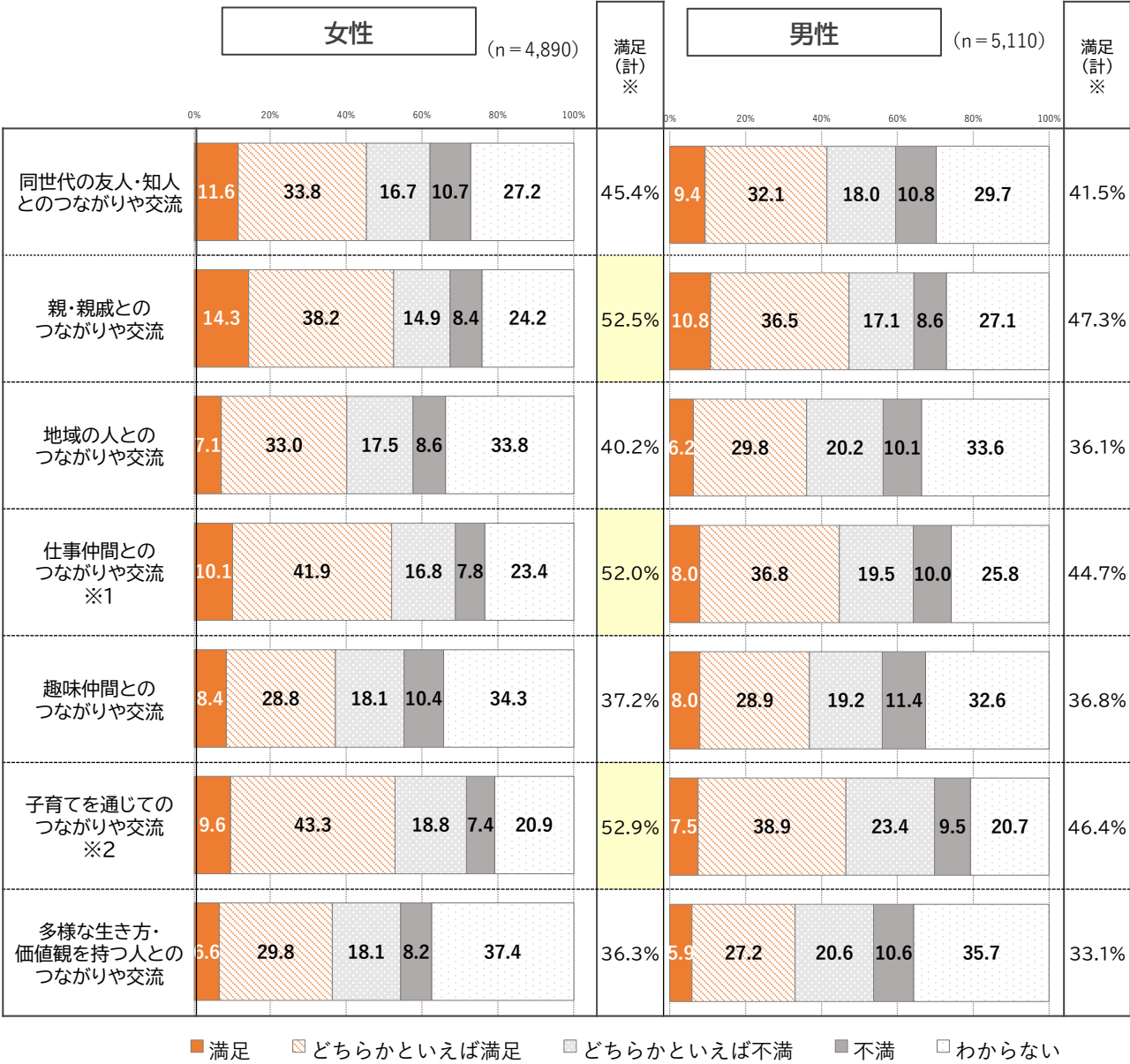
3. 都会と地方の現状と魅力

(4) 現住地域や勤務先における人とのつながり・交流に満足しているか(単数回答・Q25)

【対象】全員

- ・満足(計)の割合を男女別にみると、女性では、「子育てを通じてのつながりや交流」「親・親戚とのつながりや交流」「仕事仲間とのつながりや交流」が5割を超えている。男性では、「親・親戚とのつながりや交流」47.3%が最も高い。
- ・全ての項目で、男性に比べて、女性の方が満足(計)の割合が高い。

※50%を超えるセルに薄黄色色掛け ※「満足(計)」は「満足」+「どちらかといえば満足」の計



※1:働いている人のみ提示

※2:子供と同居している人のみ提示

※「わからない」と答えた人を含む結果。

※1「仕事仲間とのつながりや交流」は、女性：n=3,207、男性：n=3,951

※2「子育てを通じてのつながりや交流」は、女性：n=1,386、男性：n=864

3. 都会と地方の現状と魅力

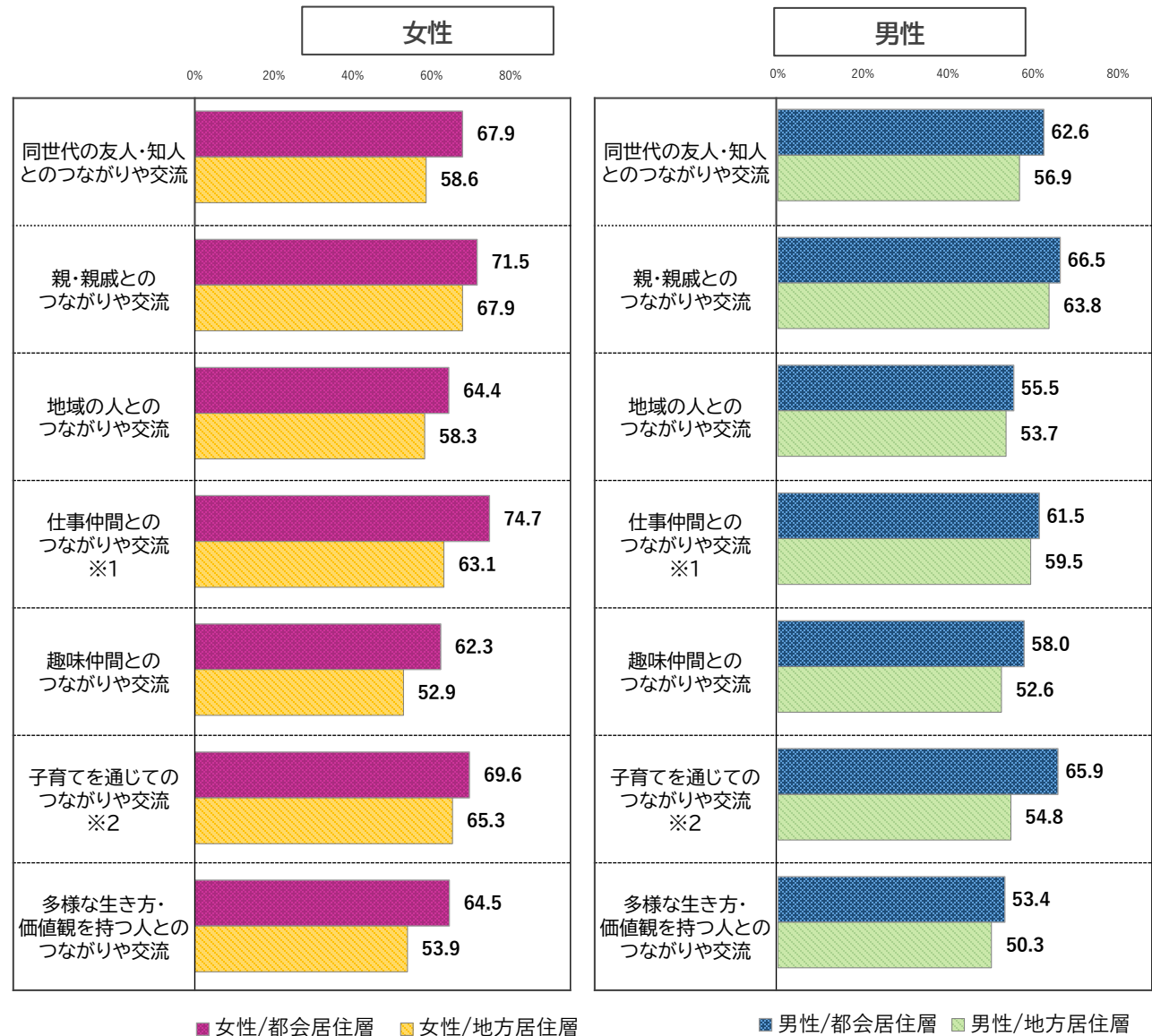
(4) 現住地域や勤務先における人とのつながり・交流に満足しているか(単数回答・Q25)

【対象】全員 【分析軸】現住地域別

- ・満足(計)の割合を現住地域別にみると、全体的に都会居住層の女性が最も高い。
- ・都会居住層と地方居住層を比べると、男女ともに、都会居住層の方が満足(計)の割合が高い傾向。女性では、「仕事仲間とのつながりや交流」「多様な生き方・価値観を持つ人とのつながりや交流」等は、都会居住層の方が高い。男性では、「子育てを通じてのつながりや交流」等が高い。
- ・男女差をみると、都会居住層では、「仕事仲間とのつながりや交流」「多様な生き方・価値観を持つ人とのつながりや交流」等は、女性の方が高い。地方居住層では、「子育てを通じてのつながりや交流」等は、女性の方が高い。

※「満足(計)」の数値を掲載(「満足」+「どちらかといえば満足」の計)

※各項目について、分母から「わからない」と答えた人を除いて算出した割合を掲載(nは割愛)



※1:働いている人のみ提示

※2:子供と同居している人のみ提示

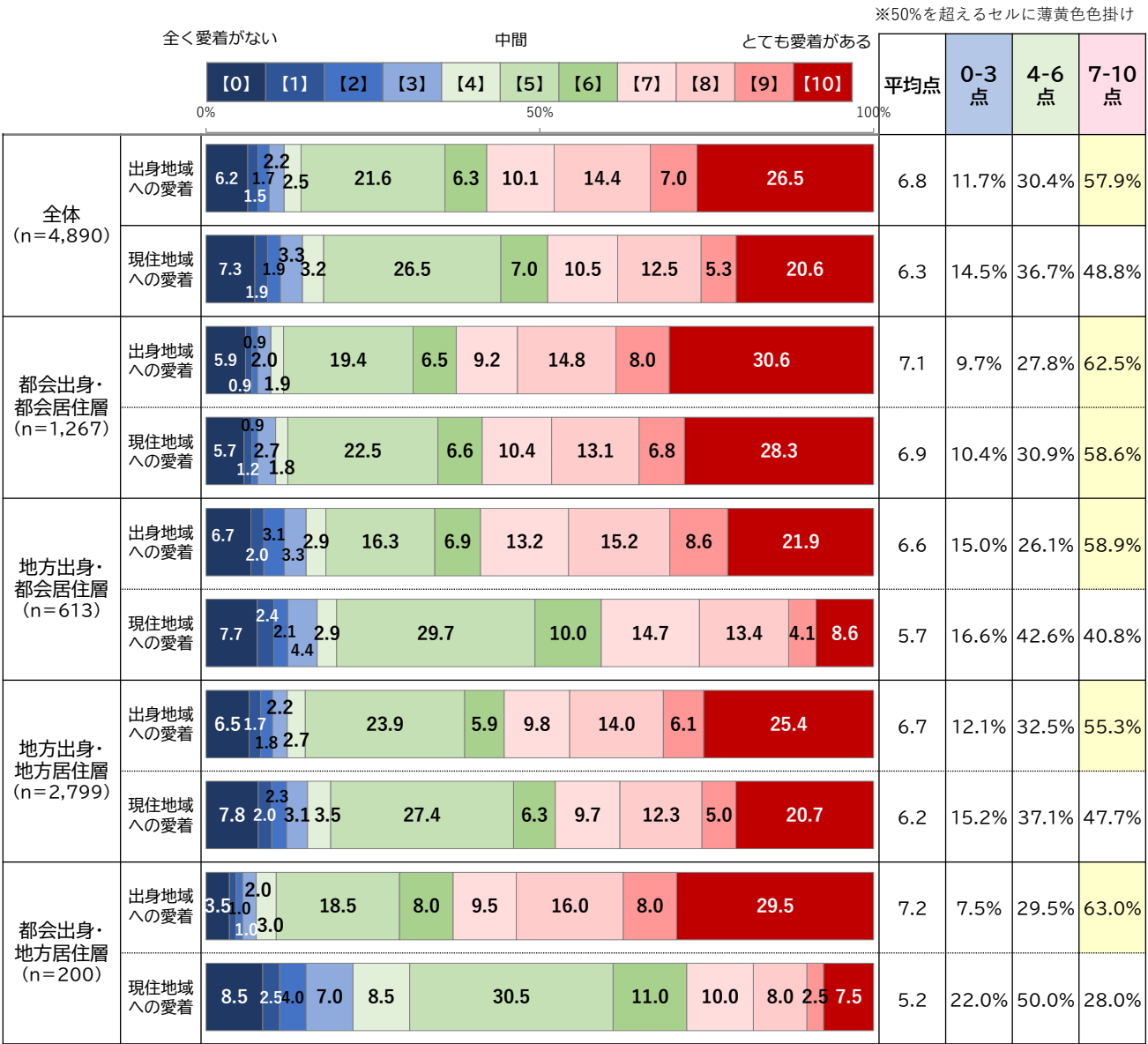
3. 都会と地方の現状と魅力

(5) 出身地域・現住地域への愛着度(単数回答・Q5①②)

【対象】全員 【分析軸】出身地域・現住地域別

- ・女性について、出身地域・現住地域別にみると、いずれの区分でも、現住地域に比べて、出身地域の方が愛着度7-10点の割合が高い。特に都会出身・地方居住層では35.0%ポイント、地方出身・都会居住層では18.1%ポイントの差がある。
- ・出身地域への愛着度7-10点の割合は、都会出身・都会居住層、都会出身・地方居住層で高い。
- ・現住地域への愛着度7-10点の割合は、都会出身・都会居住層で6割と高い。一方、都会出身・地方居住層では3割、地方出身・都会居住層では4割。

女性



※出身地域・現住地域別は、出身地域が海外の人は除いている。

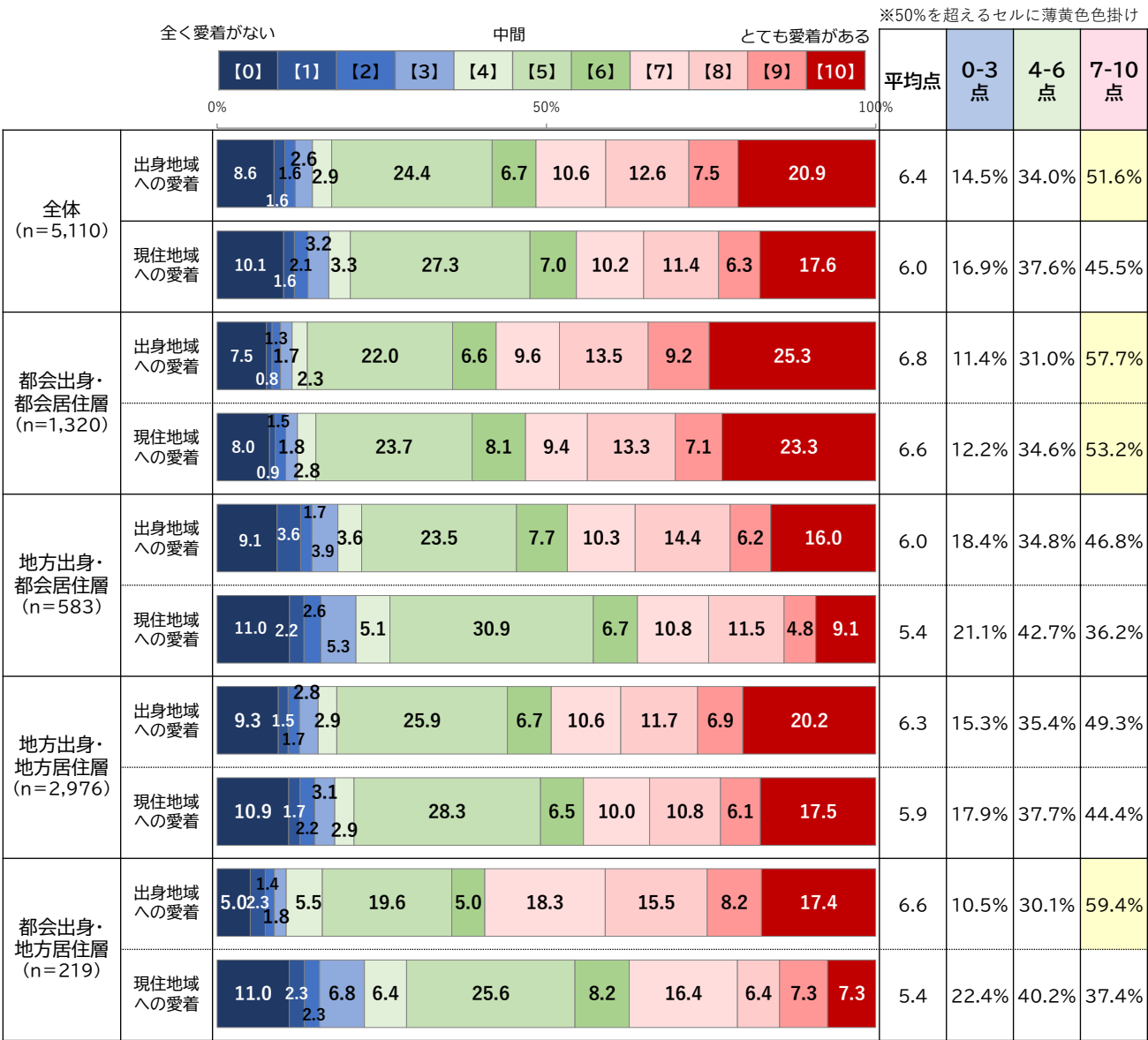
3. 都会と地方の現状と魅力

(5) 出身地域・現住地域への愛着度(単数回答・Q5①②)

【対象】全員 【分析軸】出身地域・現住地域別

- ・男性について、出身地域・現住地域別にみると、いずれの区分でも、現住地域に比べて、出身地域の方が愛着度の7-10点の割合が高い。特に都会出身・地方居住層では22.0%ポイント、地方出身・都会居住層では10.6%ポイントの差がある。
- ・出身地域への愛着度7-10点の割合は、都会出身・都会居住層、都会出身・地方居住層で、いずれも6割と高い。
- ・現住地域への愛着度7-10点の割合は、都会出身・都会居住層で5割と高い。一方、地方出身・都会居住層、都会出身・地方居住層では、いずれも4割。

男性



※出身地域・現住地域別は、出身地域が海外の人は除いている。

3. 都会と地方の現状と魅力

(6) 1日の時間の使い方(数字入力・Q20)

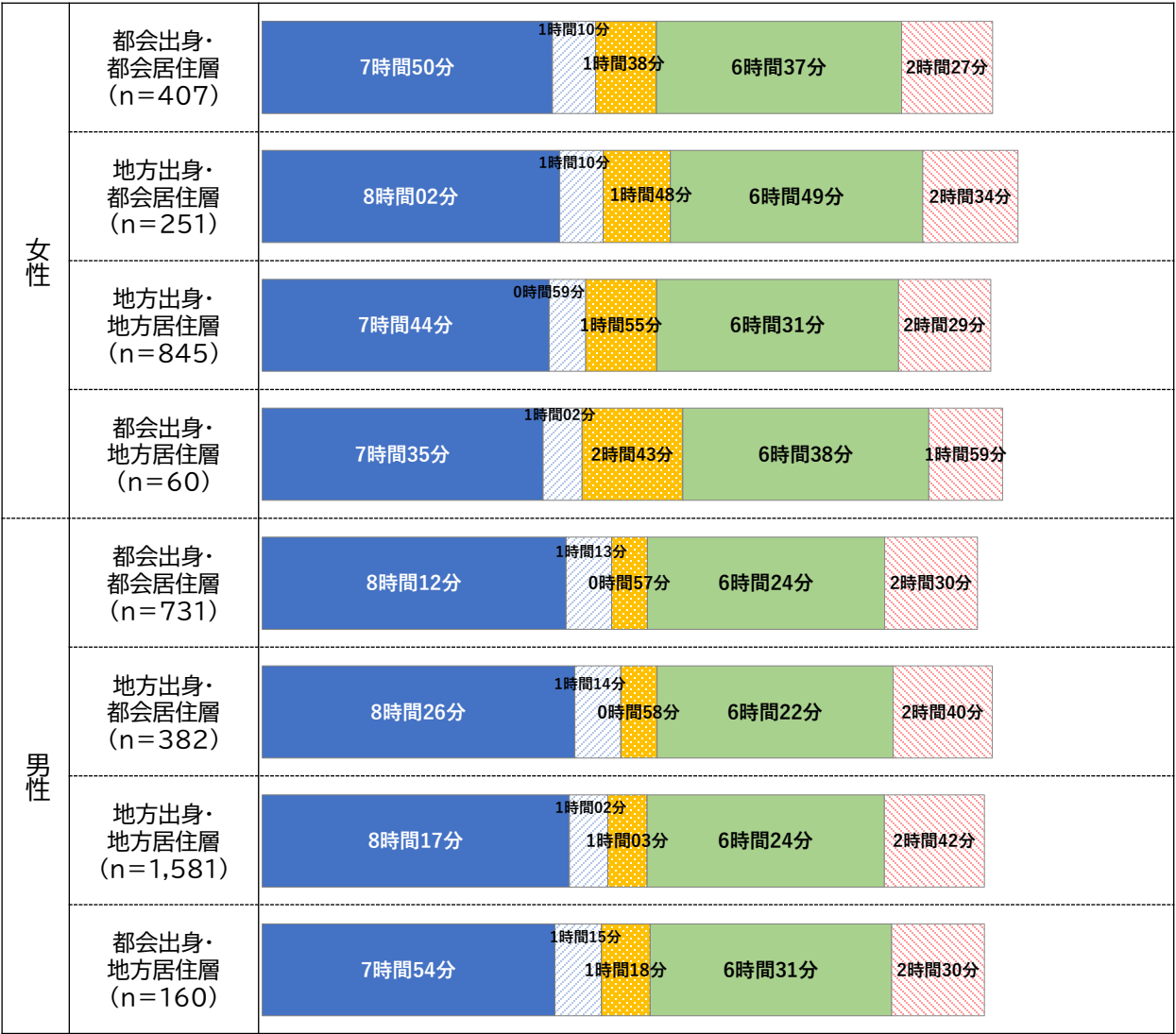
【対象】正規雇用労働者 【分析軸】出身地域・現住地域別

- 女性についてみると、地方出身・都会居住層では「収入を伴う仕事、学業の時間」が8時間2分と最も長い。一方、都会出身・地方居住層では「家事・育児・介護時間」が2時間43分と最も長い。
- 男性も同様に、「収入を伴う仕事、学業の時間」は地方出身・都会居住層で最も長く、「家事・育児・介護時間」は、都会出身・地方居住層で最も長い。

正規雇用労働者

※全ての生活時間を聞いていないため、合計で24時間にならない。また、分未満は切り捨てている。

- 収入を伴う仕事、学業の時間
- 通勤・通学時間(往復)
- 家事・育児・介護時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)



3. 都会と地方の現状と魅力

(7) 現在の仕事に満足しているか(単数回答・Q38)

【対象】有業者

- ・満足(計)の割合を男女別にみると、全体的に、男性に比べて女性の方が高い。
- ・女性では全ての項目で5割を超えている。特に「労働時間が希望にあっているか」「仕事内容が自分の希望にあっているか」は、満足(計)が70%を超える。
- ・男女ともに「給与や収入が希望にあっているか」で満足(計)の割合が最も低い。

※50%を超えるセルに薄黄色色掛け ※「満足(計)」は「満足」+「どちらかといえば満足」の計



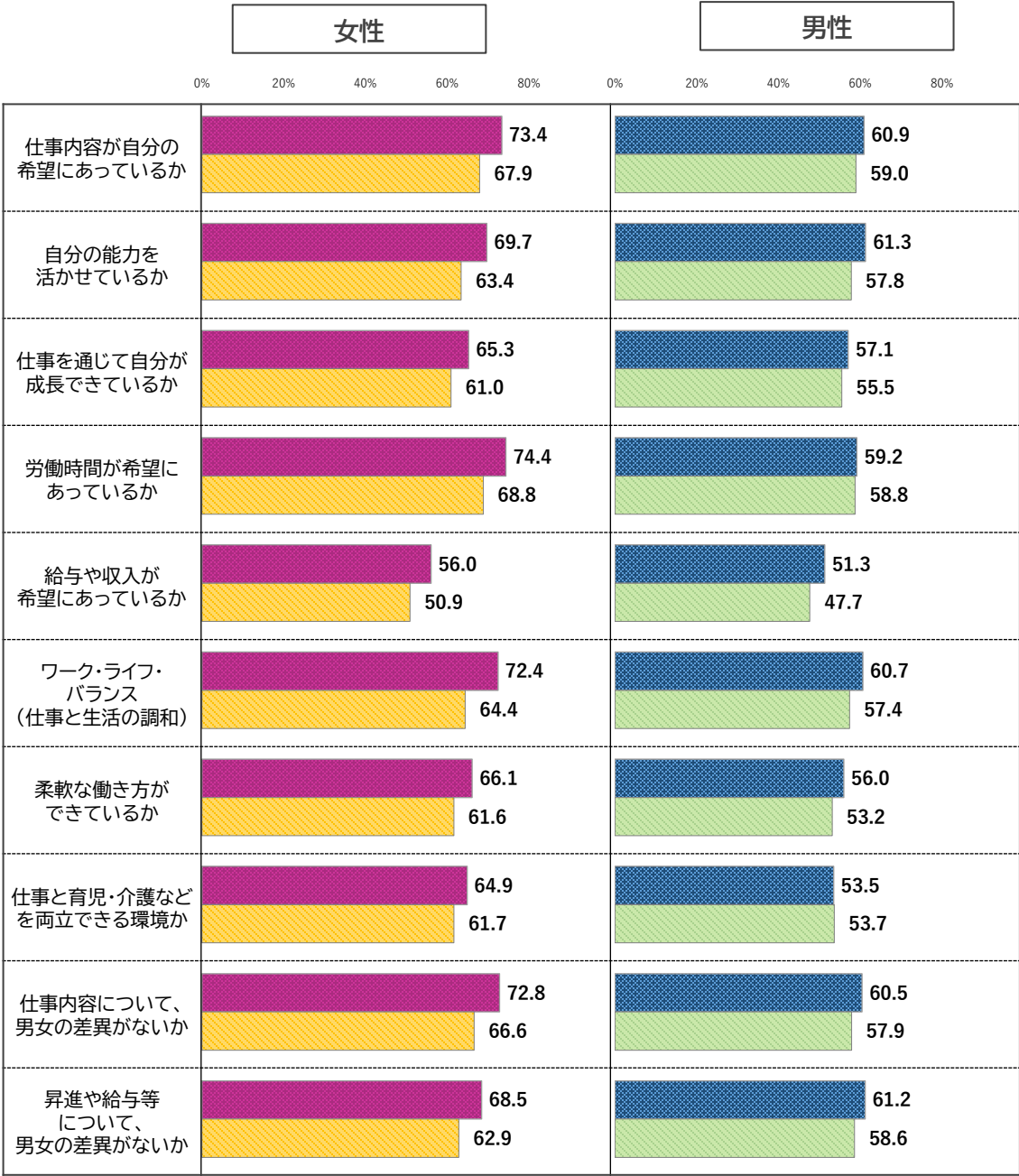
3. 都会と地方の現状と魅力

(7) 現在の仕事に満足しているか(単数回答・Q38)

【対象】有業者 【分析軸】現住地域別

- ・満足(計)の割合を現住地域別にみると、ほとんどの項目で、地方居住層に比べて、都会居住層の方が高く、特に女性で顕著。
- ・女性では、「ワーク・ライフ・バランス」で都会居住層と地方居住層の差が最も大きく、次いで、「自分の能力を活かしているか」「仕事内容について、男女の差異がないか」。

※「満足(計)」の数値を掲載
(「満足」+「どちらかといえば満足」の計)



■ 女性/都会居住層(n=1,281)

■ 男性/都会居住層(n=1,500)

■ 女性/地方居住層(n=1,926)

■ 男性/地方居住層(n=2,451)

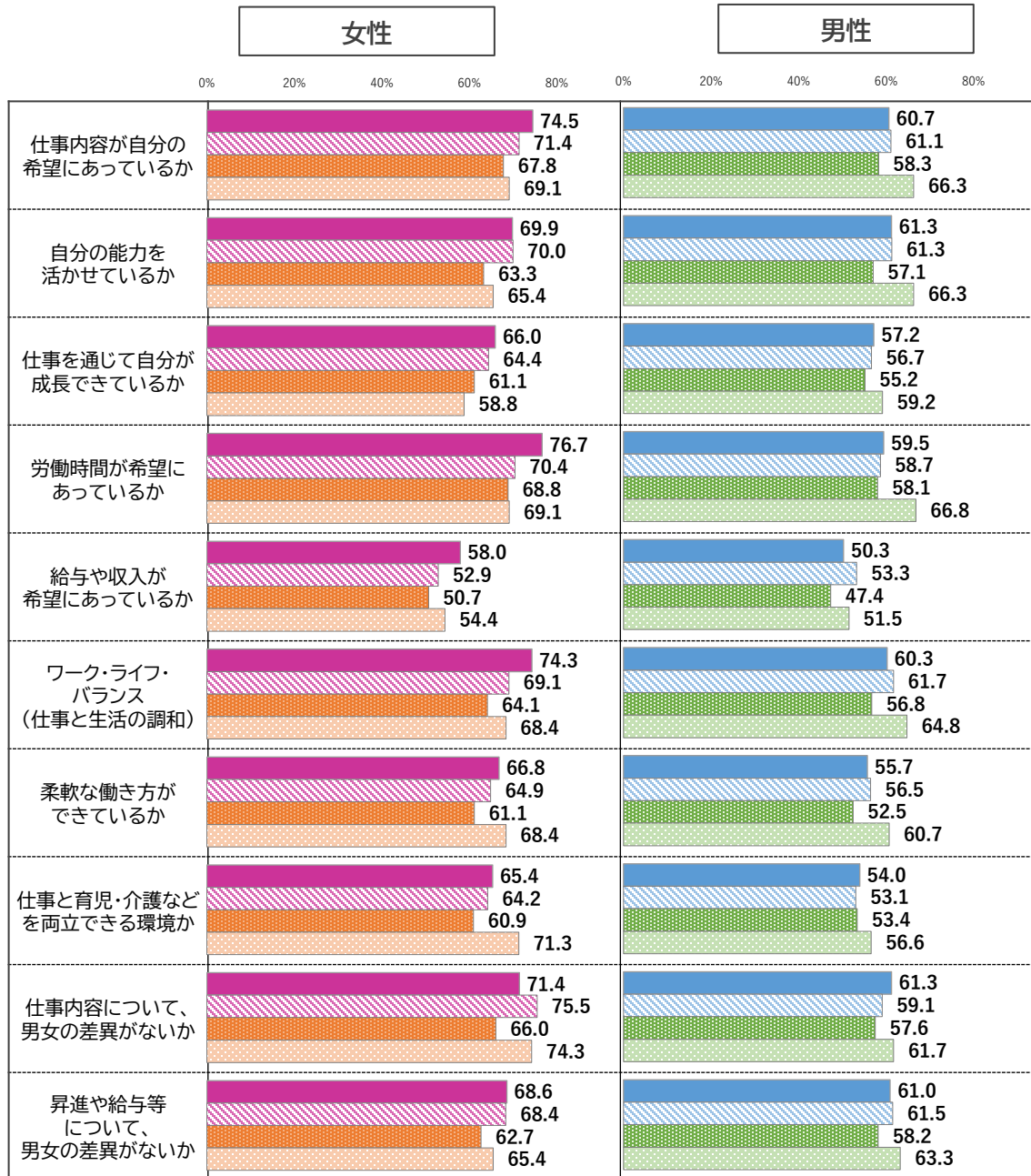
3. 都会と地方の現状と魅力

(7) 現在の仕事に満足しているか(単数回答・Q38)

【対象】有業者(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域・現住地域別

- ・「満足(計)」の割合について、地方出身・都会居住層と地方出身・地方居住層で比較すると、女性では「仕事内容について、男女の差異がないか」「自分の能力を活かしているか」「昇進や給与等について、男女の差異がないか」等は、地方出身・都会居住層の方が高い。
- ・男性では、「給与や収入が希望にあっているか」は、地方出身・都会居住層の方が5.9ポイント高い。

※「満足(計)」の数値を掲載
(「満足」+「どちらかといえば満足」の計)



■ 女性/都会出身・都会居住層(n=840)
 ■ 女性/地方出身・都会居住層(n=433)
 ■ 女性/地方出身・地方居住層(n=1,790)
 ■ 女性/都会出身・地方居住層(n=136)

■ 男性/都会出身・都会居住層(n=994)
 ■ 男性/地方出身・都会居住層(n=499)
 ■ 男性/地方出身・地方居住層(n=2,255)
 ■ 男性/都会出身・地方居住層(n=196)

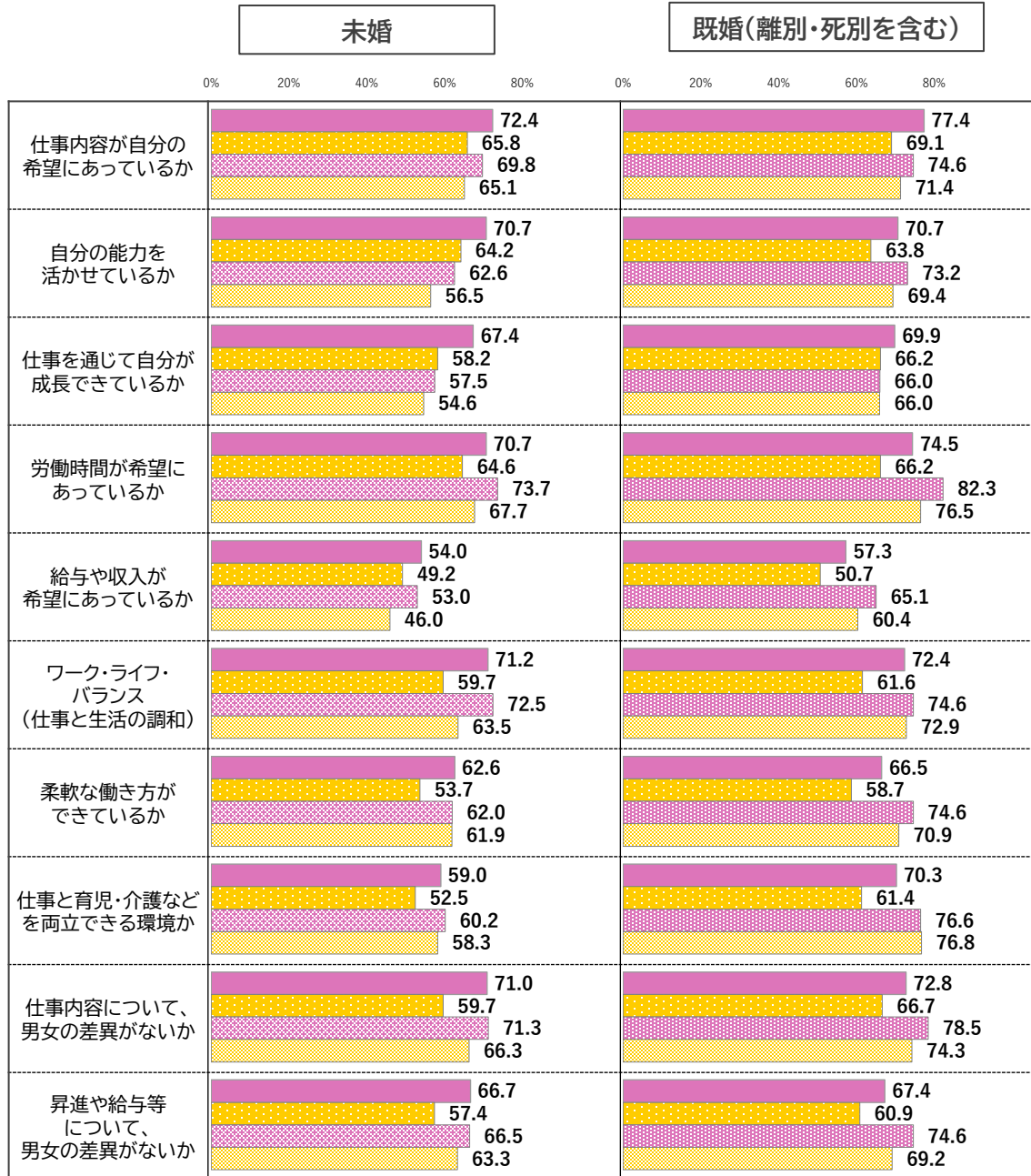
3. 都会と地方の現状と魅力

(7) 現在の仕事に満足しているか(単数回答・Q38)・女性

【対象】正規雇用労働者・非正規雇用労働者 【分析軸】未婚・雇用形態・現住地域別

- ・未婚女性についてみると、正規雇用労働者では、全ての項目で、地方居住層と比べて都会居住層の方が満足(計)の割合が高い。特に、「ワーク・ライフ・バランス」「仕事内容について、男女の差異がないか」で差が大きい。
- ・既婚女性についてみると、正規雇用労働者では、全ての項目で、地方居住層と比べて、都会居住層の方が満足(計)の割合が高い。特に、「ワーク・ライフ・バランス」で差が大きい。

※「満足(計)」の数値を掲載
(「満足」+「どちらかといえば満足」の計)



■ 女性/正規雇用労働者・都会居住層(n=420)
■ 女性/正規雇用労働者・地方居住層(n=486)
■ 女性/非正規雇用労働者・都会居住層(n=334)
■ 女性/非正規雇用労働者・地方居住層(n=496)

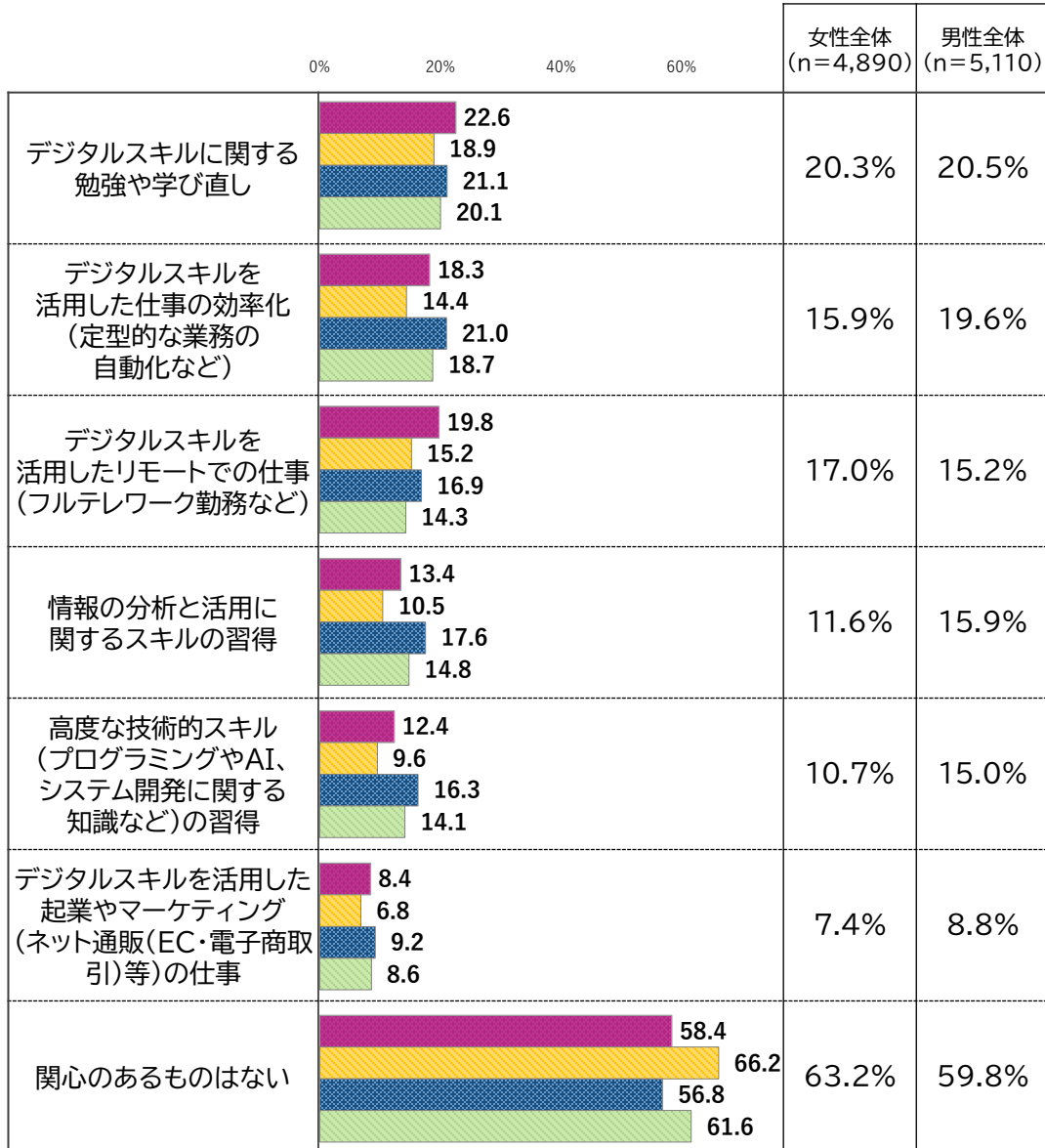
■ 女性/正規雇用労働者・都会居住層(n=239)
■ 女性/正規雇用労働者・地方居住層(n=414)
■ 女性/非正規雇用労働者・都会居住層(n=209)
■ 女性/非正規雇用労働者・地方居住層(n=409)

3. 都会と地方の現状と魅力

(8) デジタルスキルへの関心(複数回答・Q49)

【対象】全員 【分析軸】現住地域別

- 「関心がある」ものについて、男女別にみると、男女ともに「デジタルスキルに関する勉強や学び直し」が最も高い。
- 現住地域別にみると、男女ともに、いずれの地域でも「デジタルスキルに関する勉強や学び直し」が最も高い。
- 次に、女性では、いずれの地域でも「デジタルスキルを活用したリモートでの仕事」が高く、男性では、いずれの地域でも「デジタルスキルを活用した仕事の効率化」が高い。



■ 女性/都会居住層 (n=1,890)

■ 女性/地方居住層 (n=3,000)

■ 男性/都会居住層 (n=1,914)

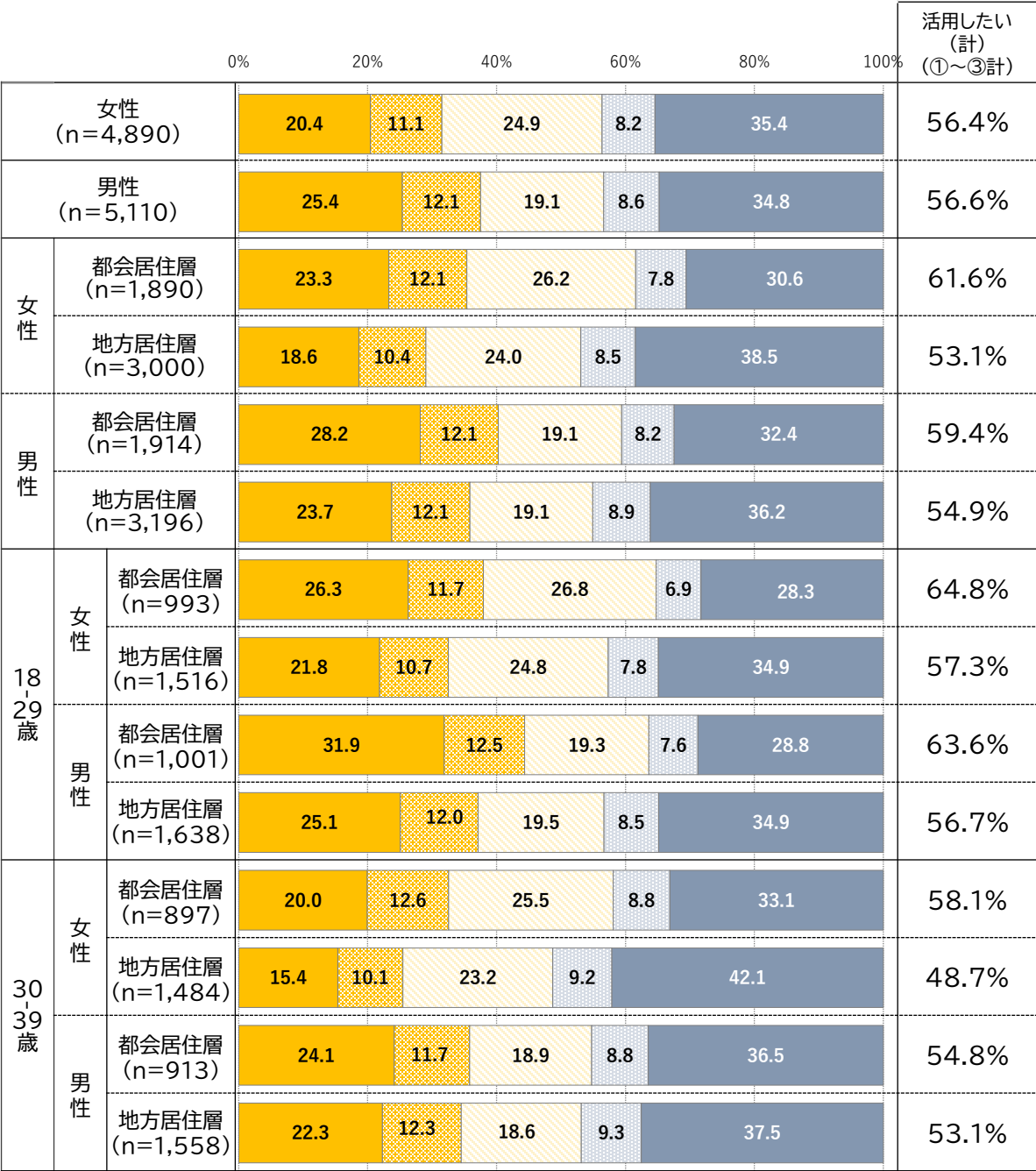
■ 男性/地方居住層 (n=3,196)

3. 都会と地方の現状と魅力

(9) 仕事におけるデジタルスキルの活用(単数回答・Q50)

【対象】全員 【分析軸】年代、現住地域別

- 男女別にみると、「活用したい(計)」は、男女ともに56%程度。
- 現住地域別にみると、「活用したい(計)」は、都会居住層では男女ともに6割。地方居住層では53～55%。
- 年代、現住地域別にみると、「活用したい(計)」はいずれの区分でも5-6割程度だが、30-39歳に比べて18-29歳の方が高い。
- 「今後、仕事で活用したいし、活用できる機会があると思う」は、18-29歳男性・都会居住層で31.9%と最も高い。一方、30-39歳女性・地方居住層で15.4%と最も低い。



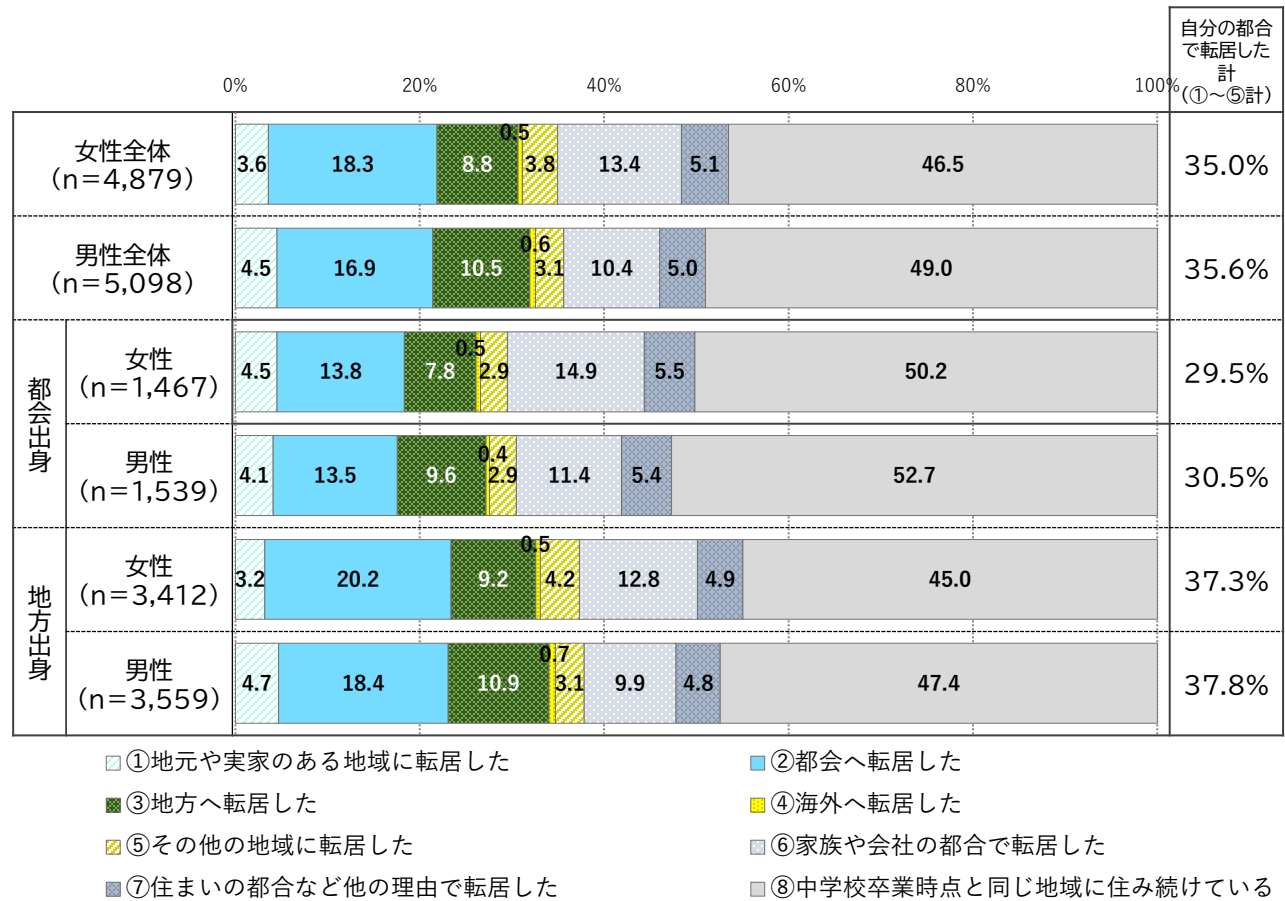
- ① 今後、仕事で活用したいし、活用できる機会があると思う
- ② 今後、仕事で活用したいが、活用できる機会がないと思う
- ③ 今後、仕事で活用したいが、自分の力量では難しそうだと思う
- ④ 今後、仕事で活用したいと思わない
- ⑤ 今後、仕事で活用する機会はないと思う

4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(1) 自分の都合による出身地域からの転居経験の有無と転居先(単数回答・Q26)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域別

- 男女別にみると、「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」が男女ともに5割で最も高い。「自分の都合で転居した(計)」は、男女ともに35%程度。
- 現住地域別にみると、全ての区分で「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」が最も高いが、男女ともに、地方出身層に比べて、都会出身層の方が高い。「自分の都合で転居した(計)」は、地方出身層の方が高い。「(自分の都合で)都会へ転居した」は、地方出身層では男女ともに2割。



※①～⑤が「自分の都合で転居した」、⑥⑦は「自分の都合以外で転居した」、⑧は「転居していない」と表示して提示

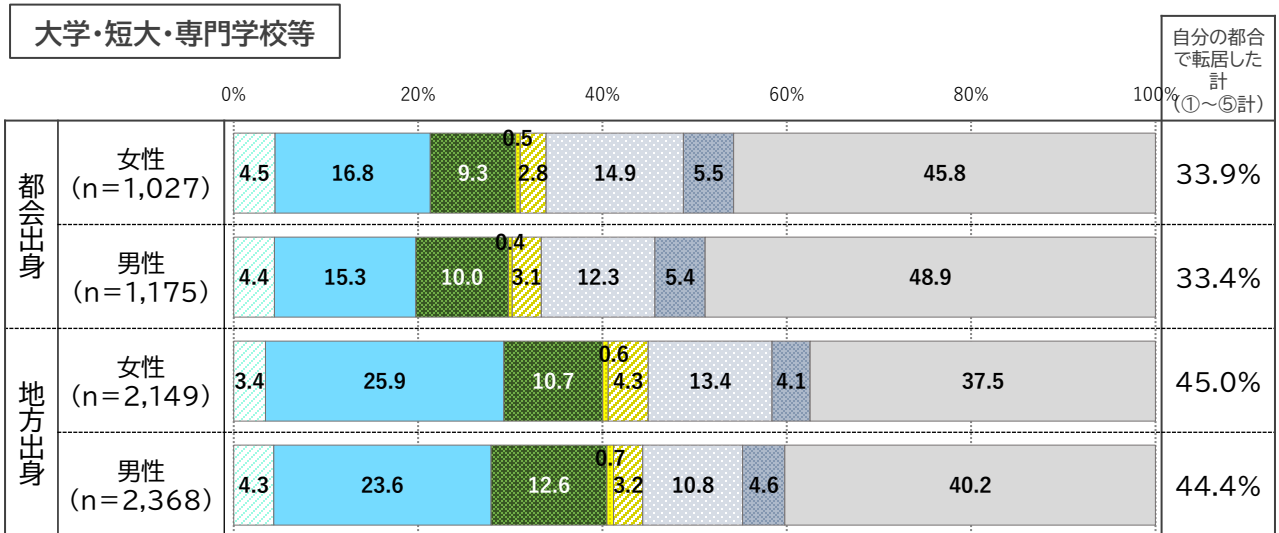
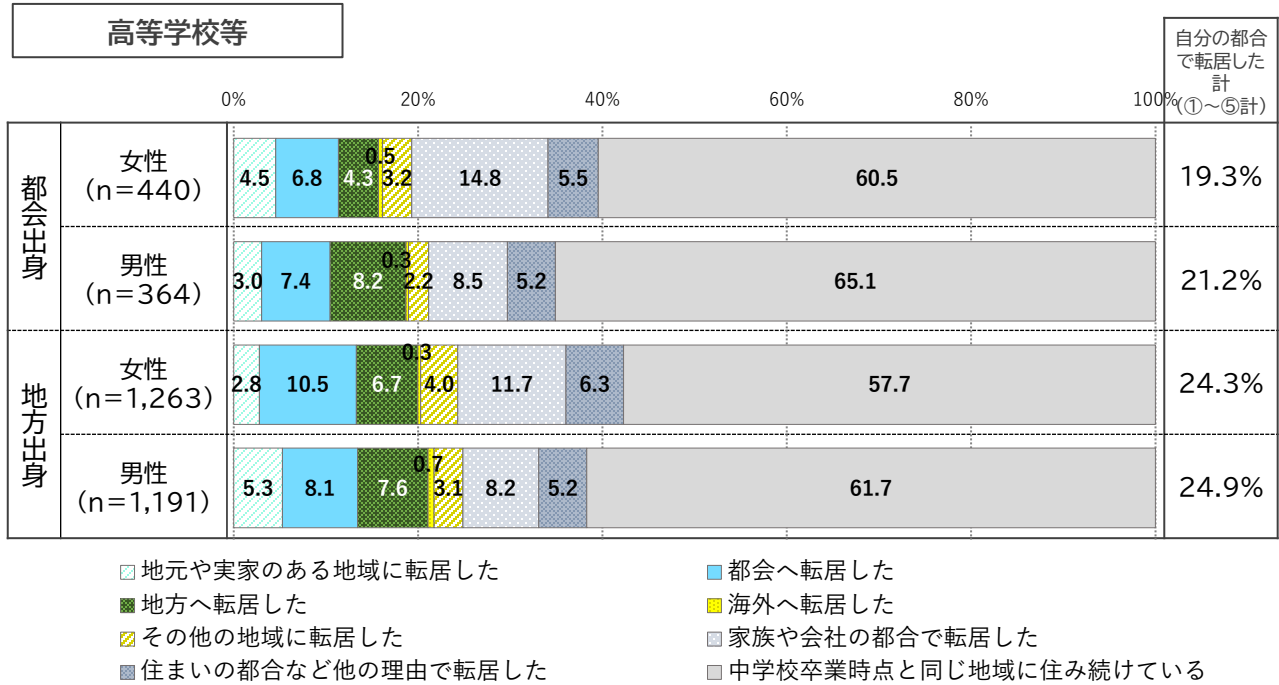
※Q26選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(1) 自分の都合による出身地域からの転居経験の有無と転居先(単数回答・Q26)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】最終学歴、出身地域別

- ・最終学歴別にみると、高等学校等では、「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」が、都会出身層の男性では7割、他の区分では6割。「自分の都合で転居した(計)」は、いずれの区分でも2割。
- ・大学・短大・専門学校等では、「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」は、都会出身層の男女では45～49%、地方出身層の男女では4割。「自分の都合で転居した(計)」は、地方出身層の男女で45%程度で、都会出身層の男女(33～34%)に比べて高い。「(自分の都合で)都会へ転居した」は、地方出身層の女性では25.9%、男性では23.6%。



※①～⑤が「自分の都合で転居した」、⑥⑦は「自分の都合以外で転居した」、⑧は「転居していない」と表示して提示

※Q26選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

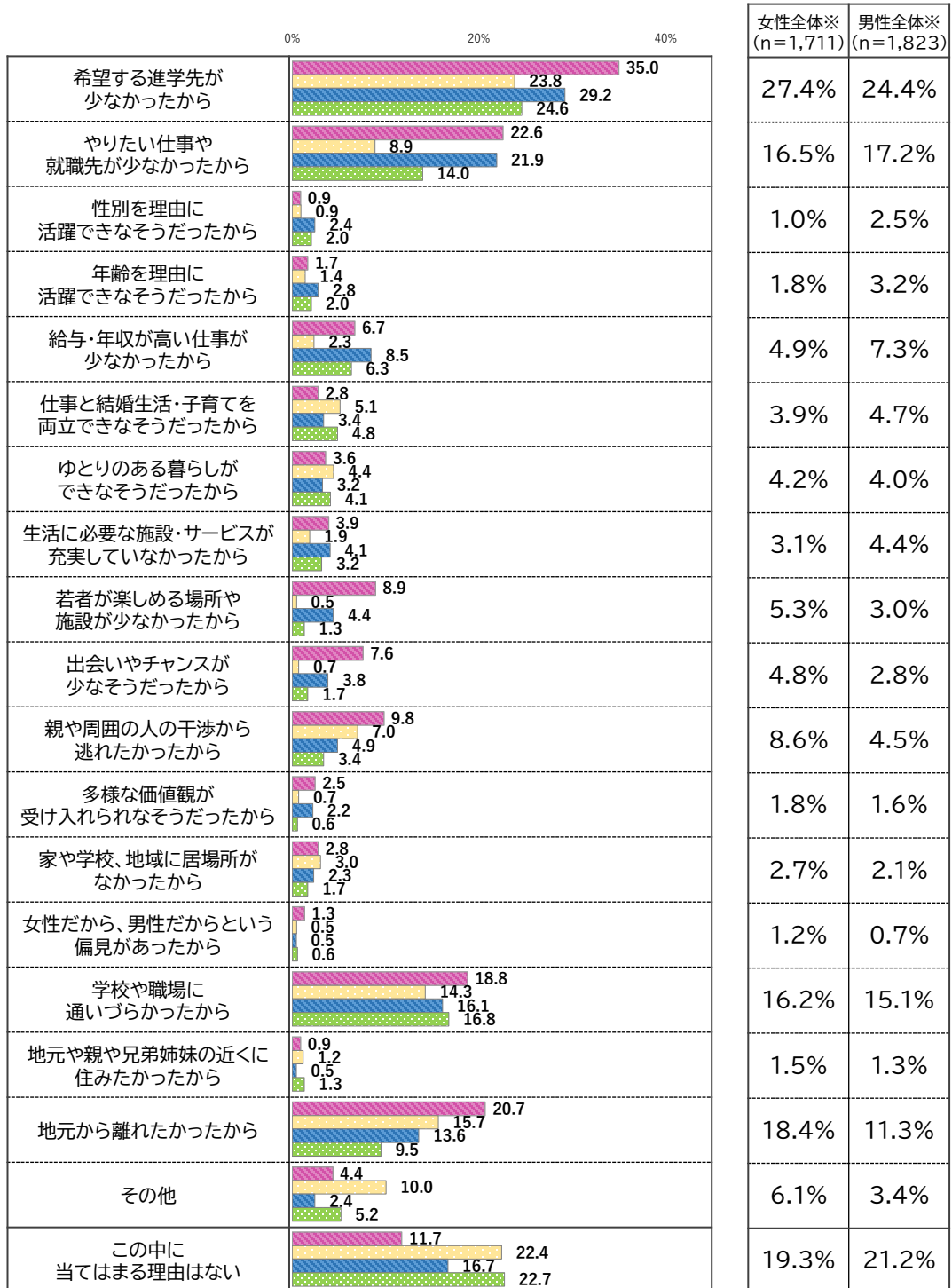
4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(2) 自分の都合で出身地域を離れた理由(単数回答Q26×複数回答Q27)

【対象】自分の都合で出身地域を離れた人 【分析軸】Q26回答(転出先の地域)別

- ・自分の都合で出身地域を離れた人について、転居先の地域別に出身地域を離れた理由をみると、いずれの区分でも「希望する進学先が少なかったから」が最も高い。
- ・都会へ転居した男女では、次いで、「やりたい仕事や就職先が少なかったから」が22%程度と高い。
- ・都会へ転居した女性では、「希望する進学先が少なかったから」が35.0%と特に高い。また、「地元から離れたかったから」も20.7%と、他の区分に比べて高い。

※自分の都合で転居した人全員が対象



■ 女性/都会へ転居した(n=895)

■ 女性/地方へ転居した(n=428)

■ 男性/都会へ転居した(n=863)

■ 男性/地方へ転居した(n=537)

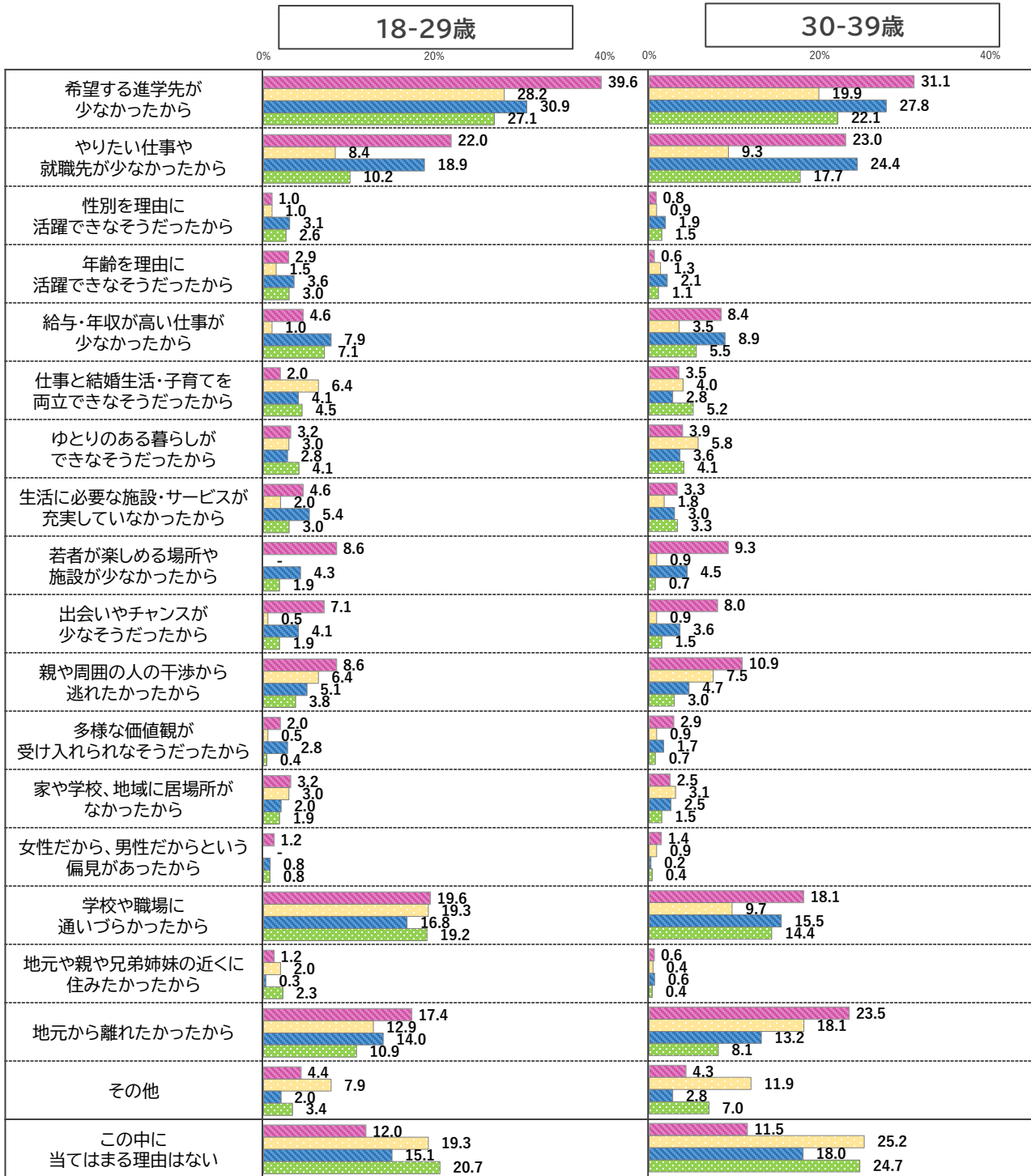
※Q26選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(2) 自分の都合で出身地域を離れた理由(単数回答Q26×複数回答Q27)

【対象】自分の都合で出身地域を離れた人 【分析軸】年代別、Q26回答(転出先の地域)別

- ・自分の都合で出身地域を離れた人について、年代・転居先の地域別に出身地域を離れた理由をみると、いずれの年代でも、全ての区分で「希望する進学先が少なかったから」が最も高い。また、自分の都合で都会へ転居した男女では、いずれの年代でも、次いで、「やりたい仕事や就職先が少なかったから」が高い。
- ・女性についてみると、「地元から離れたかったから」は、18-29歳よりも、30-39歳の方が高い。特に、30-39歳の都会へ転居した女性で23.5%と高い。



※Q26選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

■ 女性/都会へ転居した(n=409)
■ 女性/地方へ転居した(n=202)
■ 男性/都会へ転居した(n=392)
■ 男性/地方へ転居した(n=266)

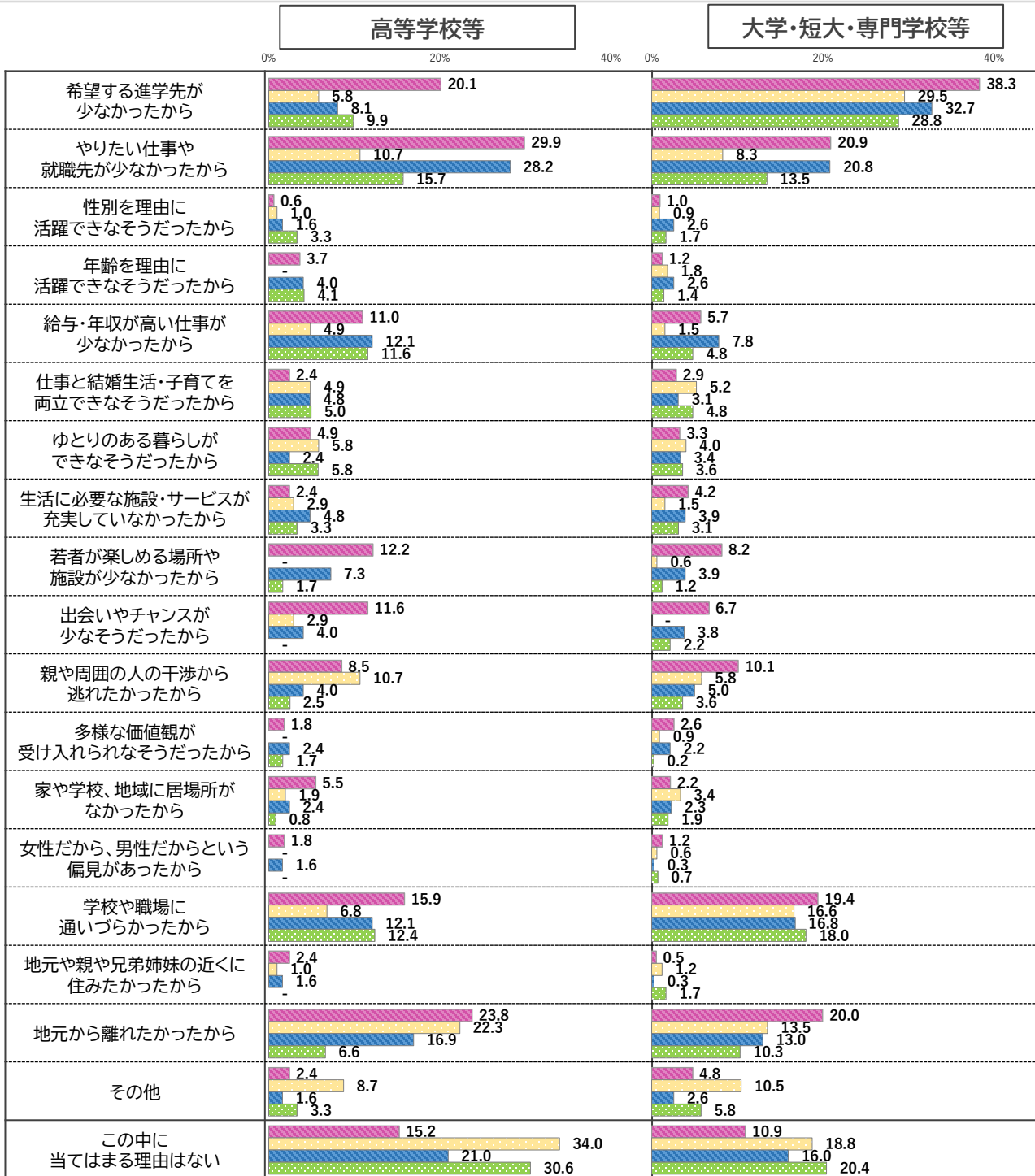
■ 女性/都会へ転居した(n=486)
■ 女性/地方へ転居した(n=226)
■ 男性/都会へ転居した(n=471)
■ 男性/地方へ転居した(n=271)

4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(2) 自分の都合で出身地域を離れた理由(単数回答Q26×複数回答Q27)

【対象】自分の都合で出身地域を離れた人 【分析軸】最終学歴別、Q26回答(転出先の地域)別

- ・自分の都合で出身地域を離れた人について、最終学歴・転居先の地域別に出身地域を離れた理由をみると、最終学歴が高等学校等の都会へ転居した男女では、「やりたい仕事や就職先が少なかったから」が3割と最も高い。また、女性では、「地元から離れたかったから」が2割と高い。
- ・大学・短大・専門学校等では、全ての区分で「希望する進学先が少なかったから」が最も高く、特に都会へ転居した女性では4割と高い。



※Q26選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

■ 女性/都会へ転居した(n=164)
■ 女性/地方へ転居した(n=103)
■ 男性/都会へ転居した(n=739)
■ 男性/地方へ転居した(n=416)

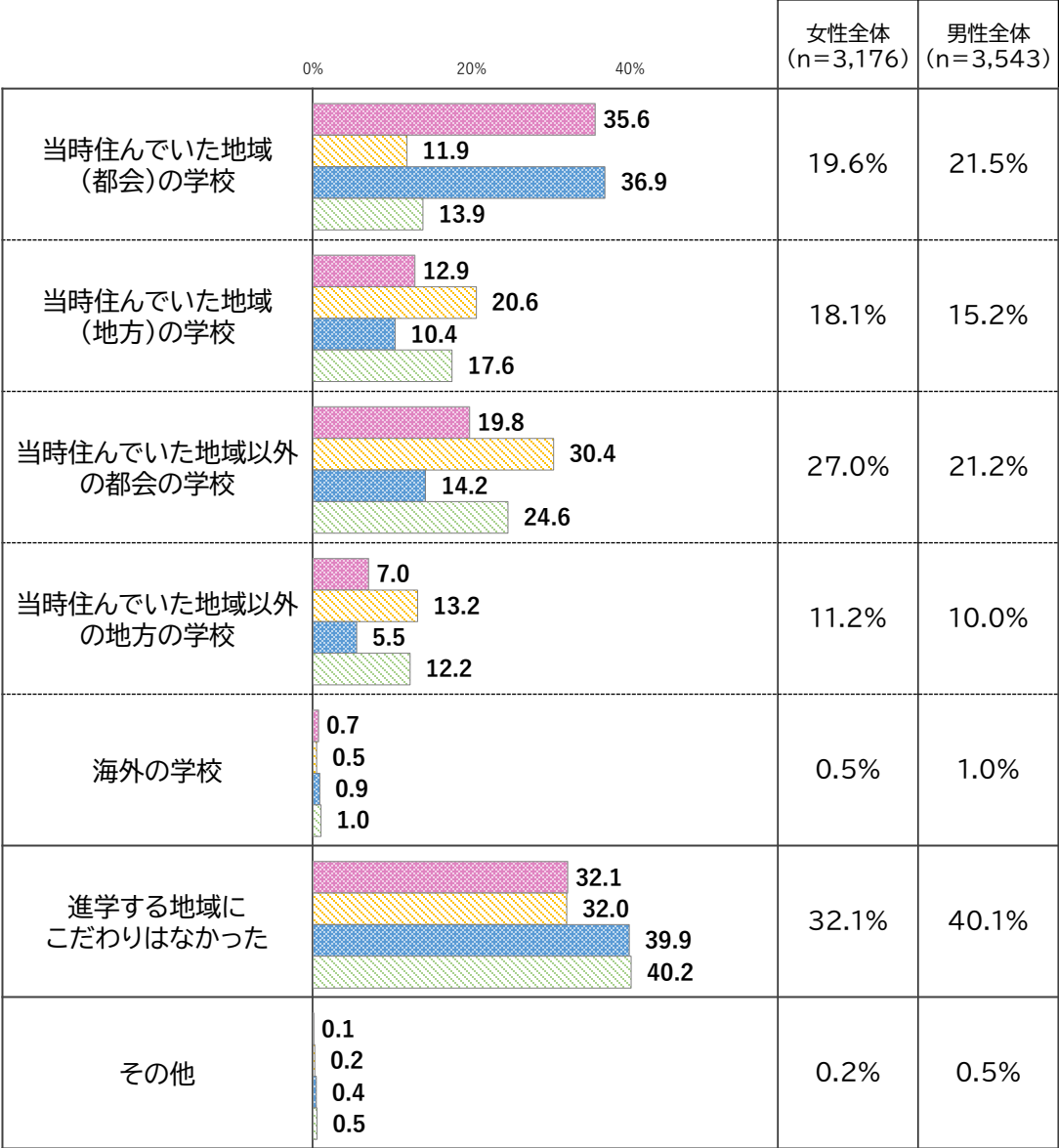
■ 女性/都会へ転居した(n=731)
■ 女性/地方へ転居した(n=325)
■ 男性/都会へ転居した(n=739)
■ 男性/地方へ転居した(n=416)

4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(3) 大学等への進学検討時の希望地域(複数回答・Q28)

【対象】最終学歴が大学・短大・専門学校等の人(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域別

- 男女別にみると、「進学する地域にこだわりはなかった」を除くと、女性では「当時住んでいた地域以外の都会の学校」27.0%が最も高い。男性では「当時住んでいた地域(都会)の学校」「当時住んでいた地域以外の都会の学校」が21～22%と高い。
- 出身地域別にみると、男女ともに都会出身層では、「当時住んでいた地域(都会)の学校」が35～37%と最も高い。地方出身層では、男女ともに「当時住んでいた地域以外の都会の学校」が最も高く、女性で30.4%、男性で24.6%。
- 都会出身層の方が、「当時住んでいた地域(都会)の学校」の割合が高く、地方出身層の方が、「当時住んでいた地域(地方)の学校」の割合が高い。



■ 女性/都会出身層(n=1,027) ■ 女性/地方出身層(n=2,149)
■ 男性/都会出身層(n=1,175) ■ 男性/地方出身層(n=2,368)

※Q28選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

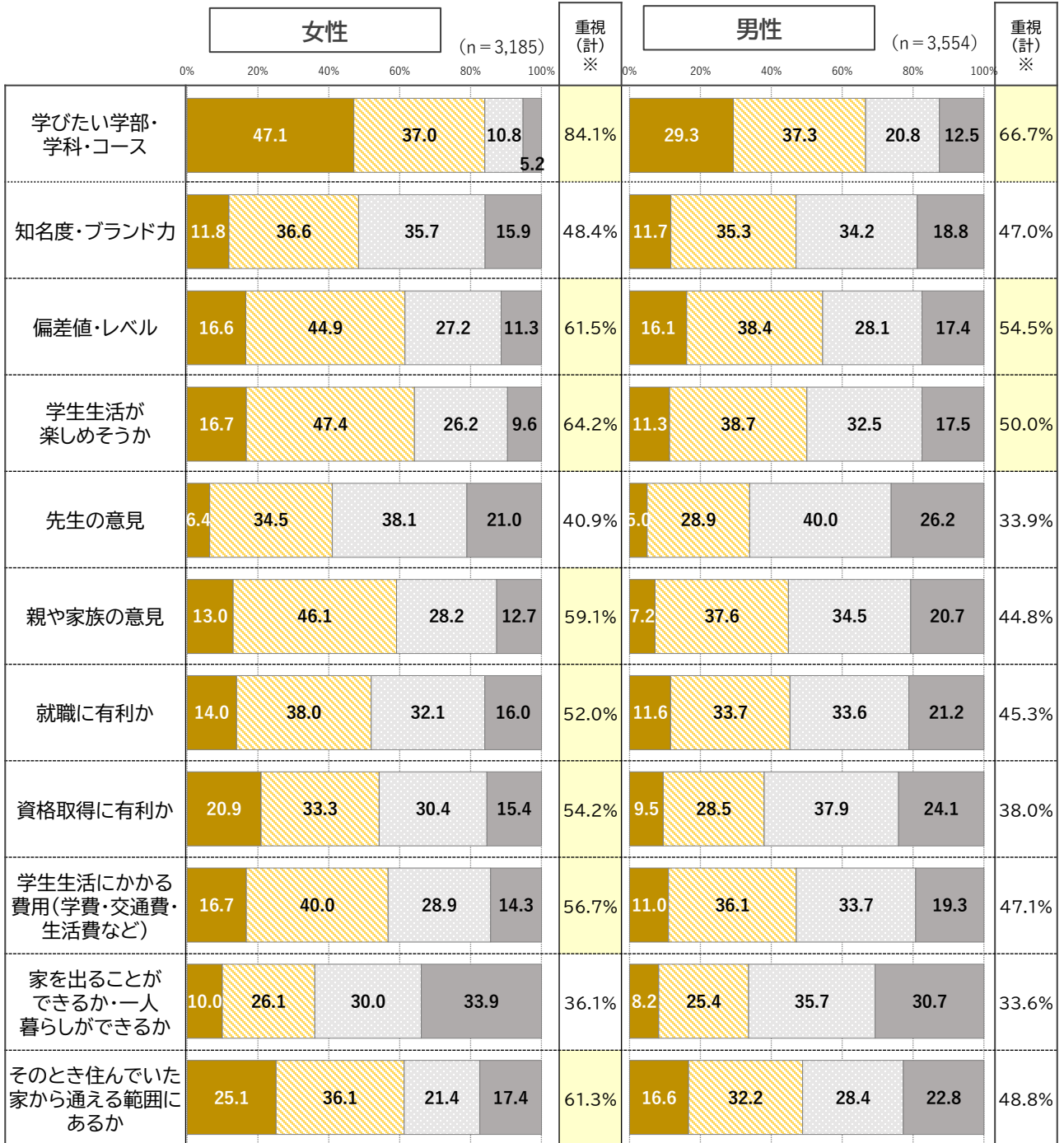
(4) 大学等への進学を検討した際に重視したこと(単数回答・Q29)

【対象】最終学歴が大学・短大・専門学校等の人

- ・重視(計)の割合をみると、男女ともに、「学びたい学部・学科・コース」が最も高い。
- ・男女別にみると、重視(計)の割合は、全ての項目で男性に比べて女性の方が高い。特に「学びたい学部・学科・コース」「資格取得に有利か」「親や家族の意見」「学生生活が楽しめそうか」「そのとき住んでいた家から通える範囲にあるか」等は、女性の方が高い。

※50%を超えるセルに薄黄色色掛け

※「重視(計)」は「かなり重視した」+「ある程度重視した」の計



■かなり重視した ■ある程度重視した ■あまり重視しなかった ■全く重視しなかった

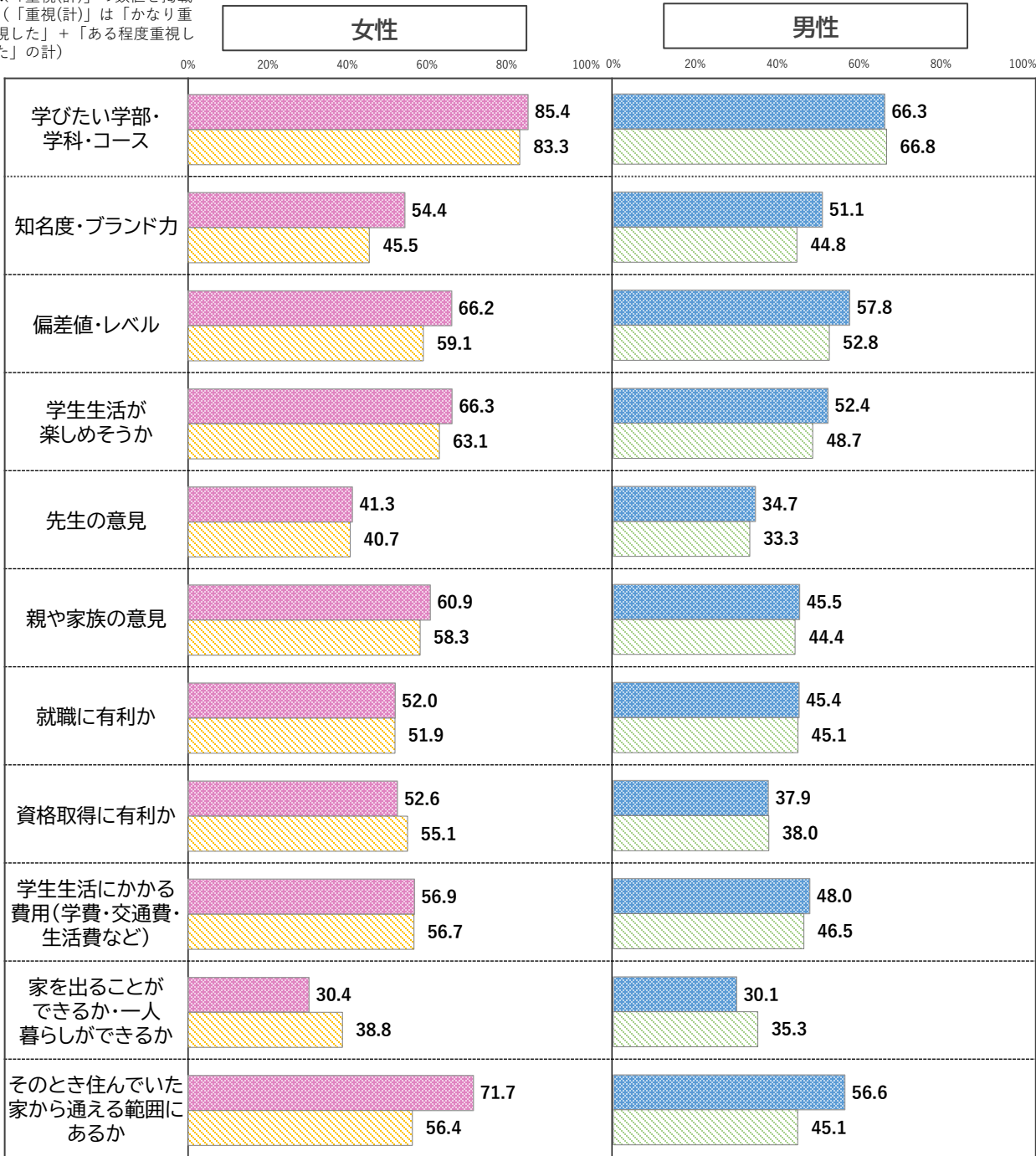
4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(4) 大学等への進学を検討した際に重視したこと(単数回答・Q29)

【対象】最終学歴が大学・短大・専門学校等の人(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域別

- ・出身地域別にみると、多くの項目で、男性に比べて女性の方が高い。
- ・男女ともに、「そのとき住んでいた家から通える範囲にあるか」「知名度・ブランド力」「偏差値・レベル」等は、都会出身層の方が高い。「家を出ることができるか・一人暮らしができるか」等は、地方出身層の方が高い。
- ・「そのとき住んでいた家から通える範囲にあるか」「家を出ることができるか・一人暮らしができるか」については、女性の方が、都会出身層と地方出身層での差が大きい。

※「重視(計)」の数値を掲載
(「重視(計)」は「かなり重視した」+「ある程度重視した」の計)



■ 女性/都会出身層(n=1,027)

■ 女性/地方出身層(n=2,149)

■ 男性/都会出身層(n=1,175)

■ 男性/地方出身層(n=2,368)

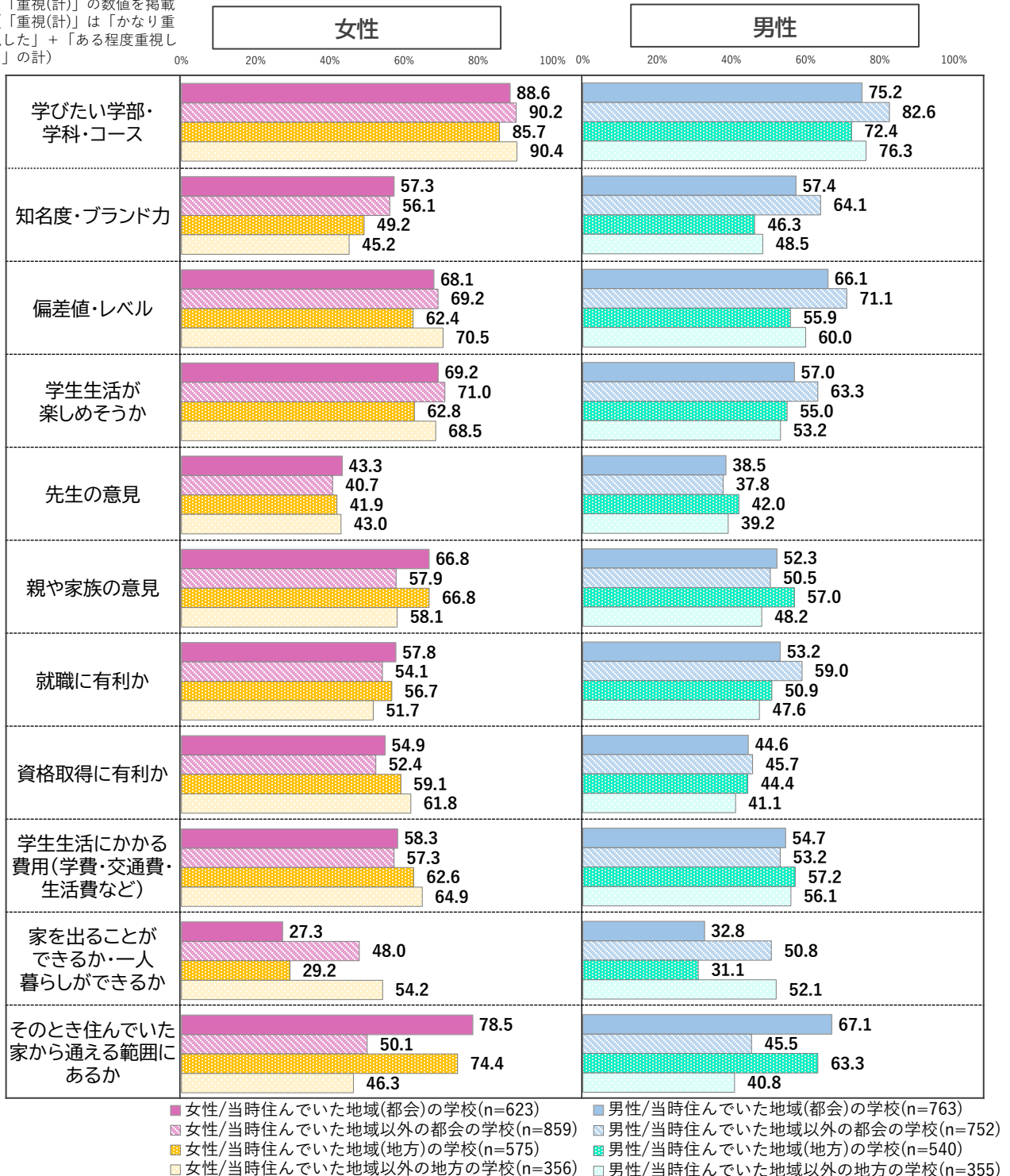
4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(4) 大学等への進学を検討した際に重視したこと(単数回答・Q29)

【対象】最終学歴が大学・短大・専門学校等の人 【分析軸】進学校検討時の希望地域別

- ・進学希望地域別にみると、当時住んでいた地域の学校(都会・地方)では、男女ともに、「そのとき住んでいた家から通える範囲にあるか」が6～8割と他の区分と比べて高い。また女性では、「親や家族の意見」も7割と高い。
- ・当時住んでいた地域以外の学校(都会・地方)では、「家を出る事ができるか・一人暮らしができるか」が5割と他の区分に比べて高い。
- ・地方の学校(当時住んでいた地域・地域以外)を希望していた女性は、「資格取得に有利か」が他の区分に比べて高い。

※「重視(計)」の数値を掲載
(「重視(計)」は「かなり重視した」+「ある程度重視した」の計)

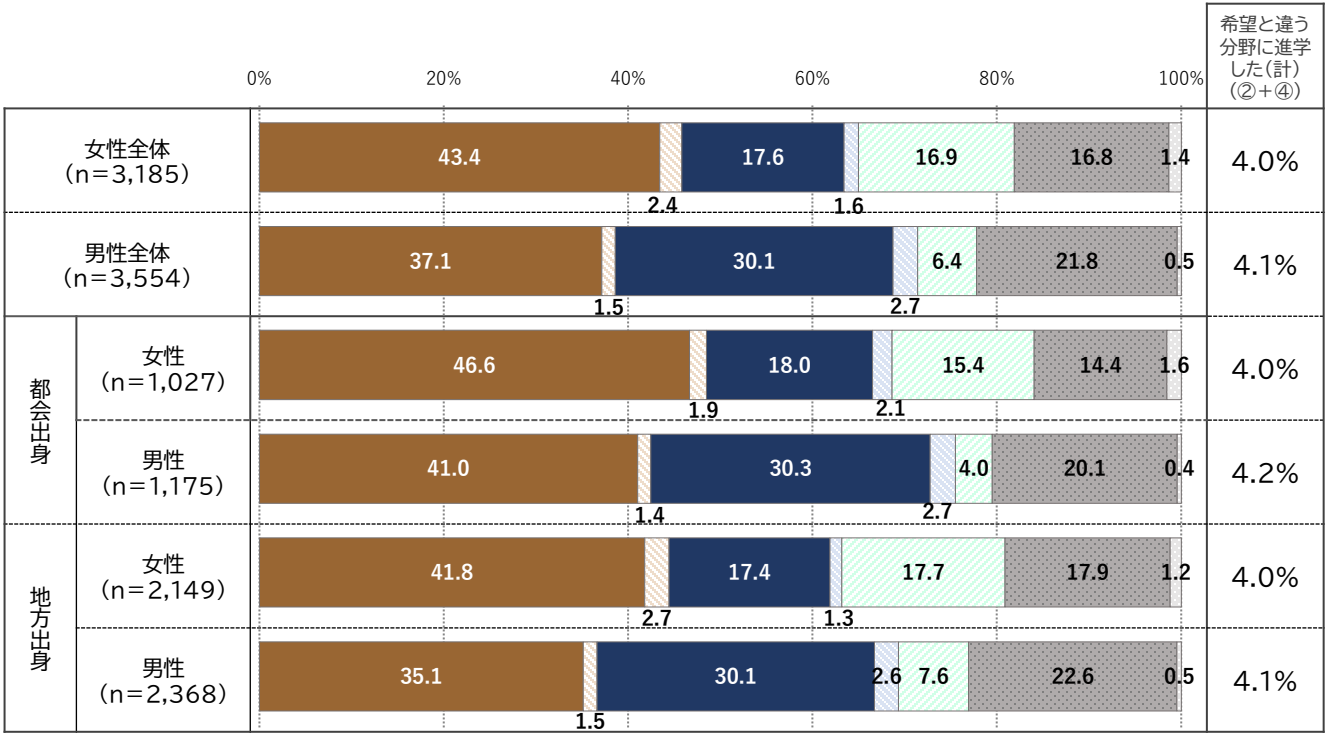


4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(5) 大学等への進学検討時の希望分野と進学分野(単数回答・Q30)

【対象】最終学歴が大学・短大・専門学校等の人 【分析軸】出身地域別

- 男女別にみると、「文系を希望しており、文系に進学した」が男女ともに最も高い。
- 「希望と違う分野に進学した(計)」は、男女ともに4%。
- 現住地域別にみると、いずれの区分でも「文系を希望しており、文系に進学した」が最も高いが、男女ともに、地方出身層に比べて、都会出身層の方が高い。またいずれの出身地域でも、「理系を希望しており、理系に進学した」は、女性よりも男性の方が高い。
- 「希望と違う分野に進学した(計)」は、いずれの区分でも4%程度。



- ①文系を希望しており、文系に進学した
- ②文系を希望していたが、文系以外に進学した
- ③理系を希望しており、理系に進学した
- ④理系を希望していたが、理系以外に進学した
- ⑤文系でも理系でもない分野を希望していた
- ⑥特に分野の希望はなかった
- ⑦その他

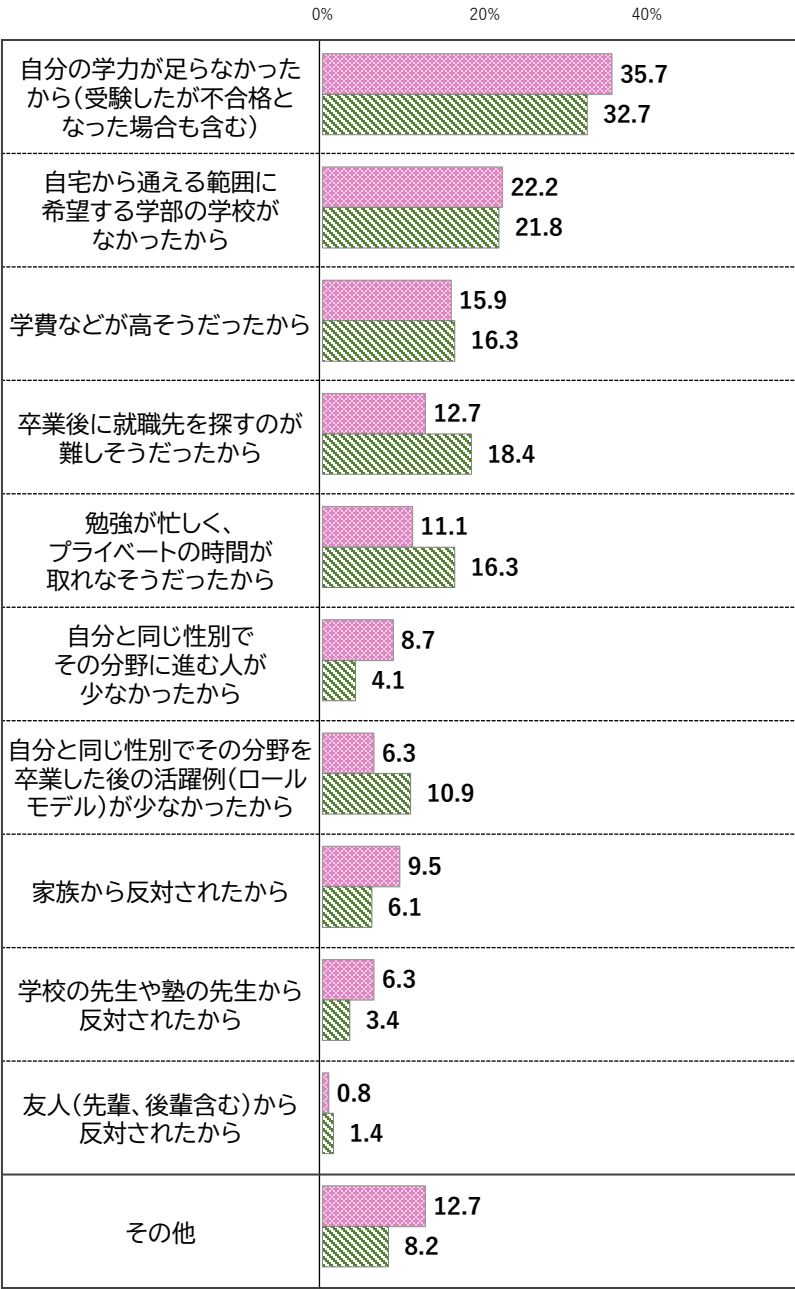
※出身地域別は、出身地域が海外の人は除いている。

4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(6) 希望分野と異なる分野に進学した理由(複数回答・Q31)

【対象】最終学歴が大学・短大・専門学校等で、希望と異なる分野に進学した人

- 男女ともに「自分の学力が足らなかったから」が3割強と最も高く、次いで、「自宅から通える範囲に希望する学部为学校がなかったから」が2割。



■ 女性(n=126) ■ 男性(n=147)

4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

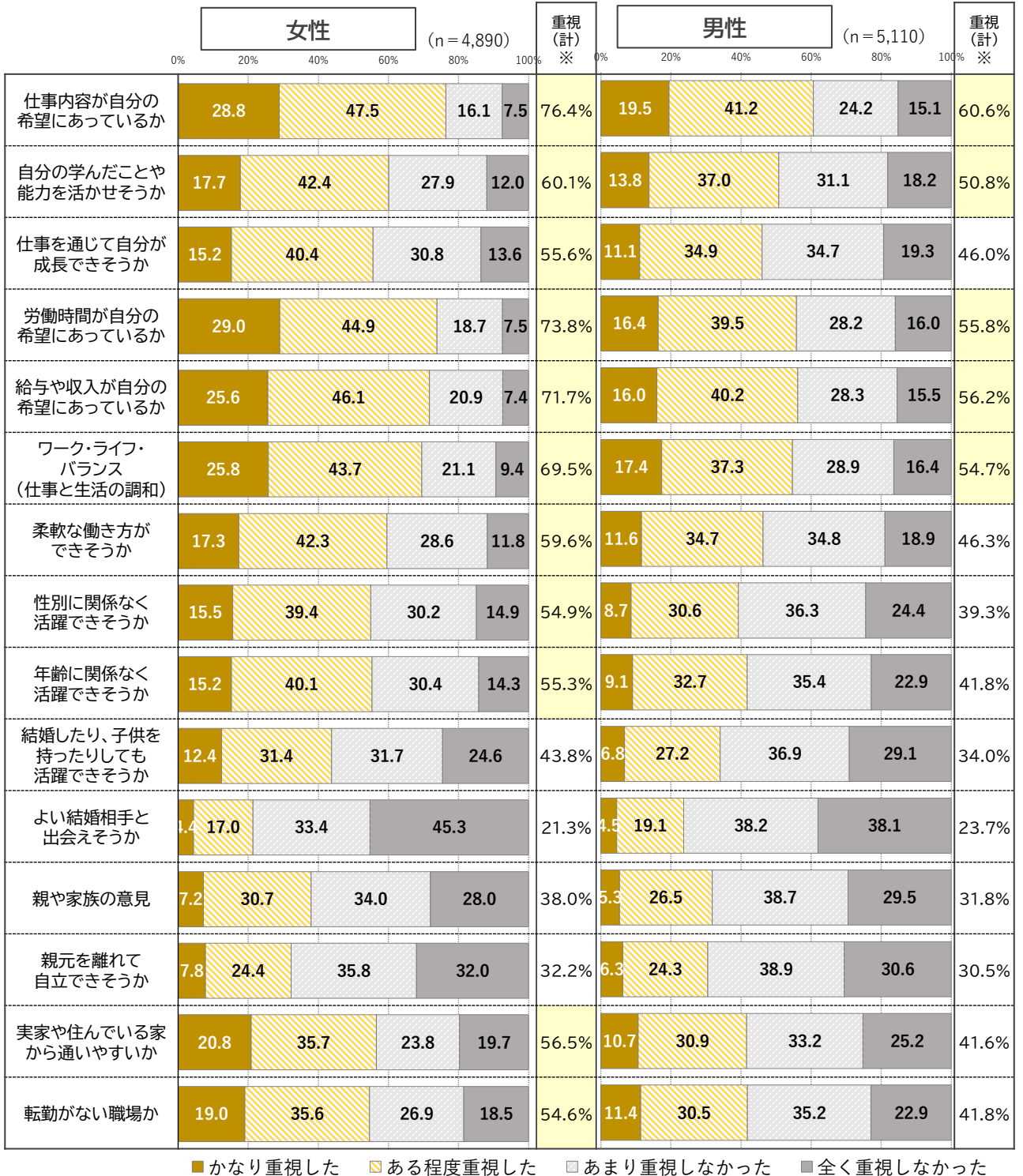
(7) 仕事に就くに当たって重視したこと(単数回答・Q35)

【対象】全員

- ・重視(計)の割合をみると、男女ともに、「仕事内容が自分の希望にあっているか」が最も高い。
- ・男女別にみると、「よい結婚相手と出会えそうか」以外の全ての項目で男性に比べて女性の方が高い。「労働時間が自分の希望にあっているか」「仕事内容が自分の希望にあっているか」「性別に関係なく活躍できそうか」「給与や収入が自分の希望にあっているか」等は、特に男女差が大きい。

※50%を超えるセルに薄黄色色掛け

※「重視(計)」は「かなり重視した」+「ある程度重視した」の計



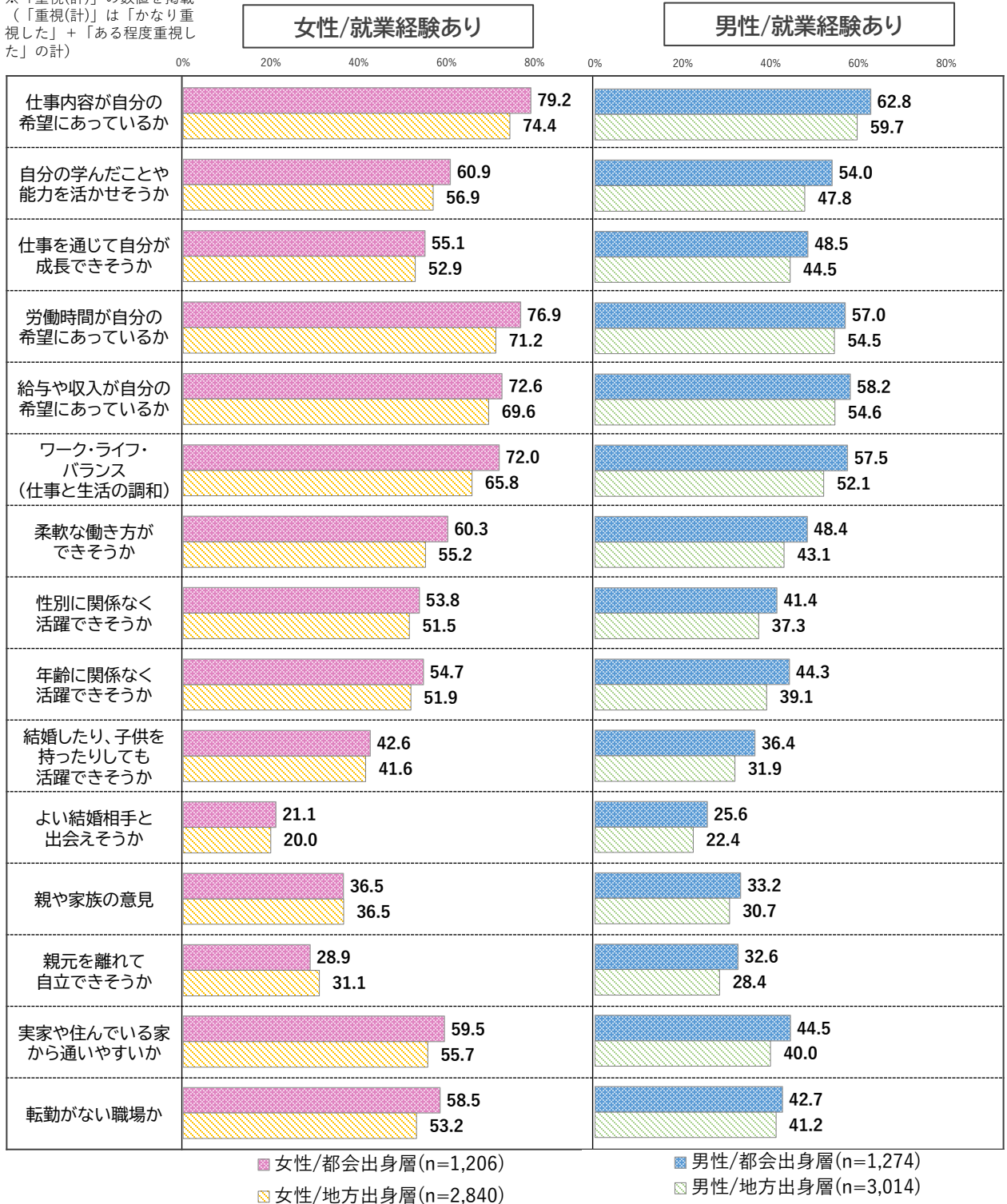
4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(7) 仕事に就くに当たって重視したこと(単数回答・Q35)

【対象】就業経験あり(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域別

- ・重視(計)の割合を出身地域別にみると、いずれの区分でもほとんどの項目で、男性に比べて女性の方が高い。
また、地方出身層に比べて都会出身層の方が高い傾向。
- ・女性についてみると、「ワーク・ライフ・バランス」「労働時間が自分の希望にあっているか」「転勤がない職場か」「柔軟な働き方ができそうか」等は、都会出身層の方が高い。
- ・男性についてみると、「自分の学んだことや能力を活かせそうか」「ワーク・ライフ・バランス」「柔軟な働き方ができそうか」「年齢に関係なく活躍できそうか」等は、都会出身層の方が高い。

※「重視(計)」の数値を掲載
(「重視(計)」は「かなり重視した」+「ある程度重視した」の計)



4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(7) 仕事に就くに当たって重視したこと(単数回答・Q35)

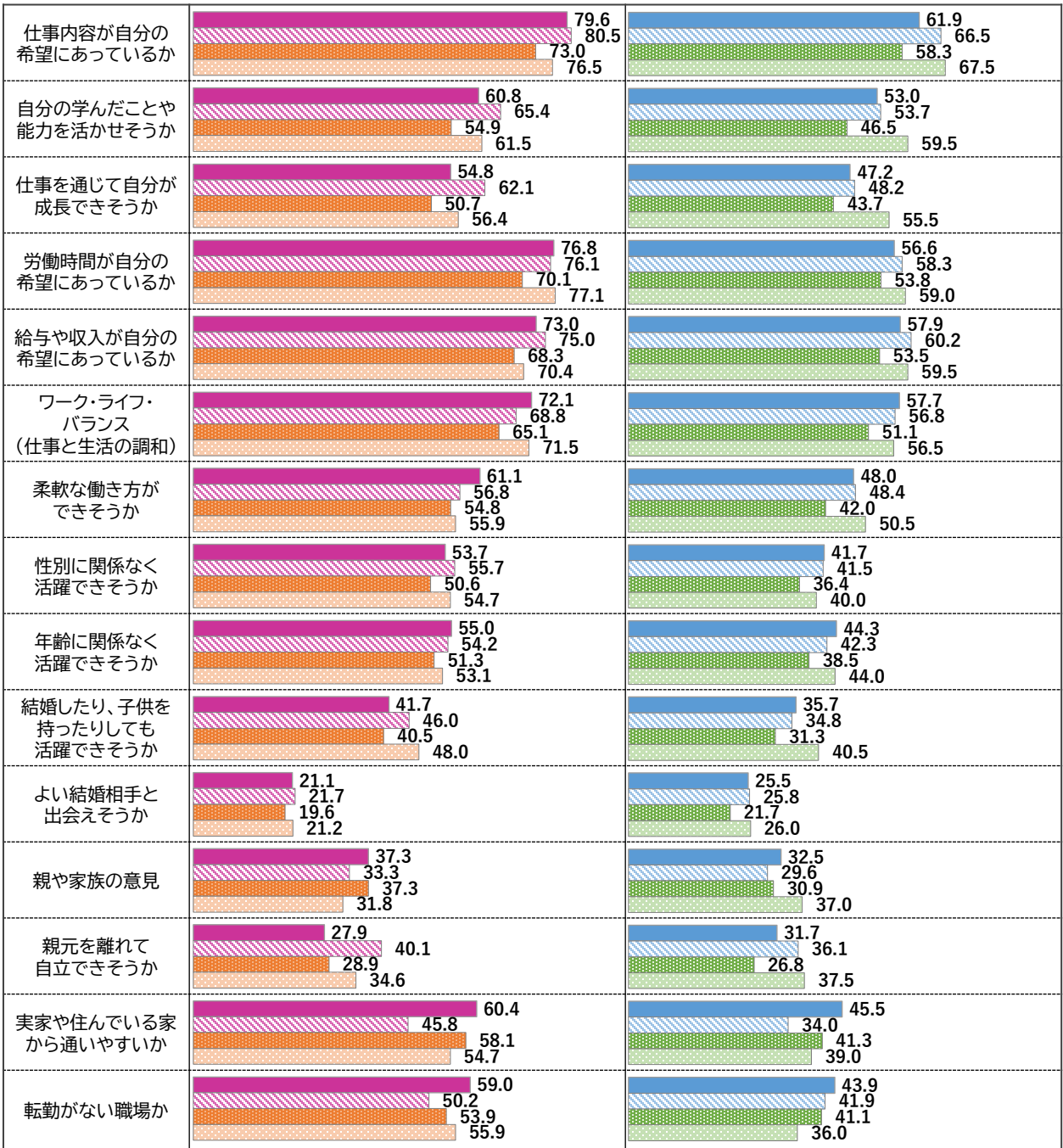
【対象】就業経験あり(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域・現住地域別

- ・重視(計)の割合を地方出身・都会居住層と地方出身・地方居住層と比較すると、女性は、「仕事を通じて自分が成長できそうか」「自分の学んだことや能力を活かせそうか」等は、地方出身・都会居住層の方が高い。一方、「実家や住んでいる家から通いやすいか」等は、地方出身・地方居住層の方が高い。
- ・「労働時間が自分の希望にあっているか」「性別に関係なく活躍できそうか」は、全ての区分で女性の方が高く、男女差が大きい。また、「結婚したり、子供を持ったりしても活躍できそうか」は、地方出身・都会居住層で、特に女性の方が高い。

※「重視(計)」の数値を掲載
(「重視(計)」は「かなり重視した」+「ある程度重視した」の計)

女性/就業経験あり

男性/就業経験あり



■ 女性/都会出身・都会居住層(n=1,027)
■ 女性/地方出身・都会居住層(n=544)
■ 女性/地方出身・地方居住層(n=2,296)
■ 女性/都会出身・地方居住層(n=179)

■ 男性/都会出身・都会居住層(n=1,074)
■ 男性/地方出身・都会居住層(n=523)
■ 男性/地方出身・地方居住層(n=2,491)
■ 男性/都会出身・地方居住層(n=200)

4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

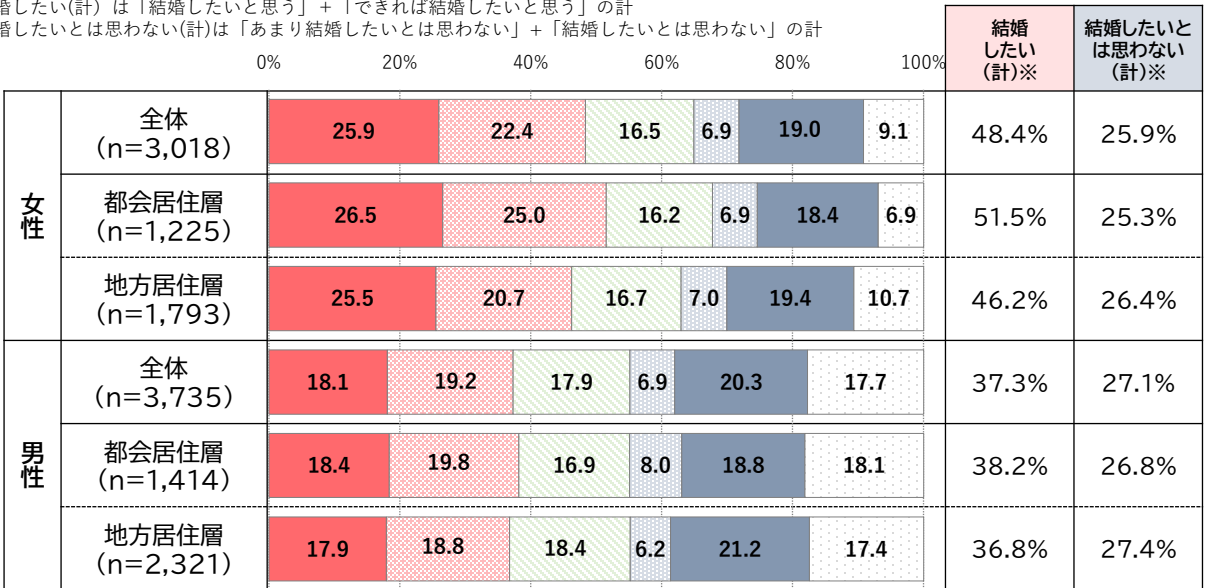
(8) 今後、結婚したいか(単数回答・Q39)

【対象】独身者 【分析軸】年代、現住地域別

- ・「結婚したい(計)」の割合を、男女別、現住地域別にみると、全ての区分で男性に比べて、女性の方が10ポイント程度高い。
- ・「結婚したい(計)」の割合を、現住地域・年代別にみると、18-29歳・都会居住層の女性が58.4%で最も高く、次いで、18-29歳・地方居住層の女性が53.3%。30-39歳の女性でみても、都会居住層の方が高い。
- ・男性では、いずれの年代でも、現住地域による差はあまりみられない。

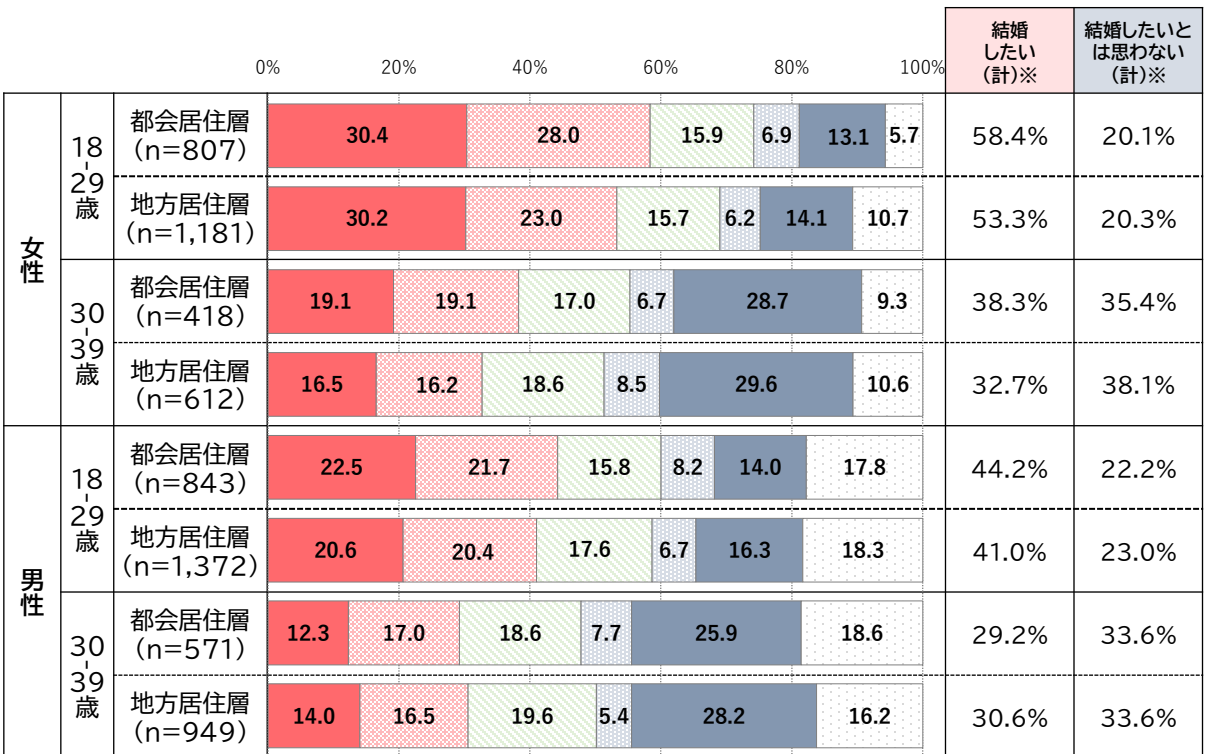
※結婚したい(計) は「結婚したいと思う」 + 「できれば結婚したいと思う」の計

※結婚したいとは思わない(計)は「あまり結婚したいとは思わない」 + 「結婚したいとは思わない」の計



■結婚したいと思う
 □どちらでもよいと思う
 ■結婚したいとは思わない

■できれば結婚したいと思う
 □あまり結婚したいとは思わない
 □わからない・考えたことがない



4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

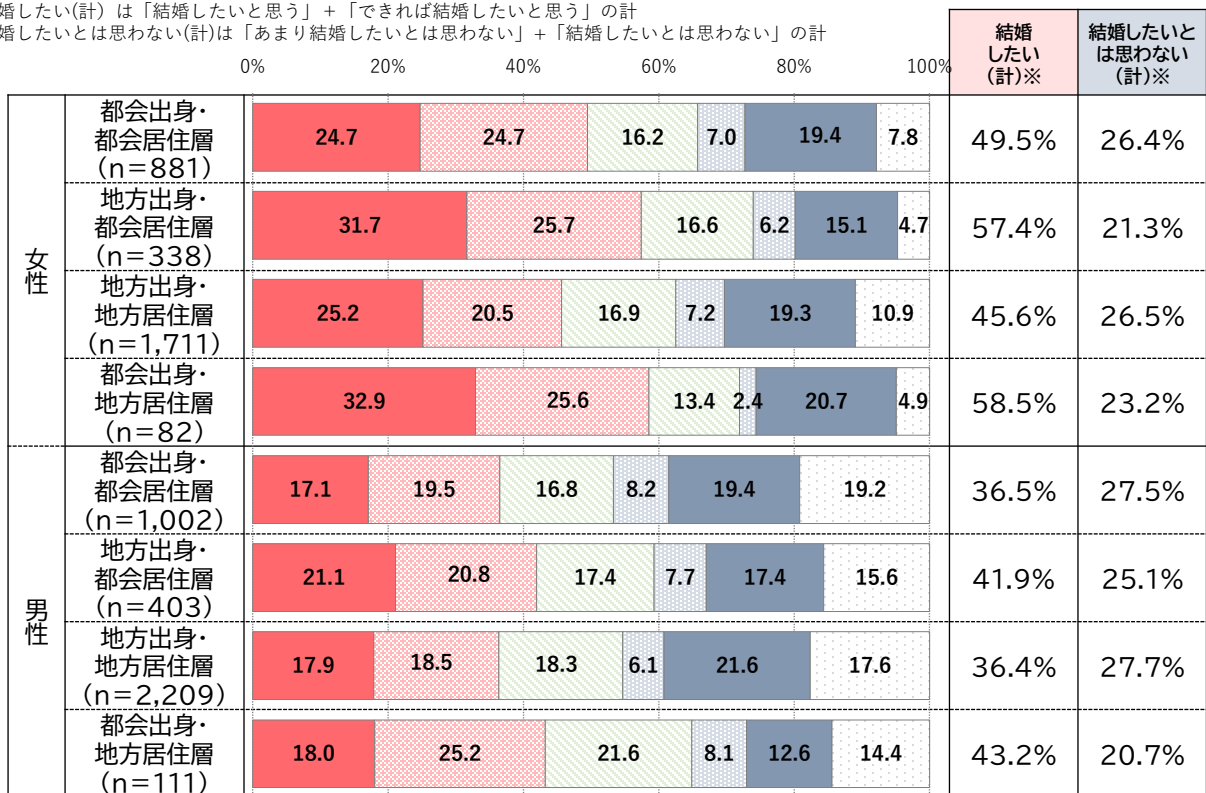
(8) 今後、結婚したいか(単数回答・Q39)

【対象】独身者 【分析軸】出身地域・現住地域別

- ・「結婚したい(計)」の割合を、出身地域・現住地域別にみると、女性では都会出身・地方居住層、地方出身・都会居住層で6割と高く、地方出身・地方居住層では45.6%と最も低い。
- ・男性でも同様の傾向がみられた。

※結婚したい(計) は「結婚したいと思う」 + 「できれば結婚したいと思う」の計

※結婚したいとは思わない(計)は「あまり結婚したいとは思わない」 + 「結婚したいとは思わない」の計



■結婚したいと思う

□どちらでもよいと思う

■結婚したいとは思わない

■できれば結婚したいと思う

□あまり結婚したいとは思わない

□わからない・考えたことがない

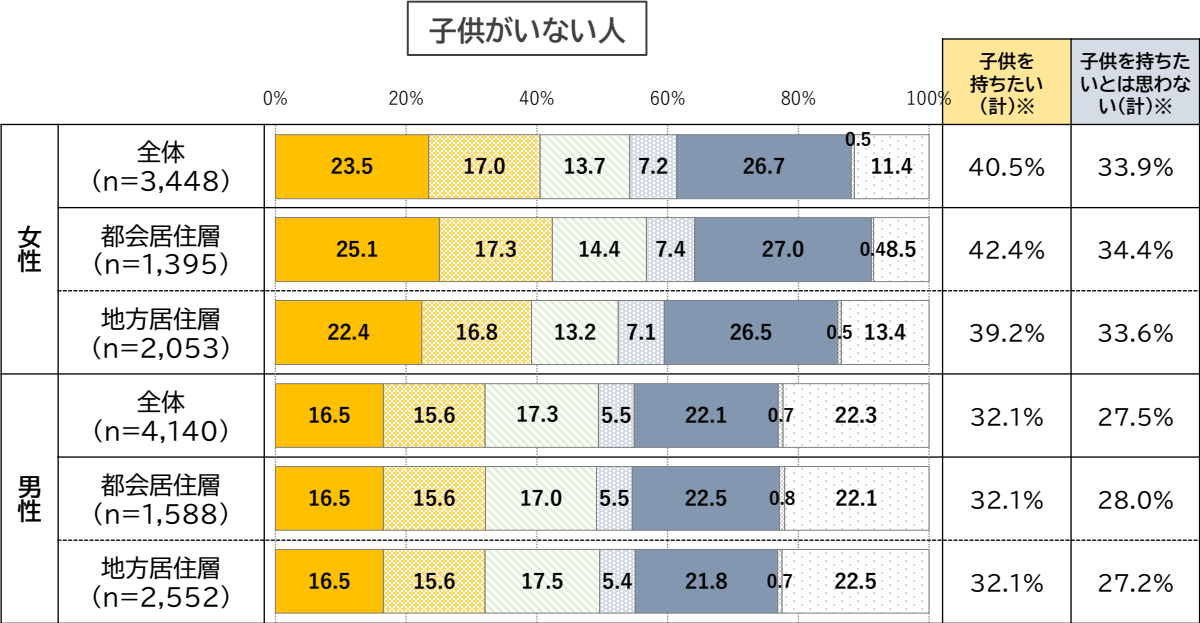
4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(9) 今後、子供を持ちたいか(単数回答・Q40)

【対象】子供がいない人 【分析軸】現住地域別

・子供がいない人について、「子供を持ちたい(計)」の割合を現住地域別にみると、いずれの地域でも女性では4割、男性では3割。

※子供を持ちたい(計) は「子供を持ちたいと思う」 + 「できれば子供を持ちたいと思う」の計
※子供を持ちたいとは思わない(計)は「あまり子供を持ちたいとは思わない」 + 「子供を持ちたいとは思わない」の計



- 子供を持ちたいと思う

□どちらでもよいと思う

■子供を持ちたいとは思わない

□わからない・考えたことがない
- ▨できれば子供を持ちたいと思う

▨あまり子供を持ちたいとは思わない

▨その他

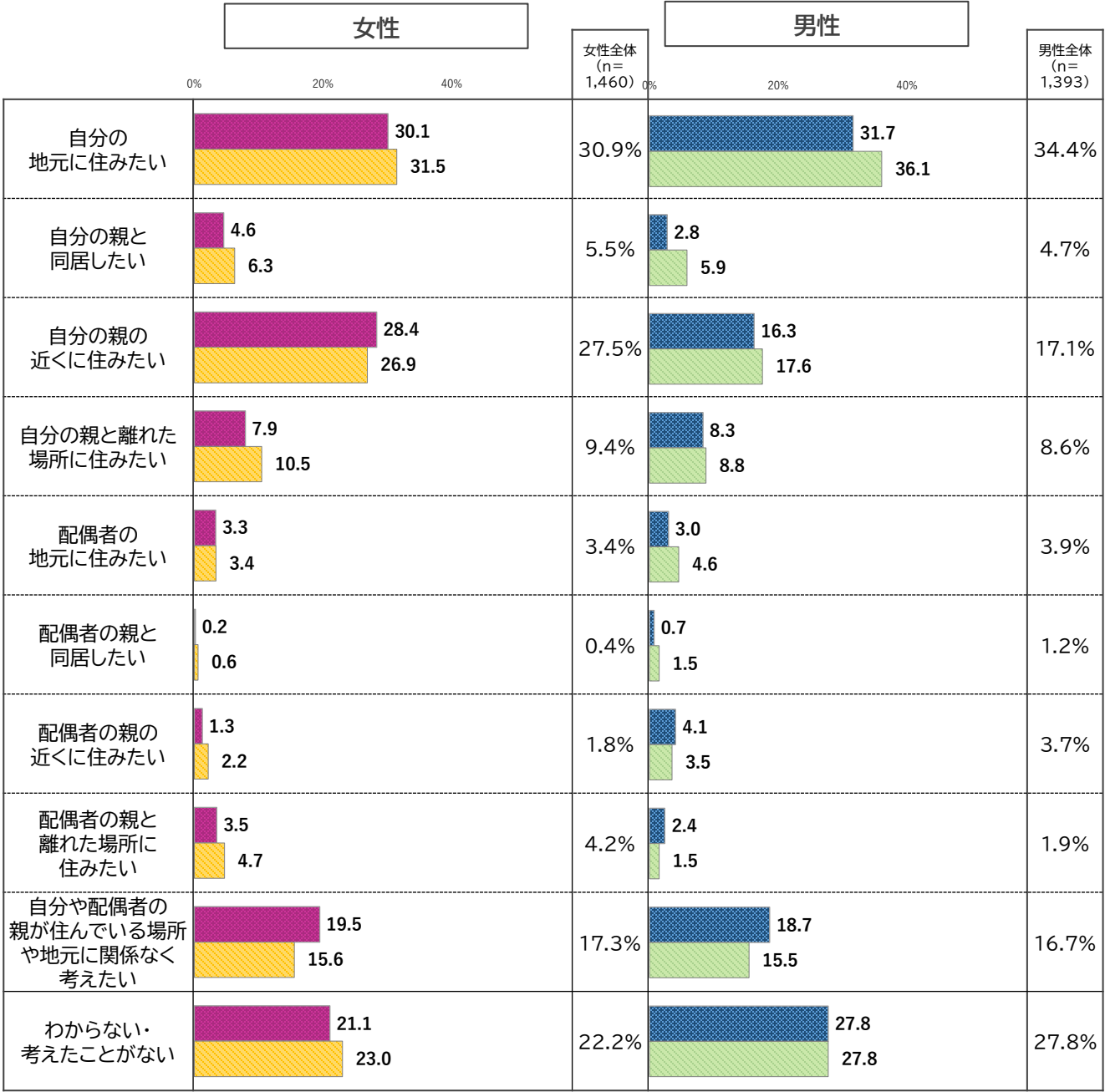
4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(10) 今後、結婚したらどのように住みたいか(複数回答・Q41)

【対象】現在独身、かつQ39で「結婚したい(計)」とした人 【分析軸】現住地域

- ・男女別にみると、いずれも「自分の地元に住みたい」が3割と最も高い。「自分の親の近くに住みたい」は、女性27.5%、男性17.1%と女性の方が高い。「自分や配偶者の親が住んでいる場所や地元に関係なく考えたい」は、男女ともに17%程度。
- ・「自分の親と同居したい」は、男女ともに5%程度、「配偶者の親と同居したい」は女性0.4%、男性1.2%。
- ・現住地域別にみると、男女ともにあまり大きな差はみられなかった。

※結婚したい(計) は「結婚したいと思う」 + 「できれば結婚したいと思う」の計



■ 女性/都会居住層(n=631)
■ 女性/地方居住層(n=829)

■ 男性/都会居住層(n=540)
■ 男性/地方居住層(n=853)

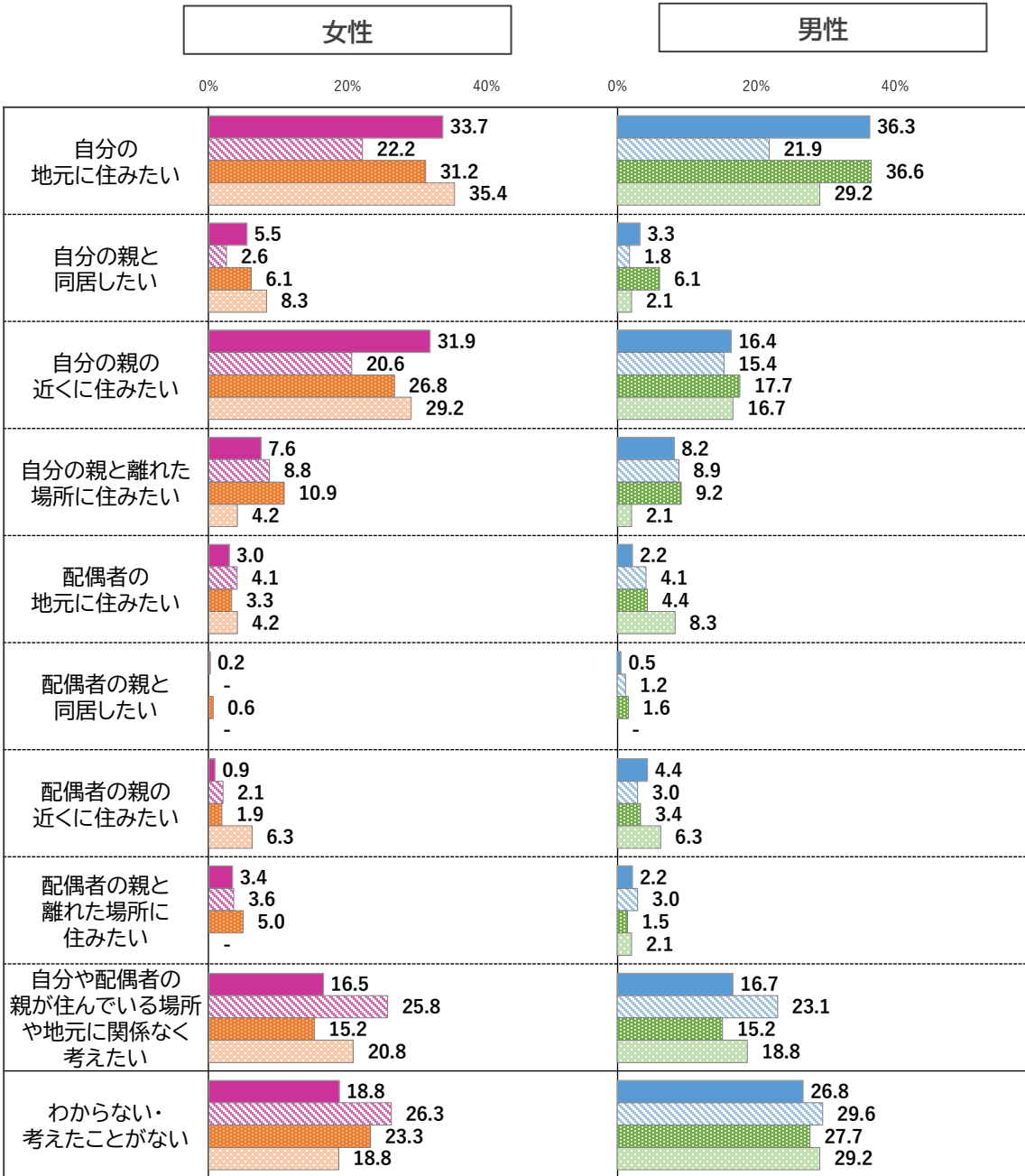
4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(10) 今後、結婚したらどのように住みたいか(複数回答・Q41)

【対象】現在独身、かつQ39で「結婚したい(計)」とした人 【分析軸】出身地域・現住地域

- 出身地域・現住地域別にみると、地方出身・都会居住層の女性では、「自分の地元に住みたい」「自分の親の近くに住みたい」が他の区分に比べて低く、「自分や配偶者の親が住んでいる場所や地元に関係なく考えたい」が高い。
- 男性でも同様に、地方出身・都会居住層では、「自分の地元に住みたい」が他の区分に比べて低く、「自分や配偶者の親が住んでいる場所や地元に関係なく考えたい」が高い。

※結婚したい(計) は「結婚したいと思う」 + 「できれば結婚したいと思う」の計



■ 女性/都会出身・都会居住層(n=436)
 ■ 女性/地方出身・都会居住層(n=194)
 ■ 女性/地方出身・地方居住層(n=781)
 ■ 女性/都会出身・地方居住層(n=48)

■ 男性/都会出身・都会居住層(n=366)
 ■ 男性/地方出身・都会居住層(n=169)
 ■ 男性/地方出身・地方居住層(n=804)
 ■ 男性/都会出身・地方居住層(n=48)

4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

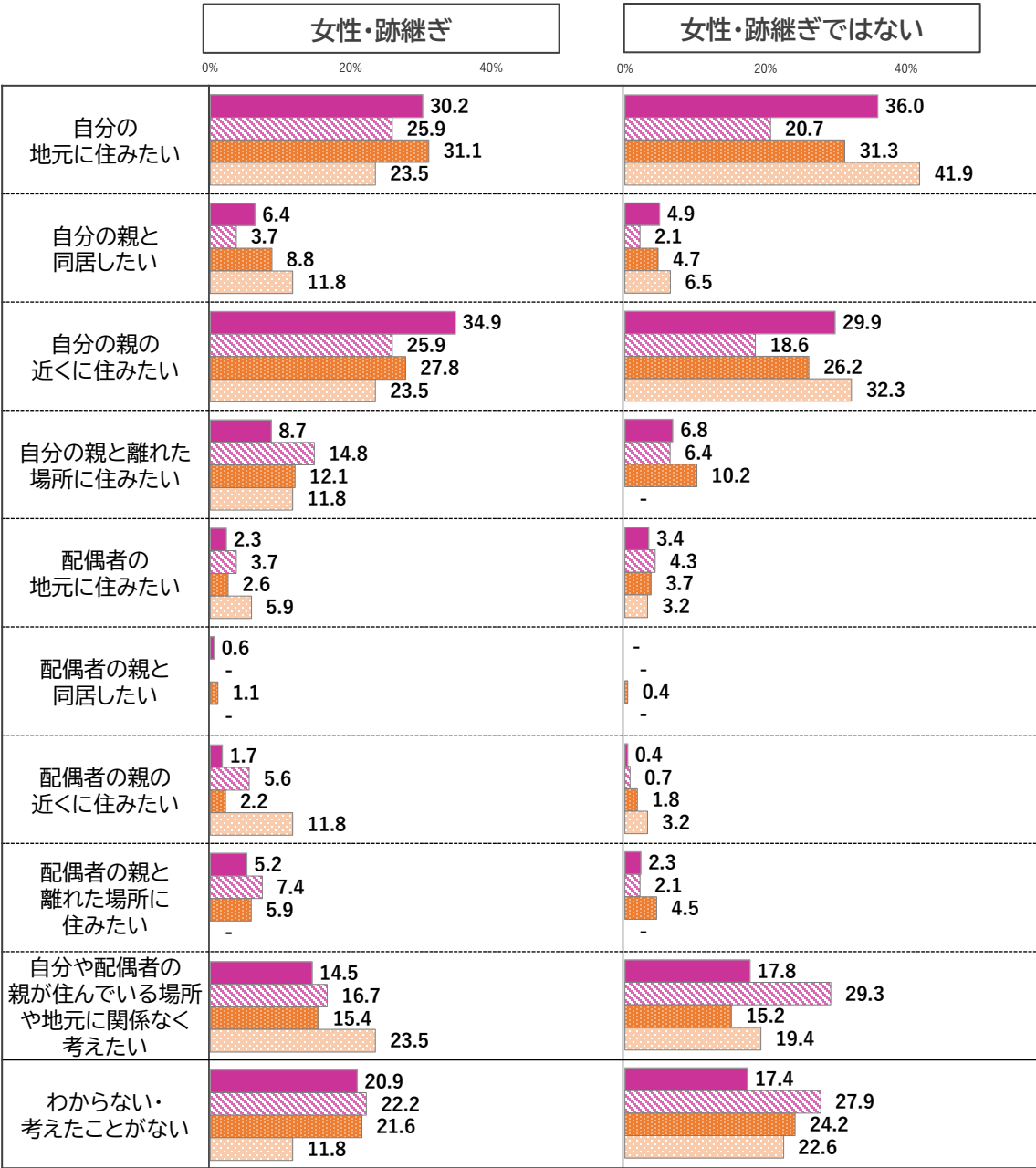
(10) 今後、結婚したらどのように住みたいか(複数回答・Q41)・女性

【対象】現在独身、かつQ39で「結婚したい(計)」とした人 【分析軸】跡継ぎか否か、出身地域・現住地域

・伝統的価値観において、いわゆる“跡継ぎ”とされる人か否か別にみると、地方出身・都会居住層の「跡継ぎではない」では、「自分や配偶者の親が住んでいる場所や地元に関係なく考えたい」が29.3%と、他区分に比べて高い。また「わからない・考えたことがない」も27.9%と、他区分に比べて高い。

※ここでは、伝統的価値観において、いわゆる“跡継ぎ”とされる人(一人っ子又は男性の場合は長男、女性の場合は兄弟のいない長女)を「跡継ぎ」と区分している。

※結婚したい(計) は「結婚したいと思う」+「できれば結婚したいと思う」の計



■ 女性/都会出身・都会居住層(n=172)
■ 女性/地方出身・都会居住層(n=54)
■ 女性/地方出身・地方居住層(n=273)
■ 女性/都会出身・地方居住層(n=17)

■ 女性/都会出身・都会居住層(n=264)
■ 女性/地方出身・都会居住層(n=140)
■ 女性/地方出身・地方居住層(n=508)
■ 女性/都会出身・地方居住層(n=31)

4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

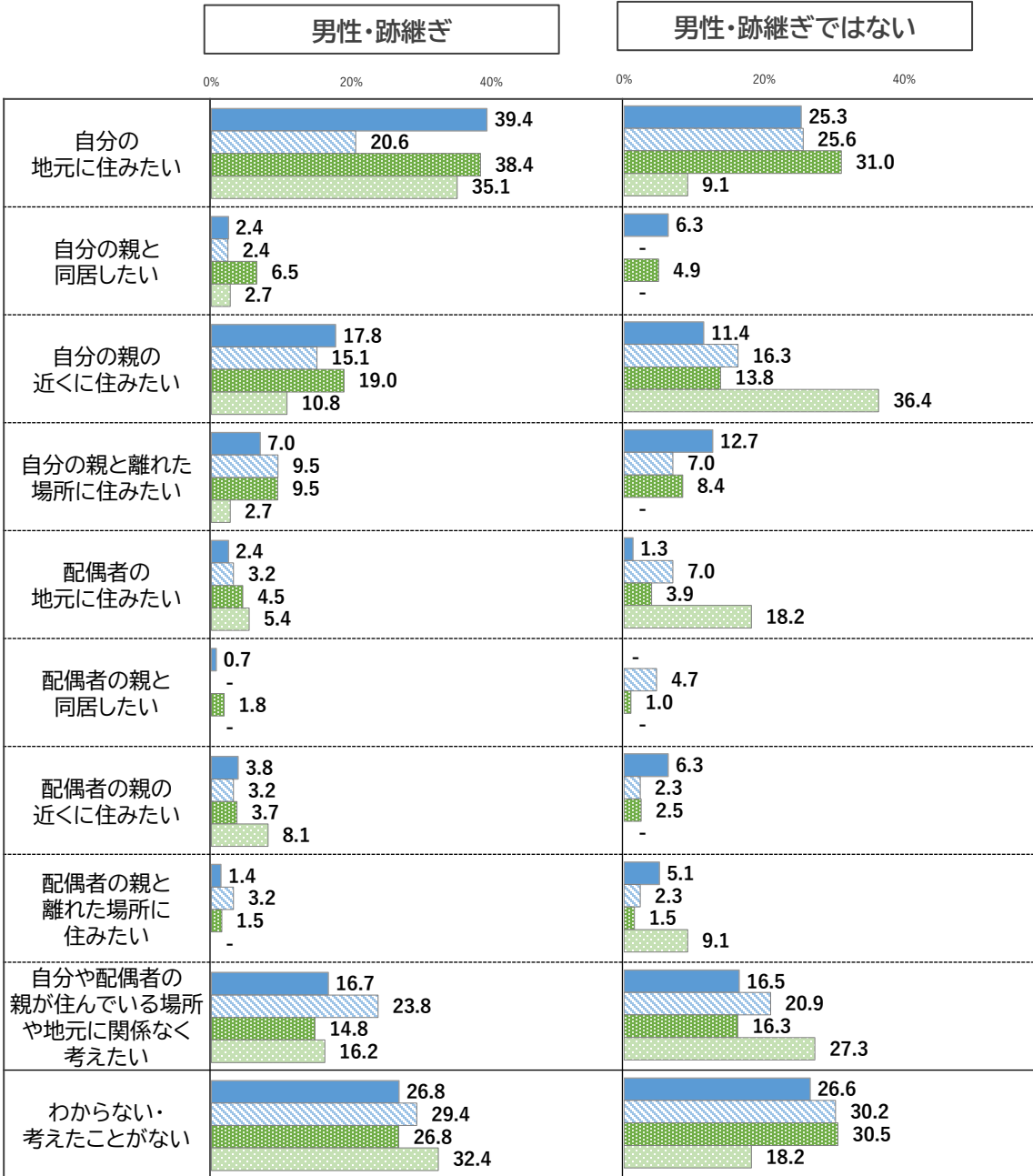
(10) 今後、結婚したらどのように住みたいか(複数回答・Q41)・男性

【対象】現在独身、かつQ39で「結婚したい(計)」とした人 【分析軸】跡継ぎか否か、出身地域・現住地域

・伝統的価値観において、いわゆる“跡継ぎ”とされる人か否か別にみると、地方出身・都会居住層の「跡継ぎ」では、「自分の地元に住みたい」が20.6%と、「跡継ぎ」の他区分に比べて低い。

※ここでは、伝統的価値観において、いわゆる“跡継ぎ”とされる人
(一人っ子又は男性の場合は長男、女性の場合は兄弟のいない長女)を「跡継ぎ」と区分している。

※結婚したい(計) は「結婚したいと思う」+「できれば結婚したいと思う」の計



■ 男性/都会出身・都会居住層(n=287)
 ■ 男性/地方出身・都会居住層(n=126)
 ■ 男性/地方出身・地方居住層(n=601)
 ■ 男性/都会出身・地方居住層(n=37)

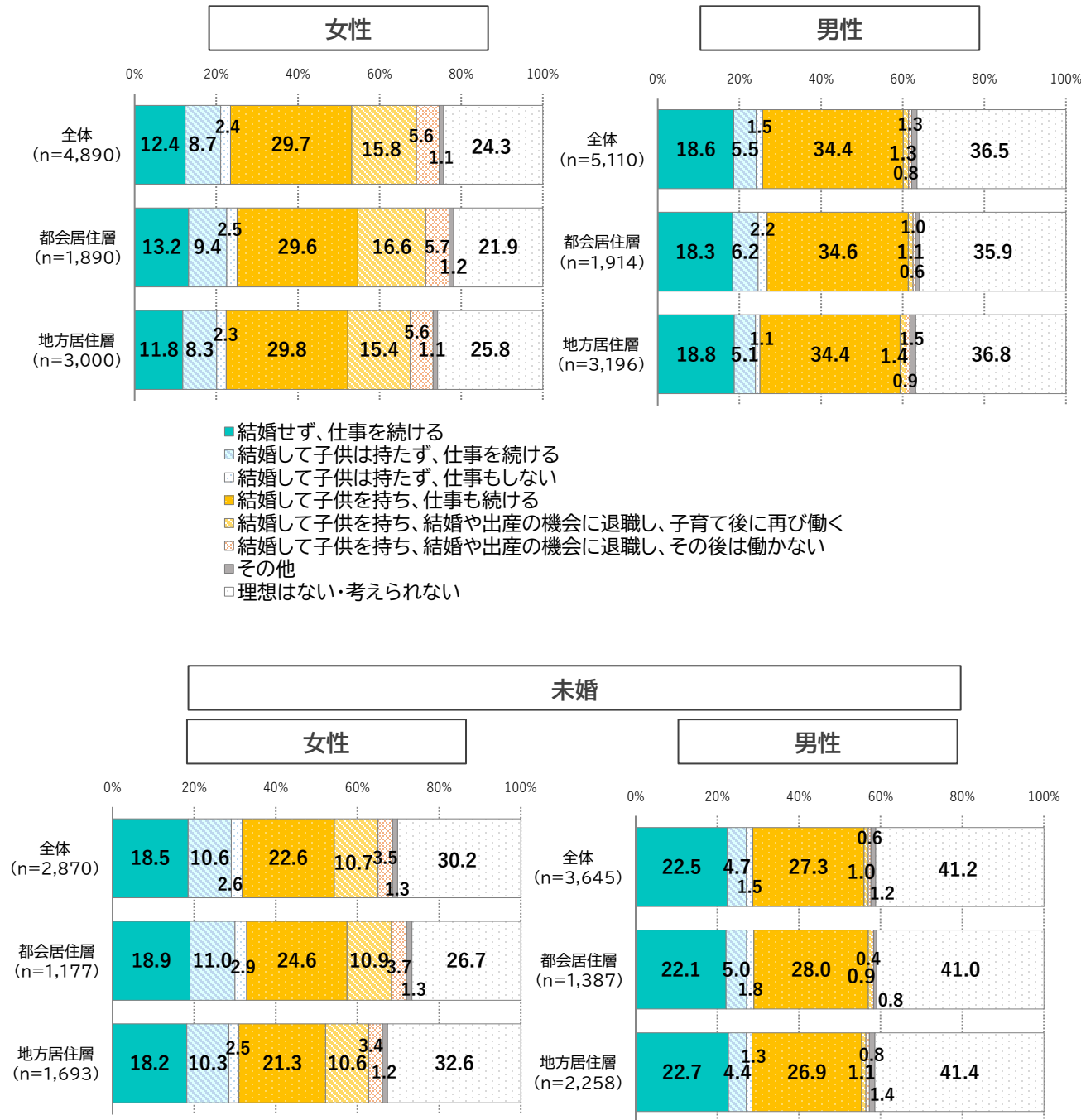
■ 男性/都会出身・都会居住層(n=79)
 ■ 男性/地方出身・都会居住層(n=43)
 ■ 男性/地方出身・地方居住層(n=203)
 ■ 男性/都会出身・地方居住層(n=11)

4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(11) 自分の理想とする生き方(単数回答・Q42①)

【対象】全員 【分析軸】未既婚、現住地域別

- 男女別にみると、男女ともに「結婚して子供を持ち、仕事も続ける」が最も高い。
- 現住地域別にみると、男女ともにいずれの区分でも「結婚して子供を持ち、仕事も続ける」が最も高い。
- 未婚者について、男女、現住地域別にみると、女性ではいずれの区分でも「結婚して子供を持ち、仕事も続ける」が21～24%程度、「結婚せず、仕事を続ける」が18%程度、「結婚して子供を持ち、結婚や出産の機会に退職し、子育て後に再び働く」が10%程度。
- 男性ではいずれの区分でも「結婚して子供を持ち、仕事も続ける」が27%程度、「結婚せず、仕事を続ける」が22%程度。

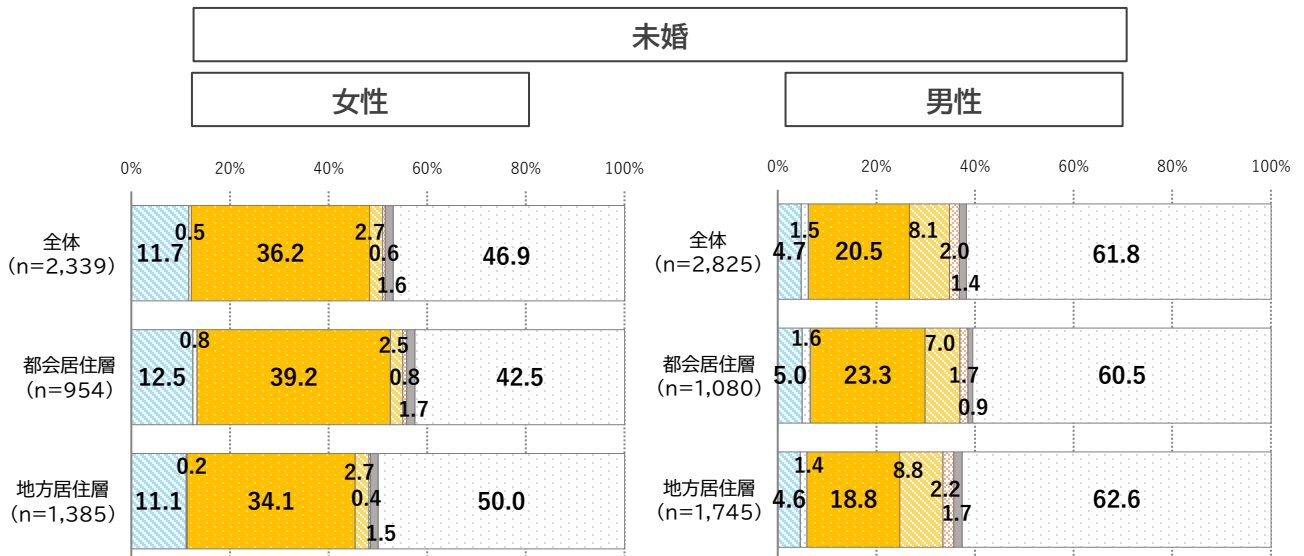
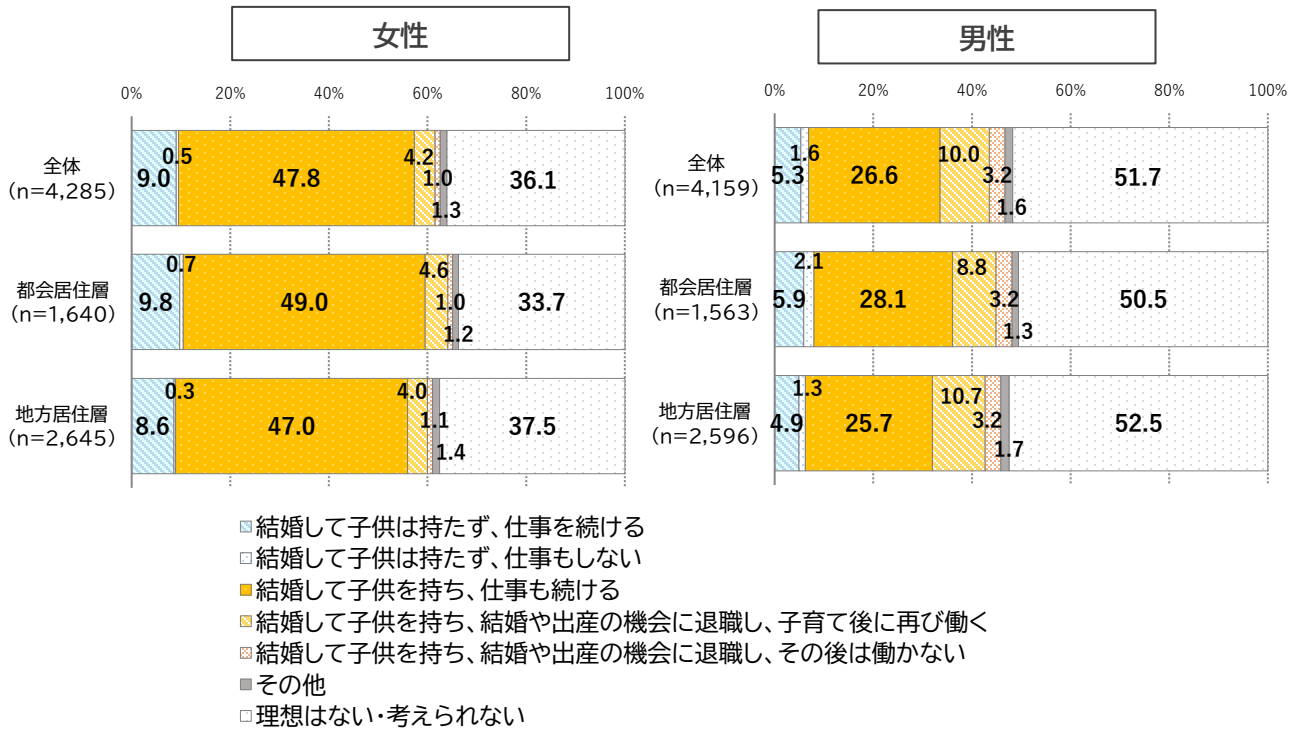


4. 若年層の転居の背景や希望する生き方

(12) 自分の理想とする配偶者の生き方(単数回答・Q42②)

【対象】自分の理想とする生き方で「結婚せず、仕事を続ける」を選択した人以外 【分析軸】未既婚、現住地域別

- ・現住地域別にみると、女性は、いずれの区分でも「結婚して子供を持ち、仕事も続ける」が5割。「結婚して子供は持たず、仕事を続ける」が1割弱。
- ・男性は、いずれの区分でも「結婚して子供を持ち、仕事も続ける」が25～28%程度。「結婚して子供を持ち、結婚や出産の機会に退職し、子育て後に再び働く」が1割程度。
- ・未婚者について、男女、現住地域別にみると、女性ではいずれの区分でも「結婚して子供を持ち、仕事も続ける」が35～40%程度。「結婚して子供は持たず、仕事を続ける」が1割程度。
- ・男性ではいずれの区分でも「結婚して子供を持ち、仕事も続ける」が2割程度、「結婚して子供を持ち、結婚や出産の機会に退職し、子育て後に再び働く」が1割程度。



5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

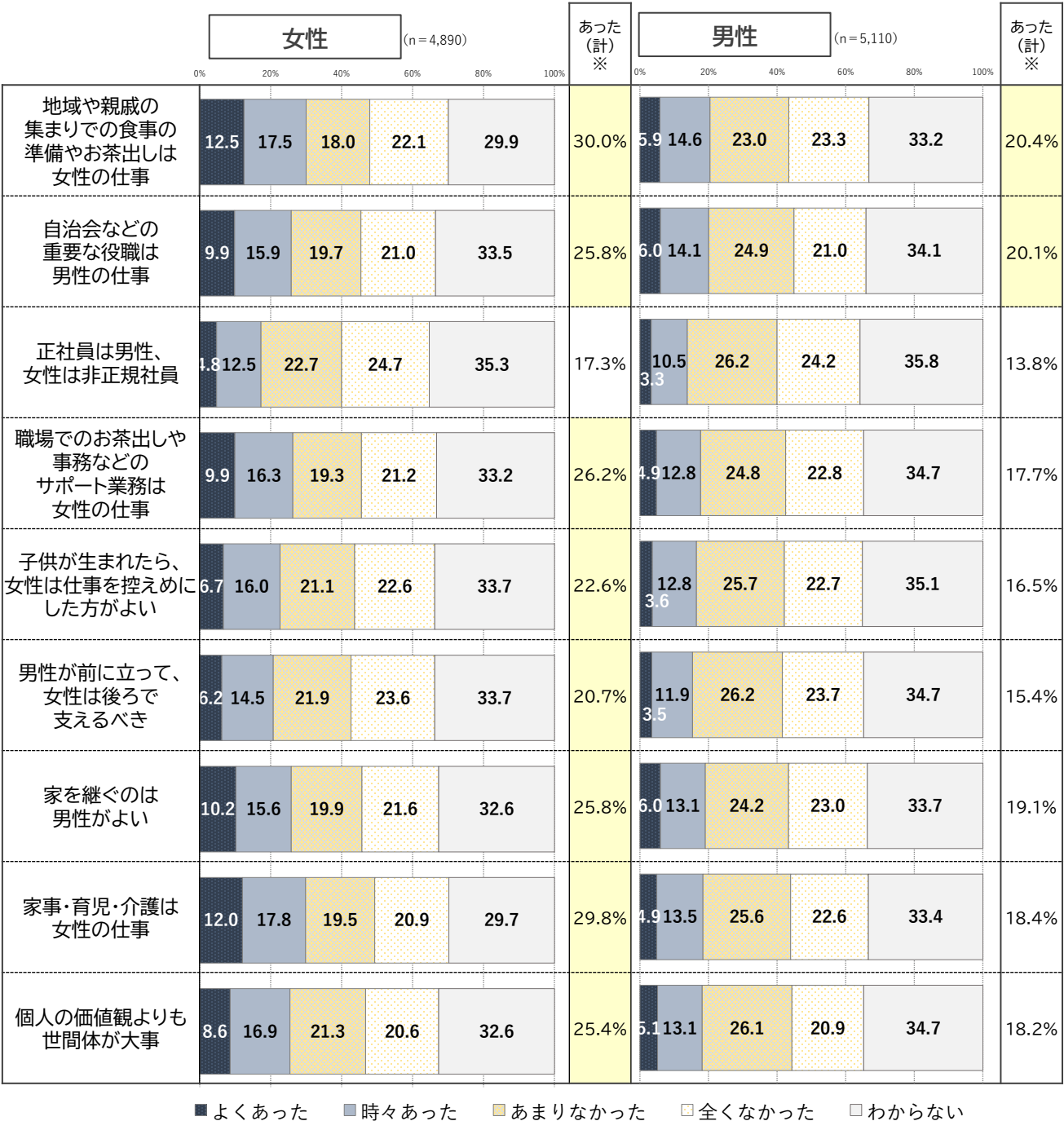
(1) 出身地域における固定的な性別役割分担意識等の有無(単数回答・Q44)

【対象】全員

- あった(計)と感じている人の割合をみると、男女ともに「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」「自治会などの重要な役職は男性の仕事」は2割を超える。また、「家事・育児・介護は女性の仕事」「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」「家を継ぐのは男性がよい」「個人の価値観よりも世間体が大事」「子供が生まれたら、女性は仕事を控えめにした方がよい」「男性が前に立って、女性は後ろで支えるべき」は、女性のみ2割を超える。
- あった(計)と感じている人の割合は、全ての項目で女性の方が高い。男女差をみると、「家事・育児・介護は女性の仕事」は女性の方が11.4%ポイント高く、最も差が大きい。

※20%を超えるセルに薄黄色色掛け

※「あった(計)」は「よくあった」+「時々あった」の計



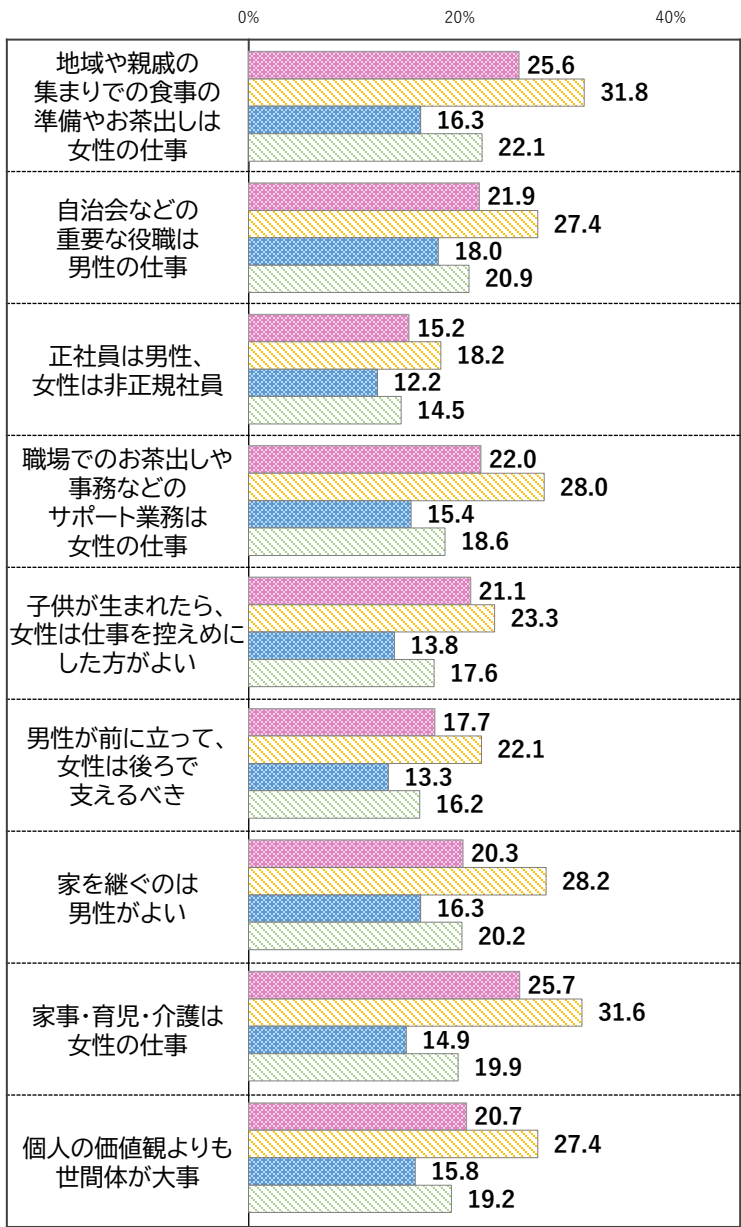
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(1) 出身地域における固定的な性別役割分担意識等の有無(単数回答・Q44)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域別

- あった(計)と感じている人の割合を出身地域別にみると、全ての項目で地方出身層の女性が最も高い。
- 女性について、都会出身層と地方出身層を比較すると、「家を継ぐのは男性がよい」「個人の価値観よりも世間体が大事」「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」「家事・育児・介護は女性の仕事」「自治会などの重要な役職は男性の仕事」等は地方出身層の方が高い。
- 地方出身層ではほとんどの項目で、男性に比べて、女性の方が高い。また、男女差をみると、「家事・育児・介護は女性の仕事」で最も差が大きく、次いで、「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」で差が大きい。
- 都会出身層では、「家事・育児・介護は女性の仕事」等で男女差が大きい。

※「あった(計)」の数値を掲載(「あった(計)」は「よくあった」+「時々あった」の計)



■ 女性/都会出身層(n=1,467) ■ 女性/地方出身層(n=3,412)
■ 男性/都会出身層(n=1,539) ■ 男性/地方出身層(n=3,559)

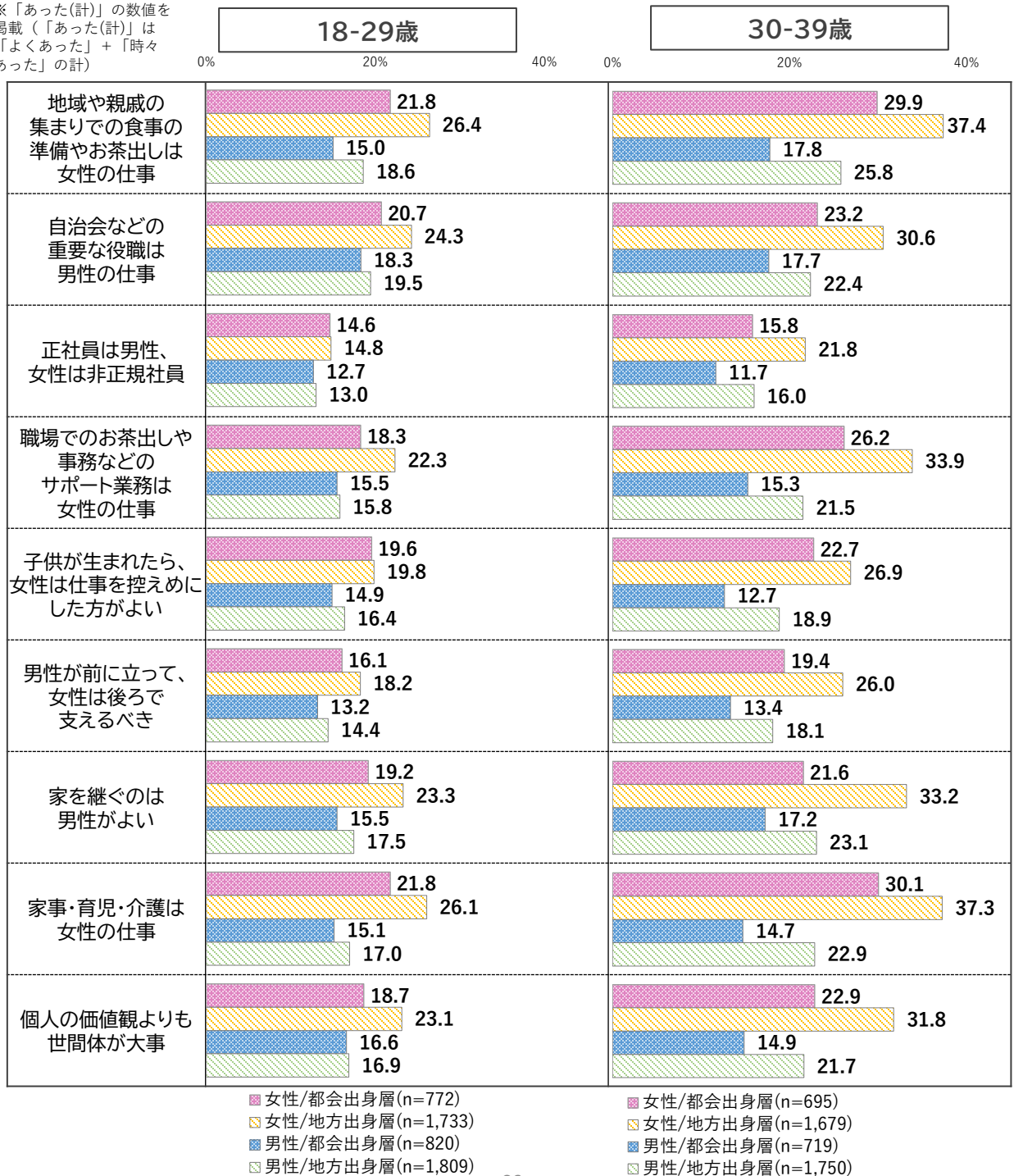
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(1) 出身地域における固定的な性別役割分担意識等の有無(単数回答・Q44)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】年代、出身地域別

- ・あった(計)と感じている人の割合を、年代、出身地域別にみると、全ての項目で地方出身層の30-39歳女性が高い。
- ・女性について年代別にみると、いずれの地域においても、全ての項目で30-39歳の方が高い。特に、「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」「家事・育児・介護は女性の仕事」「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」等は年代差が大きい。
- ・30-39歳の女性について出身地域別にみると、地方出身層の方が高く、特に、「家を継ぐのは男性がよい」は11.6%ポイント高い。
- ・30-39歳の地方出身層について、男女差をみると、「家事・育児・介護は女性の仕事」「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」「家を継ぐのは男性がよい」「個人の価値観よりも世間体が大事」等は、女性の方が高い。

※「あった(計)」の数値を掲載(「あった(計)」は「よくあった」+「時々あった」の計)



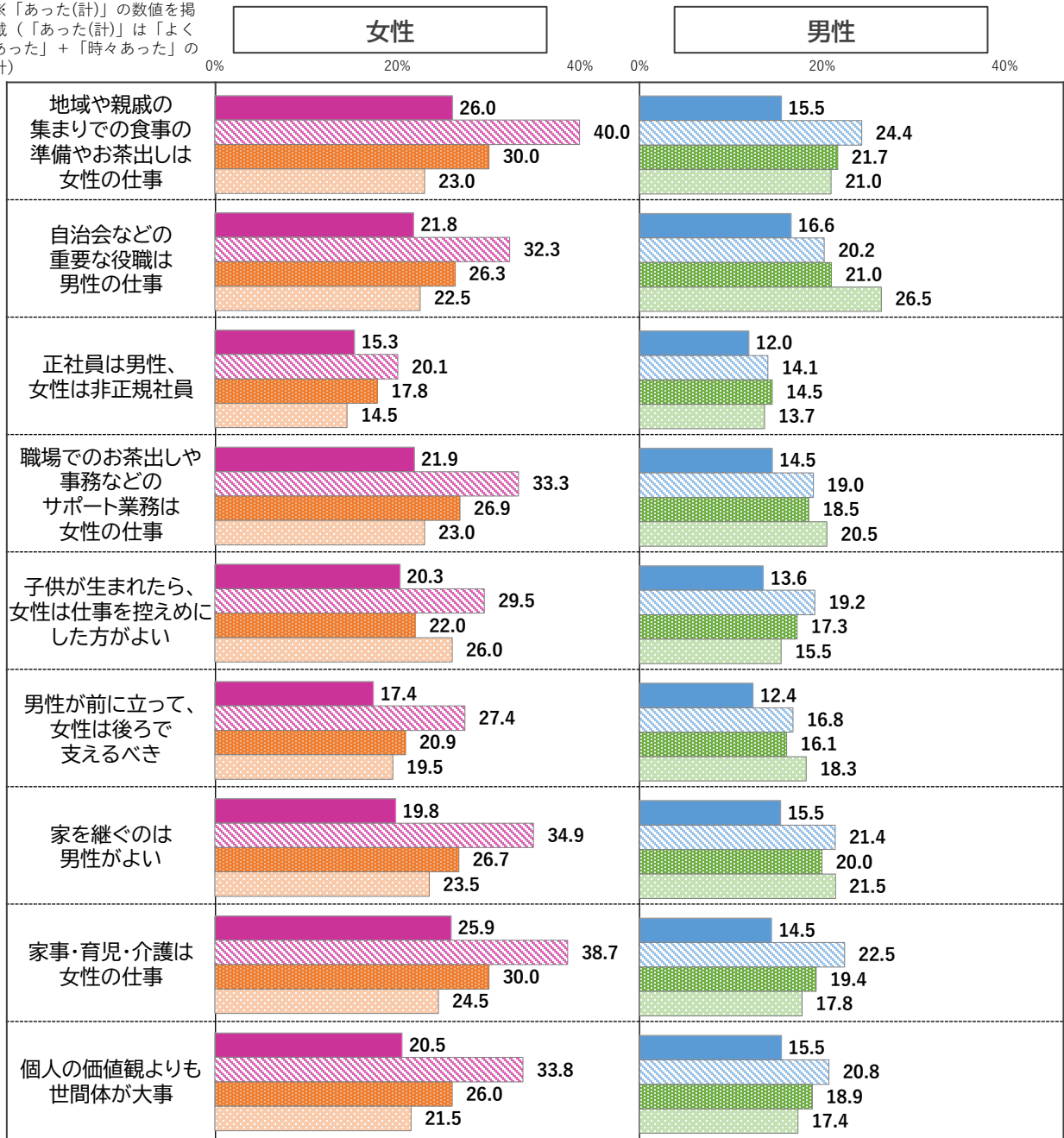
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(1) 出身地域における固定的な性別役割分担意識等の有無(単数回答・Q44)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域・現住地域別

- ・あった(計)と感じている人の割合を、出身地域・現住地域別にみると、全ての項目で地方出身・都会居住層の女性が高い。
- ・地方出身・都会居住層と地方出身・地方居住層の女性を比較すると、ほとんどの項目で地方出身・都会居住層の方が高い。「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」で最も差が大きく、次いで、「家事・育児・介護は女性の仕事」「家を継ぐのは男性がよい」「個人の価値観よりも世間体が大事」「子供が生まれたら、女性は仕事を控えめにした方がよい」。
- ・地方出身・都会居住層の男女で比較すると、ほとんどの項目で女性の方が高い。
- ・男性では全ての項目で、都会出身・都会居住層のあった(計)と感じている人の割合が、他の区分に比べて低い。

※「あった(計)」の数値を掲載
 (「あった(計)」は「よくあった」+「時々あった」の計)



■ 女性/都会出身・都会居住層(n=1,267)
 ■ 女性/地方出身・都会居住層(n=613)
 ■ 女性/地方出身・地方居住層(n=2,799)
 ■ 女性/都会出身・地方居住層(n=200)

■ 男性/都会出身・都会居住層(n=1,320)
 ■ 男性/地方出身・都会居住層(n=583)
 ■ 男性/地方出身・地方居住層(n=2,976)
 ■ 男性/都会出身・地方居住層(n=219)

5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

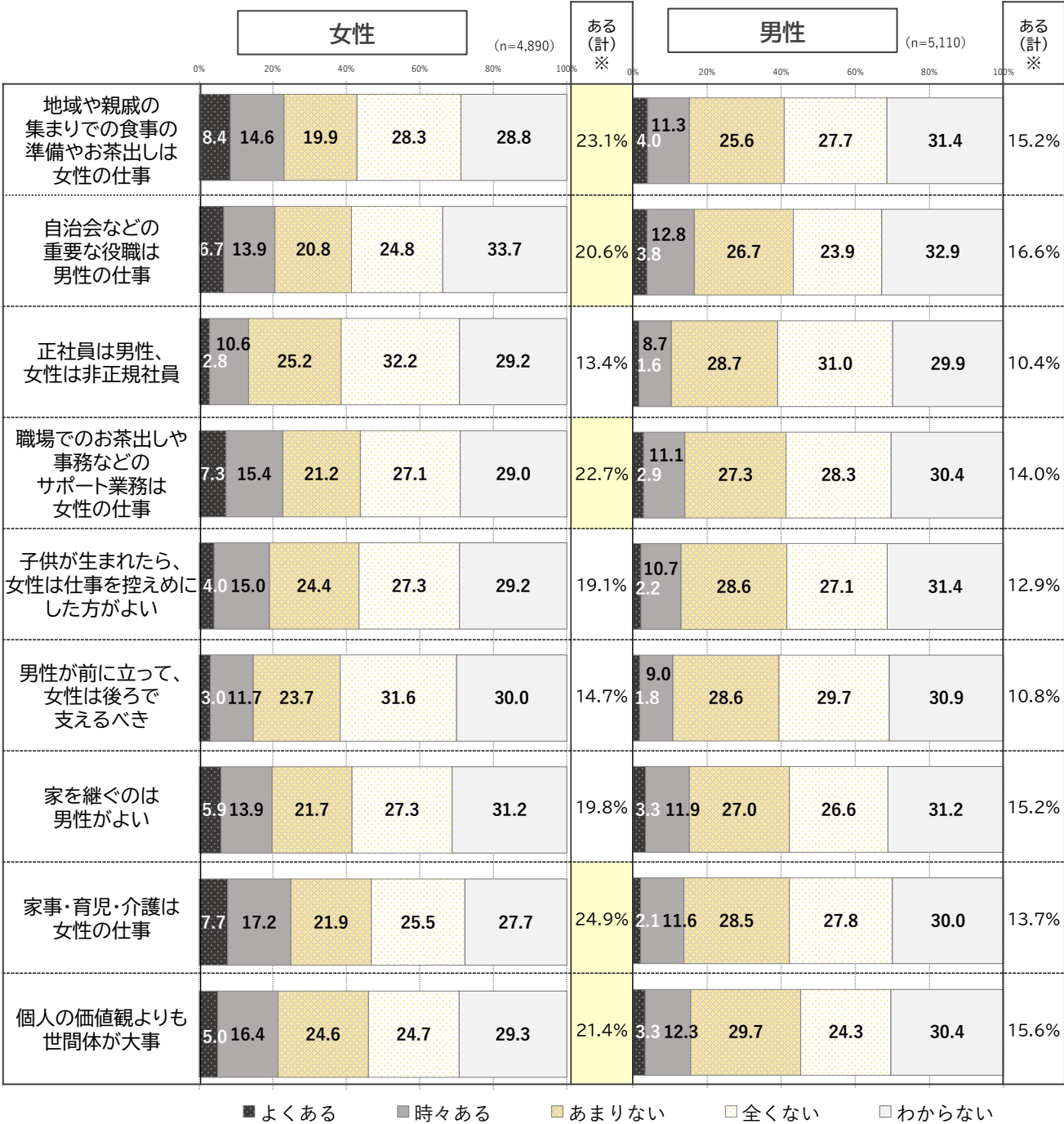
(2) 現住地域や勤務先における固定的な性別役割分担意識等の有無(単数回答・Q43)

【対象】全員

- ある(計)と感じている人の割合をみると、女性では「家事・育児・介護は女性の仕事」「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」「個人の価値観よりも世間体が大事」「自治会などの重要な役職は男性の仕事」で2割を超える。一方、男性では2割を超える項目はない。
- 全ての項目で、男性に比べて女性の方がある(計)と感じている人の割合が高い。男女差をみると、「家事・育児・介護は女性の仕事」で女性の方が11.2%ポイント高く、最も差が大きい。

※20%を超えるセルに薄黄色色掛け

※「ある(計)」は「よくある」+「時々ある」の計

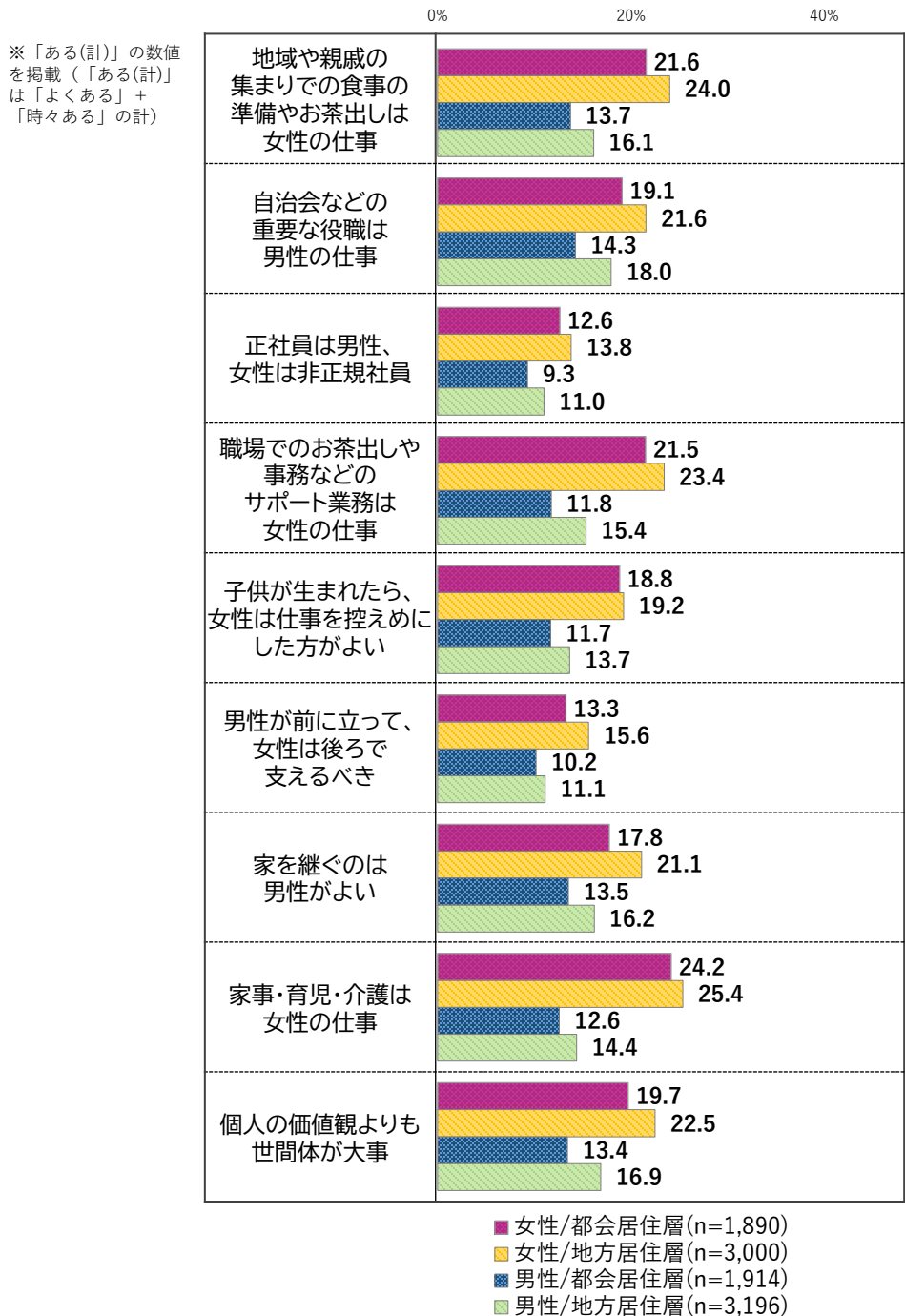


5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(2) 現住地域や勤務先における固定的な性別役割分担意識等の有無(単数回答・Q43)

【対象】全員 【分析軸】現住地域別

- ある(計)と感じている人の割合を現住地域別にみると、全ての項目で地方居住層の女性が最も高い。
- いずれの地域でも、全ての項目で、男性に比べて女性の方が高い。
- いずれの地域でも、「家事・育児・介護は女性の仕事」「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」「子供が生まれたら、女性は仕事を控えめにした方がよい」「個人の価値観よりも世間体が大事」等で男女差が大きい。



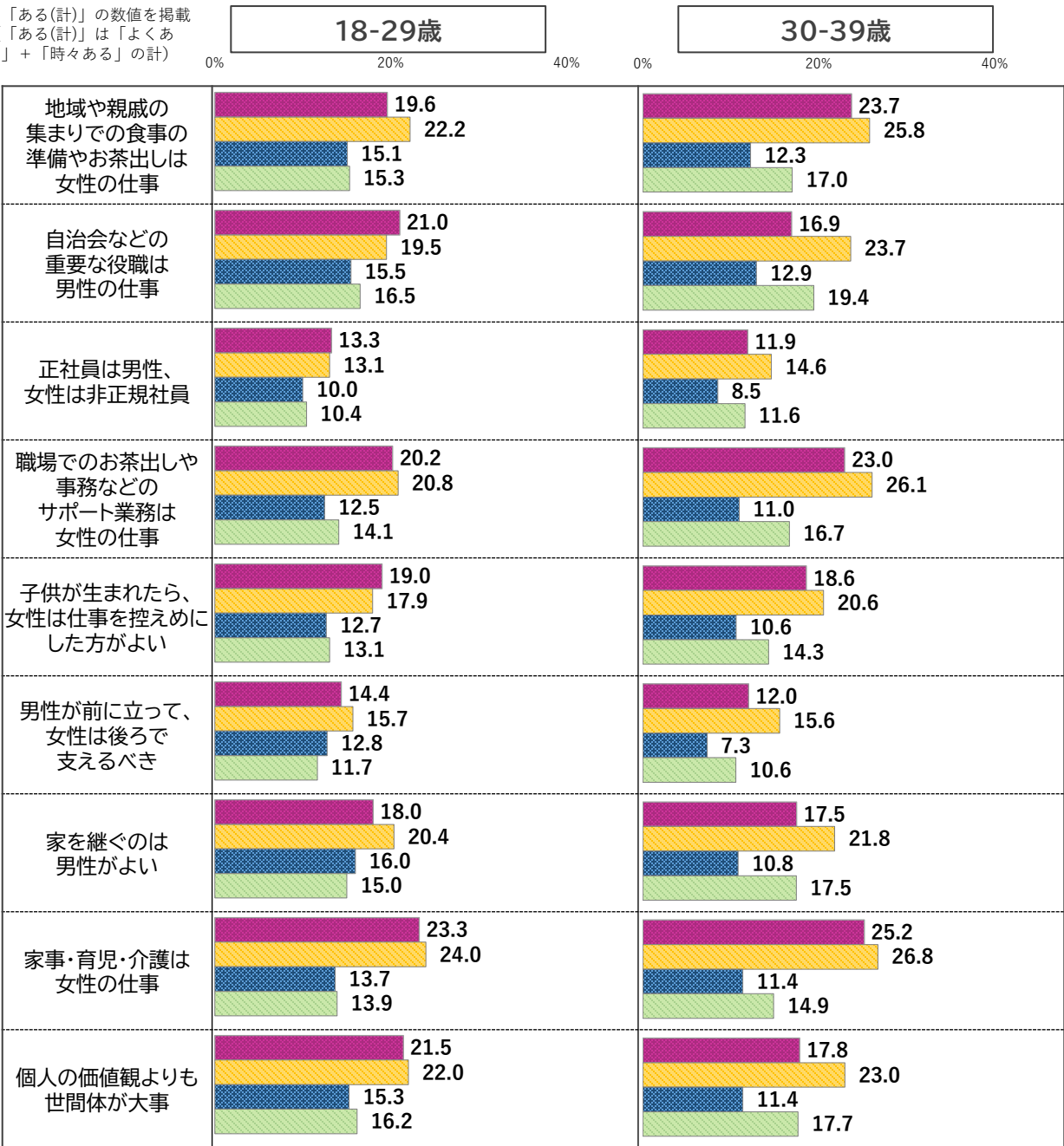
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(2) 現住地域や勤務先における固定的な性別役割分担意識等の有無(単数回答・Q43)

【対象】全員 【分析軸】年代、現住地域別

- ある(計)と感じている人の割合を年代、現住地域別にみると、ほとんどの項目で地方居住層の30-39歳女性が高い。
- 地方居住層の女性を年代別にみると、いずれの年代でも「家事・育児・介護は女性の仕事」が最も高く、次いで、18-29歳では「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」、30-39歳では「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」。ほとんどの項目で、18-29歳に比べて、30-39歳の方が高く、「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」で最も差が大きい。
- 都会居住層の男性では、全ての項目で、30-39歳に比べて、18-29歳の方が高く、「男性が前に立って、女性は後ろで支えるべき」で最も差が大きい。
- 総じて、都会居住層の30-39歳で最も男女差が大きい。

※「ある(計)」の数値を掲載
(「ある(計)」は「よくある」+「時々ある」の計)



■ 女性/都会居住層(n=993)
■ 女性/地方居住層(n=1,516)
■ 男性/都会居住層(n=1,001)
■ 男性/地方居住層(n=1,638)

■ 女性/都会居住層(n=897)
■ 女性/地方居住層(n=1,484)
■ 男性/都会居住層(n=913)
■ 男性/地方居住層(n=1,558)

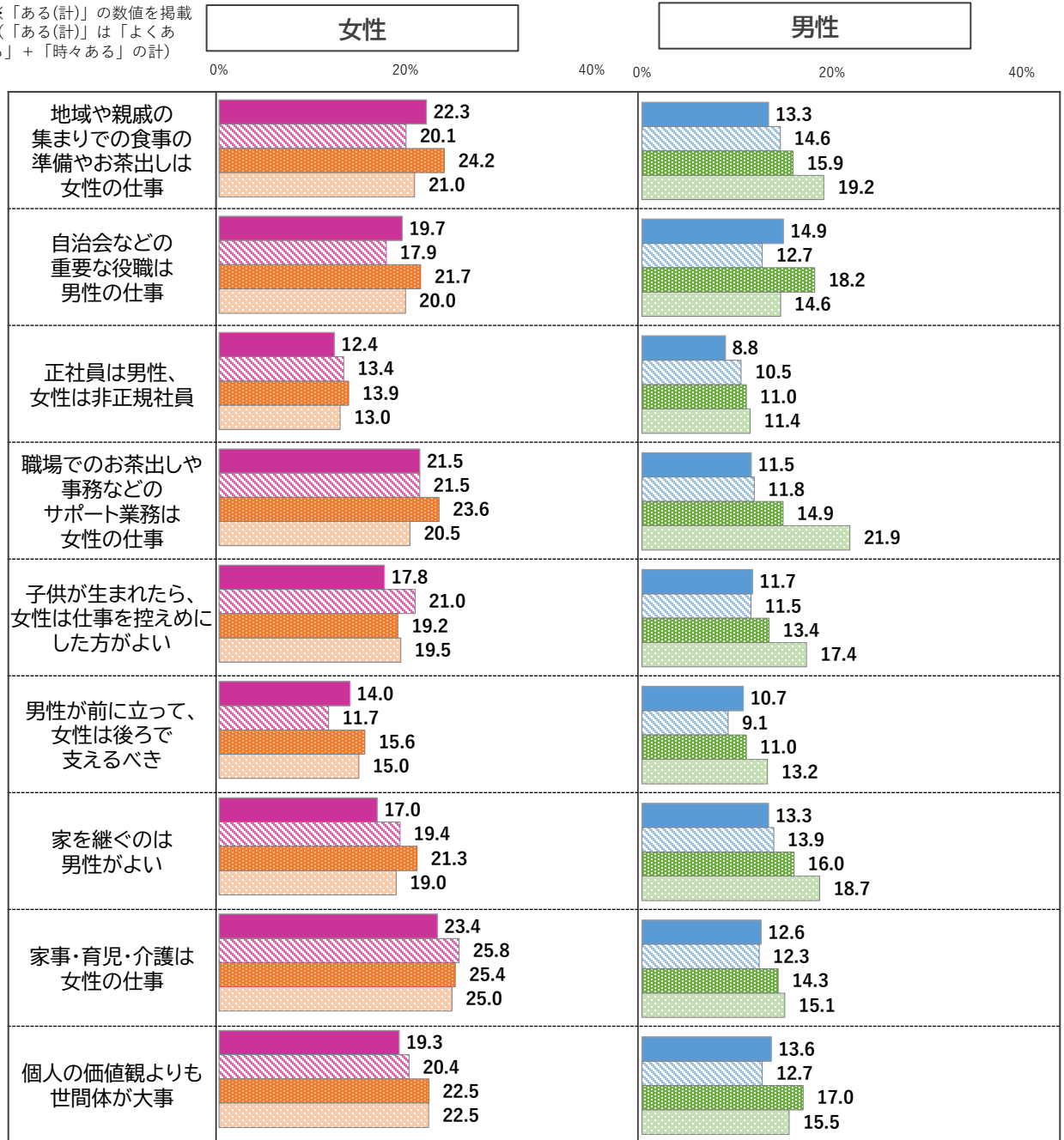
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(2) 現住地域や勤務先における固定的な性別役割分担意識等の有無(単数回答・Q43)

【対象】全員 【分析軸】出身地域・現住地域別

- ある(計)と感じている人の割合をみると、女性では、地方出身・地方居住層で最も高い項目が多いが、あまり大きな差はみられない。なお、全ての区分で「家事・育児・介護は女性の仕事」が最も高い。
- 男性では、都会出身・都会居住層で高い項目が多い。なお、都会出身・都会居住層、地方出身・地方居住層では、「自治会などの重要な役職は男性の仕事」が最も高い。
- いずれの区分でも、女性の方が高い項目が多い。「家事・育児・介護は女性の仕事」で男女差が最も大きい。

※「ある(計)」の数値を掲載
(「ある(計)」は「よくある」+「時々ある」の計)



■ 女性/都会出身・都会居住層(n=1,267)
 ■ 女性/地方出身・都会居住層(n=613)
 ■ 女性/地方出身・地方居住層(n=2,799)
 ■ 女性/都会出身・地方居住層(n=200)

■ 男性/都会出身・都会居住層(n=1,320)
 ■ 男性/地方出身・都会居住層(n=583)
 ■ 男性/地方出身・地方居住層(n=2,976)
 ■ 男性/都会出身・地方居住層(n=219)

5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(3) 親や親戚から言われたこと(単数回答・Q45)

【対象】全員

- 男女ともに「いずれは結婚してほしい」「いずれは子供を持ってほしい」「地元で仕事を探してほしい」と言われた(計)と感じている人の割合は2割を超える。「地元で進学先を探してほしい」は、女性のみ2割を超える。
- 多くの項目で、男性に比べて、女性の方が言われた(計)と感じている人の割合が高く、「いずれは子供を持ってほしい」で、最も男女差が大きい。

※20%を超えるセルに薄黄色色掛け

※「言われた(計)」は「よく言われた」+「時々言われた」の計

	女性 (n=4,890)				言われた(計) ※	男性 (n=5,110)				言われた(計) ※
	0%	20%	40%	60%		0%	20%	40%	60%	
地元で進学先を探してほしい	8.5	16.4	25.3	49.9	24.8%	4.5	15.0	32.4	48.0	19.5%
地元で仕事を探してほしい	7.5	16.6	25.2	50.7	24.2%	4.3	15.7	32.6	47.4	20.0%
いずれは結婚してほしい	12.9	24.8	23.0	39.3	37.7%	8.2	22.4	29.6	39.8	30.6%
いずれは子供を持ってほしい	12.1	22.3	23.7	41.9	34.4%	6.7	19.6	31.3	42.5	26.3%
結婚したら仕事は辞めた方がよい	8.6	25.9	63.5		10.6%	7.0	31.1	61.3		7.7%
子供を持ったら仕事は辞めた方がよい	9.1	25.7	62.9		11.4%	6.4	31.4	61.5		7.0%
一緒に住んでほしい・いずれは一緒に住んでほしい	11.9	24.4	59.7		16.0%	11.3	32.0	54.1		13.9%
いずれは地元に戻ってきてほしい	12.7	23.5	59.1		17.4%	13.2	30.5	53.2		16.4%
いずれは家を継いでほしい	8.7	23.1	66.0		10.9%	12.1	31.1	53.7		15.2%
いずれは親の面倒をみてほしい	13.1	25.6	57.4		17.0%	13.4	32.9	51.0		16.1%
地元に戻ってこないほうがよい	8.3	23.1	67.2		9.7%	8.8	31.5	58.7		9.8%

■ よく言われた ■時々言われた ■あまり言われなかった □言われたことはない

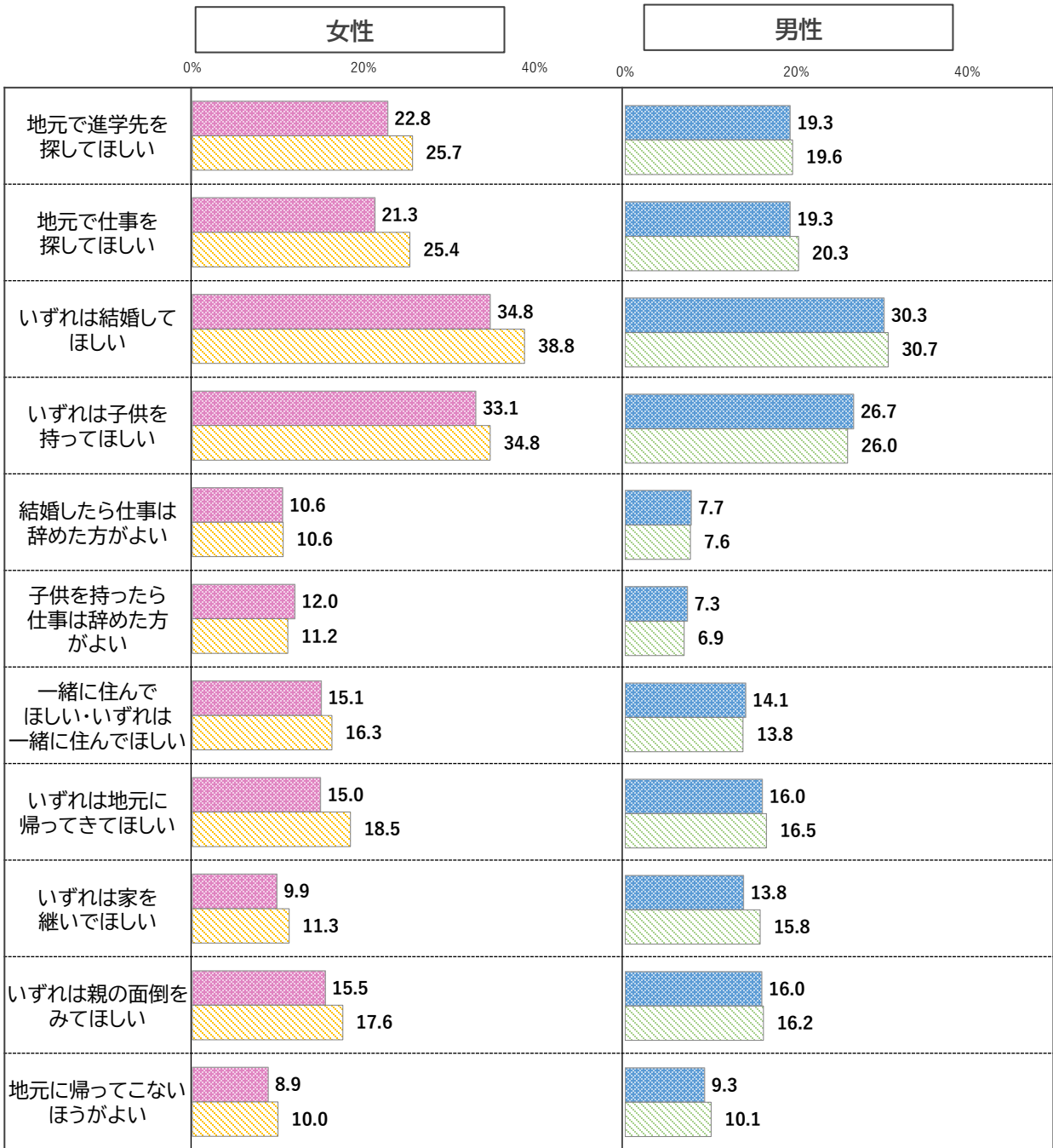
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(3) 親や親戚から言われたこと(単数回答・Q45)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域別

- ・出身地域別にみると、地方出身層の女性で、言われた(計)と感じている人の割合が高い項目が多い。
- ・男女ともに、都会出身層と地方出身層で大きな差はみられない。
- ・男女で比較すると、いずれの区分でも「いずれは子供を持ってほしい」は、女性の方が5%ポイント以上高い。また、「いずれは結婚してほしい」「地元で進学先を探してほしい」「地元で仕事を探してほしい」は、地方出身層のみ、女性の方が5%ポイント以上高い。
- ・一方、「いずれは家を継いでほしい」は、いずれの区分でも男性の方が高い。

※「言われた(計)」の数値を掲載(「言われた(計)」は「よく言われた」+「時々言われた」の計)



■ 女性/都会出身層(n=1,467)

■ 女性/地方出身層(n=3,412)

■ 男性/都会出身層(n=1,539)

■ 男性/地方出身層(n=3,559)

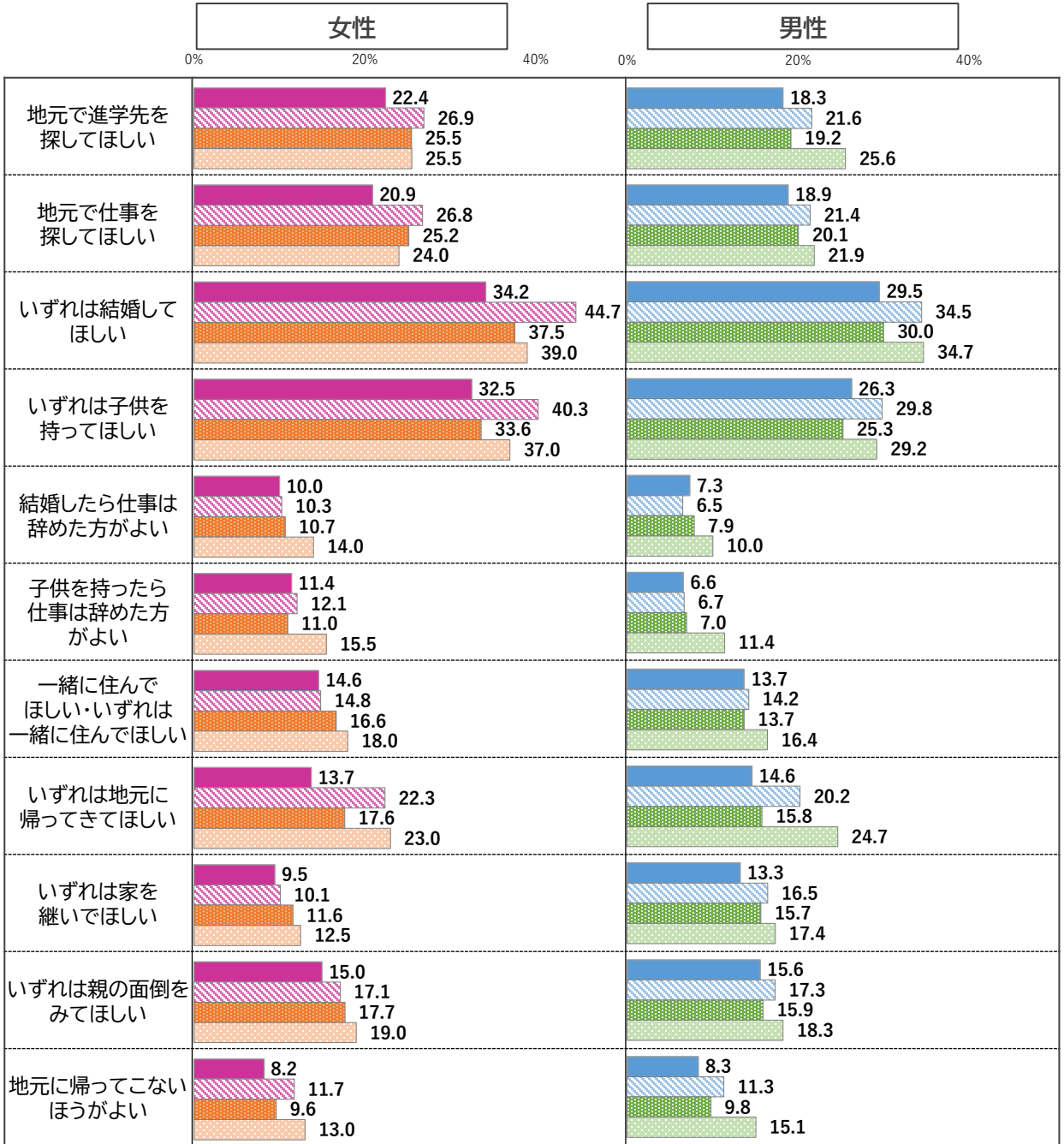
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(3) 親や親戚から言われたこと(単数回答・Q45)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域・現住地域別

- ・女性では、「いずれは結婚してほしい」「いずれは子供を持ってほしい」と言われた(計)と感じている人の割合は、地方出身・都会居住層で4割を超える。また、「いずれは地元に戻ってきてほしい」は、地方出身・都会居住層、都会出身・地方居住層で2割を超える。
- ・男性でも同様に、「いずれは地元に戻ってきてほしい」は、地方出身・都会居住層、都会出身・地方居住層で2割を超える。
- ・いずれの区分でも、男性に比べて、女性の方が高い項目が多く、「いずれは子供を持ってほしい」で男女差が最も大きい。他方、「いずれは家を継いでほしい」は、全ての区分で男性の方が高い。

※「言われた(計)」の数値を掲載(「言われた(計)」は「よく言われた」+「時々言われた」の計)



■ 女性/都会出身・都会居住層(n=1,267)
■ 女性/地方出身・都会居住層(n=613)
■ 女性/地方出身・地方居住層(n=2,799)
■ 女性/都会出身・地方居住層(n=200)

■ 男性/都会出身・都会居住層(n=1,320)
■ 男性/地方出身・都会居住層(n=583)
■ 男性/地方出身・地方居住層(n=2,976)
■ 男性/都会出身・地方居住層(n=219)

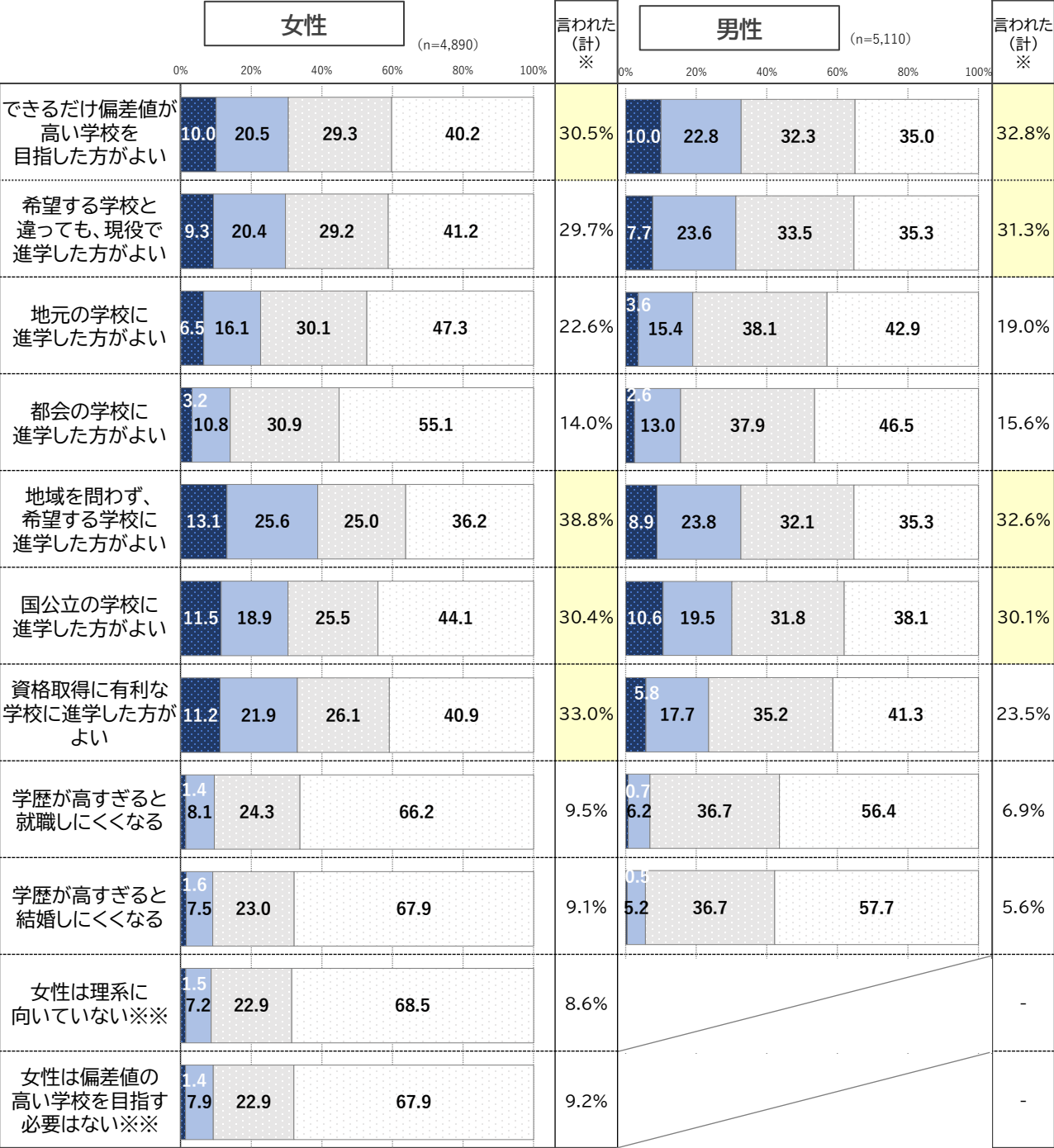
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(4) 大学等への進学検討時に周囲の人から言われたこと(単数回答・Q32)

【対象】全員

- 男女ともに「地域を問わず、希望する学校に進学した方がよい」「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」「国公立の学校に進学した方がよい」と言われた(計)と感じている人の割合は3割を超える。「資格取得に有利な学校に進学した方がよい」は、女性でのみ3割を超え、「希望する学校と違って、現役で進学した方がよい」は、男性でのみ3割を超える。
- 全体的に男女差はあまりないが、「資格取得に有利な学校に進学した方がよい」は、女性の方が9.5ポイント高く、最も差が大きい。

※30%を超えるセルに薄黄色色掛け ※「言われた(計)」は「よく言われた」+「時々言われた」の計



※※女性のみ提示 ■ よく言われた ■ 時々言われた ■ あまり言われなかった □ 言われなかった

※Q32選択肢の「都会」は回答者の主観による。

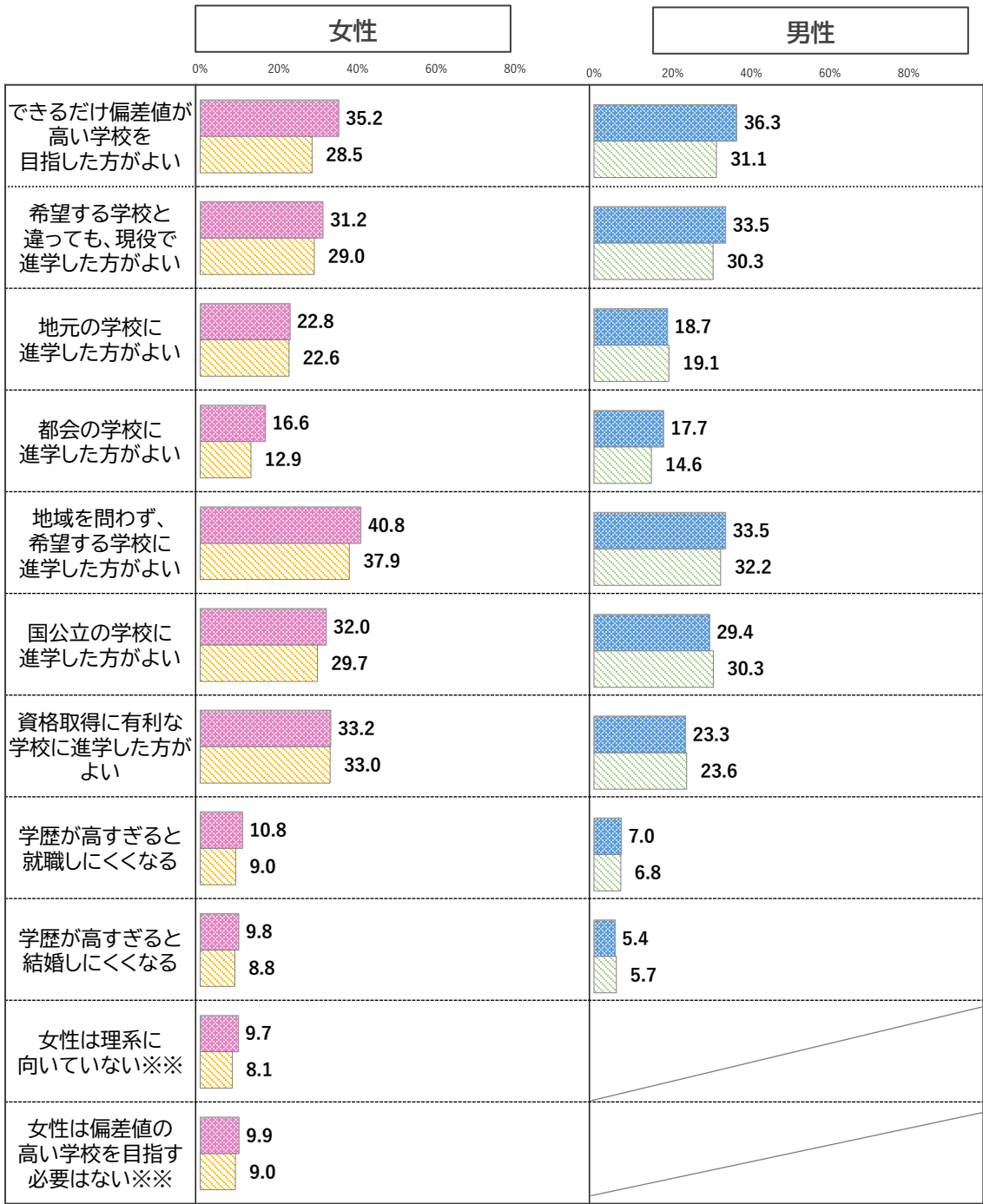
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(4) 大学等への進学検討時に周囲の人から言われたこと(単数回答・Q32)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域別

- 男女ともに、地方出身層に比べて、都会出身層の方が、「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」等と言われた(計)と感じている人の割合が高い。
- 全体的に男女差はあまりないが、「資格取得に有利な学校に進学した方がよい」等は、女性の方が高い。

※「言われた(計)」の数値を掲載(「言われた(計)」は「よく言われた」+「時々言われた」の計)



※※女性のみ提示

■ 女性/都会出身層(n=1,467)

■ 女性/地方出身層(n=3,412)

■ 男性/都会出身層(n=1,539)

■ 男性/地方出身層(n=3,559)

※Q32選択肢の「都会」は回答者の主観による。

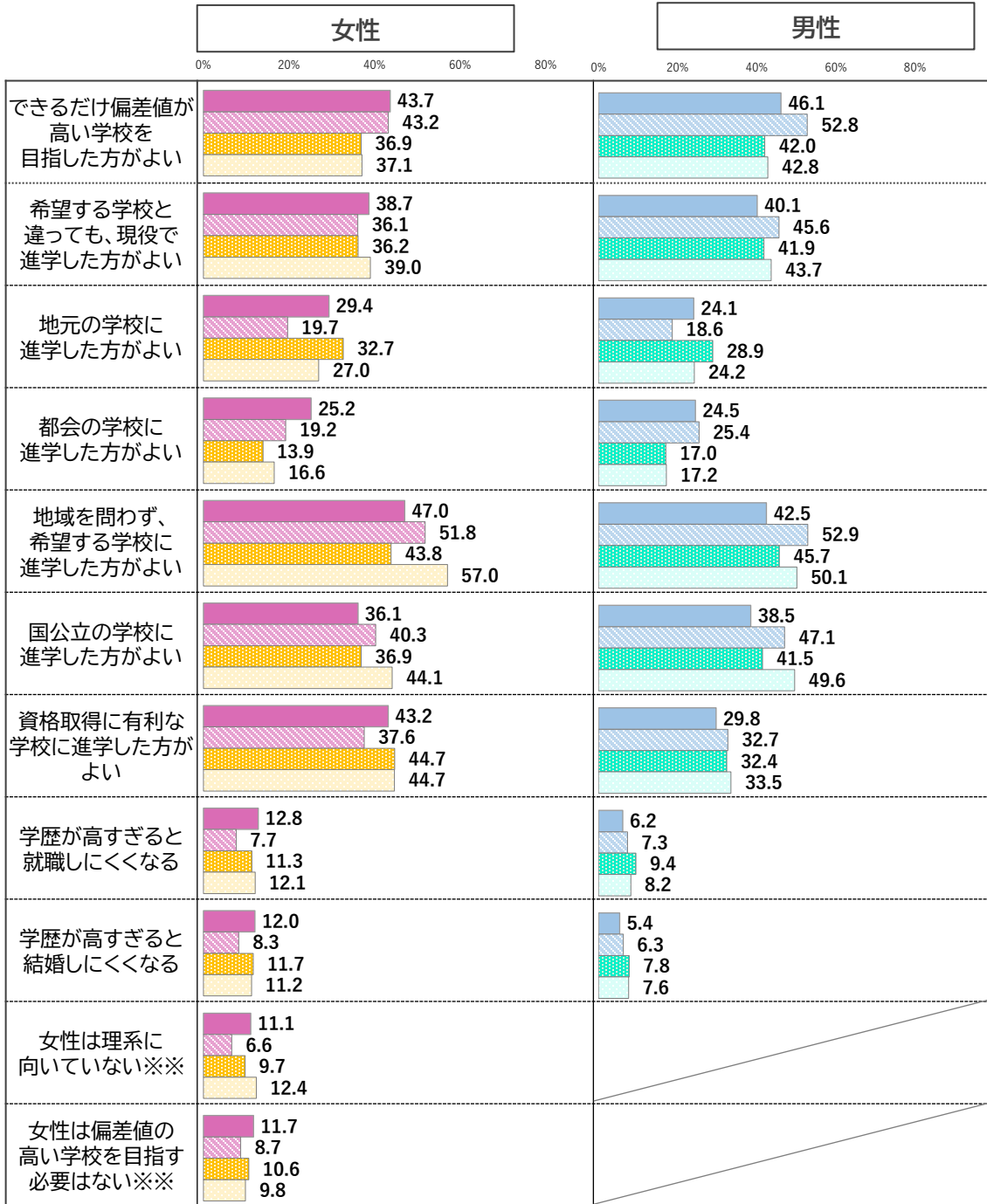
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(4) 大学等への進学検討時に周囲の人から言われたこと(単数回答・Q32)

【対象】最終学歴が大学・短大・専門学校等 【分析軸】進学希望地域(Q28・複数回答)別

- 進学希望地域別にみると、「地域を問わず、希望する学校に進学した方がよい」と言われた(計)と感じている人の割合は、「女性/当時住んでいた地域以外の地方の学校」で57.0%と最も高い。
- 「当時住んでいた地域(都会)の学校」「当時住んでいた地域(地方)の学校」希望者についてみると、「地元の学校に進学した方がよい」は、男性に比べ女性の方が高い。
- 「資格取得に有利な学校に進学した方がよい」は、全体的に女性の方が高いが、「当時住んでいた地域以外の都会の学校」希望者では、37.6%と他の区分に比べて低い。

※「言われた(計)」の数値を掲載(「言われた(計)」は「よく言われた」+「時々言われた」の計)



※※女性のみ提示

■ 女性/当時住んでいた地域(都会)の学校(n=623)
■ 女性/当時住んでいた地域以外の都会の学校(n=859)
■ 女性/当時住んでいた地域(地方)の学校(n=575)
■ 女性/当時住んでいた地域以外の地方の学校(n=356)

■ 男性/当時住んでいた地域(都会)の学校(n=763)
■ 男性/当時住んでいた地域以外の都会の学校(n=752)
■ 男性/当時住んでいた地域(地方)の学校(n=540)
■ 男性/当時住んでいた地域以外の地方の学校(n=355)

※Q32選択肢の「都会」は回答者の主観による。

5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(5) 大学等への進路の検討に関する自分の意見(単数回答・Q33)

【対象】全員

- ・そう思う(計)の割合は、男女ともに「地域を問わず、希望する学校に進学した方がよい」が女性で64.0%、男性で52.3%と最も高い。また、「資格取得に有利な学校に進学した方がよい」は、女性で57.5%と高い。
- ・全体的に男女差はあまりないが、「資格取得に有利な学校に進学した方がよい」「地域を問わず、希望する学校に進学した方がよい」等は女性の方が高い。

※50%を超えるセルに薄黄色色掛け

※「そう思う(計)」は「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の計

女性 (n = 4,890)					そう思う (計) ※	男性 (n = 5,110)					そう思う (計) ※
0%20%40%60%80%100%						0%20%40%60%80%100%					
できるだけ偏差値が 高い学校を 目指した方がよい	12.1	34.3	28.7	25.0	46.3%	13.9	34.2	29.6	22.4	48.1%	
希望する学校と 違って、現役で 進学した方がよい	9.8	31.9	33.7	24.7	41.7%	10.2	32.7	34.6	22.5	42.9%	
地元の学校に 進学した方がよい	4.0	19.4	41.0	35.6	23.4%	4.4	22.1	42.7	30.8	26.5%	
都会の学校に 進学した方がよい	6.0	22.9	38.9	32.2	28.9%	6.8	25.3	39.6	28.4	32.0%	
地域を問わず、 希望する学校に 進学した方がよい	31.3	32.6	19.1	16.9	64.0%	20.1	32.2	28.0	19.7	52.3%	
国公立の学校に 進学した方がよい	11.2	30.4	32.4	26.0	41.6%	11.2	32.6	33.0	23.2	43.8%	
資格取得に有利な 学校に進学した方が よい	19.1	38.4	23.2	19.3	57.5%	11.4	34.1	31.8	22.6	45.6%	
学歴が高すぎると 就職しにくくなる	1.6	9.8	32.2	56.4	11.4%	1.4	12.8	37.5	48.3	14.2%	
学歴が高すぎると 結婚しにくくなる	1.5	9.2	31.2	58.0	10.7%	1.6	10.8	38.6	49.0	12.4%	
女性は理系に 向いていない	1.5	8.1	28.4	62.1	9.5%	1.8	10.7	35.3	52.2	12.5%	
女性は偏差値の 高い学校を目指す 必要はない	1.3	9.1	27.8	61.9	10.3%	1.6	11.0	35.3	52.1	12.6%	

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない

※Q33選択肢の「都会」は回答者の主観による。

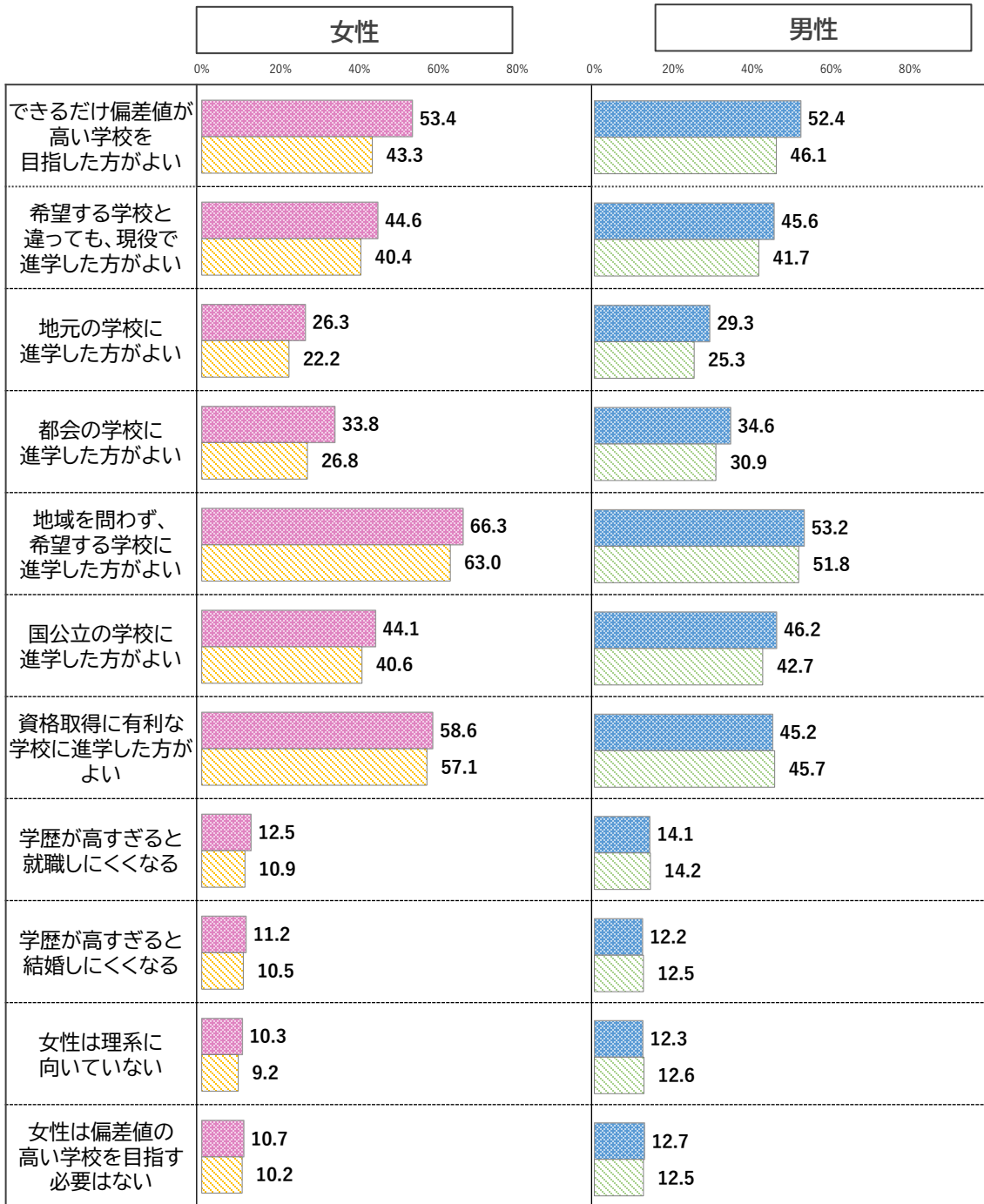
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(5) 大学等への進路の検討に関する自分の意見(単数回答・Q33)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域別

- ・そう思う(計)の割合をみると、女性では、「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」は、地方出身層に比べて、都会出身層の方が10.1%ポイント高い。
- ・全体的に男女差はあまりないが、「資格取得に有利な学校に進学した方がよい」「地域を問わず、希望する学校に進学した方がよい」等はいずれの区分でも女性の方が高い。

※「そう思う(計)」の数値を掲載(「そう思う(計)」は「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の計)



■ 女性/都会出身層(n=1,467)

■ 女性/地方出身層(n=3,412)

■ 男性/都会出身層(n=1,539)

■ 男性/地方出身層(n=3,559)

※Q33選択肢の「都会」は回答者の主観による。

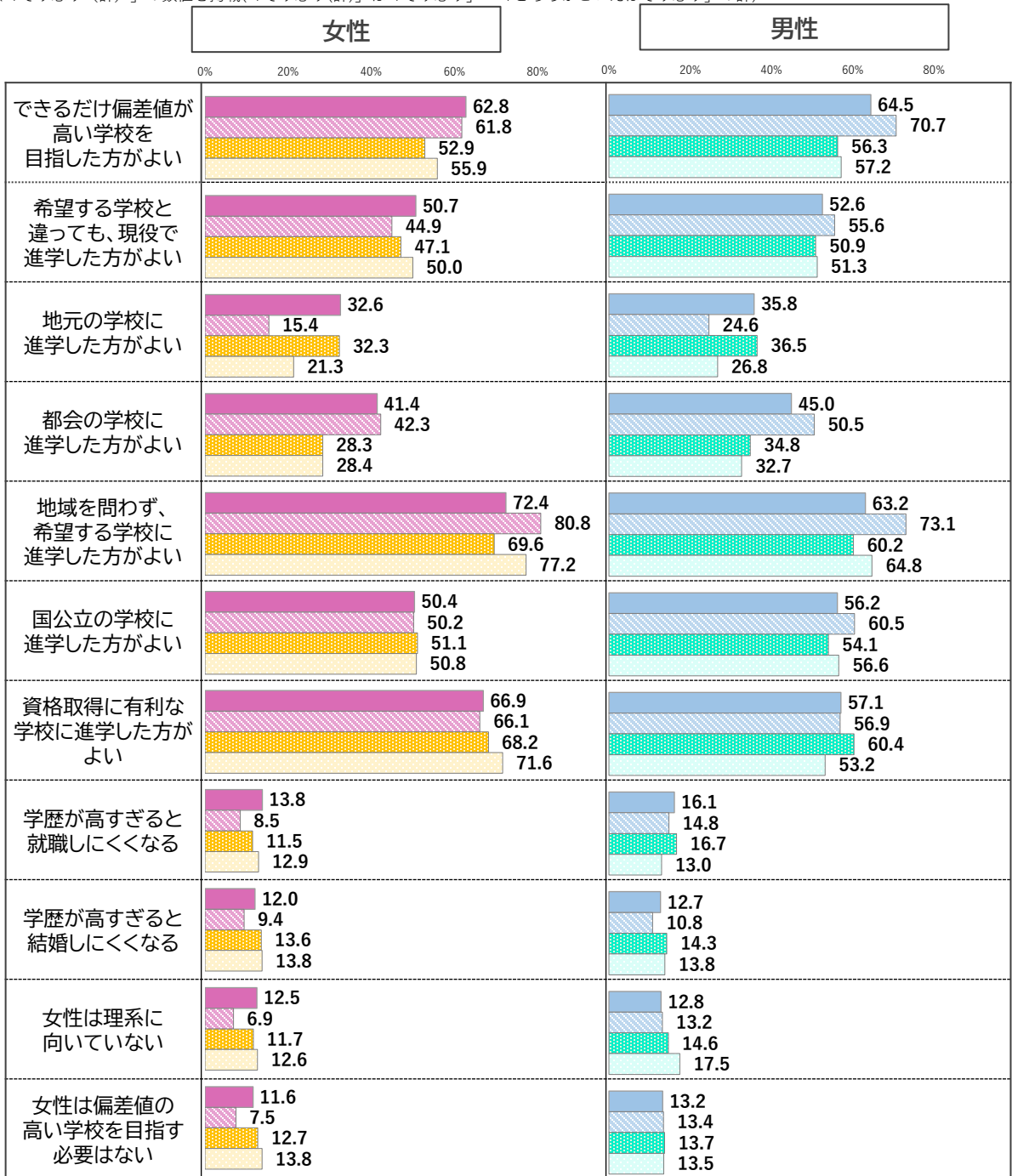
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(5) 大学等への進路の検討に関する自分の意見(単数回答・Q33)

【対象】全員 【分析軸】進学希望地域(Q28・複数回答)別

- ・そう思う(計)の割合を進学希望地域別にみると、「地域を問わず、希望する学校に進学した方がよい」は、「女性/当時住んでいた地域以外の都会の学校」で80.8%と最も高い。「当時住んでいた地域(都会)の学校」「当時住んでいた地域(地方)の学校」希望者についてみると、「地元の学校に進学した方がよい」は、男女ともにいずれも32～35%程度。
- ・「資格取得に有利な学校に進学した方がよい」は、男性に比べて、女性の方が高く、いずれの区分でも7割程度。
- ・「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」は、男女ともに地方進学希望者に比べて、都会進学希望者の方が高い。

※「そう思う(計)」の数値を掲載(「そう思う(計)」は「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の計)



※選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

■ 男性/当時住んでいた地域(都会)の学校(n=763)
■ 男性/当時住んでいた地域以外の都会の学校(n=752)
■ 男性/当時住んでいた地域(地方)の学校(n=540)
■ 男性/当時住んでいた地域以外の地方の学校(n=355)

5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

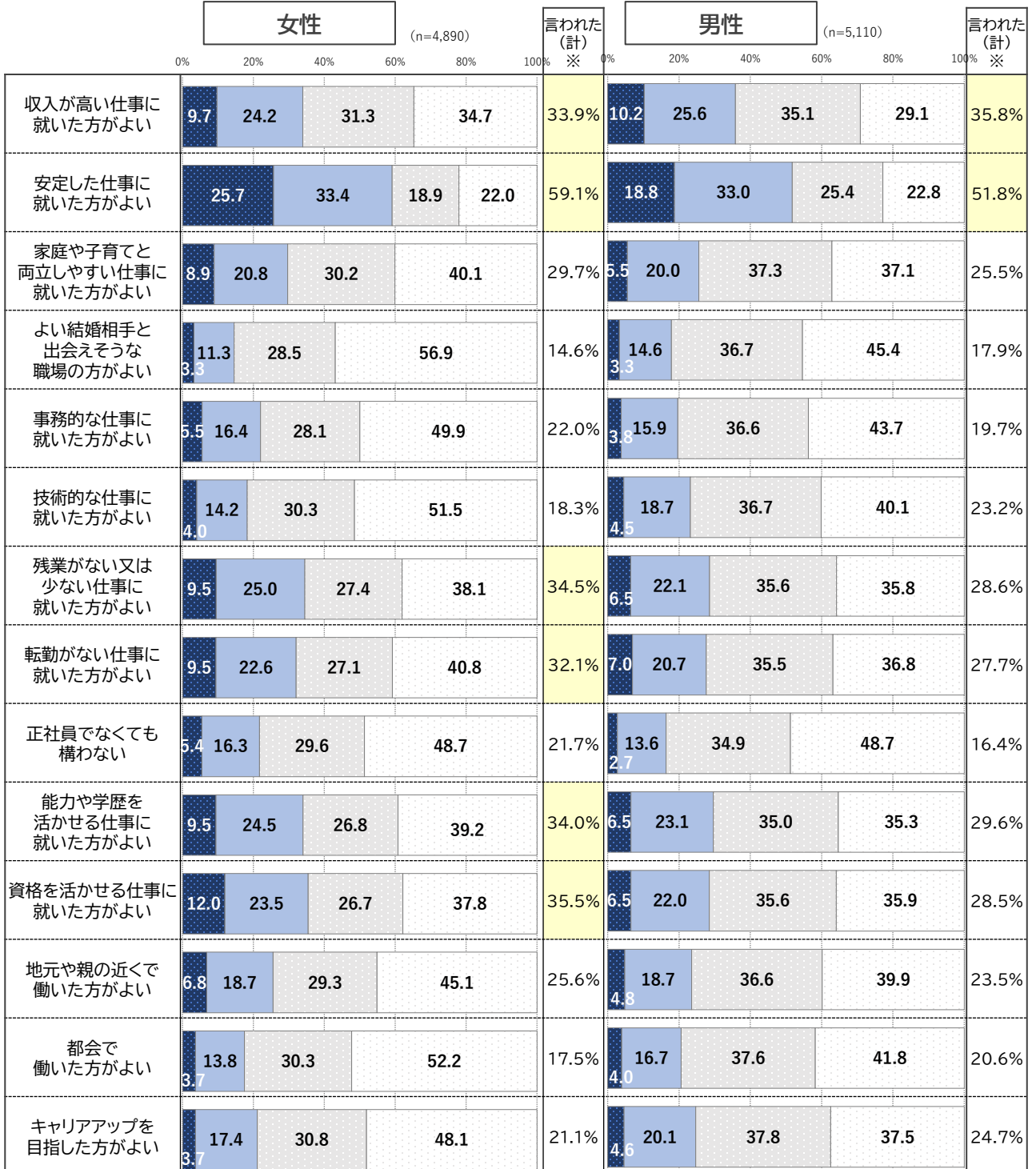
(6) 仕事や就職先の検討について周囲の人から言われたこと(単数回答・Q36)

【対象】全員

- 男女ともに「安定した仕事に就いた方がよい」「収入が高い仕事に就いた方がよい」と言われた(計)と感じている人の割合は3割を超える。「資格を活かせる仕事に就いた方がよい」「残業がない又は少ない仕事に就いた方がよい」「能力や学歴を活かせる仕事に就いた方がよい」「転勤がない仕事に就いた方がよい」は、女性でのみ3割を超える。
- 全体的に男女差はあまりないが、「安定した仕事に就いた方がよい」「資格を活かせる仕事に就いた方がよい」「残業がない又は少ない仕事に就いた方がよい」「正社員でなくても構わない」等は、女性の方が高い。

※30%を超えるセルに薄黄色色掛け

※「言われた(計)」は「よく言われた」+「時々言われた」の計



※Q36選択肢の「都会」は回答者の主観による。

■ よく言われた ■ 時々言われた ■ あまり言われなかった □ 言われなかった

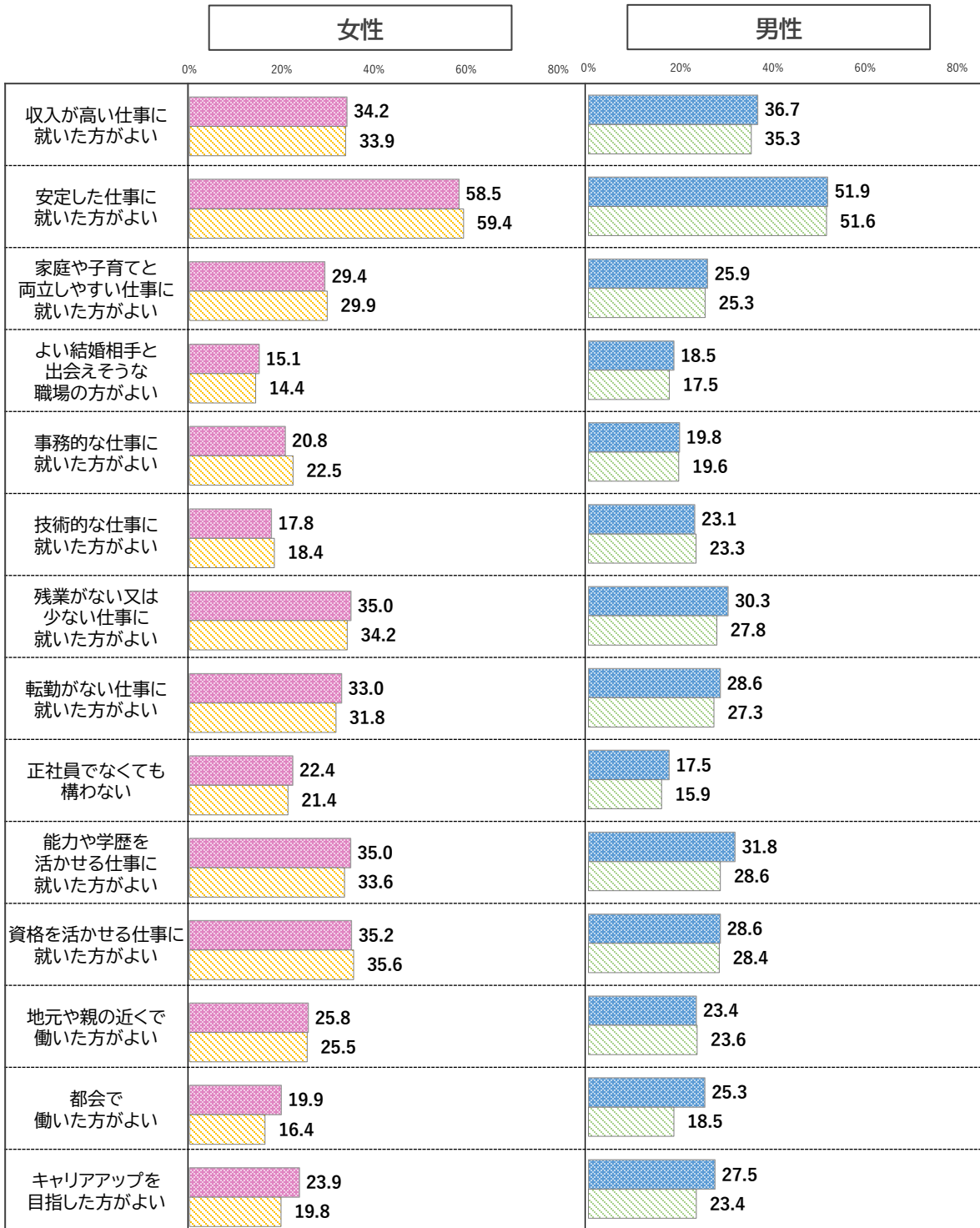
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(6) 仕事や就職先の検討について周囲の人から言われたこと(単数回答・Q36)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域別

- 出身地域別にみると、「安定した仕事に就いた方がよい」「資格を活かせる仕事に就いた方がよい」と言われた(計)と感じている人の割合は、いずれの区分でも、男性に比べて女性の方が5%ポイント以上高い。
- 男女ともに、出身地域による差はあまりないが、「都会で働いた方がよい」「キャリアアップを目指した方がよい」は、都会出身層の方が少し高い。

※「言われた(計)」の数値を掲載(「言われた(計)」は「よく言われた」+「時々言われた」の計)



※Q36選択肢の「都会」は回答者の主観による。

■ 女性/都会出身層(n=1,467)
■ 女性/地方出身層(n=3,412)

■ 男性/都会出身層(n=1,539)
■ 男性/地方出身層(n=3,559)

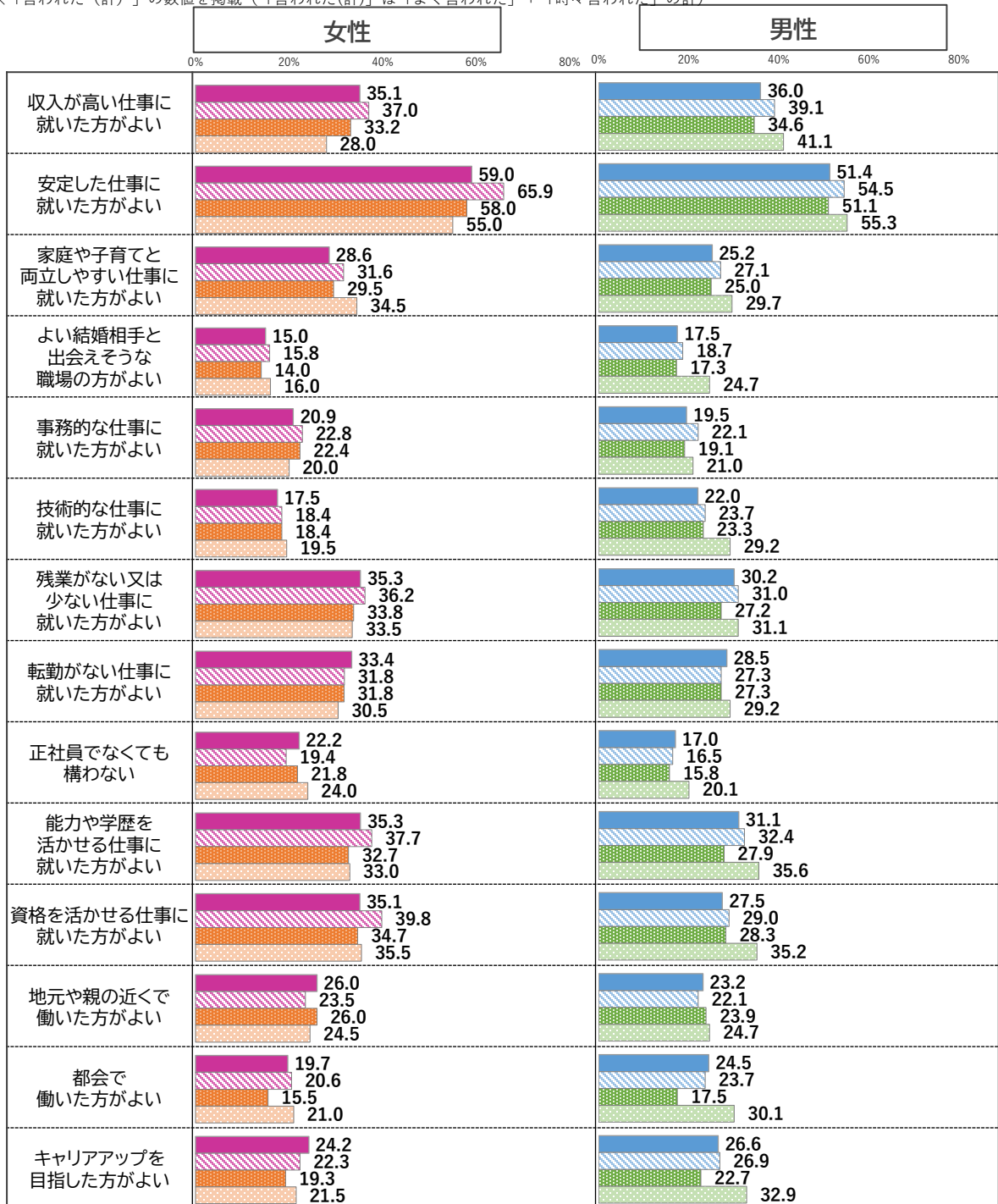
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(6) 仕事や就職先の検討について周囲の人から言われたこと(単数回答・Q36)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域・現住地域別

- ・出身地域・現住地域別にみると、「安定した仕事に就いた方がよい」と言われた(計)と感じている人の割合は、地方出身・都会居住層の女性で65.9%と、他の区分に比べて高い。
- ・地方出身・都会居住層と地方出身・地方居住層で比較すると、女性では、「安定した仕事に就いた方がよい」「能力や学歴を活かせる仕事に就いた方がよい」「資格を活かせる仕事に就いた方がよい」「都会で働いた方がよい」等は、地方出身・都会居住層の方が高い。男性では、「都会で働いた方がよい」等は、地方出身・都会居住層の方が高い。

※「言われた(計)」の数値を掲載(「言われた(計)」は「よく言われた」+「時々言われた」の計)



※Q36選択肢の「都会」は回答者の主観による。

■ 女性/都会出身・都会居住層(n=1,267)
 ■ 女性/地方出身・都会居住層(n=613)
 ■ 女性/地方出身・地方居住層(n=2,799)
 ■ 女性/都会出身・地方居住層(n=200)
 ■ 男性/都会出身・都会居住層(n=1,320)
 ■ 男性/地方出身・都会居住層(n=583)
 ■ 男性/地方出身・地方居住層(n=2,976)
 ■ 男性/都会出身・地方居住層(n=219)

5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

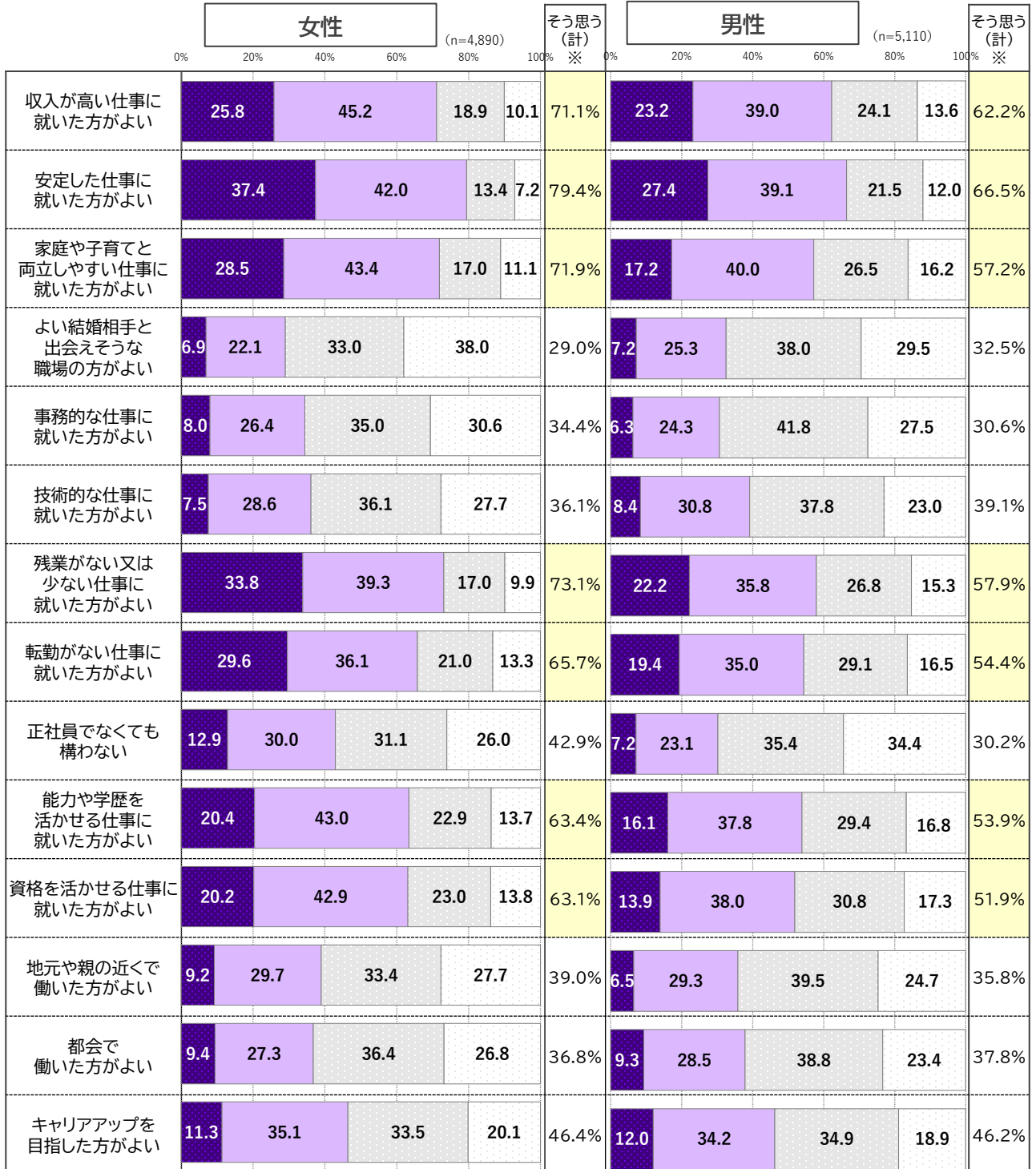
(7) 仕事や就職先の検討に関する自分の意見(単数回答・Q37)

【対象】全員

- ・そう思う(計)の割合をみると、男女ともに「安定した仕事に就いた方がよい」「残業がない又は少ない仕事に就いた方がよい」「収入が高い仕事に就いた方がよい」「家庭や子育てと両立しやすい仕事に就いた方がよい」「転職がない仕事に就いた方がよい」「能力や学歴を活かせる仕事に就いた方がよい」「資格を活かせる仕事に就いた方がよい」で5割を超える。
- ・男女差をみると、「残業がない又は少ない仕事に就いた方がよい」「家庭や子育てと両立しやすい仕事に就いた方がよい」「安定した仕事に就いた方がよい」「正社員でなくても構わない」「転職がない仕事に就いた方がよい」「資格を活かせる仕事に就いた方がよい」等は女性の方が高い。

※50%を超えるセルに薄黄色色掛け

※「そう思う(計)」は「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の計



※Q37選択肢の「都会」は回答者の主観による。

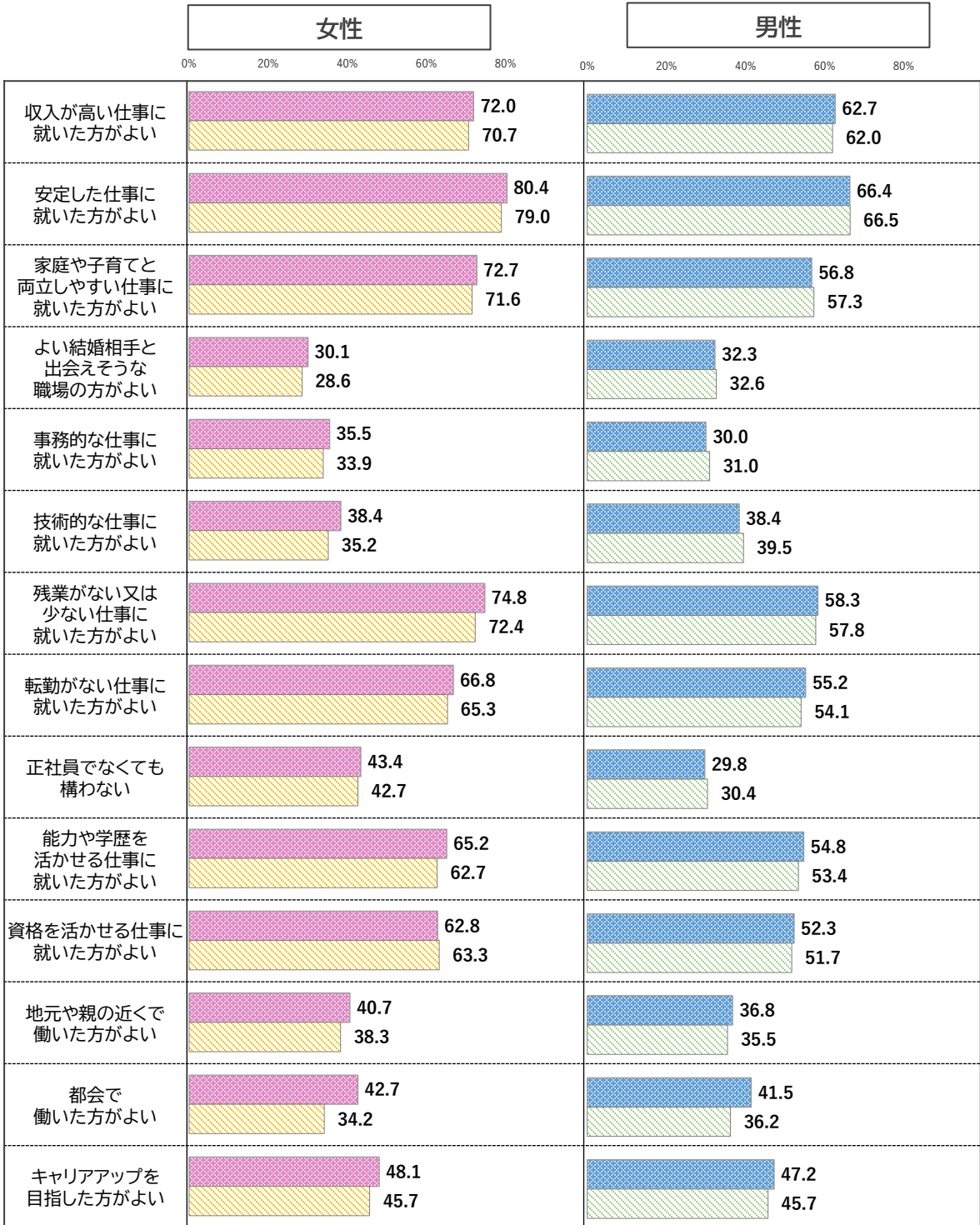
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(7) 仕事や就職先の検討に関する自分の意見(単数回答・Q37)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域別

- ・そう思う(計)の割合を出身地域別にみると、「残業がない又は少ない仕事に就いた方がよい」「家庭や子育てと両立しやすい仕事に就いた方がよい」「安定した仕事に就いた方がよい」「正社員でなくても構わない」「転勤がない仕事に就いた方がよい」「資格を活かせる仕事に就いた方がよい」は、いずれの区分でも、女性の方が10%ポイント以上高い。
- ・男女ともに、出身地域による差はあまりないが、「都会で働いた方がよい」は都会出身層の方が高い。

※「そう思う(計)」の数値を掲載(「そう思う(計)」は「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の計)



※Q37選択肢の「都会」は回答者の主観による。

■ 女性/都会出身層(n=1,467) ■ 男性/都会出身層(n=1,539)

■ 女性/地方出身層(n=3,412) ■ 男性/地方出身層(n=3,559)

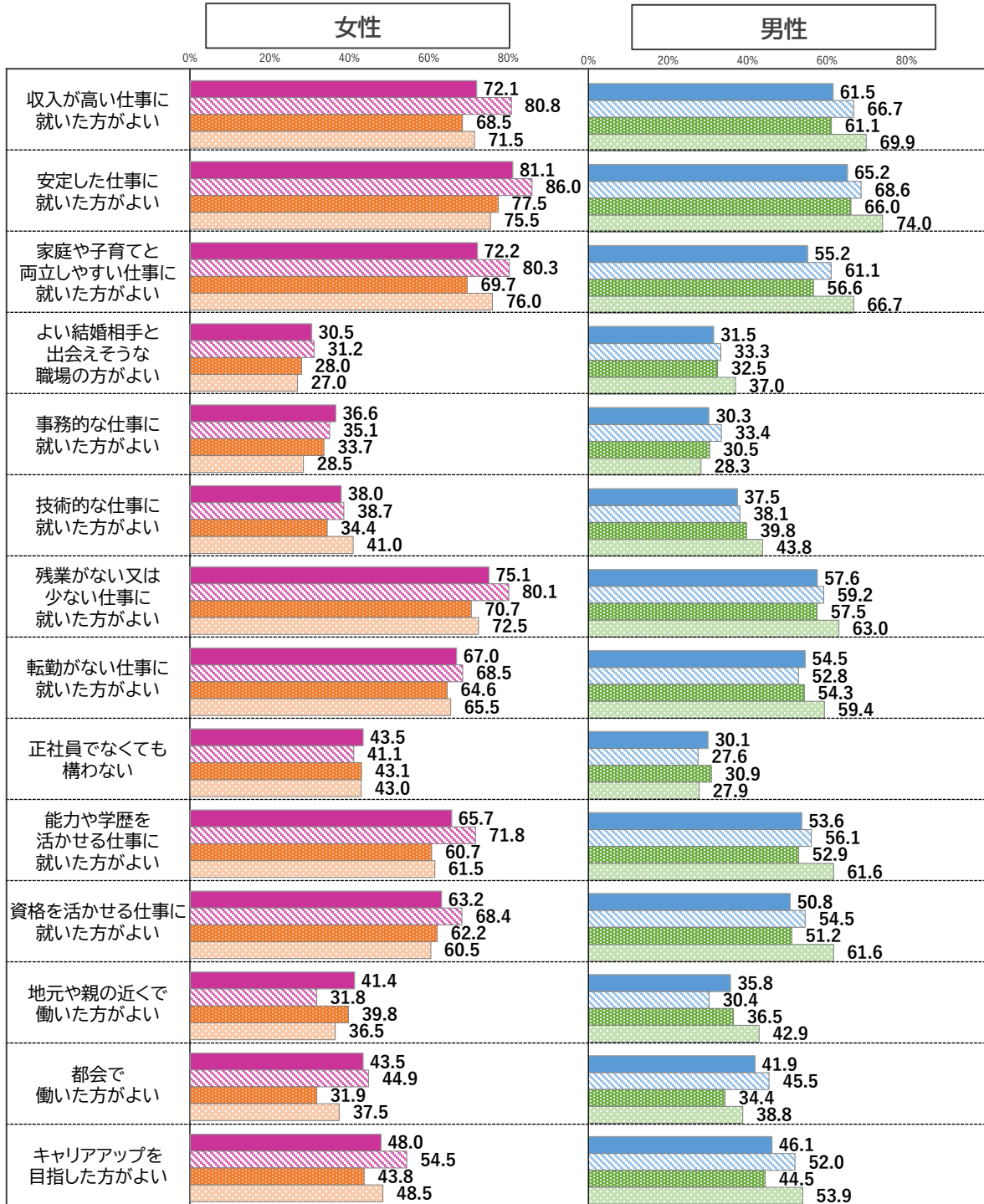
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(7) 仕事や就職先の検討に関する自分の意見(単数回答・Q37)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域・現住地域別

- ・そう思う(計)の割合を地方出身・都会居住層と地方出身・地方居住層と比較すると、女性では、「都会で働いた方がよい」「収入が高い仕事に就いた方がよい」「能力や学歴を活かせる仕事に就いた方がよい」「キャリアアップを目指した方がよい」「家庭や子育てと両立しやすい仕事に就いた方がよい」等は、地方出身・都会居住層の方が高い。
- ・男性では、「都会で働いた方がよい」等は、地方出身・都会居住層の方が高い。

※「そう思う(計)」の数値を掲載(「そう思う(計)」は「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の計)



※Q37選択肢の「都会」は回答者の主観による。

■ 女性/都会出身・都会居住層(n=1,267)
■ 女性/地方出身・都会居住層(n=613)
■ 女性/地方出身・地方居住層(n=2,799)
■ 女性/都会出身・地方居住層(n=200)

■ 男性/都会出身・都会居住層(n=1,320)
■ 男性/地方出身・都会居住層(n=583)
■ 男性/地方出身・地方居住層(n=2,976)
■ 男性/都会出身・地方居住層(n=219)

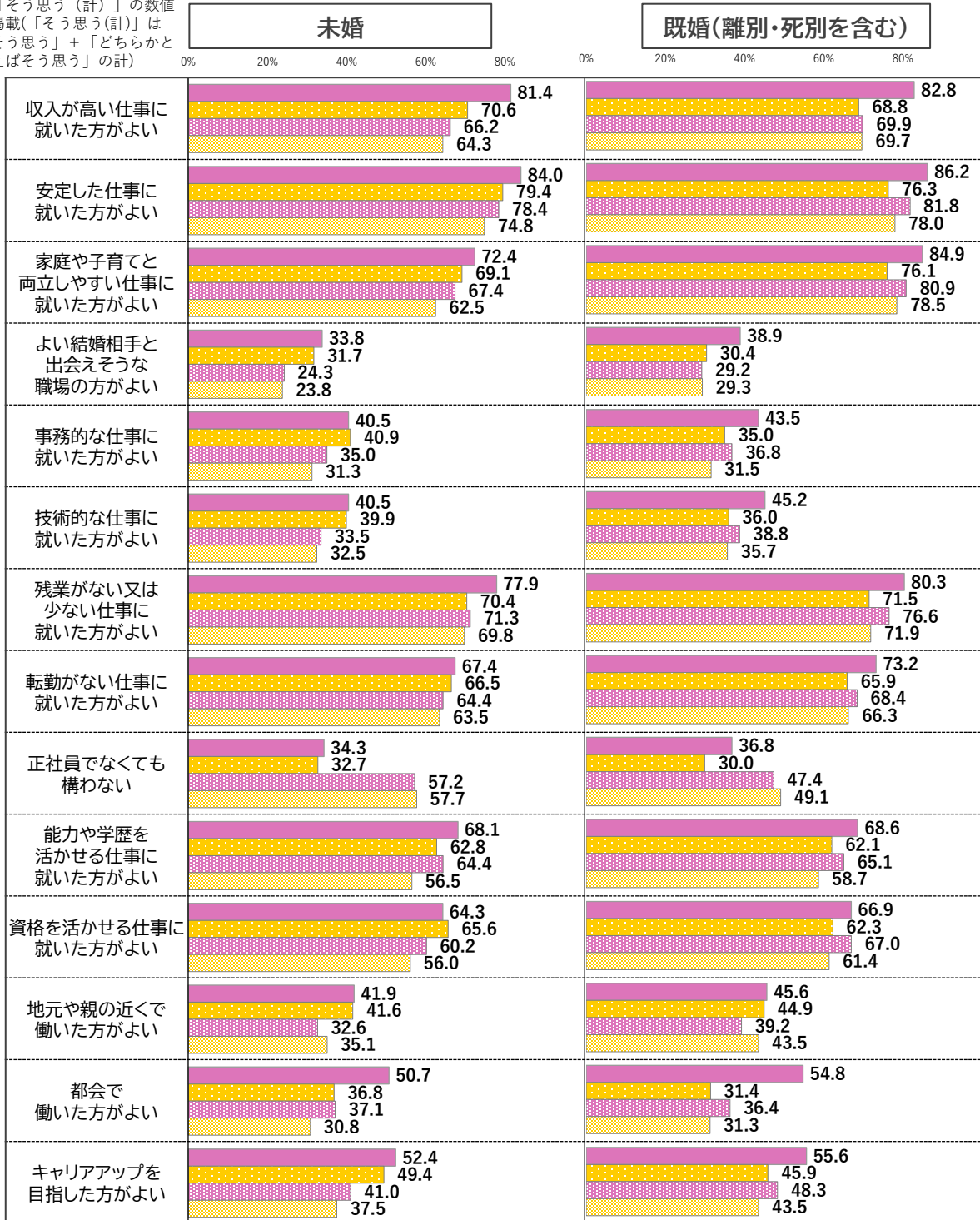
5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差

(7) 仕事や就職先の検討に関する自分の意見(単数回答・Q37)・女性

【対象】正規雇用労働者・非正規雇用労働者 【分析軸】未婚・雇用形態・現住地域別

- 未婚女性についてみると、正規雇用労働者では、多くの項目で、地方居住層と比べて、都会居住層の方がそう思う(計)の割合が高い。特に、「都会で働いた方がよい」「収入が高い仕事に就いた方がよい」で差が大きい。
- 既婚女性についてみると、正規雇用労働者では、全ての項目で、地方居住層と比べて、都会居住層の方がそう思う(計)の割合が高い。特に、「都会で働いた方がよい」「収入が高い仕事に就いた方がよい」で差が大きい。

※「そう思う(計)」の数値を掲載(「そう思う(計)」は「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の計)



※Q37選択肢の「都会」は回答者の主観による。

■ 女性/正規雇用労働者・都会居住層(n=420)
■ 女性/正規雇用労働者・地方居住層(n=486)
■ 女性/非正規雇用労働者・都会居住層(n=334)
■ 女性/非正規雇用労働者・地方居住層(n=496)

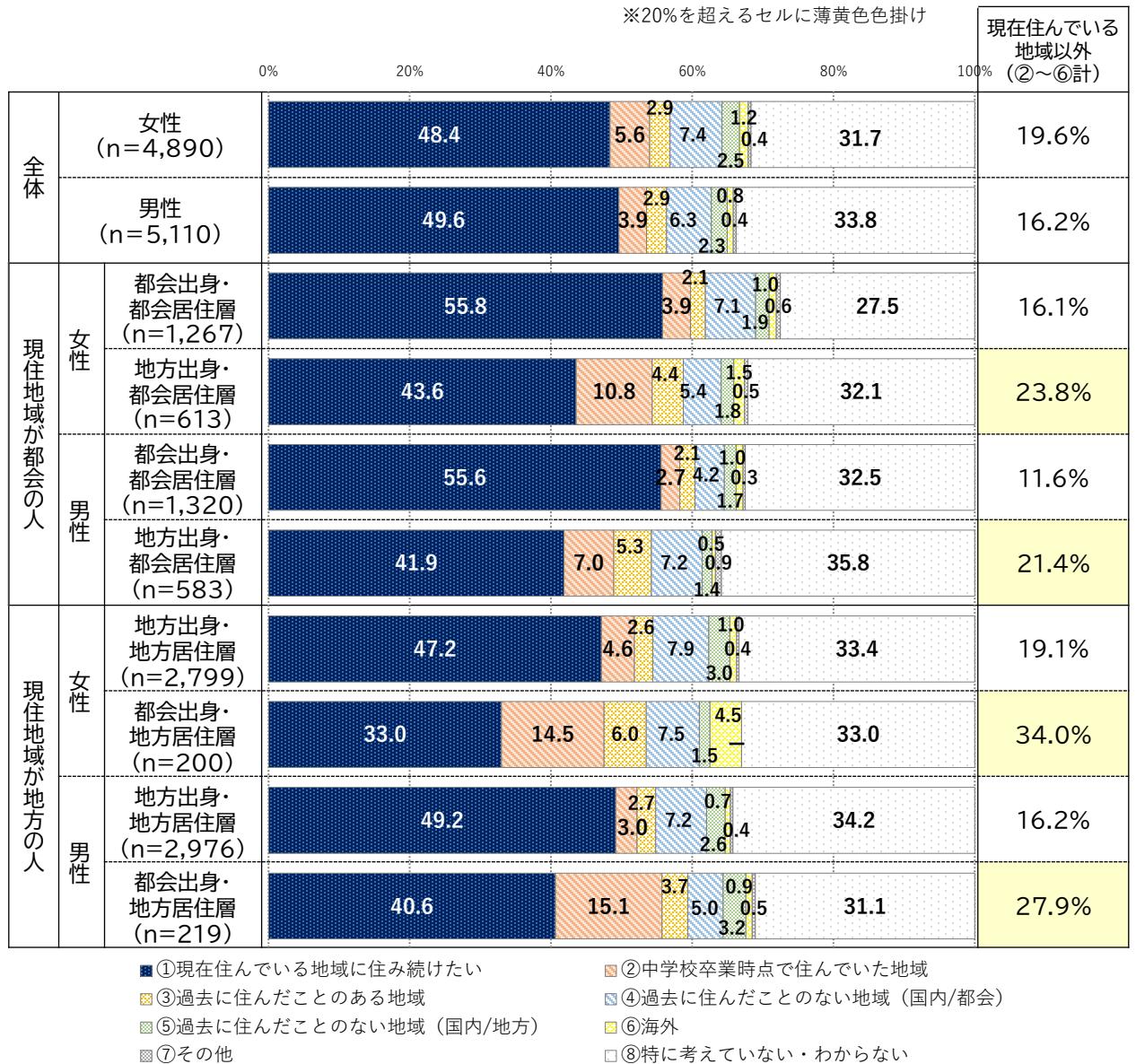
■ 女性/正規雇用労働者・都会居住層(n=239)
■ 女性/正規雇用労働者・地方居住層(n=414)
■ 女性/非正規雇用労働者・都会居住層(n=209)
■ 女性/非正規雇用労働者・地方居住層(n=409)

6. 若年層の今後の居住地域への希望

(1) 将来、住みたい地域(単数回答・Q46)

【対象】全員 【分析軸】出身地域・現住地域別

- 男女別にみると、いずれも「現在住んでいる地域に住み続けたい」が5割と最も高い。
- 出身地域・現住地域別にみると、「現在住んでいる地域以外(計)」の割合は、男女ともに地方出身・都会居住層、都会出身・地方居住層で2割を超えているが、都会出身・地方居住層の方が高い。
- 「現在住んでいる地域に住み続けたい」は、男女ともに、地方出身・地方居住層に比べて、都会出身・都会居住層の方が高い。



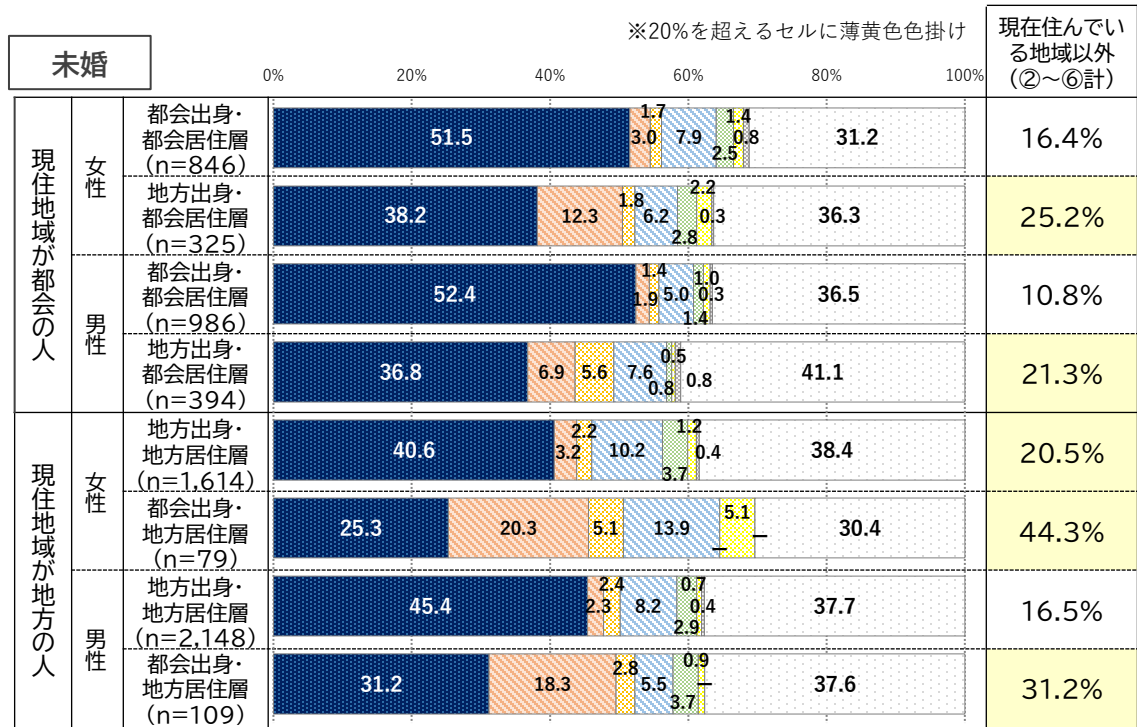
※出身地域・現住地域別は、出身地域が海外の人は除いている。
 ※Q46選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

6. 若年層の今後の居住地域への希望

(1) 将来、住みたい地域(単数回答・Q46)

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】未婚婚、出身地域・現住地域別

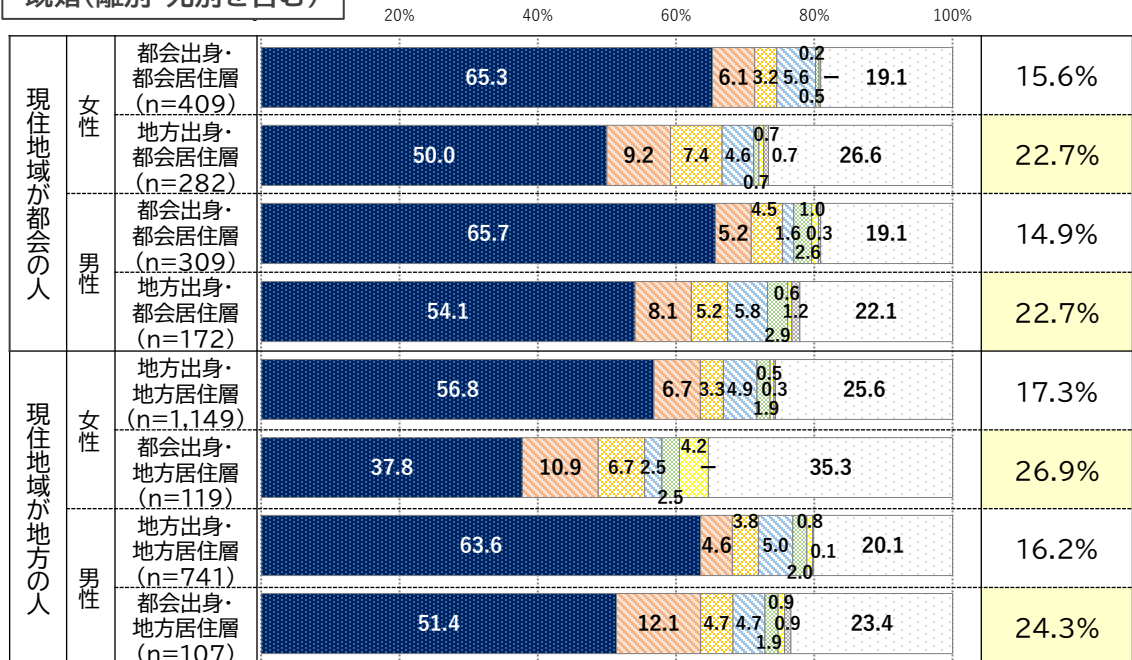
- 全ての区分で、未婚に比べて、既婚の方が「現在住んでいる地域に住み続けたい」が高い。
- 多くの区分で、既婚に比べて、未婚の方が「現在住んでいる地域以外(計)」が高い。
- 「現在住んでいる地域以外(計)」が最も高いのは、都会出身・地方居住層の未婚女性で44.3%。



- ①現在住んでいる地域に住み続けたい
- ②中学校卒業時点で住んでいた地域
- ③過去に住んだことのある地域
- ④過去に住んだことのない地域 (国内/都会)
- ⑤過去に住んだことのない地域 (国内/地方)
- ⑥海外
- ⑦その他
- ⑧特に考えていない・わからない

※Q46選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

既婚(離別・死別を含む)

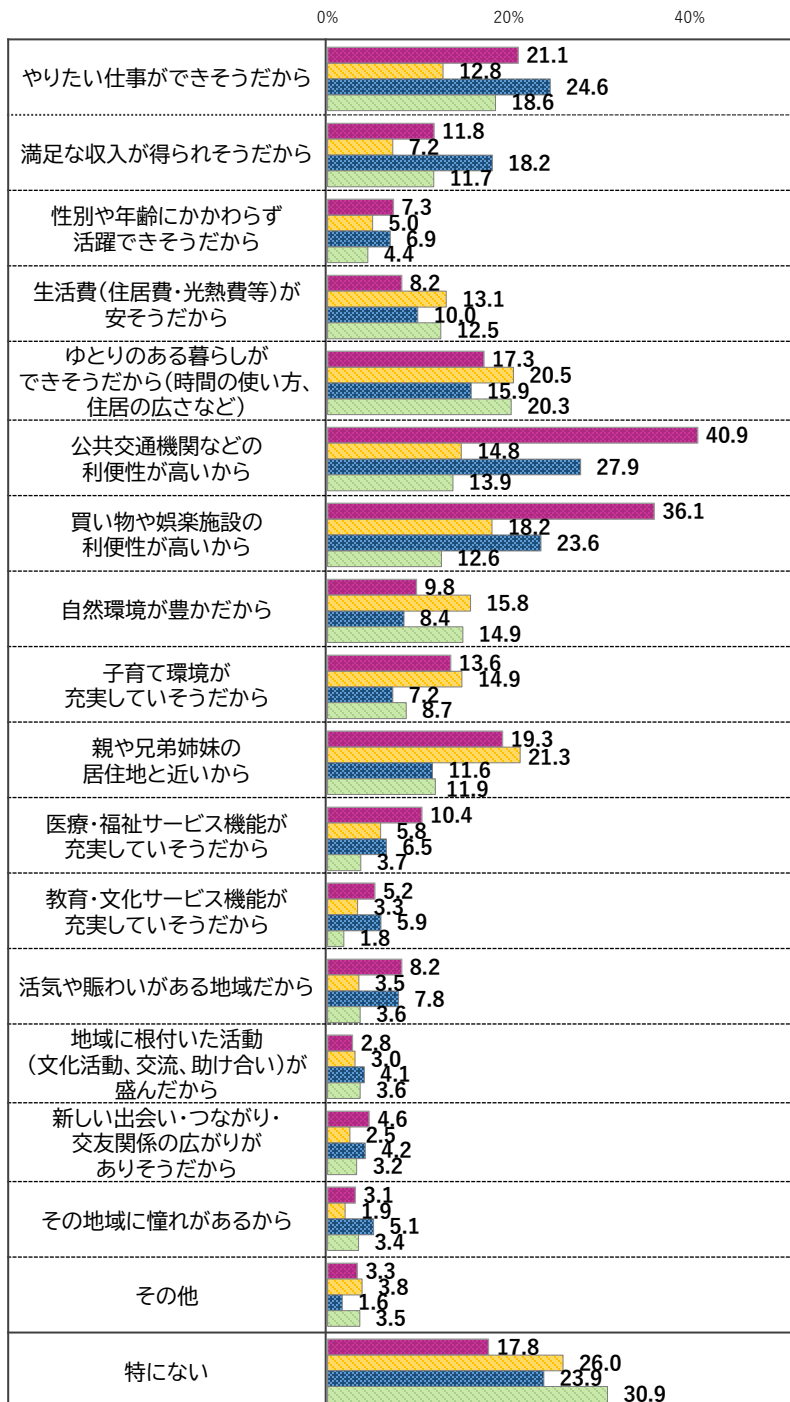


6. 若年層の今後の居住地への希望

(2) 現住地域に住み続けたい理由(単数回答Q46×複数回答Q47)

【対象】Q46で「現在住んでいる地域に住み続けたい」とした人 【分析軸】現住地域別

- 現住地域別にみると、男女ともに都会居住層では、「公共交通機関などの利便性が高いから」が最も高く、特に女性で高い。
- 女性は、同区分の男性に比べて、「親や兄弟姉妹の居住地と近いから」が高い。また、「子育て環境が充実していそうだから」も高い。
- 男女ともに都会居住層の方が高い項目が多いが、「自然環境が豊かだから」は、地方居住層の方が高い。



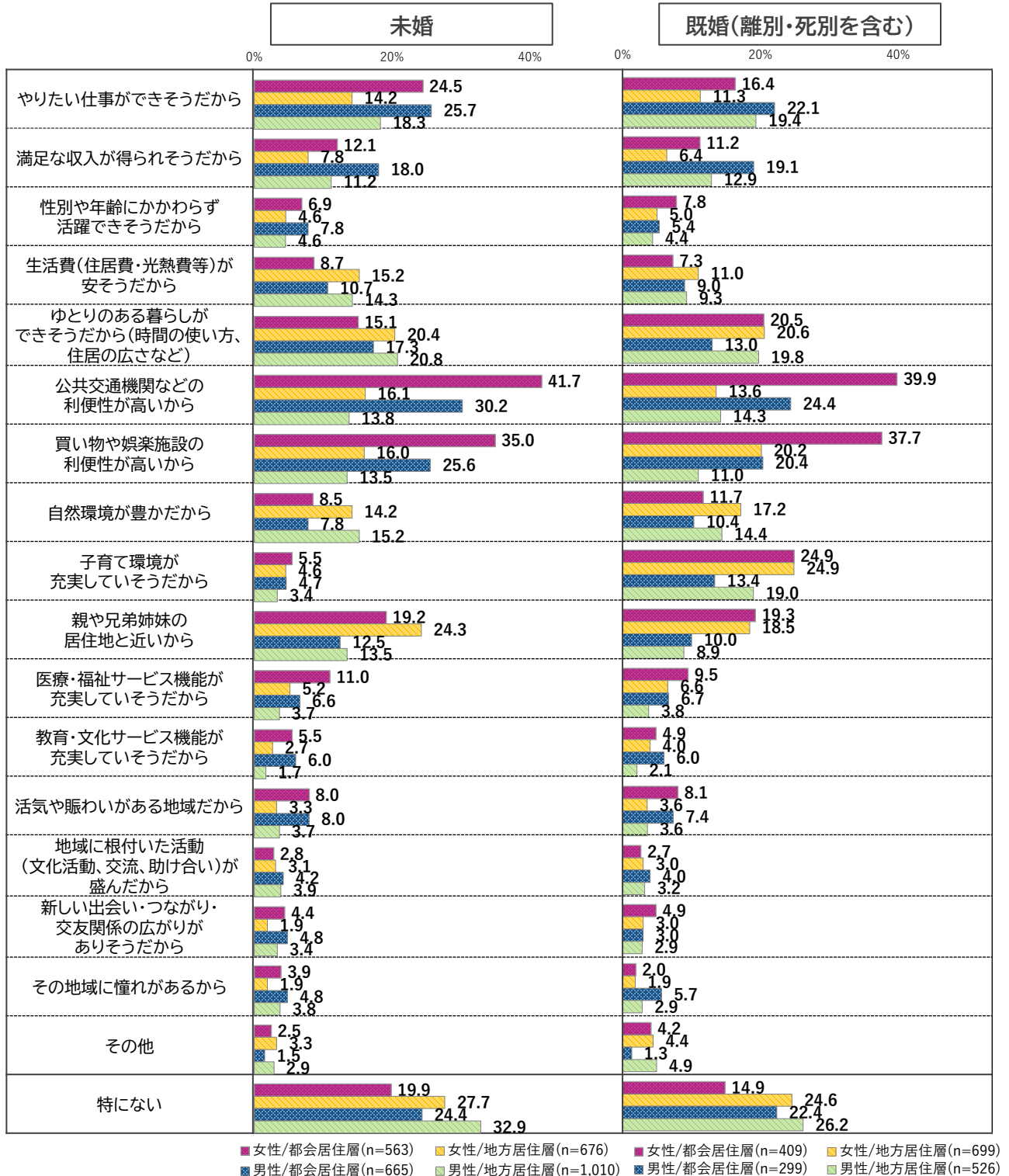
■ 女性/都会居住層(n=978) ■ 女性/地方居住層(n=1,387)
■ 男性/都会居住層(n=984) ■ 男性/地方居住層(n=1,552)

6. 若年層の今後の居住地への希望

(2) 現住地域に住み続けたい理由(単数回答Q46×複数回答Q47)

【対象】Q46で「現在住んでいる地域に住み続けたい」とした人 【分析軸】未婚・現住地域別

- ・未婚・現住地域別にみると、いずれの地域でも、男女ともに、既婚の方が「子育て環境が充実していそうだから」が高い。
- ・都会居住層の女性では、未婚の方が「やりたい仕事ができそうだから」が高い。地方居住層の女性では、未婚の方が「親や兄弟姉妹の居住地と近いから」が高い。

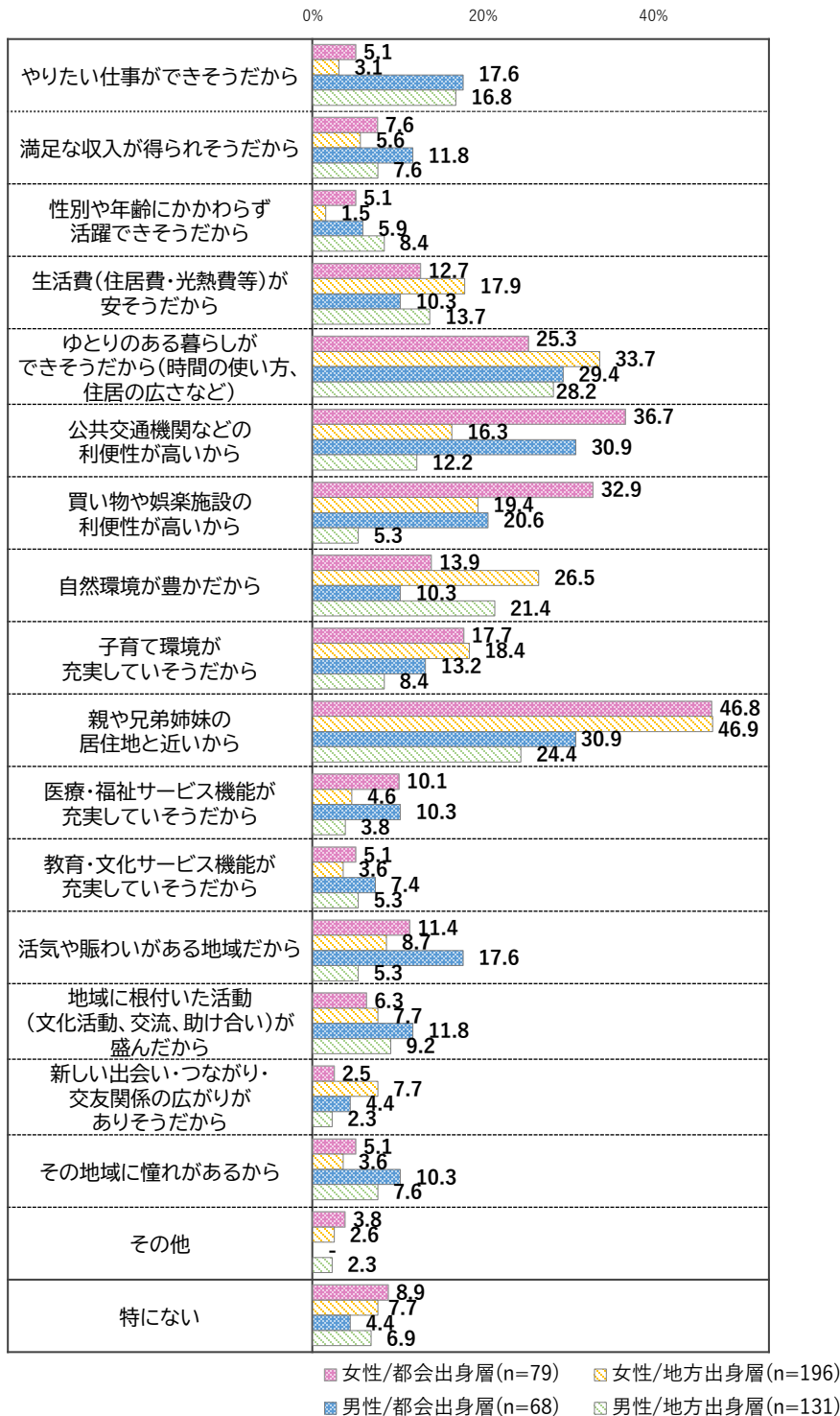


6. 若年層の今後の居住地への希望

(3) 将来、出身地域に住みたい理由(単数回答Q46×複数回答Q47)

【対象】Q46で「中学校卒業時点で住んでいた地域」とした人 【分析軸】出身地域別

- 出身地域別にみると、女性はいずれの区分でも、「親や兄弟姉妹の居住地と近いから」が5割と最も高く、男性に比べても高い。また、「子育て環境が充実していそうだから」も18%程度と、男性に比べて高い。
- 地方出身層の女性では、「ゆとりのある暮らしができそうだから」(33.7%)、「自然環境が豊かだから」(26.5%)が他の区分に比べて高い。

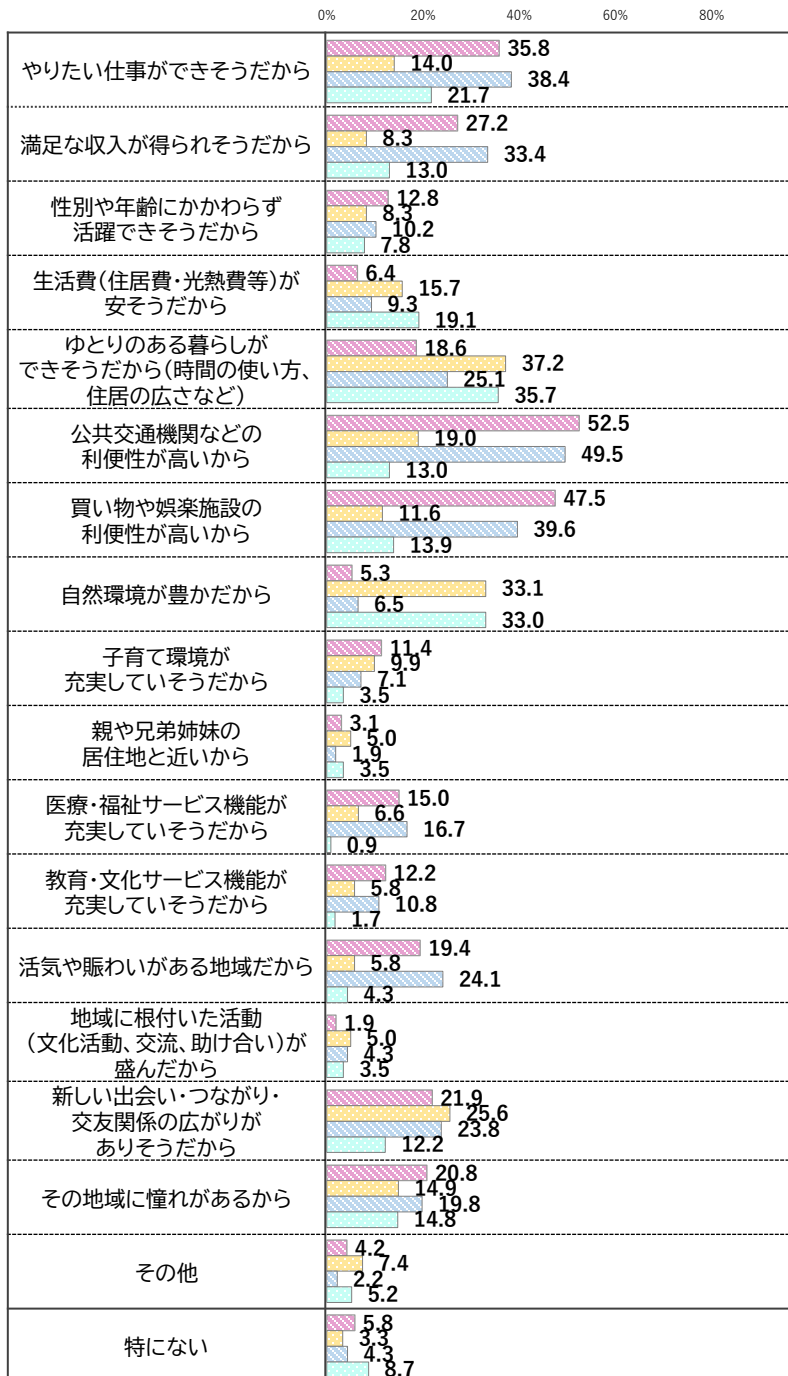


6. 若年層の今後の居住地域への希望

(4) 将来、過去に住んだことのない地域に住みたい理由(単数回答Q46×複数回答Q47)

【対象】Q46で過去に住んだことのない地域(国内)とした人 【分析軸】Q46(都会、地方)回答

- 過去に住んだことのない地域に住みたい人について、希望地域別にみると、都会に住みたい人では男女ともに、「公共交通機関などの利便性が高いから」「買い物や娯楽施設の利便性が高いから」「やりたい仕事ができそうだから」「満足な収入が得られそうだから」が高い。
- 地方に住みたい人では、男女ともに、「ゆとりのある暮らしができそうだから」「自然環境が豊かだから」「生活費が安そうだから」が高い。



※Q46選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

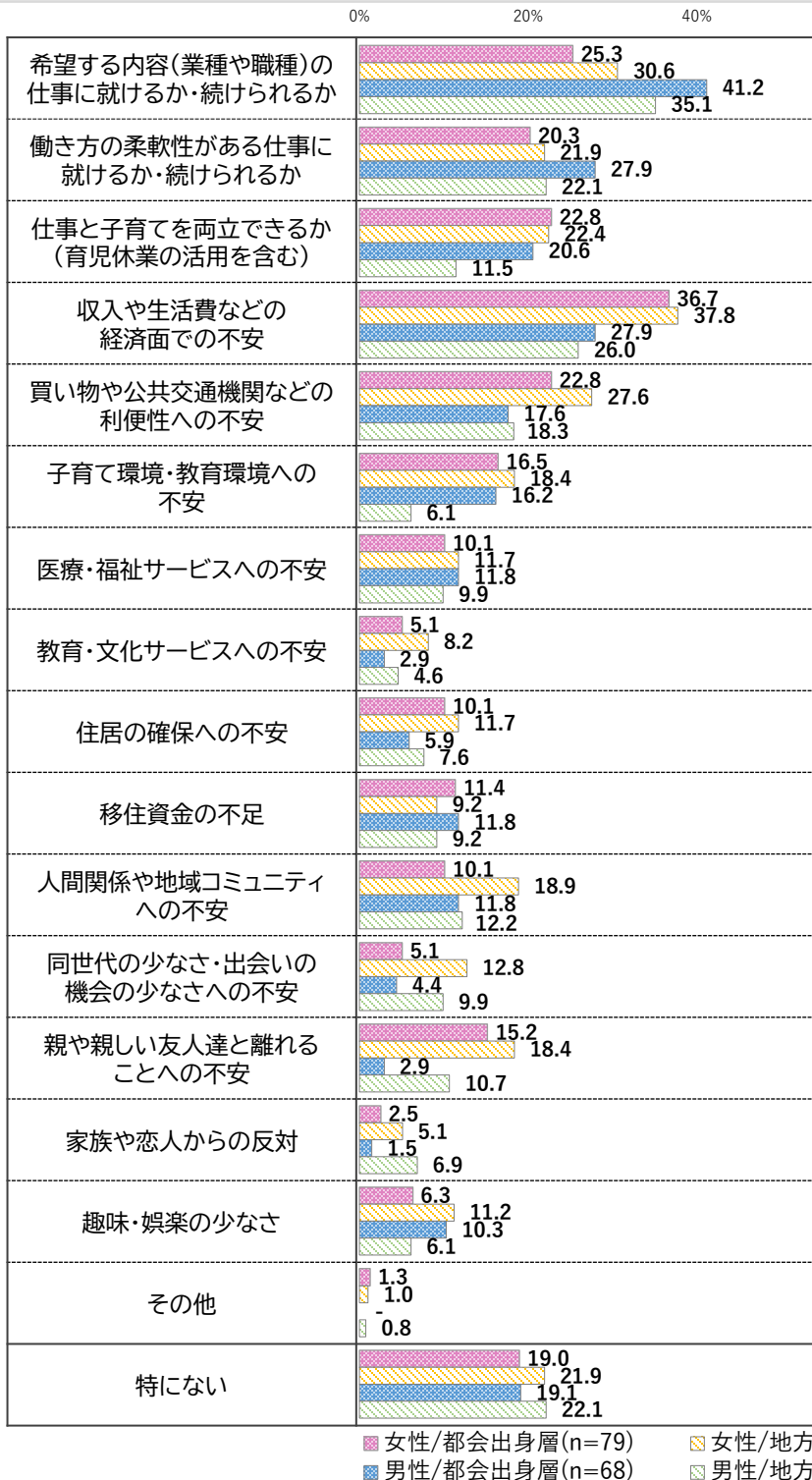
■ 女性/過去に住んだことのない地域(国内/都会) (n=360)
 ■ 女性/過去に住んだことのない地域(国内/地方) (n=121)
 ■ 男性/過去に住んだことのない地域(国内/都会) (n=323)
 ■ 男性/過去に住んだことのない地域(国内/地方) (n=115)

6. 若年層の今後の居住地への希望

(5) 出身地域に住むに当たって不安に思うこと(単数回答Q46×複数回答Q48)

【対象】Q46で「中学校卒業時点で住んでいた地域」とした人 【分析軸】出身地域別

- 出身地域別にみると、女性では出身地域にかかわらず、「収入や生活費などの経済面での不安」が4割と最も高く、男性に比べても高い。「親や親しい友人達と離れることへの不安」も男性に比べて高い。
- 都会出身層の男性では、「希望する内容の仕事に就けるか・続けられるか」が4割と最も高く、次いで、「働き方の柔軟性がある仕事に就けるか・続けられるか」27.9%。
- 地方出身層の女性では、「買い物や公共交通機関などの利便性への不安」、「人間関係や地域コミュニティへの不安」も他の区分に比べて高い。

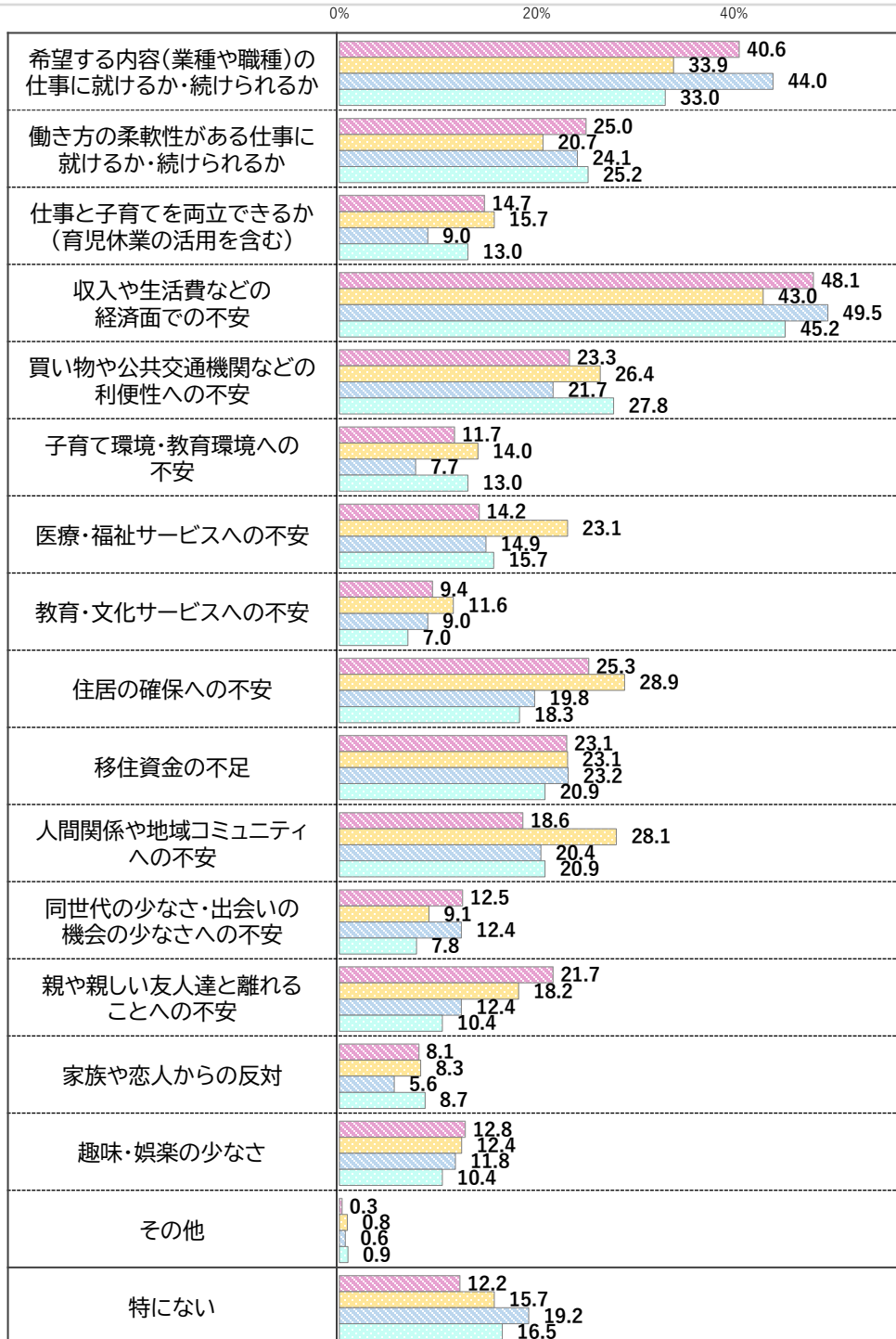


6. 若年層の今後の居住地への希望

(6) 過去に住んだことのない地域に住むに当たって不安に思うこと(単数回答Q46×複数回答Q48)

【対象】Q46で過去に住んだことのない地域(国内)とした人 【分析軸】Q46(都会、地方)回答

- 過去に住んだことのない地域に住みたい人について、希望地域別にみると、いずれの区分でも「収入や生活費などの経済面での不安」が最も高い。都会に住みたい人では、次いで、男女ともに、「希望する内容の仕事に就けるか・続けられるか」が高い。
- 地方に住みたい女性では、「人間関係や地域コミュニティへの不安」28.1%、「医療・福祉サービスへの不安」23.1%が、他の区分に比べて高い。



※Q46選択肢の「都会」「地方」は女性/過去に住んだことのない地域(国内/都会)(n=360) 女性/過去に住んだことのない地域(国内/地方)(n=121)

男性/過去に住んだことのない地域(国内/都会)(n=323) 男性/過去に住んだことのない地域(国内/地方)(n=115)

6. 若年層の今後の居住地への希望

(7) 住みたい理由(複数回答・Q47)

【対象】将来、現在住んでいる地域以外に住みたい人 【分析軸】Q46回答(希望地域)別

※最も高い項目に黄色色掛け、2番目、3番目に高い項目に薄黄色色掛け

	中学校卒業時点で 住んでいた地域		過去に住んだことのある地域		過去に住んだことのない地域 (国内/都会)		過去に住んだことのない地域 (国内/地方)	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
	n=275	n=199	n=140	n=146	n=360	n=323	n=121	n=115
やりたい仕事ができそうだから	3.6%	17.1%	15.7%	16.4%	35.8%	38.4%	14.0%	21.7%
満足な収入が得られそうだから	6.2%	9.0%	14.3%	13.7%	27.2%	33.4%	8.3%	13.0%
性別や年齢にかかわらず 活躍できそうだから	2.5%	7.5%	10.0%	7.5%	12.8%	10.2%	8.3%	7.8%
生活費(住居費・光熱費等)が 安そうだから	16.4%	12.6%	10.7%	15.1%	6.4%	9.3%	15.7%	19.1%
ゆとりのある暮らしが できそうだから(時間の使い方、 住居の広さなど)	31.3%	28.6%	30.7%	29.5%	18.6%	25.1%	37.2%	35.7%
公共交通機関などの 利便性が高いから	22.2%	18.6%	36.4%	32.9%	52.5%	49.5%	19.0%	13.0%
買い物や娯楽施設の 利便性が高いから	23.3%	10.6%	39.3%	28.1%	47.5%	39.6%	11.6%	13.9%
自然環境が豊かだから	22.9%	17.6%	17.9%	14.4%	5.3%	6.5%	33.1%	33.0%
子育て環境が 充実していそうだから	18.2%	10.1%	16.4%	7.5%	11.4%	7.1%	9.9%	3.5%
親や兄弟姉妹の 居住地と近いから	46.9%	26.6%	17.1%	12.3%	3.1%	1.9%	5.0%	3.5%
医療・福祉サービス機能が 充実していそうだから	6.2%	6.0%	10.7%	4.8%	15.0%	16.7%	6.6%	0.9%
教育・文化サービス機能が 充実していそうだから	4.0%	6.0%	5.0%	8.2%	12.2%	10.8%	5.8%	1.7%
活気や賑わいがある地域だから	9.5%	9.5%	10.7%	11.0%	19.4%	24.1%	5.8%	4.3%
地域に根付いた活動 (文化活動、交流、助け合い)が 盛んだから	7.3%	10.1%	4.3%	6.2%	1.9%	4.3%	5.0%	3.5%
新しい出会い・つながり・ 交友関係の広がりが ありそうだから	6.2%	3.0%	12.9%	11.6%	21.9%	23.8%	25.6%	12.2%
その地域に憧れがあるから	4.0%	8.5%	10.0%	12.3%	20.8%	19.8%	14.9%	14.8%
その他	2.9%	1.5%	2.1%	2.1%	4.2%	2.2%	7.4%	5.2%
特にない	8.0%	6.0%	3.6%	3.4%	5.8%	4.3%	3.3%	8.7%

※Q46選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

6. 若年層の今後の居住地域への希望

(8) 現住地域以外に住むに当たって不安に思うこと(複数回答・Q48)

【対象】将来、現在住んでいる地域以外に住みたい人 【分析軸】Q46回答(希望地域)別

※最も高い項目に黄色色掛け、2番目、3番目に高い項目に薄黄色色掛け

	中学校卒業時点で 住んでいた地域		過去に住んだことのある地域		過去に住んだことのない地域 (国内/都会)		過去に住んだことのない地域 (国内/地方)	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
	n=275	n=199	n=140	n=146	n=360	n=323	n=121	n=115
希望する内容(業種や職種)の仕事に就けるか・続けられるか	29.1%	37.2%	24.3%	25.3%	40.6%	44.0%	33.9%	33.0%
働き方の柔軟性がある仕事に就けるか・続けられるか	21.5%	24.1%	22.1%	24.0%	25.0%	24.1%	20.7%	25.2%
仕事と子育てを両立できるか (育児休業の活用を含む)	22.5%	14.6%	22.1%	23.3%	14.7%	9.0%	15.7%	13.0%
収入や生活費などの 経済面での不安	37.5%	26.6%	33.6%	30.1%	48.1%	49.5%	43.0%	45.2%
買い物や公共交通機関などの 利便性への不安	26.2%	18.1%	22.1%	18.5%	23.3%	21.7%	26.4%	27.8%
子育て環境・教育環境への不安	17.8%	9.5%	15.0%	8.2%	11.7%	7.7%	14.0%	13.0%
医療・福祉サービスへの不安	11.3%	10.6%	10.0%	15.8%	14.2%	14.9%	23.1%	15.7%
教育・文化サービスへの不安	7.3%	4.0%	6.4%	4.8%	9.4%	9.0%	11.6%	7.0%
住居の確保への不安	11.3%	7.0%	9.3%	8.2%	25.3%	19.8%	28.9%	18.3%
移住資金の不足	9.8%	10.1%	8.6%	7.5%	23.1%	23.2%	23.1%	20.9%
人間関係や地域コミュニティへの不安	16.4%	12.1%	12.9%	8.9%	18.6%	20.4%	28.1%	20.9%
同世代の少なさ・出会いの 機会の少なさへの不安	10.5%	8.0%	9.3%	6.8%	12.5%	12.4%	9.1%	7.8%
親や親しい友人達と離れる ことへの不安	17.5%	8.0%	13.6%	4.8%	21.7%	12.4%	18.2%	10.4%
家族や恋人からの反対	4.4%	5.0%	4.3%	2.7%	8.1%	5.6%	8.3%	8.7%
趣味・娯楽の少なさ	9.8%	7.5%	9.3%	5.5%	12.8%	11.8%	12.4%	10.4%
その他	1.1%	0.5%	—	0.7%	0.3%	0.6%	0.8%	0.9%
特にない	21.1%	21.1%	17.1%	15.1%	12.2%	19.2%	15.7%	16.5%

※Q46選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。